NTT

ISDN

L.モード 対応

ナンバー・ディスプレイ
キャッチホン・ディスプレイ 対応

IPMATE1500RD

取扱説明書

このたびは、IPMATE1500RDをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

●ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。

●お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。

技術基準適合認証品

1 お使いになる前に
2 利用形態
3 設定方法
4 パソコンをつなげて利用する
5 アナログ通信機器の利用
6 前面ボタンの利用
7 ご参考

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご使用にあたってのお願い

本商品のご利用にあたって、当社のレンタル電話機がご不要となった場合は、局番なしの116番または当社の営業所等にご連絡いただければ、「機器使用料」は、不要となります。

本商品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本商品は家庭環境で使用することを目的としていますが、本商品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
  This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本商品のアナログポートは、電話網の仕様と完全には一致していないため、接続される通信機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- 本商品の付属ソフトウェアは、日本語版のOS上でご使用になることを前提としています。それ以外の環境では、動作を保証しておりません。
- 本商品の付属ソフトウェアを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害や万が一、本商品に登録された情報内容が消失してしまうこと等の純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本商品に登録された情報内容は、別にメモをとるなどして保管くださるようお願いします。
- 本商品を設置するための配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本商品を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。
- 本書に、他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。
- この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。
- 本商品に付属のCD-ROMは、一部または全部をバックアップ以外の目的で、いかなる方法においても無断複製することは法律で禁じられています。

Windows®95は、Microsoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows®98は、Microsoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows®Meは、Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating systemの略です。
Windows®2000は、Microsoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
Windows NT® 4.0は、Microsoft® Windows NT® operating system Version 4.0の略です。
Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
画面の使用に際して米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
Hayesは米国Hayes Microcomputer Products, Inc.の登録商標です。
AdobeおよびAcrobatはアドビシステムズ社の商標です。
その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

本商品には、Hi/fn社製のデータ圧縮ソフトウェアを使用しています。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠警告

- ●万一、煙が出ている、変なにおいがする、異常音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。
- ●万一本商品を落としたり、キャビネットを破損した場合は、すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- ●万一内部に水などが入ったり、本商品をぬらした場合は、すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- ●本商品の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- ●本商品を分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。
- ●異常音がしたり、本体が熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。
- ●本商品のそばに花びん、コップ、化粧品、薬用品など液体の入った容器や、植木鉢、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。
- ●ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ●AC100 Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ●差込口が2つ以上ある壁の電源コンセントに他の電気製品の電源プラグ等を差し込む場合は、合計の電流値が電源コンセントの最大値を超えないように注意してください。火災、感電の原因になります。
- ●電源コードに傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、加熱したりしないでください。電源コードが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災、感電の原因となることがあります。電源コードが傷んだら、本商品の電源を切り、電源アダプタを電源コンセントから抜き、当社サービス取扱所に修理をご依頼ください。

⚠警告

●ぬれた手で本商品を操作したり、ぬれた手で電源アダプタの抜き差しをしたり、ぬれた手で乾電池の交換をしないでください。感電の原因となることがあります。

●電源アダプタは、必ず付属のものを使用し、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。火災、感電の原因となることがあります。

●テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●お客さまがご用意された機器を本商品に接続してお使いになる場合は、あらかじめ当社のサービス取扱所に確認してください。確認できない場合は、絶対に接続して使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●本商品を移動させる場合は、本商品の電源を切り電源アダプタを電源コンセントから抜き、電話機コードを差込口から抜いて、外部の接続線を外したことを確認のうえ、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●万一、漏電した場合の感電事故防止や、誘雷による感電防止、機器防護のため、必ずアースをとってください。また、アース線をガス管に接続しないでください。爆発の原因となることがあります。

●電源アダプタを電源コンセント（AC100 V）に差し込むときは、確実に差し込んでください。電源アダプタの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。

●電源アダプタを電源コンセントから抜くときは、必ず電源アダプタの本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●電源アダプタは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また半年から1年に1回は、本商品の電源を切り電源アダプタを電源コンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。

●本商品を医療機器や高い安全性が要求される用途では使用しないでください。人が死亡または重傷を負う可能性があり、社会的に大きな混乱が発生するおそれがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

お使いのとき

⚠注意

●直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器のそばなど、温度の高い所に置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

●調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所、鉄粉や有毒ガスが発生する場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本商品の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

●振動・衝撃の多い場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

●高い信頼性を要求される、幹線通信機器や電算機システムでは使用しないでください。社会的に大きな混乱が発生するおそれがあります。

●近くに雷が発生したときは、電源アダプタを電源コンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。

●本商品や電源コードを熱器具に近づけないでください。キャビネットやコードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●本商品の近くに、紙などの燃えやすいものを置かないでください。
発熱により火災の原因となることがあります。

●本商品の通風孔をふさがないよう、前後左右および上部を各10 cm以上あけてください。通風孔をふさぐと本商品の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に、次のような使い方はしないでください。

- じゅうたんや布団の上に置く。
- 本棚、タンスの中、押入の中など風通しの悪い場所に置く。
- テーブルクロスなどをかける。
- 紙、本などをのせる。

●長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず乾電池を抜き、電源アダプタを電源コンセントから抜いてください。

●電源コードには、延長コードは使わないでください。火災の原因となることがあります。

●お手入れをするときは、安全のため必ず電源アダプタをコンセントから抜いてください。

●電源アダプタと電源コンセント間のほこりは、定期的（半年に1回程度）に取り除いてください。火災の原因となることがあります。

●停電がない場合でも1年に1回の割合で新しいアルカリ乾電池に交換してください。長期間乾電池を装着したままでご使用になると、液漏れによるトラブルが発生するおそれがあります。また、電池の劣化により、停電時にバックアップ機能が働かなくなるおそれがあります。

お使いのとき

⚠注意

●乾電池は正しくお使いください。使いかたを間違えると液漏れ、発熱、破裂により、けがや故障の原因となることがあります。以下のことを必ず守ってください。
- 保証期間内の単3アルカリ乾電池をお使いください。
（アルカリ以外のマンガン電池などでの動作保証はしていません。）
- 乾電池をショートさせたり、分解したりしないでください。
- 乾電池のプラス（＋）、マイナス（－）の方向を確認して入れてください。
- 乾電池の液漏れによる本商品の故障については保証いたしかねます。
- 外装ラベルがはがれたり、傷ついた乾電池を使用しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、種類の異なる乾電池は混用しないでください。
- 使用済みの乾電池を火中に投げないでください。
- 消耗した電池は、すぐに交換してください。

●乾電池を取りはずした場合は、小さなお子様が乾電池をなめたり、あやまって飲むことがないようにしてください。乾電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。

●乾電池のアルカリ液をなめた場合には、すぐにうがいをして医師に相談してください。

●乾電池のアルカリ液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐに多量の水道水などのきれいな水で洗い流してください。

●停電回復後すぐに乾電池を交換する場合は、乾電池が熱くなってやけどをするおそれがありますので、確認してから交換してください。

●本商品に乗らないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。

●付属品のCD-ROMをオーディオ用プレイヤーで使用しないでください。大音量によりスピーカの破損や耳の障害の原因となることがあります。

●本商品の故障や回線品質の低下によって、データ消失が発生するおそれがあります。あらかじめ、冗長性のあるシステム設計を行ったり、バックアップをとるなどしてください。

取り扱いについて

STOP お願い

●ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本商品の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。

●落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

●電源を再投入する場合、必ず電源を切った状態で5秒以上おいてから電源を入れてください。故障の原因となることがあります。

取り扱いについて

STOP お願い

- 〈個人でご使用のお客さまへ〉
  本商品は、特別管理産業廃棄物に該当します。本商品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。
  詳しくは、各地方自治体にお問い合せください。
  〈事業系でご使用のお客さまへ〉
  本商品を廃棄するときは、産業廃棄物として廃棄処理をしてください。

置き場所について

STOP お願い

- 製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本商品が正常に動作しないことがあります。
- 電気製品・ＡＶ・ＯＡ機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。
  - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音等が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
  - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - 放送局や無線局などが近く、雑音等が大きいときは、本商品の設置場所を移動してみてください。
- 硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本商品の寿命が短くなることがあります。

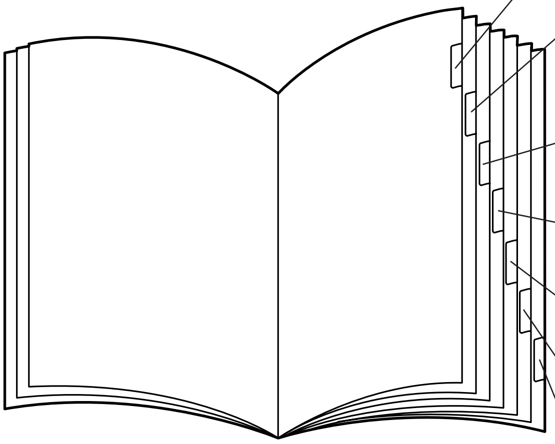
お使いのとき

STOP お願い

- INSナンバー・ディスプレイのご利用に際しては、郵政省の定める「発信者情報通知サービスの利用における発信者個人情報の保護に関するガイドライン」を尊重してご利用願います。
- ご利用時間に応じて課金される回線サービス、インターネットサービスをご利用になる場合、端末（パソコン）の設定と本商品の設定によっては、意図しない接続・切断を繰り返し、思わぬ課金が発生する可能性があります。ご使用になる端末（パソコン）のOSやアプリケーションの特徴に応じて、本商品のフィルタリング機能等により、適切な設定をしてください。
- フィルタリング等の手段でセキュリティがまもれない場合は、ファイアウォールなどの別の手段を用いてください。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書の構成



1 お使いになる前に
ご使用になる前に知っておいていただきたいことをまとめています。

2 利用形態
本商品はTAとしてもルータとしてもご利用いただけます。どのような環境・目的で利用するのかをご確認ください。

3 設定方法
本商品を設定するためのいくつかの方法を説明しています。

4 パソコンをつなげて利用する
本商品にパソコンを接続して利用する場合の、利用形態と設定内容を説明しています。

5 アナログ通信機器の利用
電話やファクスなど本商品に接続したアナログ通信機器で利用できる機能とその使いかたを説明しています。

6 前面ボタンの利用
本商品前面部のボタンを利用する際の操作方法を説明しています。

7 ご参考
設定シートや故障時の対処方法などを説明しています。

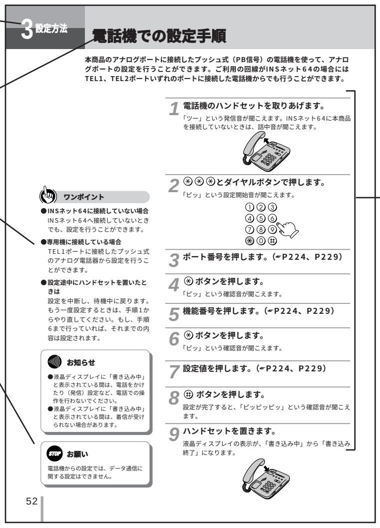
操作説明のページの構成

章タイトル
章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル
目的ごとにタイトルが付けられています。

ワンポイント
知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明です。

お願いまたはお知らせ
〈お願い〉
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示します。
〈お知らせ〉
この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示します。



操作手順説明
順番に操作を説明します。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書を読む順序

ご利用になりたい機能により、以下の順序でお読みください。

「1　お使いになる前に」（☞P12）
最初にお読みください。各種契約の確認、操作の流れ、機器の接続方法などを説明しています。

「2　利用形態」（☞P39）
本商品に接続する機器によってどのような利用形態があるか説明しています。

電話機やファクスを接続して使うとき

「3　設定方法　電話機での設定手順」（☞P52）
「5　アナログ通信機器の利用」（☞P152）
本商品に接続した電話機やファクスで利用できる機能や操作について説明しています。
利用するための設定は、「電話機での設定手順」を参照してください。

パソコンを接続して、インターネットやイントラネットを利用するとき

『本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>』（別冊）
本商品にパソコンを接続して利用する場合の、パソコン側のセットアップ手順について説明しています。

「アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）、RS-232Cポート、USBポート、10BASE-Tポート共通」（☞P161）
i･ナンバー、ダイヤルインなどに関しては、アナログポートとシリアルポート、10BASE-Tポート共通で利用いただけます。

CD-ROM『オンラインマニュアル』
「3　設定方法　WWWブラウザでの設定手順」（☞P46）
「4　パソコンをつなげて利用する 利用形態ごとの設定方法」（☞P53）
シリアルポート、10BASE-Tポートで利用できる機能や設定について説明しています。
設定は、WWWブラウザで行います。

「7 ご参考　故障かな？と思ったら」および「Q＆A」、WWWブラウザ「統計情報」、「接続ログ」、「イベントログ」、「イベントログ」内の「内部サマリ」
障害が発生した場合や、お使いになるうえでお困りになったときの対処、本商品の状態の確認にご利用いただけます。

オンラインマニュアルの見かた

『CD-ROM説明書』にしたがってCD-ROMをセットします。メニュー画面を表示し、「オンラインマニュアル」をクリックしてください。（☞P269）

お知らせ

付属のCD-ROMには以下の内容が収録されています。詳しくは『CD-ROM説明書』を参照してください。

1. オンラインマニュアル
2. PDFファイル
3. イージーバージョンアップ
4. モデム定義ファイル
5. Acrobat Reader

目　次

安全にお使いいただくために必ずお読みください ･･･2
この取扱説明表の見かた ･･････････････････････････9
目次 ･･･11

1 お使いになる前に

サービスガイド ･････････････････････････････････12
各種契約の確認 ･････････････････････････････････15
操作の流れ ･････････････････････････････････････16
セットを確認してください ･･･････････････････････17
各部の名前 ･････････････････････････････････････18
停電になったときのために ･･･････････････････････28
接続します ･････････････････････････････････････29
日付・時刻を設定します ･････････････････････････37

2 利用形態

アナログ通信機器の利用形態 ･････････････････････39
パソコン接続時の利用形態を決める ･･･････････････41
利用形態を決める ･･･････････････････････････････42

3 設定方法

さまざまな設定方法 ･････････････････････････････45
WWWブラウザでの設定手順 ････････････････････････46
電話機での設定手順 ･････････････････････････････52

4 パソコンをつなげて利用する

利用形態ごとの設定方法 ･････････････････････････53

5 アナログ通信機器の利用

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）
ー基本機能 ････････････････････････････････････152
アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）、
RS-232Cポート、USBポート、10BASE-Tポート共通 ･･･161
アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）
ー便利な機能 ･･････････････････････････････････171

6 前面ボタンの利用

基本操作 ･･････････････････････････････････････201
ボタンの操作 ･･････････････････････････････････203

7 ご参考

各ポートのインタフェース ･･････････････････････216
表示一覧 ･･････････････････････････････････････220
電話設定機能番号一覧 ･･････････････････････････223
ボタン操作一覧 ････････････････････････････････231
TELNET設定一覧 ････････････････････････････････235
設定記入シート ････････････････････････････････239
お買い求め時の設定に戻すには ･･････････････････255
イージーバージョンアップ ･･････････････････････256
バージョンアップするには ･･････････････････････258
ローディングモードになったら ･･････････････････262
パラメタ設定値のバックアップをとるには ････････263
パラメタ設定値ファイルをアップロードするには･･･266
CD-ROMの使いかた ･･････････････････････････････269
故障かな？と思ったら ･･････････････････････････272
Q&A ･･･274
索引 ･･285
仕様 ･･288
保守サービスのご案内 ･･････････････････････････289

サービスガイド

INSネット64ならではの幅広いサービス

INSネット64には、いろいろなご利用形態があります。

有料サービス ¥ INSネット64の月額料金が別途必要です。

無料サービス ¥ INSネット64の基本料金の中に含まれるサービスです。

本体設定 要 IPMATE1500RDの設定が必要です。

本体設定 不要 IPMATE1500RDの設定が不要です。

有料サービス 本体設定 要

かけてきた方の電話番号を表示

接続した電話機に、かけてきた方の電話番号を表示することができます。

●INSナンバー・ディスプレイ（☛P171）

P171

無料サービス 本体設定 要

こちらの電話番号を相手の方に通知

発信者番号を相手の方に通知することができます。
通知しないようにすることもできます。

●発信者番号通知（☛P167）

P167

有料サービス 本体設定 要

かけてきた方を音で識別

登録した相手の方からの電話は、通常と異なる着信音が鳴るようにすることができます。

●INSなりわけサービス（☛P176）

P176

有料サービス 本体設定 要

お出かけ先への転送機能

無条件転送、無応答転送、話中転送の指定ができます。
ボイスワープセレクトは、かかってきた相手によって転送先を変えられます。

●INSボイスワープ（☛P175）
●INSボイスワープセレクト（☛P175）
●INSマジックボックス（☛P175）

P175

有料サービス 本体設定 要

1本の契約回線に複数の電話番号

1本の契約で、複数の電話番号を使い分けることができます。
電話とファクスなどを別々の番号で受けられます。

● i・ナンバー（☛P161）
●ダイヤルイン（☛P164）

P161 P164

有料サービス ¥　本体設定 要

お話し中にかかってきた電話もキャッチ

お話し中にかかってきた電話に出ることができます。
●INSマジックボックス（☛P175）
●INSキャッチホン（☛P187）

P175　P187

有料サービス ¥　本体設定 要

インターネットに接続できるサービス

NTTコミュニケーションズが提供するインターネット接続サービスをご利用になれます。
●OCNダイヤルアクセス（☛P15）
●OCNエコノミー（☛P15）

P15

有料サービス ¥　本体設定 要

24時間自由に使える定額サービス

インターネットの接続料金が定額になり、安心して使えます。

●フレッツ・ISDN（IP接続サービス）

■その他ご利用になれる主なサービス

サービス名		料金	設定	参照ページ
フレックスホン	INSキャッチホン 三者通話 通信中転送 着信転送	有料サービス ¥	本体設定 要	（☛P187、189、193、195）
転送元電話番号通知サービス		有料サービス ¥	本体設定 要	（☛P185）
代表取扱サービス		無料サービス ¥	本体設定 不要	—
INSマジックボックス		有料サービス ¥	本体設定 要	（☛P175）
発着信専用サービス		無料サービス ¥	本体設定 要	—
INSメッセージ到着お知らせサービス		有料サービス ¥	本体設定 要	（☛P199）
Lモード		有料サービス ¥	本体設定 要	（☛P197）

サービスガイド

IPMATE1500RDにできること

IPMATE1500RDに今までお使いの電話機やファクスを接続して、いろいろ活用できます。また、パソコンを接続すれば、インターネットやイントラネットが利用できます。

インターネットもイントラネットも快適

RS-232Cポート、USBポート、10BASE-Tポートを搭載。TAとしても、ルータとしても使用できます。

●利用形態を決める（☛P42）

P42

アナログポートの設定は電話機からOK

パソコンを接続していなくても、電話機から、アナログポートの設定をすることができます。パソコンをお使いの方は、WWWブラウザを使って簡単に設定できます。

●電話機での設定手順（☛P52）
●WWWブラウザでの設定手順（☛P46）

P52 P46

2台の電話で内線を使う

接続した電話機どうしでお話ししたり、電話を転送することができます。

●内線通話（☛P158）
●内線転送（☛P159）

P158 P159

簡単なLAN構築

アドレス自動割り当て機能（DHCPサーバ）を搭載しているため、LAN構築ができます。RS-232Cポート、USBポートに接続したパソコンをLANに参加させることもできます。

●DHCPサーバ（☛P55）

P55

前面部のボタンで簡単操作

操作ボタンによって、メール確認やメール転送、着信転送、発信／切断を簡単に行うことができます。

●操作ボタンの見かた（☛P21）
●前面ボタンの利用（☛P201）

P21 P201

かけてきた方を音で識別

登録した相手の方からの電話は、通常と異なる着信音が鳴るようにすることができます。
一般の電話網からの着信を識別するには、INSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

●疑似なりわけ（☛P160）

P160

お話し中にかかってきた電話もキャッチ

2本分のBチャネルを使用して、お話し中にかかってきた電話に出ることができます。

●疑似キャッチホン（☛P154）

P154

着信音を鳴らさず静かにファクス受信

音を鳴らさずにファクスを受信することができます。

●通信クラス設定（☛P179）

P179

Lモード対応アナログ通信機器を接続

Lモード（電話機でメールのやりとりや、各種情報の閲覧ができるサービス）に対応したアナログ通信機器を接続することができます。

●Lモードを利用するには（☛P197）

P197

各種契約の確認

各種回線加入契約の確認

本商品では、次の回線サービスに接続できます。詳しくは以下のサービス取扱所へお問い合わせください。

回線サービス	提供会社
ISDNサービス INSネット64 フレッツ・ISDN（IP接続サービス）	NTT東日本 NTT西日本
インターネットサービス OCNダイヤルアクセス OCNエコノミー スーパーOCN ビジネスOCN	NTTコミュニケーションズ
専用線サービス HSD DA64／128	NTT東日本 NTT西日本

■ INSネット64をご利用のとき

INSネット64をご契約のときは、以下の事項に従ってください。

- インタフェース形態およびレイヤ1起動種別は、「P-MP呼毎」または「P-MP常時」を指定してください。本商品は、「P-P」接続はサポートしていません。
- 通信中着信通知サービスの利用契約をしてください。
  MP（マルチリンクプロトコル）通信中の電話優先着信、およびフレックスホンサービスを正常にご利用になるために必要です。

■ 専用線サービス、OCNエコノミー、スーパーOCN、ビジネスOCNをご利用のとき

本商品ではHSD、DA64／128、OCNエコノミーをご利用の場合はアナログポートとTA機能は使用できません。
ただし、アナログポートに接続したプッシュ式アナログ電話機からの設定を行う場合に限り、TEL1ポートに接続したアナログ通信機器を利用することができます。

お知らせ

本商品では、INSネット64のパケット通信モードでの通信、およびDチャネルの使用はできません。

プロバイダ加入契約の確認

インターネットを利用する場合は、インターネットにアクセスするサービスを提供するインターネットプロバイダに加入してください。

■ インターネットプロバイダの選択

通信速度が同期（64 kbit/s）、またはMP（128 kbit/s）のアクセスポイントを持つインターネットプロバイダに加入してください。非同期V.110のアクセスポイントには接続できません。

■ インターネットプロバイダに加入したら

インターネットプロバイダに加入すると、ユーザ認証ID、パスワード、DNSサーバのアドレス、アクセスポイントの電話番号などが通知されます。これらの情報は、インターネットにアクセスするための設定を行うときに必要です。

操作の流れ

本商品をお使いになる前に必要な準備や操作の大まかな流れを説明します。

セットを確認してください(☞P17)

- 箱を開け、この説明を読みながら本商品の付属品がすべてそろっているか確かめます。

↓

接続します
(☞P29)（☞接続早わかりガイド）

- 本商品と回線および通信機器、パソコンを接続します。

↓

電源を入れます
(☞P35)(☞接続早わかりガイド)

- 電源アダプタを電源コンセントに差し込み、本商品の電源を入れます。自己診断（☞P35）が始まります。
自己診断が終了すると本商品が利用できます。

↓

日付・時刻を設定します(☞P37)

- 電話機を使って、本商品へ日付・時刻の設定をします。
専用線をご利用の場合は、電話機またはWWWブラウザから設定します。

↓

利用形態を決めます（☞P39）

- お使いになる通信機器・パソコンにて、どのような利用形態があるか確認します。
本商品にパソコンをおつなぎの場合には、このあとに続く操作手順の概要をご理解ください。

本商品にパソコンを接続しない → 「必要に応じて、電話機から本商品の設定を行います（☞P152）」へ

↓

本商品にパソコンを接続する場合

本商品にパソコンを接続し、WWWブラウザを使って設定を行います。操作手順を確認してください。（☞P41）

↓

パソコン側のセットアップを行います

- 別冊「本商品へ接続する前の準備＜パソコンでの操作＞」をご覧ください。

↓

本商品にログインします

- WWWブラウザを使って、本商品にログインします。

↓

本商品の設定を行います

- ご利用になる形態ごとに設定例を説明しています。（☞P53）

↓

必要に応じてパソコンの再セットアップを行います

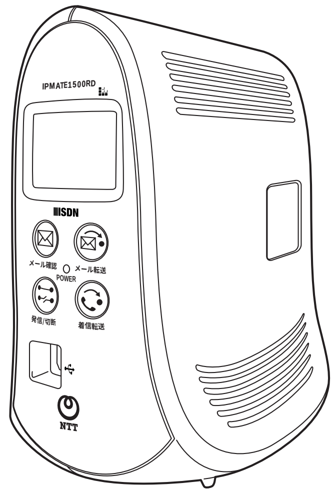
- 別冊「本商品へ接続する前の準備＜パソコンでの操作＞」をご覧ください。

↓

必要に応じて、電話機から本商品の設定を行います（☞P152）

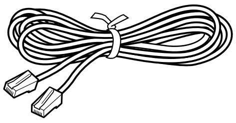
セットを確認してください

■本体

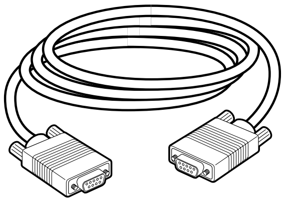


IPMATE1500RD

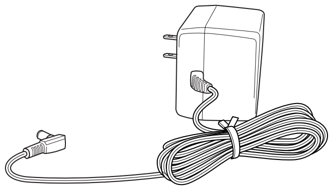
■付属品



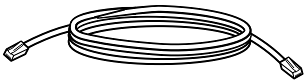
電話機コード（1本：約3 m）



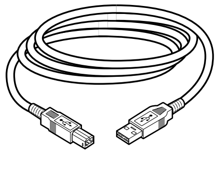
RS-232Cケーブル（1本：約1.2 m）
（D-SUB9ピン　メスーメス）
（ストレート結線）



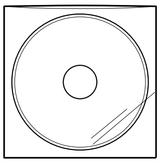
電源アダプタ（1個）



10BASE-Tケーブル
（1本：約1.8 m）

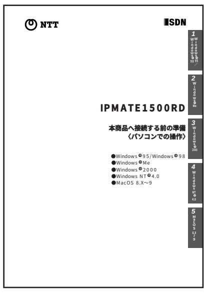


USBケーブル
（1本：約1.5 m）

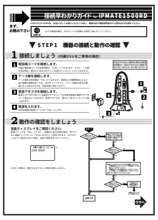


CD-ROM（1枚）

取扱説明書
（1部）



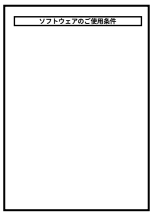
本商品へ接続する前の準備〈パソコンでの操作〉（1部）



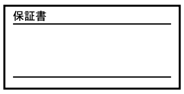
接続早わかりガイド（1部）

サービスガイド（1部）

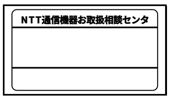
CD-ROM説明書（1枚）



CD-ROM使用許諾書（1枚）



保証書（1枚）

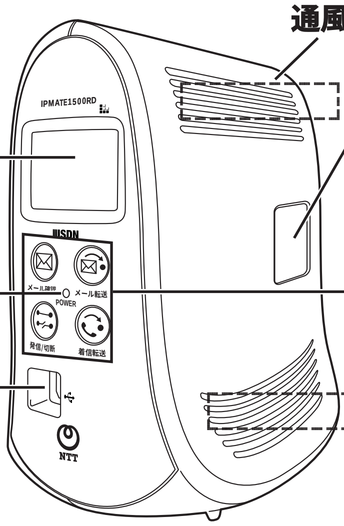


NTT通信機器お取扱相談センタシール（1枚）

●セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁があった場合などは、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

各部の名前

【前面】



通風孔

品名紙
本商品の認証番号、製造年月などが記載されています。

液晶ディスプレイ（☛P22）

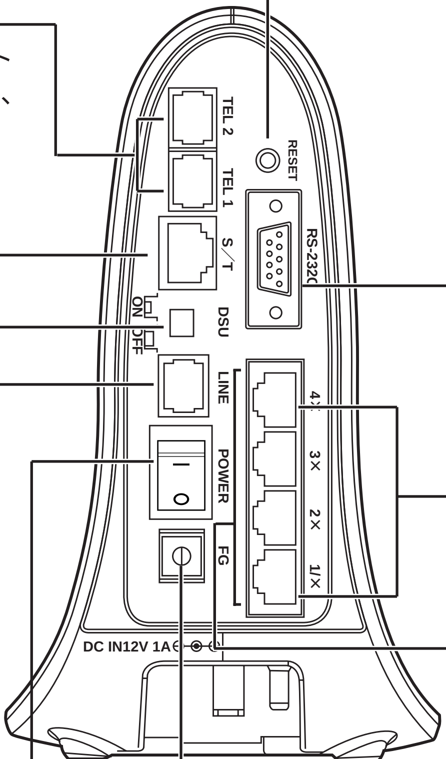
POWERランプ（☛P20）

操作ボタン（☛P21）
メール確認、メール転送、着信転送、発信／切断を行います。

USBポート（☛P30）
USBケーブルでパソコンを接続します。

通風孔

【背面】



リセット／イニシャルスイッチ
本商品を再起動またはお買い求め時の設定に戻すときに使用します。（☛P255）
ファームウェアが消去される場合がありますので、ファームウェア更新中には押さないでください。

アナログポート
TEL1 ポート（TEL1）、TEL2ポート（TEL2）アナログ通信機器（電話機、ファクス等）を接続します。（☛P29）

S/T端子
DSU、INSネット64用通信機器（ディジタル電話機、G4ファクス等）を接続します。（☛P29）

RS-232Cポート
RS-232Cケーブルでパソコンを接続します。（☛P30）

10BASE-Tポート（1/X〜4X）
10BASE-Tケーブルでパソコンまたは HUBを接続します。（☛P30）

DSU切替スイッチ
外付けのDSUに接続するときは、本商品のDSU機能を無効にします。（☛P32）

LANランプ
（☛P20）

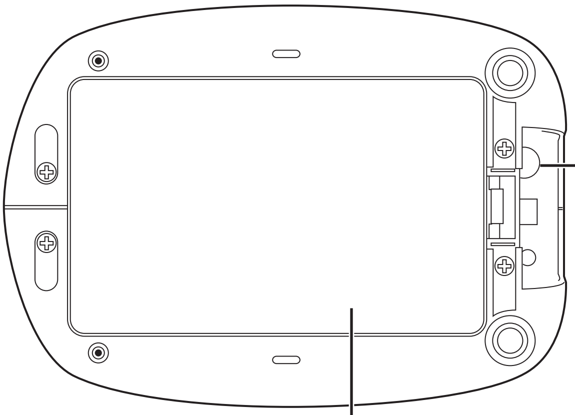
回線接続端子
回線に接続します。

電源スイッチ

FG端子
アースに接続します。（☛P29）

【底面】

■電池カバーを閉めた状態



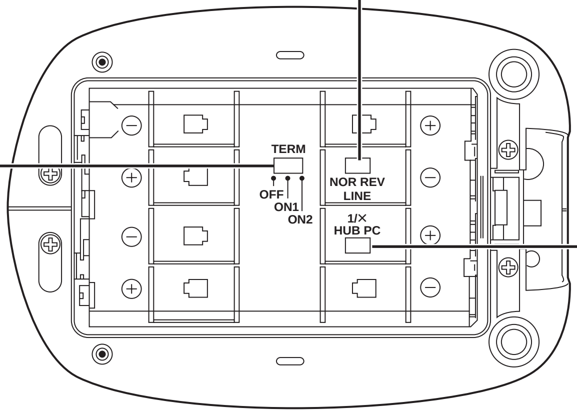
電源アダプタコード差込口
付属の電源アダプタのコードを差し込みます。
（☛P29）

電池カバー

■電池カバーを開けた状態

極性切替スイッチ
回線の極性を切り替えます。（☛P36）

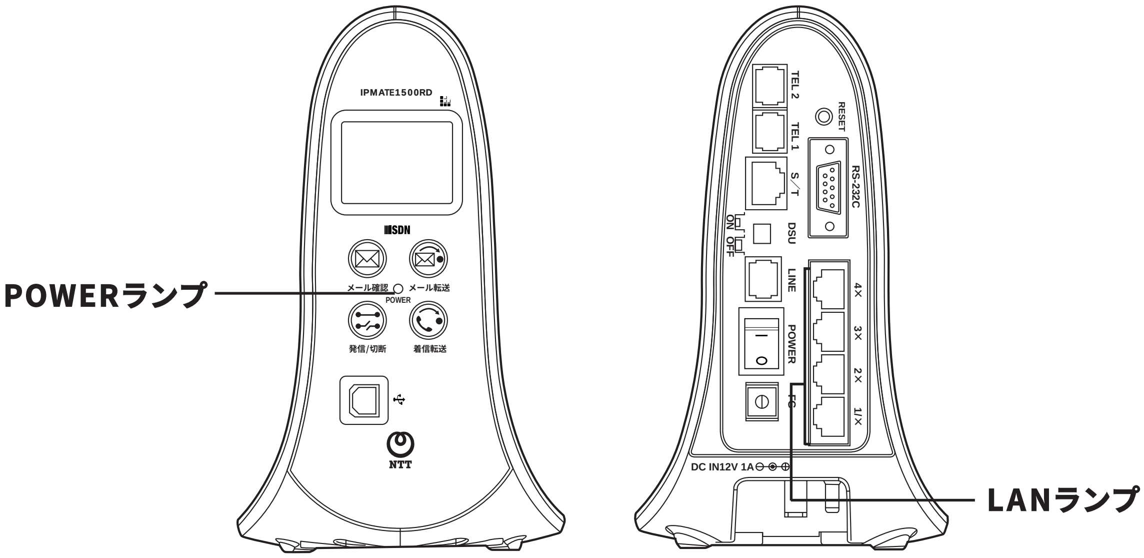
終端抵抗切替スイッチ
終端抵抗のOFF／ON1／ON2を設定します。（☛P32）



ストレート／クロス切替スイッチ
1/Xポートのストレート⇔クロスを切り替えます。（☛P34）

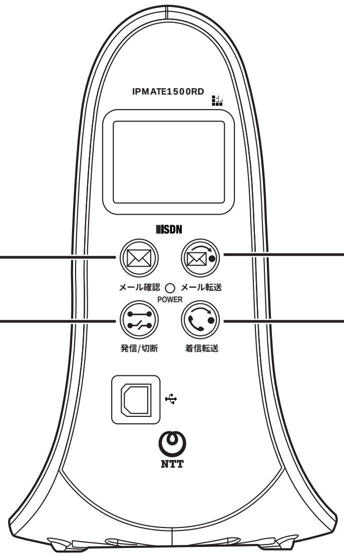
各部の名前

【ランプ表示】



ランプの種類	ランプのつき方	IPMATE1500RDの状態
POWERランプ	点灯　（緑）	AC電源で動作中です。
	点灯　（橙）	起動時の自己診断中です。
	点滅　（橙）	ローディングモードで動作中です。
	点灯　（赤）	自己診断でエラーが発生しました。
	点滅　（赤）	リセットスイッチを押しての再起動中です。
	消灯	電源が入っていません（乾電池で動作中です）。
LANランプ	点灯　（緑）	10BASE-Tポートにパソコンが接続されています。
	点滅　（緑）	10BASE-Tポートに接続するパソコンで通信中です。
	消灯	10BASE-Tポートにパソコンが接続されていません。
	全ポート緑点滅	リセットスイッチを押しながらの起動処理中です。
	全ポート緑点灯	メモリテスト中です。
	全ポート赤点滅	メモリテストでエラーが発生しました。

【操作ボタンの見かた】

メール確認ボタン
発信／切断ボタン


メール転送ボタン
着信転送ボタン

ボタンの種類	ボタンの機能
メール確認ボタン	・手動でのメール確認 ・自動メール確認の停止／再開 ・設定値の確認
メール転送ボタン	・メール転送の停止／再開 ・設定値の確認
着信転送ボタン	・フレックスホン着信転送の停止／再開 ・設定値の確認
発信／切断ボタン	・手動による接続ごとの発信および切断 ・接続状態の確認

【ボタンの基本操作】

ボタンの操作方法には2種類あります。操作の詳細は「6　前面ボタンの利用」（☛P201）をご覧ください。

■ボタンを押してすぐに離す

現在の設定状況を確認する場合や、項目を選択する場合

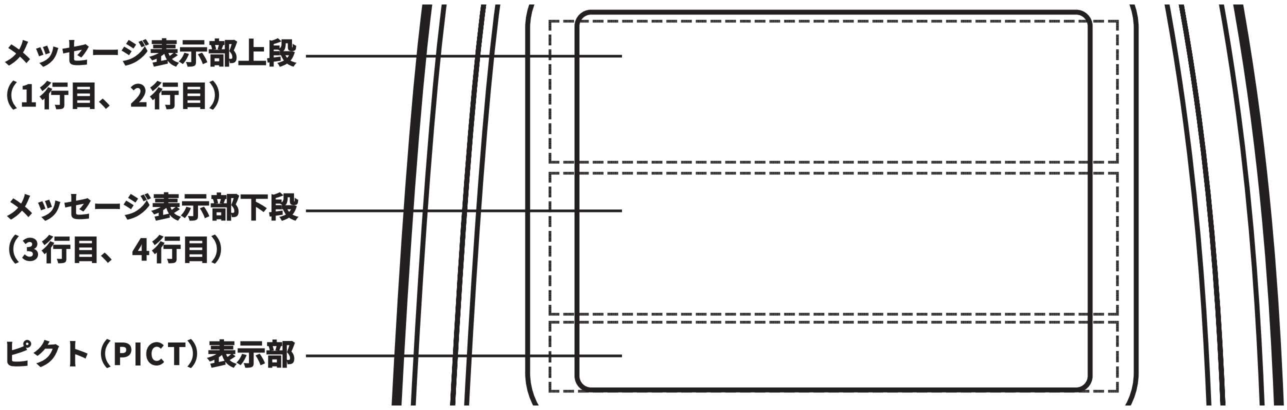
■2秒以上ボタンを押してから離す

設定画面を表示させる場合や、選択を確認する場合

※押している時間が短いと、正しく操作が行えません。

各部の名前

【液晶ディスプレイの見かた】



◎ ピクト（PICT）表示部

■IPMATE1500RDの状態とPICT点灯／消灯との対応

表示	照明の状態	IPMATE1500RDの状態
B1	点　灯	Q.931で、B1チャネルの呼設定が確立されました。
	消　灯	Q.931で、B1チャネルの呼が解放されました。
B2	点　灯	Q.931で、B2チャネルの呼設定が確立されました。
	消　灯	Q.931で、B2チャネルの呼が解放されました。
	点　灯	アナログ1に接続の機器がオフフック状態です。
	消　灯	アナログ1に接続の機器がオンフック状態です。
	点　灯	アナログ2に接続の機器がオフフック状態です。
	消　灯	アナログ2に接続の機器がオンフック状態です。
ER	点　灯	RE-232CのER(Equipment Ready)信号を受信しました。
	消　灯	RE-232Cポートに端末が未接続状態です。
	点　灯	USBのER(Equipment Ready)信号を受信しました。接続しているパソコンのアプリケーションが通信可能な状態です。
	消　灯	USBのER(Equipment Ready)信号を受信していません。
	点　灯	メールサーバにメールがありました。次のメール確認まで点灯し続けます。
	消　灯	メール確認をしましたが、メールサーバにメールがありません。

◎メッセージ表示部

■起動中の表示例

メッセージ表示部下段（3行目、4行目）への表示はありません。

＜メッセージ表示部上段（1行目、2行目）＞

液晶ディスプレイ表示	IPMATE1500RDの状態
IPMATE1500RD ***	電源投入後の、ファームウェア・ローディング、および、自己診断を実行中です。
IPMATE1500RD V01.00	ファームウェア・スタート中です。 「VXX．XX」は、内部ファームウェアのバージョンを示します。

■起動後の表示例

メッセージ表示部下段（3行目、4行目）への表示は、一部の場合を除いてありません。

＜メッセージ表示部上段（1行目、2行目）＞

ISDNの場合

液晶ディスプレイ表示	IPMATE1500RDの状態
8月15日10:25:40 ISDN READY	ISDNとの接続が正常です。 または、簡易LAN接続にて本商品に接続しています。
8月15日10:25:40 Layer1 Down	回線側が物理的に接続していません。 ケーブル抜けや切断、極性の反転、DSU切替スイッチの間違いなどを確認してください。
8月15日10:25:40 Layer1 Up	ISDN回線が異常です。本商品を再起動して、再度本表示がされる場合は、本商品が故障していることが考えられます。

専用線の場合

液晶ディスプレイ表示	IPMATE1500RDの状態
8月15日10:25:40 LINE READY	専用線との接続が正常です。
8月15日10:25:40 Layer1 Up	専用線との接続は正常ですが、専用線の設定にあやまりがあることが考えられます。3行目に、設定されている「回線種類」が表示されます。「ISDN回線」が表示されていたら、WWWブラウザより回線種類を「専用線」の設定にしてください。また、認証設定に間違いがないか確認してください。

各部の名前

■停電中の表示例

メッセージ表示部下段（3行目、4行目）への表示はありません。
<メッセージ表示部上段（1行目、2行目）>

液晶ディスプレイ表示	IPMATE1500RDの状態
停電動作中	停電動作中です。 通話中に停電になった場合、液晶ディスプレイの表示は、通話時の状態表示のままとなります。 通話終了後、本表示をします。

■データ通信の表示例

メッセージ表示部下段（3行目、4行目）への表示はありません。
<メッセージ表示部上段（1行目、2行目）>

液晶ディスプレイ表示	IPMATE1500RDの状態
OCN	データ発信時です。 上段1行目に、接続先名または接続先電話番号を表示します。 ○LANの場合：接続先名を13文字までと電話番号を表示 ○TAの場合　：接続先電話番号を表示 接続を開始すると、「接続開始」と表示します。 エラー時は、メッセージを表示します。（☞Ｐ220）
0312345678	データ着信時です。 上段1行目に、発信者番号を点滅表示します。 発信者番号が通知されない場合は、メッセージを表示します（☞P221）
B1:▔▔▬▬▁01:59:59 B2:▔▔▁▁▁00:13:42	データ通信中です。 上段1行目にB1チャネルの状態を、2行目にB2チャネルの状態を表示します。 「〓」は、チャネル上のデータ量を示します。 ○「▔」　送信データ量 ○「▁」　受信データ量 「００：００：００」は、通信時間を示します。 (例)「０１：５９：５９」　1時間59分59秒 ※通信時間は目安のため、実際の接続時間と合わないことがあります。 　連続100時間になると、表示時間は00:00:00となり、以降続けてカウントします。 10秒に1回接続先名または接続ポートを表示します。 ○LANの場合：接続先名を表示 ○TAの場合：接続ポート（RS-232CまたはUSB）を表示 また、MPや圧縮利用時には10秒に1回PPPネゴシエーションの結果をそれぞれ表示します。
B1:切断01:55:50 B2:01:10:23 240	データ通信を切断しました。 上段1行目にB1チャネルの状態を、2行目にB2チャネルの状態を表示します。それぞれ、通話時間と通信料金（切断以降の文字列）を、右から左へ流れるように表示します。 「００：００：００」は、通信時間を示します。 (例)「０１：５５：５０」　1時間55分50秒

■アナログ通信の表示例

＜メッセージ表示部上段（1行目、2行目）＞

液晶ディスプレイ表示	IPMATE1500RDの状態
TEL1:0312345678 TEL2:04511112222	アナログ発信時です。 上段1行目にTEL1ポート、2行目にTEL2ポート、それぞれ発信した宛先電話番号を点滅表示します。 エラー時は、メッセージを表示します。(☛P221)
TEL1:0398765432 TEL2:0433334444	アナログ着信時です。 上段1行目にＴＥＬ1ポート、2行目にＴＥＬ2ポート、それぞれ着信した通信の発信者番号を表示します。 発信者番号が通知されない場合は、メッセージを表示します。(☛P222)
T2:**通話**01:45:37 T1:0312345678 ↕ 10秒に1回、電話番号を表示 T2:04511112222 T1:**通話**00:50:44	アナログ通話中です。 上段1行目にＢ1チャネルの状態を、2行目にＢ2チャネルの状態を表示します。 宛先電話番号（または発信者番号）と、通話時間を交互に表示します。 「Ｔ1」「Ｔ2」は、使用しているポートを示します。 ○「Ｔ1」　ＴＥＬ1ポート ○「Ｔ2」　ＴＥＬ2ポート 「００：００：００」は、通信時間を示します。 (例)「０1：５９：５９」　1時間59分59秒 ※通信時間は目安のため、実際の接続時間と合わないことがあります。 連続100時間になると、表示時間は00:00:00となり、以降続けてカウントします。
TEL1:**切断**01:55:5 TEL2:10:23 240**円**	アナログ通話を切断しました。 上段1行目にＢ1チャネルの状態を、2行目にＢ2チャネルの状態を表示します。 それぞれ、通話時間と通信料金（切断以降の文字列）を、右から左へ流れるように表示します。 「００：００：００」は、通信時間を示します。 (例)「０1：５５：５０」　1時間55分50秒

各部の名前

■アナログ通信の表示例

<メッセージ表示部下段（3行目、4行目）>

INSメッセージ到着お知らせサービス（Lモード）をご利用になっているとき、液晶ディスプレイへの表示を行う設定になっている場合には、次の内容が表示されます。

液晶ディスプレイ表示	IPMATE1500RDの状態
メッセージあり着信： 0123456789 ↓ センタ1M1 ↓ センタ2M1 ↓ センタ3M2 ↓ センタ4M3 ↓ センタ5M1	メッセージあり通知が表示されました。 3行目に着信電話番号を表示します。 「メッセージあり着信：xxxxxxxxxxxx」 に続いて、メッセージが登録されているセンタの番号（1-5）、センタに登録されているメッセージのメディア種別を表示します。 ○メディア種別の内容 M1 M2 M3 ＊登録されているものだけを表示します。 ○センタ番号の表示は、メッセージが登録されているセンタの番号だけを表示します。 登録されていないセンタの内容はとばされて表示します。

■前面ボタン操作時の表示例

メッセージ表示部上段（1行目、2行目）への表示は（一部を除いて）ありません。

<メッセージ表示部下段（3行目、4行目）>

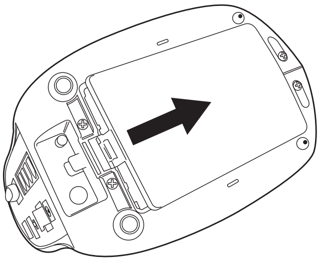
詳細は、「6　前面ボタンの利用」(☞P201）をご覧ください。

番　号	番　号	状　態
1	メール確認 実行／変更	メール確認ボタンを2秒以上押したときに表示されます。
2	メール確認自動で行う（行わない）メール サーバアドレス：xxx.xxx.xxx.xxx 確認1回目：xx時 確認2回目：xx時 確認3回目：xx時	メール確認ボタンを押したときに4行目に表示されます。 （　）内はその時点での設定状況によります。 メッセージが4行目に順次スクロール表示されます。
3	メール確認を開始します OK／NG	1の「実行」選択状態から、メール確認ボタンを2秒以上押したときに表示されます。
4	メール確認を開始します 確認中	3の「ＯＫ」選択状態から、メール確認ボタンを2秒以上押したときに表示されます。
5	メール　nn件 メール確認終了	4の状態から、メール確認が完了した場合に表示されます。
6	自動メール確認 行う／行わない	1の「変更」選択状態から、メール確認ボタンを2秒以上押したときに表示されます。
7	自動メール確認 変更しました	6の「行う／行わない」どちらかの選択状態から、メール確認ボタンを2秒以上押したときに表示されます。
8	メール転送 行う／行わない	メール転送ボタンを2秒以上押したときに表示されます。
9	メール転送を行う（行わない） 転送先メールアドレス： xxxx@xxxx.xxx.xx.xx 転送先メールサーバ：xxx.xxx.xxx.xxx	メール転送ボタンを押したときに表示されます。 （　）内はその時点での設定状況によります。 メッセージが4行目に順次スクロール表示されます。
10	メール転送 変更しました	8の「行う／行わない」どちらかの選択状態から、メール転送ボタンを2秒以上押したときに表示されます。
11	着信転送 行う／行わない	着信転送ボタンを2秒以上押したときに表示されます。
12	着信転送を行う（行わない） 電話番号1転送先：9999999999 電話番号2転送先：9999999999 電話番号3転送先：9999999999	着信転送ボタンを押したときに、表示されます。 （　）内はその時点での設定状況によります。 メッセージが4行目に順次スクロール表示されます。
13	着信転送 変更しました	11の「行う／行わない」どちらかの選択状態から、着信転送ボタンを2秒以上押したときに表示されます。
14	No.01:OCN 切断	発信／切断ボタンを2秒以上押したときに表示されます。 4行目は、現在回線が接続状態なら「切断」、未接続なら「発信」が表示されます。
15	No.01:OCN 切断中	14の状態から、発信／切断ボタンを2秒以上押したときに表示されます。 このとき「発信」だった場合は「発信中」が表示されます。
16	B1:01:OCN B2:接続なし	発信／切断ボタンを押したときに、表示されます。 表示されるのは、接続先番号と接続先名が表示されます。 接続されていない場合は「接続なし」が表示されます。

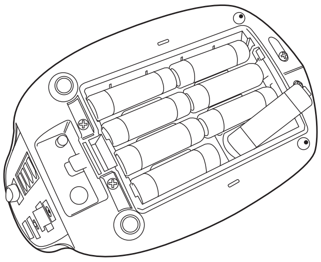
停電になったときのために

乾電池を入れることにより、不意の停電の際でも、TEL1ポートに接続した電話機およびS/T端子に接続した機器での通信ができます。TEL2ポートおよびRS-232Cポート、USBポート、10BASE-Tポートに接続した機器では通信できません。
また、液晶ディスプレイのピクト（PICT）表示も行いません。

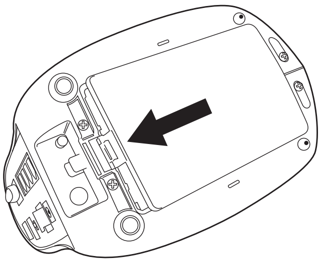
① **電池カバーのツメを内側に押しながら、持ち上げるようにして電池カバーを開けます。**



② **単3アルカリ乾電池を8本入れます。**
乾電池を入れるときは、プラス（＋）・マイナス（－）の向きを確かめて入れてください。
乾電池はお客さまでご用意願います。



③ **電池カバーを取り付けます。**



お知らせ

- TEL2ポートで通話中に停電があった場合でも、その通話が終了するまでは継続されます。
- 停電時にはTEL2ポートへ着信できません。
- 新品の乾電池で25 ℃前後で約2時間の連続通話ができます。
- 電池動作モードはTEL1ポートだけを使用できます。
- パソコンの背面のコンセント等から本商品の電源をとっている場合に、パソコンの電源を切ると、停電時の動作と同じになる場合があり、電池が消耗します。電源は直接、商用電源のコンセントからとることをお勧めします。
- 停電時に電池の残量が少なくなると、本商品のTEL1ポートおよびS/T端子も動作しなくなることがあります。また、使用中に本商品の電源が落ちることがあります。
- 単3アルカリ電池はお客さまでご用意願います。
- 停電後、本商品の日時が初期設定に戻っている場合があります。正しい日時を設定し直してください。（☞P37）

お願い

保証期間外や残量がなくなった電池は使用しないでください。
そのまま使用していますと電池が液もれなどをおこし、故障の原因となることがあります。

⚠注意

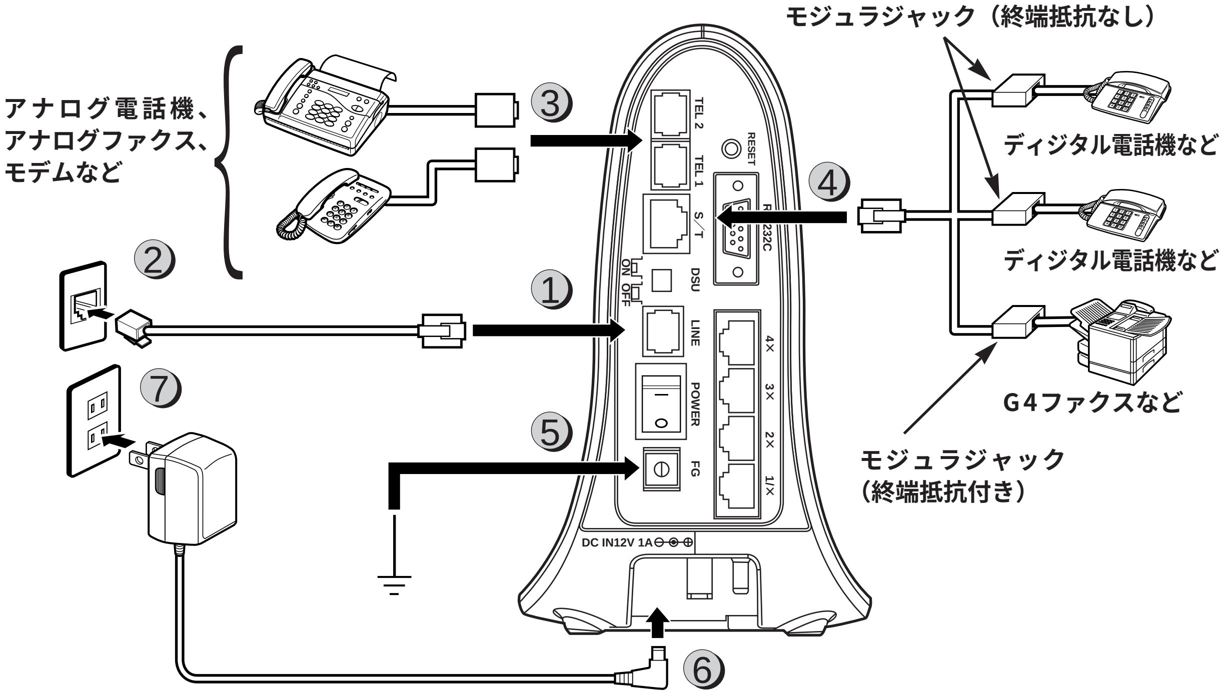
- **停電回復後すぐに乾電池を交換する場合は、乾電池が熱くなっていることがありますので、注意してください。**

接続します

電話回線のコンセントがモジュラジャック式でないときは工事が必要です。局番なしの116番または当社の営業所等へご相談ください。
本商品をご使用にあたって、当社のレンタル電話機がご不要となった場合は、局番なしの116番または当社の営業所等にご連絡いただければ、「機器使用料」は不要となります。

接続の手順

■アナログ通信機器を接続するとき



1. **付属品の電話機コードを回線接続端子（LINE）につなぎます。**
2. **付属品の電話機コードをINSネット64回線用モジュラジャックにつなぎます。**
3. **アナログ通信機器を接続する場合は、電話機コードをアナログポート（TEL1、TEL2）につなぎます。**
4. **ディジタル電話機などINSネット64用通信機器を接続する場合は、S/T端子につなぎます。**

●**本図は、アナログ通信機器およびINSネット64用通信機器の接続を概念的に示しています。実際の接続方法は、使用する機器や設置する場所などの使用状況に合わせる必要があるため、本図と異なる場合があります。**

5. **FG端子にアース線をつなぎます。**
※アース線は付属していません。
6. **電源アダプタのコードを、電源アダプタコード差込口につなぎます。**
7. **電源アダプタを電源コンセント（AC100V）に差し込みます。**

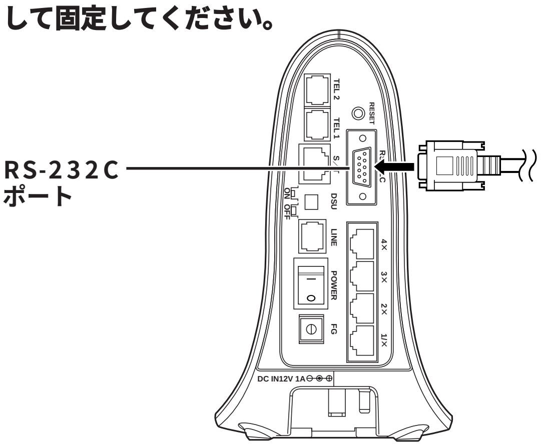
お知らせ

●TEL2ポートに電話機を接続しない場合は、WWWブラウザでの設定により［装置／電話番号］（電話番号）または（追加番号1）～（7）の各画面において電話番号ごとのアナログ着信を「TEL1ポートのみ着信」に設定してください。
●本設定は、本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）、電話機を使って行うこともできます。（機能番号40～48 ☛P224、225）

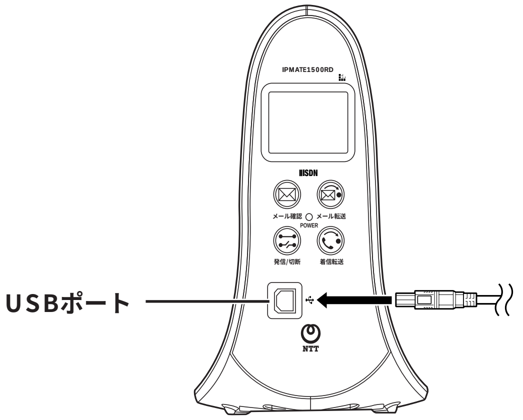
接続します

■パソコンを接続するとき

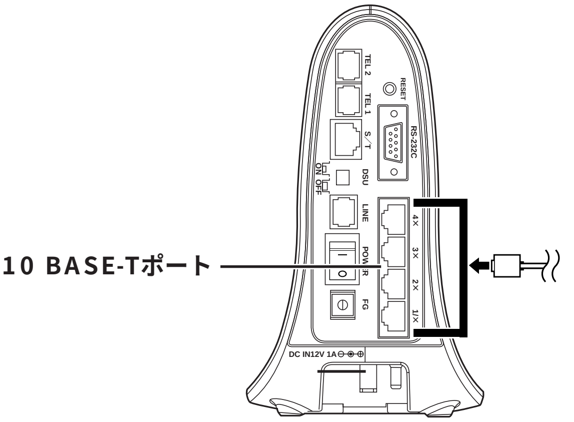
RS-232Cケーブルで接続するときは、背面のRS-232Cポートにつなぎます。コネクタの向きに注意してください。コネクタを挿入後、両端のネジを回して固定してください。



USBケーブルで接続するときは、正面のUSBポートにつなぎます。コネクタの向きに注意してください。



10BASE-Tケーブルで接続するときは、背面の10BASE-Tポートのいずれかにつなぎます。コネクタの向きに注意してください。



お願い

- パソコンを10BASE-Tケーブルで接続する場合は、本商品とパソコンを接続する前に、パソコンにソフトウェアをインストールし、ネットワークの設定を行う必要があります。(☞『本商品へ接続する前の準備〈パソコンでの操作〉』)
- パソコンをRS-232CケーブルまたはUSBケーブルで接続する場合は、本商品とパソコンを接続したあと、パソコンにソフトウェアをインストールする必要があります。(☞『本商品へ接続する前の準備〈パソコンでの操作〉』)
- USBケーブルを接続してもパソコンが本商品を認識しないときは、USBケーブルをいったん抜いて、接続し直してください。それでも正しく認識しない場合には、本商品やパソコンを再起動してください。
- USBポート通信中に、USBケーブルを抜かないでください。パソコンによっては、動作不安定になったり、フリーズしたりすることがあります。
- パソコンによっては、スタンバイ機能を併用すると、USBポートの動作が不安定になることがあります。
- Windows® 98、Windows® Me、Windows® 2000のUSBポートを使用する場合、ハードウェアフロー制御(RS-CS,RTS-CTS)でご利用ください。ソフトウェアフロー制御(XON-XOFF)では利用できません。
- ご利用のパソコンによっては、Windows® 98(Second Edition)でUSBドライバをインストールすると、RS-232Cの通信COMポートがUSBの仮想COMポートと重複する場合があります。その場合には、RS-232Cの通信ポートを「使わない」に設定して重複しないようにしてください。
- 内蔵モデム付パソコンを使用する場合、Windows® 98(Second Edition)でUSBドライバをインストールすると、内蔵モデムの通信COMポートがUSBの仮想COMポートと重複する場合があります。その場合には内蔵モデムの通信ポートを「使わない」に設定して重複しないようにしてください。

接続上の注意

■INSネット64の接続

接続には付属品の電話機コードを使用してください。

お知らせ

- ●ダイヤル式（DP）のアナログ通信機器は使用できません。
- ●ダイヤル式（DP）／プッシュ式（PB）の切替スイッチが付いているアナログ通信機器をお使いになる場合は、「PB」または「トーン」に切り替えてください。
- ●（財）電気通信端末機器審査協会の適合認証を取得しているアナログ通信機器を接続してください。
- ●一般のアナログ回線との仕様の違いにより、お使いいただけないアナログ通信機器もあります。
- ●料金管理装置などを接続してご使用になると、通信事業者からの通信料金の請求額とは必ずしも一致しない場合がありますので、ご注意ください。
- ●モジュラジャックの配線工事には工事担任者資格が必要です。局番なしの116番または当社の営業所等へご相談ください。
- ●本商品のローディングモード中は、USBポートは使用できません。
- ●iMac／iBook／PowerMacintoshG3／PowerMacintoshG4のUSBポートを使用する場合、次の理由により、USBポートが認識されなくなることがあります。その際は、USBケーブルを一度抜き、接続し直してください。それでも正しく認識されない場合には、本商品やパソコンを再起動してください。
  - 「簡易LAN接続」機能を使用して本商品を設定し、再起動した場合
  - パソコンのスリープ機能動作時
  - パソコンのアプリケーション動作中にUSBケーブルを抜く、または、本商品の電源を切った場合
- ●MacintoshのUSBポートを使用する場合、USBを安定して動作させるためには、ご利用のパソコンが正常に動作する状態にあることが必要です。エラーやフリーズが頻繁に起こる環境の場合は、機能拡張の制限、OS更新後のUSBドライバインストールを行い、正常に動作するようにしてください。
- ●Windows®98、Windows®Me、Windows®2000のUSBポートを使用する場合、USBポート通信中にパソコンのスタンバイ機能が働かない場合があります。スタンバイ機能をご利用の場合には、USBポート通信終了後にご利用ください。

■電源との接続

電源アダプタはAC100 V（50 Hzまたは60 Hz）の電源コンセントに接続してください。

■パソコンの接続

本商品は、Windows®95、Windows®98、Windows®98(Second Edition)、Windows®Me、Windows®2000、Mac OS 8.0以降のOSを持つパソコンに対応しています。

ただし、USBポートを使用しての接続は、Windows®98、Windows®98(Second Edition)、Windows®Me、Windows®2000、Mac OS 8.6以降のOSを持つパソコンのみ対応しています。

■アースの接続

落雷等の電撃事故による人身、本商品への損傷を防止するためにFG端子には必ずアース線を接続してください。

■電話・ファクスの接続

TEL1、TEL2ポートには、一般のアナログ回線に接続するプッシュ式（PB）のアナログ通信機器（電話機、ファクス等）を接続できます。

お願い

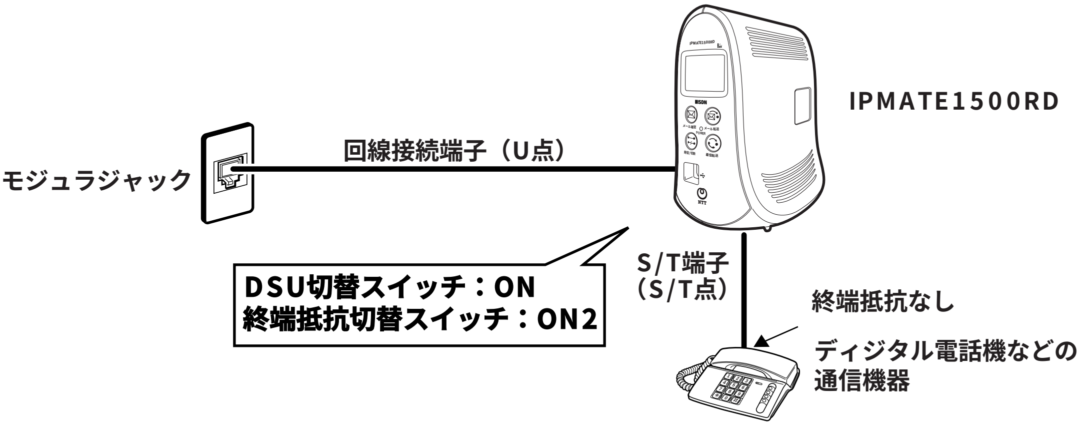
- ●INSネット64回線の電話機コードを抜き差しする場合は、本商品の電源アダプタおよび乾電池を抜いてから行ってください。
- ●屋外に渡る配線は絶対に行わないでください。雷などによる故障の原因になります。
- ●機器の接続に使用するコード類は、機器に付属のものを使うか、接続する機器に適合したものを使用してください。
- ●INSネット64用通信機器の接続は、配線が全長で150 m以下となるようにしてください。
- ●1つのアナログポート（TEL1、TEL2ポート）には1台のアナログ通信機器を接続してください。ブランチ接続はできません。1つのアナログポートに複数の通信機器を接続すると、使用できないことがあります。
- ●アナログ通信機器にブランチ接続用の端子がある場合、この端子には何も接続しないでください。

接続します

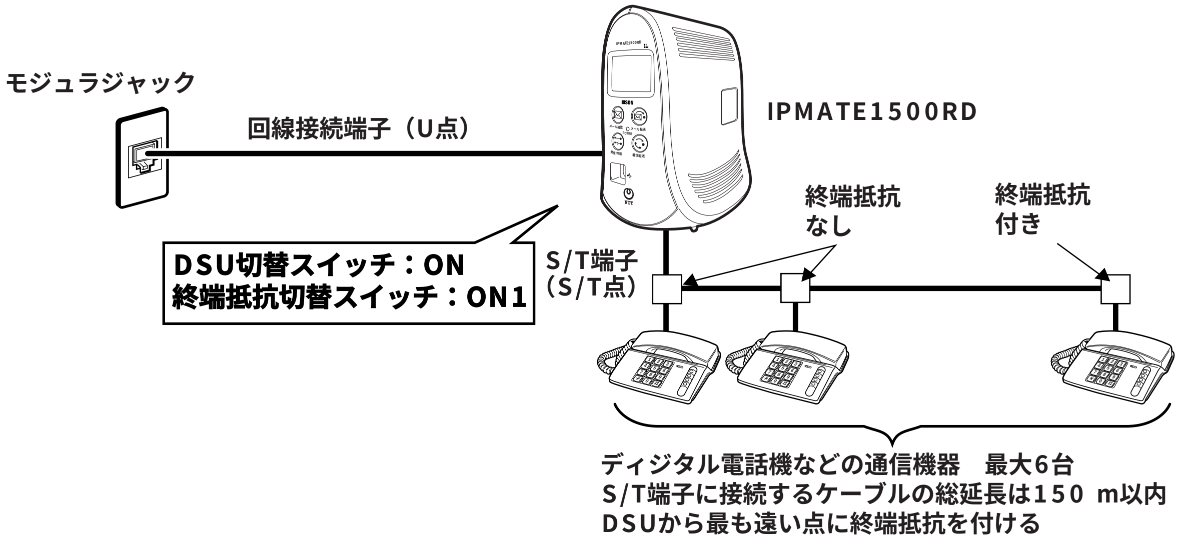
■INSネット64用通信機器の接続および終端抵抗の設定

ディジタル電話機などの通信機器は、S/T端子に最大6台まで接続して使用できます。接続する台数、および、内蔵DSUを使用する／しないによって、スイッチの設定、配線方法が異なります。
通常、INSネット64用通信機器は1本の回線に対して最大8台まで接続可能ですが、IPMATE1500RDの場合、INSネット64用通信機器2台分として動作します（2つのTEI：Terminal Endpoint Identifierを使用）。このため、IPMATE1500RDに接続可能なINSネット64用通信機器は最大で6台となります。

●内蔵DSUを使用する場合で、S/T端子に端末を接続しない、または、10 m以下の接続ケーブルで端末を接続する場合

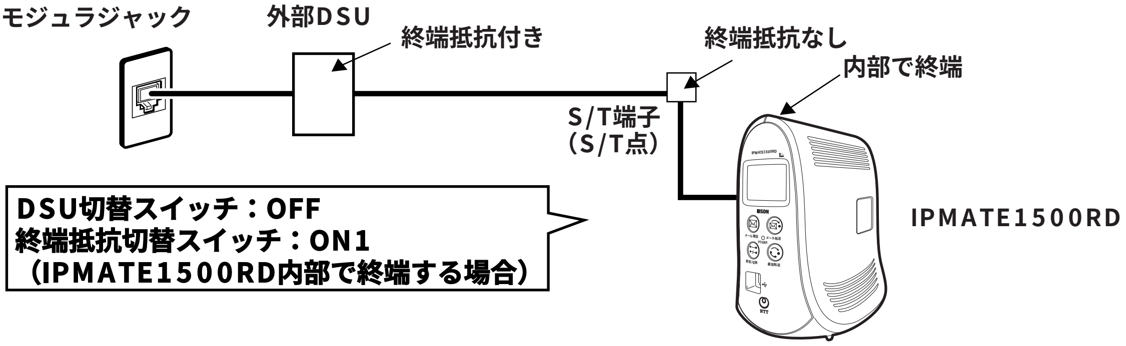


●内蔵DSUを使用する場合で、S/T端子への配線総延長が10 mを超える場合

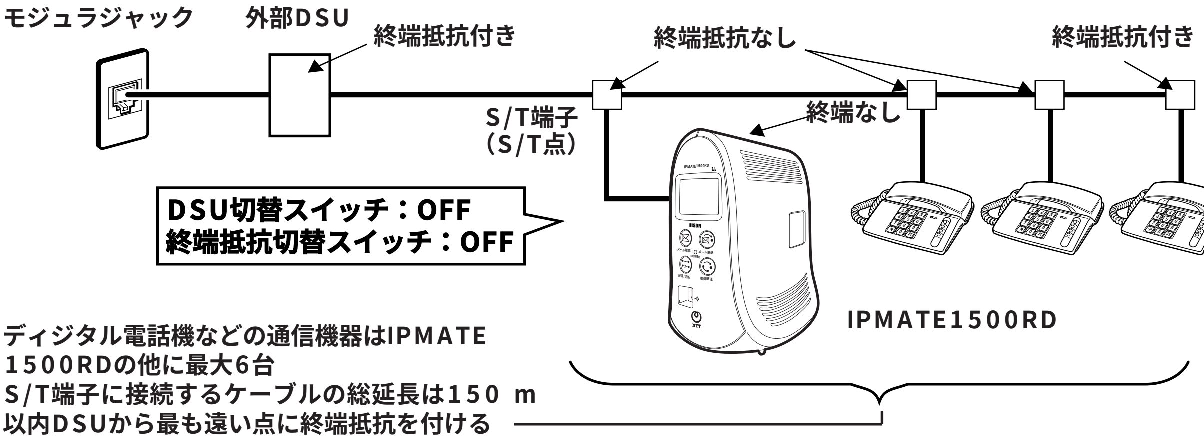


●外部のDSUを使用し、IPMATE1500RDを1台だけ接続する場合

S/T端子で外部DSUと接続します。回線接続端子は使用しません。
IPMATE1500RD内部でS/T端子を終端する場合は、終端抵抗切替スイッチをON1にします。
外部のローゼットで終端する場合は、終端抵抗切替スイッチをOFFにします。



●外部のDSUを使用し、バス接続でIPMATE1500RDを使用する場合



お知らせ

終端抵抗切替スイッチ（OFF／ON1／ON2）の意味は以下のとおりです。
OFF：終端抵抗は接続されません。
ON1：100 Ωの終端抵抗が1個接続されます。
ON2：100 Ωの終端抵抗が2個接続されます。

S/T端子でバス接続する場合は、バスの両端、「DSU側」と「端末側」に1個ずつ、終端抵抗をつけて終端する必要があります。
本商品では、内蔵DSUを使用する／しないによって、終端抵抗切替スイッチの設定を、以下のように替える必要があります。

- 内蔵DSUを使用する場合
  DSU側に1個、終端抵抗が必要です。
  端末側に終端抵抗がある場合は、終端抵抗は合計1個（終端抵抗切替スイッチ：ON1）必要です。
  端末側に終端抵抗がない場合は、終端抵抗は合計2個（終端抵抗切替スイッチ：ON２）必要です。
- 内蔵DSUを使用しない場合
  DSU側に、終端抵抗は必要ありません。通常は、外付けするDSUに終端抵抗が付いています。
  端末側に終端抵抗がある場合は、終端抵抗は不要（終端抵抗切替スイッチ：OFF）です。
  端末側に終端抵抗がない場合は、終端抵抗は合計1個（終端抵抗切替スイッチ：ON1）必要です。

接続します

■ RS-232Cポートにパソコンを接続する場合に使用するケーブル

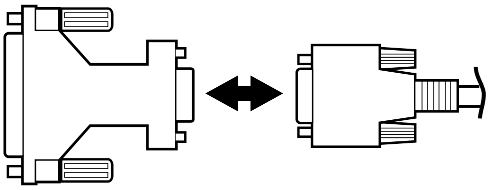
RS-232Cポートに接続するパソコンの種類により、ケーブルを以下のようにつないでください。

●9ピンのシリアルポートを持つパソコンに接続する場合

付属品のRS-232Cケーブルで、パソコンのシリアルポート（9ピン）に接続します。

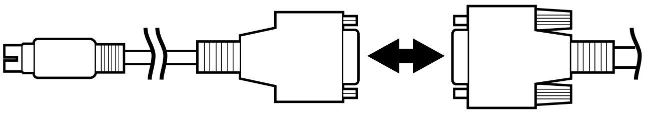
●25ピンのシリアルポートを持つパソコンに接続する場合

付属品のRS-232Cケーブルと市販のD-SUB25ピン変換コネクタで、パソコンのシリアルポート（25ピン）に接続します。



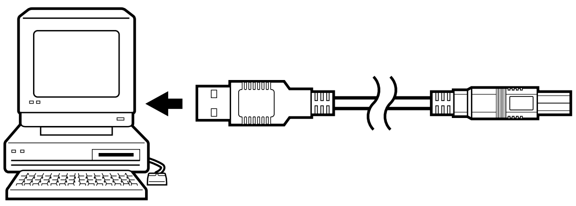
●Macintoshのモデムポート／プリンタポートに接続する場合

付属品のRS-232Cケーブルを市販のMac変換ケーブルにつないで、パソコンのモデムポートまたはプリンタポートに接続します。



■ USBポートにパソコンを接続するケーブル

付属品のUSBケーブルで、パソコンのUSBポートに接続します。



■ 10BASE-Tポートにパソコンを接続するケーブル

付属品の10BASE-TケーブルでパソコンのLANボード（カード）の端子に接続します。

10BASE-Tポートが装備されていないパソコンをお使いの場合はあらかじめ、パソコンにLANボード（カード）を装着してください。

なお、パソコンを2台以上接続するときは、市販の10BASE-Tケーブルをご用意ください。

■ HUBの接続

パソコンを5台以上接続するときは、10BASE-Tの1/Xポートに10BASE-TケーブルでHUBを接続します。HUBのUPLINKポートに接続する場合は、ストレート／クロス切替スイッチを「MDIX」に、HUBの通常ポートに接続する場合は、ストレート／クロス切替スイッチを「MDI」に切り替えてください。

リピータハブの段数は、規格ISO 8802-3で規定されています。

■ 外付けのDSUに接続するには

S/T端子に外付けDSUを接続し、DSU切替スイッチを「OFF」にします。

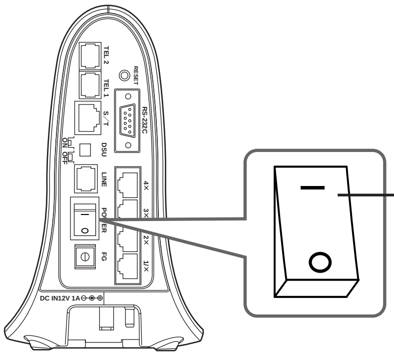
お願い

- ●ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書にしたがって正しく接続してください。
- ●変換コネクタまたは変換ケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- ●IPMATE1500RDのUSBポートにパソコンを接続するには、以下のOSが必要です。
  - ・Windows® 98
  - ・Windows® Me
  - ・Windows® 2000
  - ・MacOS 8.6〜9

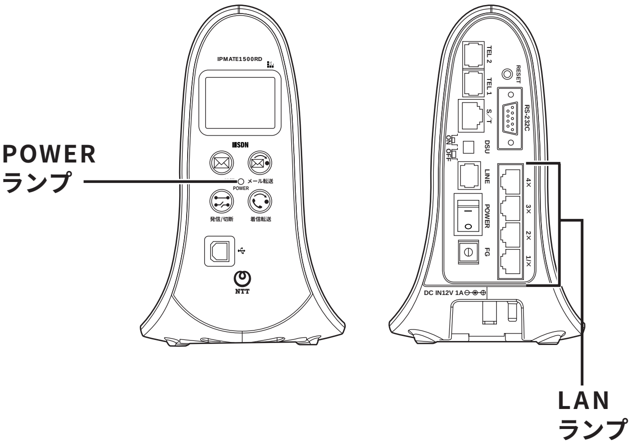
  ただし、パソコンの種類やＯＳによっては使用できなかったり、制限事項がある場合があります。

電源を入れます

① 右側面の電源スイッチを「ON」にします。自動的に自己診断がはじまります。



② LANランプが4つ同時に点灯します。POWERランプが緑色で点灯します。



③ 液晶ディスプレイの表示とランプが順番に変わります。

```
IPMATE1500RD
****
```

↓

ファームウェアのローディング中です。
POWERランプが橙で点灯します。

↓

```
IPMATE1500RD
********
```

↓

自己診断中です。
POWERランプが橙で点灯します。

↓

```
IPMATE1500RD
V01.00
```

内部ファームウェアがスタートし、バージョンが表示されます。
POWERランプが緑で点灯します。
※VXX.XXは内蔵ファームウェアのバージョンを表します。

（次ページへ続きます）

接続します

（前ページの続きです）

④ 次の表示が出たら通信が可能になります。

〈ISDNの場合〉

```
 4月25日10:25:40
ISDN READY
```

〈専用線の場合〉

```
 4月25日10:25:40
Layer1 Up
```

または

```
 4月25日10:25:40
LINE READY
```

LANランプが緑、POWERランプが緑で点灯します。

ワンポイント

- 液晶ディスプレイが正常表示にならないときには、いったん電源スイッチを「OFF」にし、U点の極性切替スイッチを反対側に切り替えたあと、もう一度電源スイッチを「ON」にします。
  極性切替スイッチは、「NOR」が通常状態、「REV」が反転した状態です。
- 専用線ご利用時に、「Layer1 Up」が表示され、液晶ディスプレイの3行目に「ISDN回線」が表示されているときは、WWWブラウザの設定画面を使って、回線の種類を「専用線」にしてください。

お知らせ

本商品をルータとして利用する場合、10BASE-Tポートに接続されたパソコンからの要求により自動的に回線接続を行います。このためご利用になる環境、アプリケーションなどの条件、本商品の設定の誤りなどにより、お客さまの意図しない発信が行われる場合がありますのでご注意ください。

日付・時刻を設定します

接続が完了し、正常に動作していることが確認できたら、アナログポートに接続したプッシュ式アナログ電話機から日付・時刻の設定を行います。
ご利用になっている回線がISDNの場合には「TEL1ポート」または「TEL2ポート」、専用線の場合には「TEL1ポート」に接続した電話機でも設定できます。
電話機からは、日付・時刻の設定以外にも本商品への設定操作をすることができます。「3 設定方法　電話機での設定手順」を参照してください。

1 電話機のハンドセットを取りあげます。

2 ⊛⊛⊛とダイヤルボタンで押します。

①②③
④⑤⑥
⑦⑧⑨
⊛⓪(#)

3 ⓪を押します。

4 ⊛ボタンを押します。

「ピッ」という確認音が聞こえます。

5 ⑨⑤を押します

6 ⊛ボタンを押します。

「ピッ」という確認音が聞こえます。

7 年、月、日、時、分の順にダイヤルボタンを押します。それぞれの間に⊛を押します。

「年」は西暦下2桁を入力します。月、日、時、分が1桁の場合は、0も入力します。
「時」は24時間制です。

例）2001年　6月1日　午後3時30分

⓪①⊛⓪⑥⊛⓪①⊛①⑤⊛③⓪

↑	↑	↑	↑	↑
年	月	日	時	分

（次ページへ続きます）

ワンポイント

日付・時刻はWWWブラウザの設定画面（[装置／日付・時刻] 画面）からも設定できます。

日付・時刻を設定します

（前ページの続きです）

8 ㊖ ボタンを押します。

設定が完了すると、「ピッピッピッ」という確認音が聞こえます。

9 ハンドセットを置きます。

液晶ディスプレイの表示が「書き込み中」から「書き込み終了」になります。

アナログ通信機器の利用形態

アナログポートに電話機またはファクスを接続している場合には、本商品のいろいろな機能、サービスをご利用いただけます。
ご利用になる機能やサービスによっては、設定が必要であるもの、当社との契約が必要なもの、特定の機能を持つアナログ通信機器を接続する必要があるものがあります。次の一覧で確認してください。。
利用できる機能やサービスの詳細は「5　アナログ通信機器の利用」（☞P152）を参照してください。

機能／サービス名：本商品にてご利用になれる機能やサービスです。
契約：「○」が記入されているものは当社との契約が必要です。
設定：「○」が記入されているものは、この機能（またはサービス）について設定が、お買い求め時には「使用不可」になっているものです。この機能をご利用になる場合には電話機またはWWWブラウザからの設定機能によって設定内容を変える必要があります。「－」が記入されているものは、そのままお使いになれる機能やサービスです。

機種／サービス名	契約	設定	備　考
電話をかける（発信）	－	－	
電話を受ける（着信）	－	－	
疑似キャッチホン	－	○	
疑似三者通話：切替モード	－	○	「三者通話を使用する」設定にしてください。
内線通話	－	－	
内線転送	－	－	
疑似なりわけ	－	○	「発信者番号識別」で相手の電話番号、着信を「許可する」、呼出音を「呼出音1」または「呼出音2」に設定してください。
ｉ・ナンバー	○	○	
ダイヤルイン	○	－	「ｉ・ナンバー」を使用する場合は利用できません。
グローバル着信	○	－	「ｉ・ナンバー」を使用する場合は利用できません。
サブアドレス	－	○	電話番号の登録とともに、入力設定します。
発信者番号通知	○	－	お買い求め時は「回線契約に従う」設定になっています。発信者番号を通知する契約になっていれば、この機能はご利用になれます。
各ポートを呼び分ける	○	○	ｉ・ナンバーまたはダイヤルインの契約が必要です。
電話やファクスを優先させる	○	○	通信中着信通知の契約が必要です。
INSナンバー・ディスプレイ	○	○	ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を接続します。また本商品の液晶ディスプレイにも同様の情報を表示します。
キャッチホン・ディスプレイ	○	○	キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器を接続します。
INSボイスワープ	○	－	
INSボイスワープセレクト	○	－	
INSマジックボックス	○	○	「キャッチホン」の設定を「INSキャッチホン」にします。
INSなりわけサービス	○	○	
受話音量調整	－	－	
優先着信	－	○	「TEL1ポート優先着信」「TEL2ポート優先着信」に設定内容を変更する必要があります。

（次ページへ続きます）

アナログ通信機器の利用形態

（前ページの続きです）

機種／サービス名	契約	設定	備　考
着信拒否（発信専用）	ー	○	すべての電話番号について「アナログ着信」を「着信しない」に設定する必要があります。
発信者番号認証	ー	○	お買い求め時は何も登録されていません。対象となる番号を登録する必要があります。
発信規制	ー	○	「外線発信を許可しない」設定にする必要があります。
通信クラスの設定	ー	ー	
HLCの設定	ー	ー	
フッキング検出時間の設定	ー	ー	
INSメッセージ到着お知らせサービス	○	○	Lモード対応通信機器を接続します。サービスに対応していない機器を接続の場合でも、本商品の液晶ディスプレイにて同様のメッセージを確認することができます。
モデムダイヤルイン機能	○	○	モデムダイヤルイン対応電話機を接続します。
転送元電話番号通知	○	ー	
リバースパルスの送出	ー	○	
フレックスホンサービス（INSキャッチホン）	○	○	
フレックスホンサービス（三者通話:切替モード）	○	○	
フレックスホンサービス（三者通話:ミキシングモード）	○	○	
フレックスホンサービス（通信中転送）	○	○	
フレックスホンサービス（着信転送）	○	○	

パソコン接続時の利用形態を決める

本商品にパソコンを接続してお使いになる場合には、パソコンへのセットアップおよび本商品への設定が必要です。本商品への設定は、ご利用になる接続の形態によって異なります。
まず、設定操作の流れを理解していただき、接続形態の選択流れ図を使って接続の形態を確認してください。

設定操作の流れ

本商品への設定操作については、「3　設定方法　WWWブラウザでの設定手順」でもご覧いただけます。

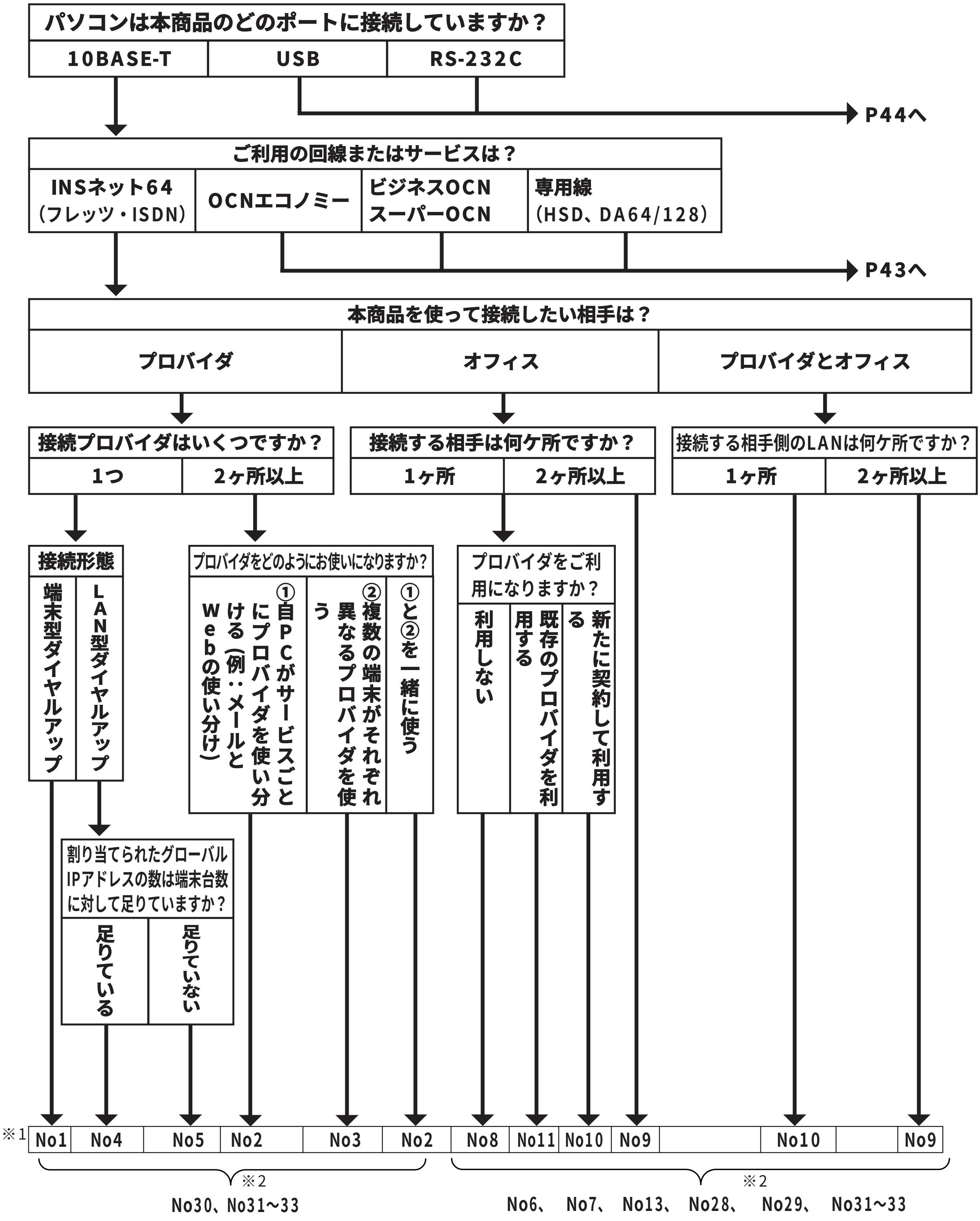
手順	説明
本商品に機器を接続し、電源を入れます（☞P29）	・「1　お使いになる前に」をご覧ください。
↓ パソコン側のセットアップを行います	・本商品へパソコンを接続したポートおよびパソコンのOSによって操作が異なります。別冊「本商品へ接続する前の準備＜パソコンでの操作＞」をご覧ください。
↓ 本商品にログインします(☞P46)	・WWWブラウザを使って、本商品にログインします（本商品のログイン画面がパソコンの画面に表示されます）。
↓ 利用形態を選択します(☞P42)	・「2　利用形態　パソコン接続時の利用形態を決める」の選択流れ図を使って、基本的な接続形態を選択します。
↓ 本商品への設定を行います（☞P53）	・「4　パソコンをつなげて利用する　利用形態ごとの設定方法」に接続形態ごとの設定項目と設定手順を紹介しています。 ・設定画面の説明はCD-ROM内の『オンラインマニュアル』をご覧ください。
↓ 必要に応じてパソコン側の再セットアップを行います	・別冊「本商品へ接続する前の準備＜パソコンでの操作＞」をご覧ください。
↓ ここまでで、基本的なご利用はできるようになります	・プロバイダにアクセスするなど、お試しください。

さらに詳細な設定をする場合には、CD-ROM内の『オンラインマニュアル』をご覧ください。
応用的な使い方として、「4　パソコンをつなげて利用する　利用形態ごとの設定方法」にて次の形態をご紹介しています。

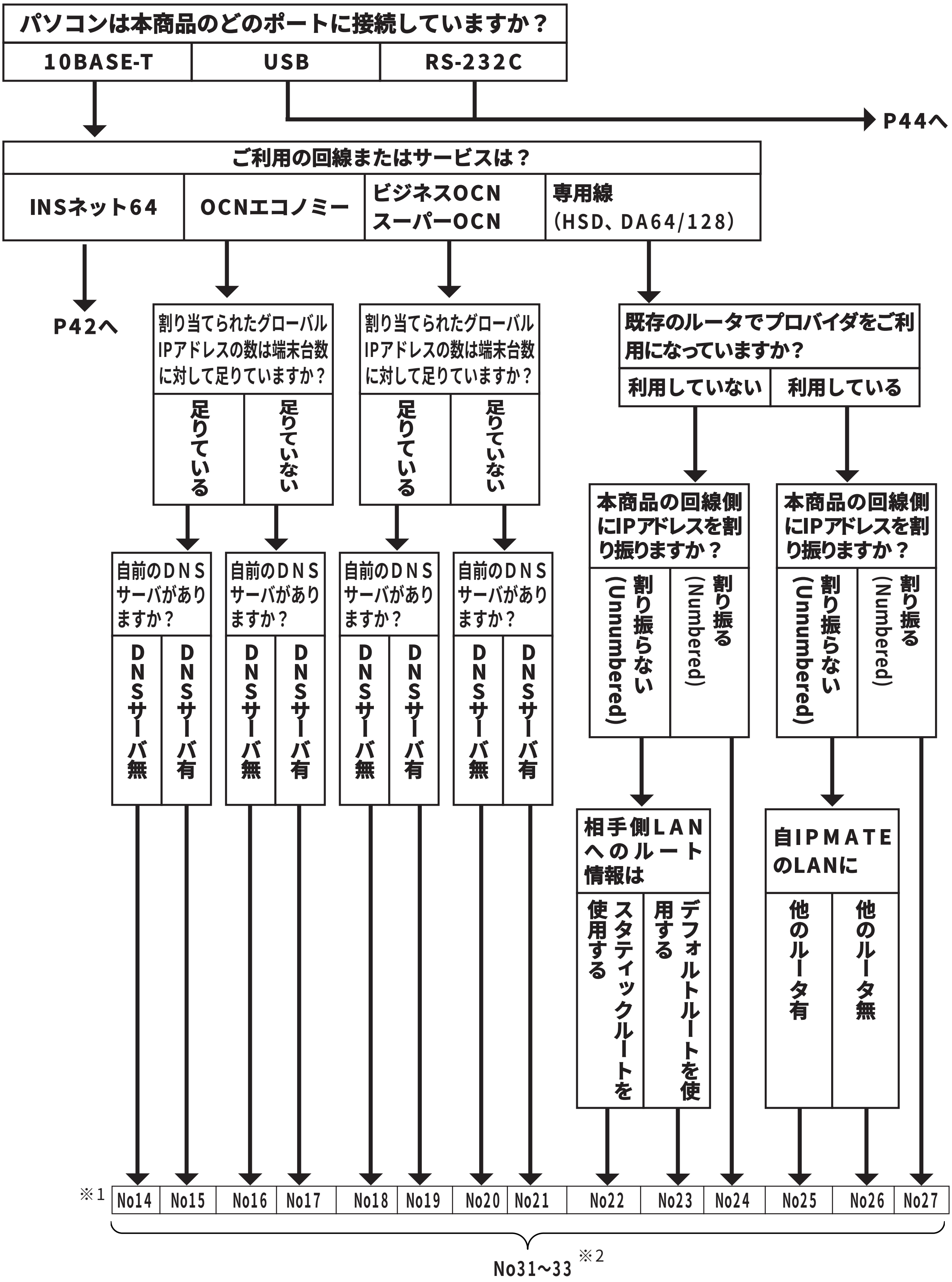
- IPパケット・フィルタリング
- 特定ポート宛てデータの送受信（NATバインディングリストを使う）
- 簡易LAN接続（10BASE-Tポートに接続したLANの端末と同様に、シリアルポートに接続したパソコンからLANへのアクセスやインターネットへのアクセスをする）
- コールバックを行う
- フレッツ・ISDNを利用する
- INSテレホーダイを利用する

利用形態ごとに使える機能が異なります。参考となる例を「2　利用形態　パソコン接続時の利用形態を決める」の流れ図の中であわせて紹介しています。

利用形態を決める

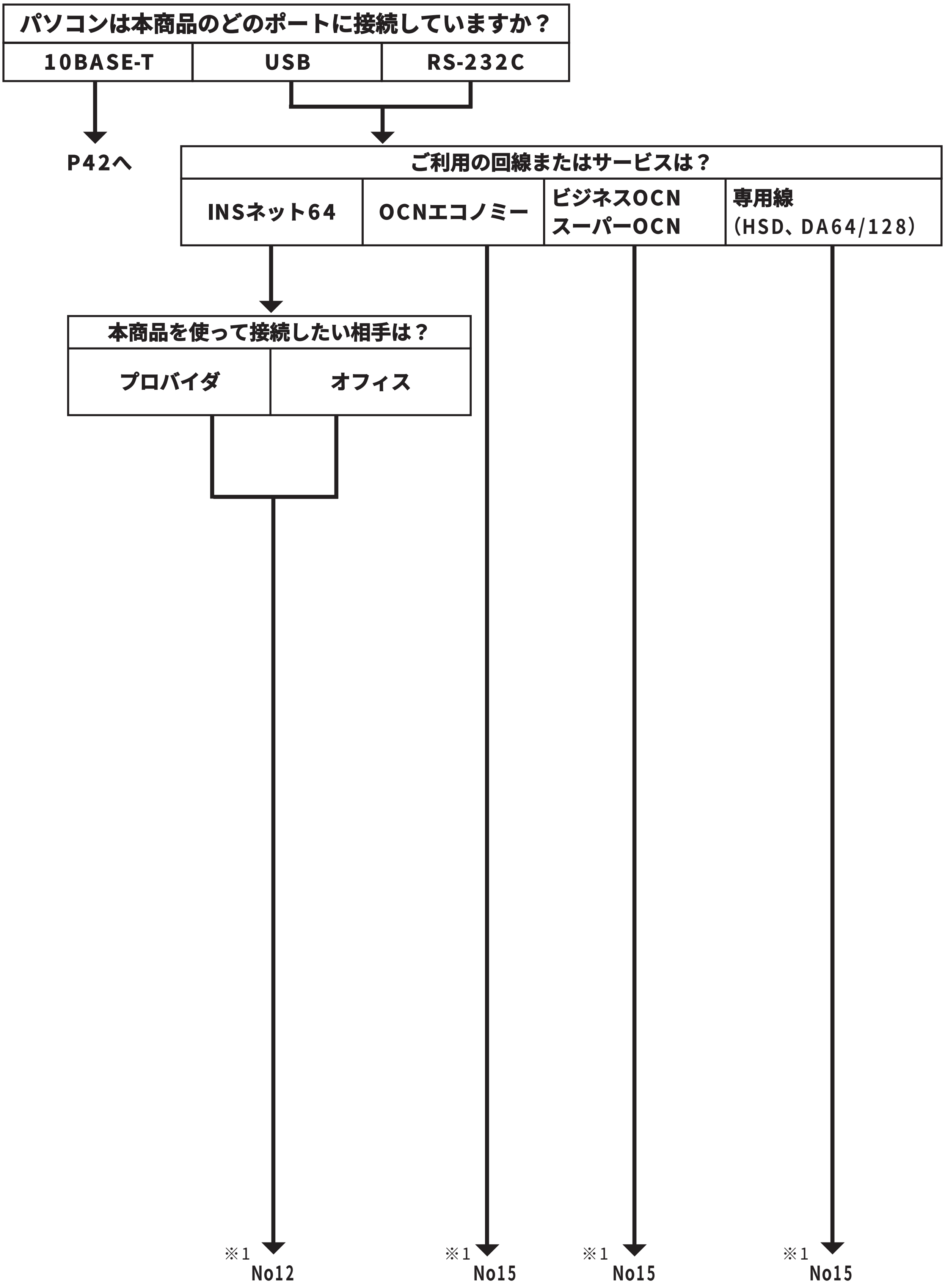


※1 利用形態の番号です。 ※2 利用形態（応用例）の番号です。



※1 利用形態の番号です。　※2 利用形態（応用例）の番号です。

利用形態を決める



※1 利用形態の番号です。

さまざまな設定方法

本商品は、お買い求め時の設定のままでも、アナログ通信機器を接続してご利用になることができます。しかし、本商品のいろいろな機能を利用したり、パソコンを接続してデータ通信を行う場合は、利用する機能に合わせて本商品の設定を行う必要があります。設定方法は次のようにいくつかあります。お使いの環境に合った方法を選択してください。

■ WWWブラウザによる方法（☞P46）

本商品に接続したパソコンから、WWWブラウザを使って本商品の設定ページにアクセスし、そこで各種の値を入力する方法です。アナログポートに関する設定を含め、本商品のすべての機能を設定することができます。

■ ATコマンドを利用する方法

ATコマンドを使うと、本商品を制御することができます。本商品のRS-232CポートまたはUSBポートに接続したパソコンからターミナルモードで動作する通信ソフトウェアを使って、ATコマンドを入力する方法です。（☞CD-ROM『オンラインマニュアル』）

■ TELNETコマンドを利用する方法（☞P235）

本商品の10BASE-Tポートに接続したパソコンから、TELNETを使って、コマンドを入力する方法です。一部の機能を設定することができます。

■ 電話機を利用する方法（☞P52）

本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB信号）のアナログ電話機のダイヤルボタンを使って設定する方法です。アナログポートに関する（アナログ通信機器利用のための）設定を行うことができます。本商品にパソコンを接続しない場合は、この方法を使います。

■ イージーバージョンアップ（☞P256）

本商品に接続したパソコンから、バージョンアップや設定値のバックアップなどを、ユーティリティを使って簡単に行う方法です。

お知らせ

- 付属のCD-ROMには以下の内容が収録されています。詳しくは『CD-ROM説明書』を参照してください。
  1. オンラインマニュアル
  2. PDFファイル
  3. イージーバージョンアップ
  4. モデム定義ファイル
  5. Acrobat Reader
- 各設定方法は、同時に使うことはできません。
- 複数の接続機器から同時に設定を行うことはできません。

WWWブラウザでの設定手順

本商品の10BASE-Tポート、RS-232Cポート、USBポートに接続したパソコンからは、WWWブラウザを使って本商品の設定を行うことができます。
「2　利用形態　パソコン接続時の利用形態を決める」で利用形態を選択されている方は、「4　パソコンをつなげて利用する」(☞P53) を参考にしながら、設定操作を進めてください。
ここでは、WWWブラウザでの基本的な操作方法について、説明します。

設定手順

1 本商品にパソコンを接続し、パソコンの設定を行います。

接続するポートによって、パソコンの設定が異なります。
詳細は別冊の「本商品へ接続する前の準備〈パソコンでの操作〉」を参照して、お使いのパソコンに合った設定を行ってください。

2 WWWブラウザの設定が次の設定になっているか確認してください。

・Internet Explorerの場合
[ツール]→[インターネットオプション]→[全般]→[インターネット一時ファイル]→設定
＜保存しているページの新しいバージョンの確認＞
「ページを表示するごとに確認する」を選択
・Netscape Navigatorの場合
[編集]→[設定]→[詳細]→[キャッシュ]→
＜キャッシュしたドキュメントとネットワーク上のドキュメントとの比較＞
「毎回」を選択

3 WWWブラウザを起動して、URL欄に「IPMATE」または「http://192.168.1.1/」を入力します。

IPMATE1500RDのパスワード設定画面が表示されます。

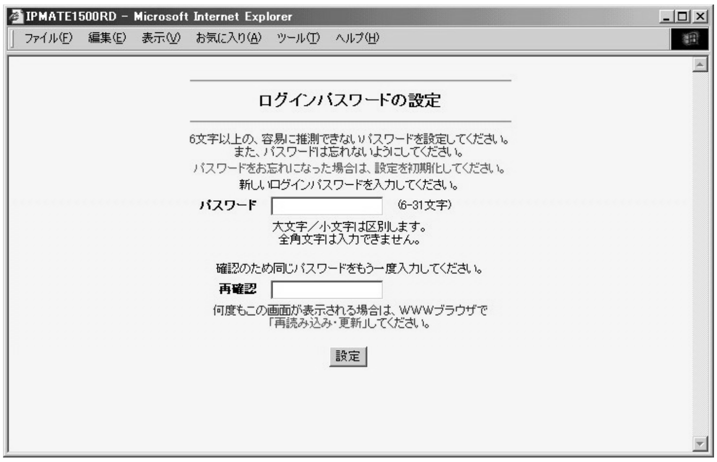
ワンポイント

●Internet Explorerはバージョン5.01をお勧めします。
●Netscape Navigatorはバージョン4.7をお勧めします。
●手順3で入る「IPMATE」は本商品に設定された装置名です。

STOP お願い

●本商品の設定を行う場合、WWWブラウザは、プロキシサーバを使用しない設定としてください。
例：Internet Explorer 5.0の場合
①［ツール］ー［インターネットオプション］を選択する
②［接続］タブを表示する
③［LANの設定］ボタンをクリックする
④［プロキシサーバーを使用する］のチェックを外す
●パスワードには「ipmate」「123456」などの簡単なパスワードは使用しないでください。
●本商品のIPアドレスを変更した場合、手順3のURLは変更したIPアドレスを入力してください。

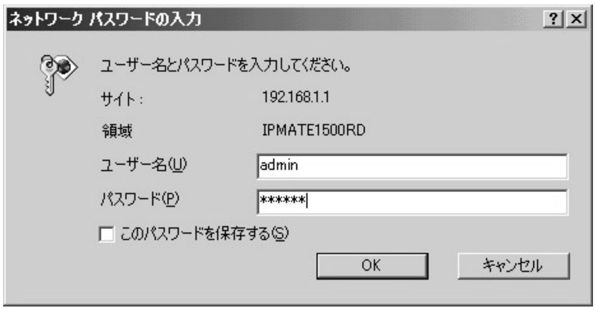
4 パスワードを設定します。確認のため、再確認の欄にもう一度同じパスワードを入力します。



5 ［設定］をクリックします。

IPMATE1500RDのログイン画面が表示されます。

6 ユーザ名の欄に「admin」、パスワードの欄に設定したパスワードを入力し、［ＯＫ］をクリックします。



お知らせ

- 手順4から5は、お買い求め時の設定のときのみ必要な手順です。
- ユーザ名は「admin」固定です。変更はできません。
- パスワードは忘れないようにしてください。パスワードを忘れた場合には、本商品の設定をお買い求め時の設定に戻し、設定し直してください。（☞P255）
- 手順6でパスワード入力画面になったときは、手順5で入力したパスワードを再度入力してください。

（次ページへ続きます）

WWWブラウザでの設定手順

（前ページの続きです）

7 設定画面が表示されます。各メニューから画面を選択して設定を行います。

・お買い求め時の設定メニューは「Quick 設定」、「装置／回線の種類」、「装置／日付・時刻」だけが選択できます。お使いの回線に合わせて、「Quick 設定」メニューから設定画面を選択するか、または「装置／回線の種類」画面にて回線の種類を設定してください。回線種類に応じてメニューが再表示されます。

・「2　利用形態」で利用形態を選択されている方は「4　パソコンをつなげて利用する」の記載内容にしたがって、各画面で設定操作をしてください。

・各画面でどのような設定が行えるかはCD-ROM内のオンラインマニュアルを参照してください。

8 設定画面の操作方法を説明します。

メニュー（画面左側）で使用するボタンについて説明します。

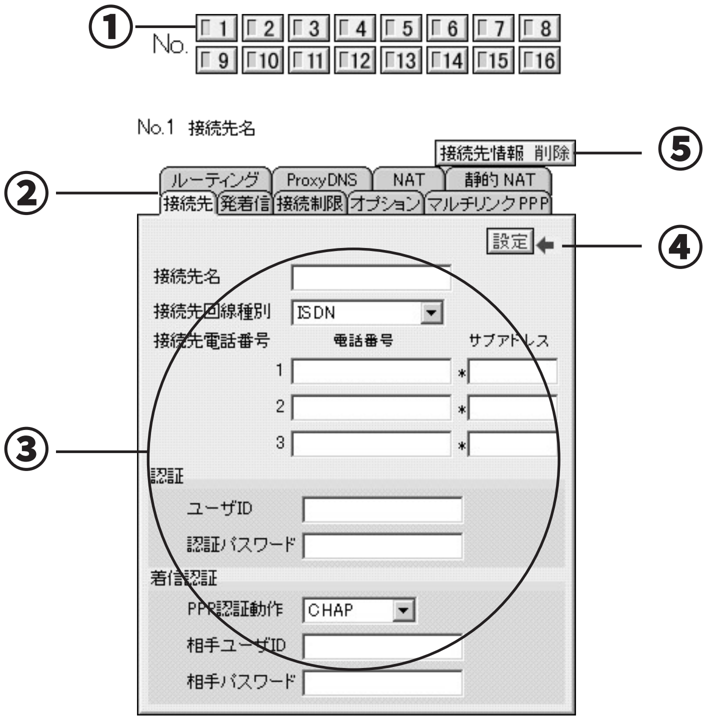
[全部開く]	メニューをすべて開いた状態にします。
[全部閉じる]	メニューをすべて閉じた状態にします。
[SAVE]	[SAVE] ボタンです。保存・再起動を行うためのSAVE画面を表示します。
[TOP]	TOPページに戻ります

お知らせ

- 日時は、2050年12月31日23：59まで設定可能です。
  この日時は、回線接続保持時間（INSテレホーダイ対応）などに利用されますので、正しい値を設定してください。誤った値の場合、正常に動作しないことがありますので、ご注意ください。
  次の方法で設定できます。
  - WWWブラウザの［装置／日付・時刻］画面で設定する
  - 電話機での設定で変更する（☞P52）
- 本商品をルータとして利用する場合、10BASE-Tポートに接続されたパソコンからの要求により自動的に回線接続を行います。このためご利用になる環境、アプリケーションなどの条件、本商品の設定の誤りなどにより、お客さまの意図しない発信が行われる場合がありますのでご注意ください。
  なお、自動的に発信しないためには、[ルータ機能／回線接続先情報]（発着信）自動発信を許可するのチェックをはずしてください。

設定値入力画面について、操作方法を説明します。
設定画面には、2パターンあります。

〈パターン1〉



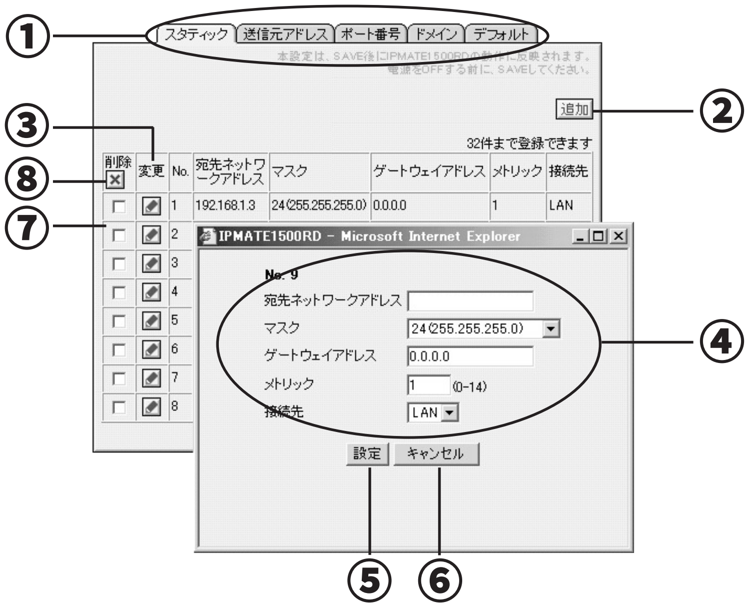
① メニュー画面で、［回線接続先情報］を選択した場合にのみ表示される接続先名の選択ボタンです。設定したい接続先Noをクリックします。
② 設定画面の選択タブです。メニュー画面で選択した情報の関連情報が分類されています。各タブをクリックすると、分類された設定情報の入力欄が表示されます。
③ 設定値の入力欄です。設定したい値を、選択／入力／チェックボックスなどで登録します。
④［設定］ボタンです。表示されている入力値を動作に反映します。IPMATE1500RDは、このボタンをクリックすると動作に反映される項目と、メニュー欄の［SAVE］ボタンをクリックし、再起動を行ってから動作に反映される項目とがあります。
⑤ 接続先情報の削除ボタンです。メニュー画面で、［回線接続先情報］を選択した場合にのみ表示されます。①で選択したNoの設定情報および関連する設定内容をすべて削除します。

（次ページへ続きます）

WWWブラウザでの設定手順

（前ページの続きです）

〈パターン2〉



① 設定画面の選択タブです。メニュー画面で選択した情報の関連情報が分類されています。各タブをクリックすると、分類された設定情報の表が表示されます。
② ［追加］ボタンです。空いているエントリの中で一番若い番号のエントリへ、新しく設定を追加します。
設定を行う入力画面が表示されます。
③ ［変更］ボタンです。該当Noの設定内容が画面に表示され、設定内容の修正ができます。
④ 設定情報の入力欄です。設定したい値を、選択／入力／チェックボックスなどで登録します。
⑤ ［設定］ボタンです。設定した内容が画面に更新されます。
IPMATE1500RDは、このボタンをクリックすると動作に反映される項目と、メニュー欄の［SAVE］ボタンを押して再起動を行ってから動作に反映される項目とがあります。
⑥ ［キャンセル］ボタンです。入力していた内容を無効にし、入力画面を閉じます。
⑦ 削除したい情報を指定するチェックボックスです。
⑧ ［削除］ボタンです。②でチェックした情報を一括削除します。

9 設定が終わったら、保存・再起動します。

［SAVE］ボタンをクリックします。保存・再起動画面が表示されるので、［保存・再起動］ボタンをクリックします。本商品が再起動します。

10 必要に応じて、パソコンの再設定を行います。詳細は、別冊の「本商品へ接続する前の準備〈パソコンでの操作〉」を参照してください。

以上の操作でお使いになれます。

・応用形態の設定を行う場合には、同様の操作をしてください。

・うまく動作しない場合には、「7　ご参考」の「Q&A」や「故障かな？と思ったら」をご覧ください。また、WWWブラウザの「状態表示／統計情報」画面、「接続ログ」画面、「イベントログ」画面にて本商品の装置情報の詳細を確認いただけます。

電話機での設定手順

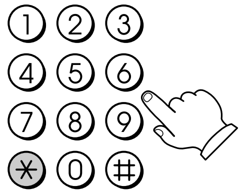
本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB信号）の電話機を使って、アナログポートの設定を行うことができます。ご利用の回線がINSネット64の場合にはTEL1、TEL2ポートいずれのポートに接続した電話機からでも行うことができます。

1 電話機のハンドセットを取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。INSネット64に本商品を接続していないときは、話中音が聞こえます。

2 ＊ ＊ ＊とダイヤルボタンで押します。

「ピッ」という設定開始音が聞こえます。



3 ポート番号を押します。（☞P224、P229）

4 ＊ ボタンを押します。

「ピッ」という確認音が聞こえます。

5 機能番号を押します。（☞P224、P229）

6 ＊ ボタンを押します。

「ピッ」という確認音が聞こえます。

7 設定値を押します。（☞P224、P229）

8 ＃ ボタンを押します。

設定が完了すると、「ピッピッピッ」という確認音が聞こえます。

9 ハンドセットを置きます。

液晶ディスプレイの表示が、「書き込み中」から「書き込み終了」になります。

ワンポイント

●INSネット64に接続していない場合
INSネット64へ接続していないときでも、設定を行うことができます。

●専用機に接続している場合
TEL1ポートに接続したプッシュ式のアナログ電話器から設定を行うことができます。

●設定途中にハンドセットを置いたときは
設定を中断し、待機中に戻ります。もう一度設定するときは、手順1からやり直してください。もし、手順6まで行っていれば、それまでの内容は設定されます。

お知らせ

●液晶ディスプレイに「書き込み中」と表示されている間は、電話をかけたり（発信）設定など、電話での操作を行わないでください。
●液晶ディスプレイに「書き込み中」と表示されている間は、着信が受けられない場合があります。

お願い

電話機からの設定では、データ通信に関する設定はできません。

利用形態ごとの設定方法

本商品の利用形態と設定内容（例）について紹介します。
本商品の利用形態には次のものがあります。
WWWブラウザの設定手順については「WWWブラウザでの設定手順」（☞P46）を参照してください。

〈利用形態〉

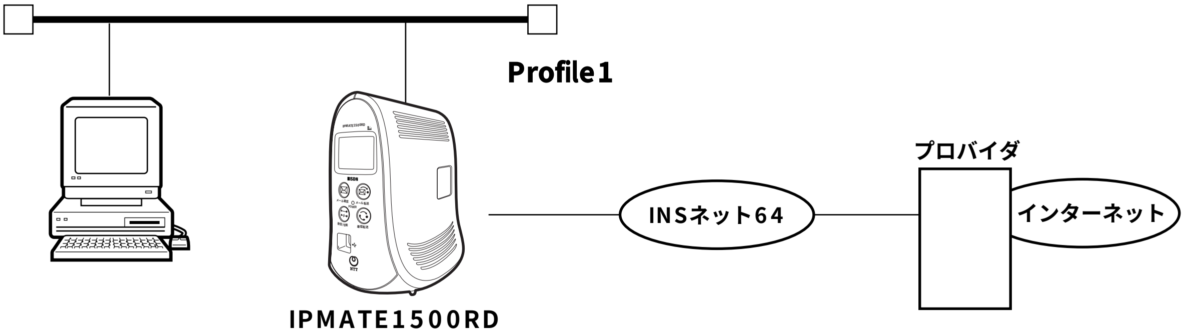
1. INSネット64を使用して、インターネット接続（端末型ダイヤルアップ）する
2. 利用サービスごとに、接続するインターネットプロバイダを変更する
3. 端末ごとに、接続するインターネットプロバイダを変更する
4. INSネット64を使用して、インターネット接続（LAN型ダイヤルアップ）する（NAT未使用）
5. INSネット64を使用して、インターネット接続（LAN型ダイヤルアップ）する（NAT使用）
6. フレッツ・ISDN（IP接続サービス）を利用する
7. INSテレホーダイを利用する
8. INSネット64を使用して、2か所のLANを接続する
9. INSネット64を使用して、3か所以上のLANを接続する
10. INSネット64を使用して2か所のLANを接続し、新規インターネットプロバイダを共有する
11. INSネット64を使用して2か所のLANを接続し、既存インターネットプロバイダを共有する
12. シリアルポートから、INSネット64を使用してインターネットへダイヤルアップ接続する
13. シリアルポートから、10BASE-Tポートにつながるとつながる LANへ接続する（簡易LAN接続）
14. OCNエコノミーを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ無）
15. OCNエコノミーを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ有）
16. OCNエコノミーを使用して、インターネット接続する（NAT使用＋自前のDNSサーバ無）
17. OCNエコノミーを使用して、インターネット接続する（NAT使用＋自前のDNSサーバ有）
18. スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ無）
19. スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ有）

利用形態ごとの設定方法

20. スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ無）
21. スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネット接続する（NAT使用＋自前のDNSサーバ有）
22. 専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続する（スタティックルート使用）
23. 専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続する（デフォルトルート使用）
24. 専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続する（回線側IPアドレス使用）
25. 専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続し、既存インターネットプロバイダを共有する（回線側にIPアドレスを割り振らない＋自IPMATEのLANに既存ルータ有）
26. 専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続し、既存インターネットプロバイダを共有する（回線側にIPアドレスを割り振らない＋自IPMATEのLANに他のルータ無）
27. 専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続し、既存インターネットプロバイダを共有する（回線側にIPアドレスを割り振る）
28. コールバックを行う
29. 遠隔地の端末からLANを利用する
30. 特定ポート番号宛のデータを受信する
31. IPパケット・フィルタリングを使用する
32. 特定データのみ透過する
33. LAN間接続時に、IPパケット・フィルタリングを行う

1. INSネット64を使用して、インターネット接続（端末型ダイヤルアップ）する

INSネット64を使用して、インターネットに端末型ダイヤルアップ接続します。
本商品の10BASE-Tポートへパソコンを接続して使用します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のIPアドレスは、新規LANを構築する場合は初期設定のままお使いください。
  既存のLANに接続する場合は、既存LANのネットワークに合わせて変更してください。
- インターネットプロバイダから通知された、電話番号、ユーザID、認証パスワード、DNSサーバアドレスを設定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用します（アドレスの自動取得に対応する機能を持っていない場合）。

■ 設定例

インターネットプロバイダへの接続先の設定を行います。

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
　WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面を選択します。

利用形態ごとの設定方法

③　接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid	
パスワード	pass1	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	自動取得をサポートしているインターネットプロバイダでは、「DNSサーバアドレスを自動取得する」をチェックします。
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

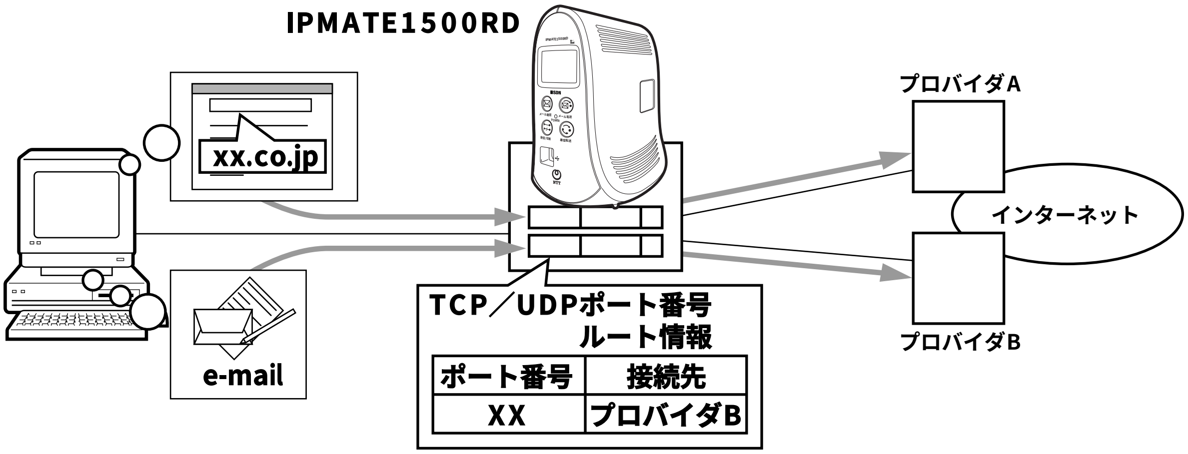
［設定］ボタンを押します。

＊「LAN側の設定」「常時接続」「タイマ接続」「接続先の選択条件」の設定は不要です。
初期状態のままでお使いください。

④　「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で[設定]ボタンを押します。
⑤　［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

2. 利用サービスごとに、接続するインターネットプロバイダを変更する

利用するサービス(例えばftpや電子メール)ごとに、接続するインターネットプロバイダを切り替えることができます。
本商品は、指定したサービスを受信すると、自動的にインターネットプロバイダを選択し、接続します。このような動作をするためには、「使用するアプリケーションで接続先を選択（TCP/UDPポート番号ルート情報）」にてアプリケーションと接続先の対応を登録し、特定サービスの接続先を指定します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 利用するインターネットプロバイダそれぞれから通知された、電話番号、ユーザID、認証パスワード、DNSサーバアドレスを、それぞれ接続先No1、接続先No2に設定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。
- 利用するサービスによって接続先を変更するよう、TCP／UDPポート番号ルート情報を設定します。特定のサービスで接続先を固定する場合、対象としたいサービスの「プロトコル」と「ポート番号」を調べ、そのポート番号と接続先のNoを設定します。
  ポート番号については付属のCD-ROM内の『オンラインマニュアル』または、「TCP／UDPポート一覧」をご覧ください。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用します。
- E-mail以外のサービスを利用します。

□インターネットプロバイダBに接続

- DNSサーバアドレスは自動取得とします。
- 電子メールサービスのみを利用します。
- インターネットプロバイダ指定のE-mailサーバ（メールサーバ = xx.ocn.ne.jp）を使用します。

■ 設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

インターネットプロバイダAへの接続先の設定を行います。
「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（端末型)」画面を選択します。

利用形態ごとの設定方法

② 接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid	
パスワード	pass1	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	自動取得をサポートしているインターネットプロバイダでは、「DNSサーバアドレスを自動取得する」をチェックします。
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

インターネットプロバイダBへの接続先の設定を行います。「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で続けて設定を行います。

③ 接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No2	
接続先名	ISP2	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-3456-9999	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid2	
パスワード	pass2	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
DNSサーバアドレスを自動取得する	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

引き続き、「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で設定を行います。
「使用するアプリケーションで接続先の選択」と、電子メールサービスの接続先（ドメイン名によるDNS問い合わせ先の選択）の設定を行います。

④「接続先の選択条件」の「使用するアプリケーションで接続先を選択」にて、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
メール送信（SMTP）	チェックする	ポート番号は25
接続先	2：ISP2	
メール受信（POP3）	チェックする	ポート番号は110
接続先	2：ISP2	
WWW（HTTP）	チェックする	ポート番号は80
接続先	1：ISP	
WWW（HTTPS）	チェックする	ポート番号は443
接続先	1：ISP	
ニュース（NNTP）	チェックする	ポート番号は119
接続先	1：ISP	

⑤「DNS問い合わせ先の選択」の「ドメイン名によるDNS問い合わせ先の選択」にて、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
ドメイン名	xx.ocn.ne.jp	
DNS問い合わせ先	2：ISP2	

デフォルトDNSが接続先A（接続先名：ISP）になっていることを確認してください。

＊「LAN側の設定」「常時接続」「タイマ接続」の設定は不要です。
初期状態のままでお使いください。

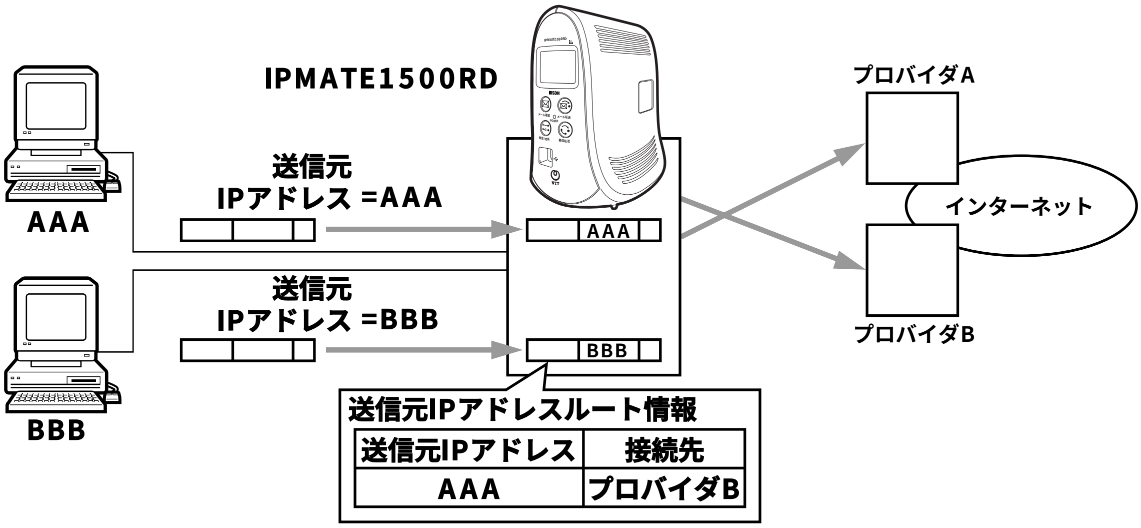
⑥「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で[設定]ボタンを押します。

⑦［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

利用形態ごとの設定方法

3. 端末ごとに、接続するインターネットプロバイダを変更する

利用する端末ごとに、接続するインターネットプロバイダを切り替えることができます。
本商品は、指定した端末からデータを受信すると、自動的にインターネットプロバイダを選択し、接続します。
このような動作をするためには、「送信元IPアドレスで接続先を選択」にて送信元IPアドレスを登録し（送信元アドレスルート情報）、利用する端末ごとに接続先を指定します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- インターネットプロバイダから通知された、電話番号、ユーザID、認証パスワード、DNSサーバアドレスを、それぞれ接続先No1、接続先No2に設定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。
- 端末によって接続先を変更するよう、設定します。特定の端末からの送信で接続先を固定する場合、対象としたい装置のIPアドレスと、接続先のNoを設定します。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用します。

□インターネットプロバイダBに接続
- DNSサーバアドレスは自動取得とします。
- 端末A（192.168.1.100）のみ、インターネットプロバイダBを利用します。

■ 設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

インターネットプロバイダAへの接続先の設定を行います。
「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面を選択します。

② 接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid	
パスワード	pass1	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
(アドレス入力欄の) DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	自動取得をサポートしているインターネットプロバイダでは、「DNSサーバアドレスを自動取得する」をチェックします。
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

インターネットプロバイダBへの接続先の設定を行います。「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で続けて設定を行います。

③ 接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No2	
接続先名	ISP2	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-3456-9999	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid2	
パスワード	pass2	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
DNSサーバアドレスを自動取得する	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

引き続き、「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で設定を行います。
端末Aの接続先の設定を行います。

利用形態ごとの設定方法

④ 「接続先の選択条件」の「送信元IPアドレスで接続先を選択」にて、次の項目を設定します。

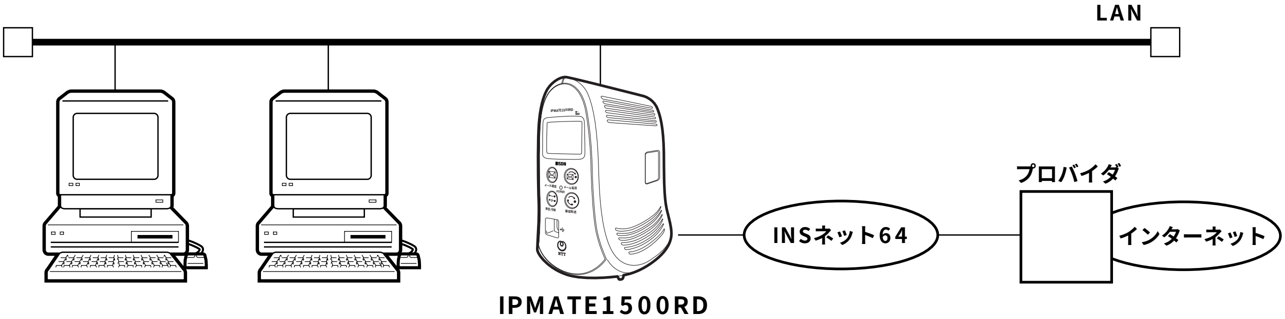
項　目	設定例	備　考
送信元IPアドレス	192.168.1.100	
接続先	2：ISP2	

＊「送信元IPアドレス」には端末AのIPアドレスを設定します。端末AのIPアドレスは、端末AのMS-DOS画面で「winipcfg」コマンドを実行して調べてください。
＊「LAN側の設定」「常時接続」「タイマ接続」の設定は不要です。
初期状態のままでお使いください。

⑤ 「ISDN／プロバイダ接続（端末型)」画面で[設定]ボタンを押します。
⑥ ［保存・再起動］ボタンを押します。 再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN　READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

4. INSネット64を使用して、インターネット接続（LAN型ダイヤルアップ）する（NAT未使用）

LANを構築し、INSネット64を使用して、インターネットにLAN型ダイヤルアップ接続します。ただし、インターネットプロバイダから割り当てられたグローバルアドレスの数より、端末の台数が少ない場合について説明します。
この場合、NATを使用せず、グローバルアドレスを各装置に割り当てます。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- インターネットプロバイダから通知された、電話番号、ユーザID、認証パスワード、DNSサーバアドレスを設定します。
- インターネットプロバイダから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てます。それをもとに、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を「使用しない」に設定します。

■動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

- インターネットプロバイダ指定のグローバルアドレス（10.1.1.0／29）8個
  ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
- 本商品のIPアドレス　：10.1.1.1
- DHCP機能で割り当てるアドレス　：10.1.1.2～10.1.1.6
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用

■設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

インターネットプロバイダAへの接続先の設定を行います。
「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（LAN型）」画面を選択します。

利用形態ごとの設定方法

② 接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid	
パスワード	pass1	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	自動取得をサポートしているインターネットプロバイダでは、「DNSサーバアドレスを自動取得する」をチェックします。
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
NAT機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

引き続き、「ISDN／プロバイダ接続（LAN型）」画面で、設定を行います。

③ LAN側の設定を行います。次の項目を設定します。

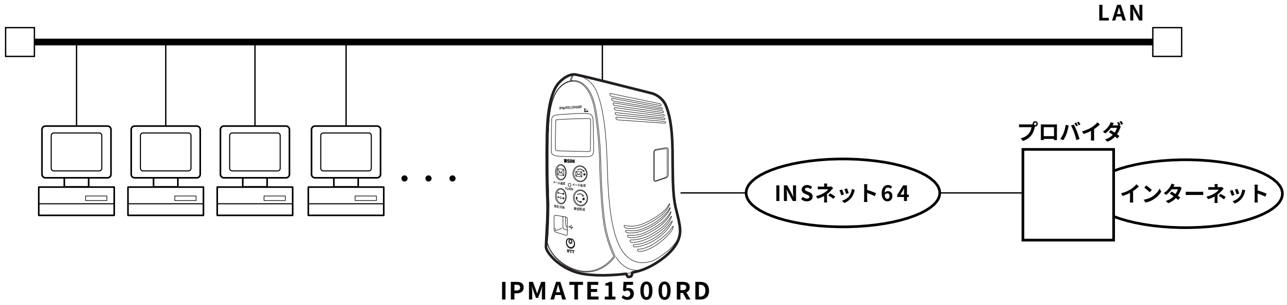
項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	10.1.1.1／29 (255.255.255.248)	インターネットプロバイダより指定されたグローバルアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	10.1.1.2〜10.1.1.6	

＊「タイマ接続」の設定は不要です。初期状態のままでお使いください。

④ 「ISDNプロバイダ接続（LAN型）」画面で[設定]ボタンを押します。
⑤ ［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

5. INSネット64を使用して、インターネット接続（LAN型ダイヤルアップ）する（NAT使用）

LANを構築し、INSネット64を使用して、インターネットにLAN型ダイヤルアップ接続します。ただし、インターネットプロバイダから割り当てられたグローバルアドレスの数より、端末の台数が多い場合について説明します。
この場合、NATを使用し、プライベートアドレスを各装置に割り当てます。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- インターネットプロバイダから通知された、電話番号、ユーザID、認証パスワード、DNSサーバアドレスを設定します。
- インターネットプロバイダから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てず、プライベートアドレスを割り当てます。同様に、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクにプライベートアドレスを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を「使用する」に設定し、グローバルアドレスを設定します。

■動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

- インターネットプロバイダ指定のグローバルアドレス（10.1.1.0／29）8個
  ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
  端末使用可能アドレス　：10.1.1.1～10.1.1.6（6個）
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用
- 割り当てるプライベートアドレス
  本商品のIPアドレス　：192.168.1.1
  DHCP機能で割り当てるアドレス：192.168.1.2～192.168.1.250

■設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

インターネットプロバイダAへの接続先の設定を行います。
「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（LAN型）」画面を選択します。

利用形態ごとの設定方法

② 接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid	
パスワード	pass1	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	自動取得をサポートしているインターネットプロバイダでは、「DNSサーバアドレスを自動取得する」をチェックします。
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
NAT機能を使用する	チェックする	
IPアドレス	10.1.1.1	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
アドレス個数	6	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

引き続き、「ISDN／プロバイダ接続（LAN型）」画面で、設定を行います。

③ LAN側の設定を行います。次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	

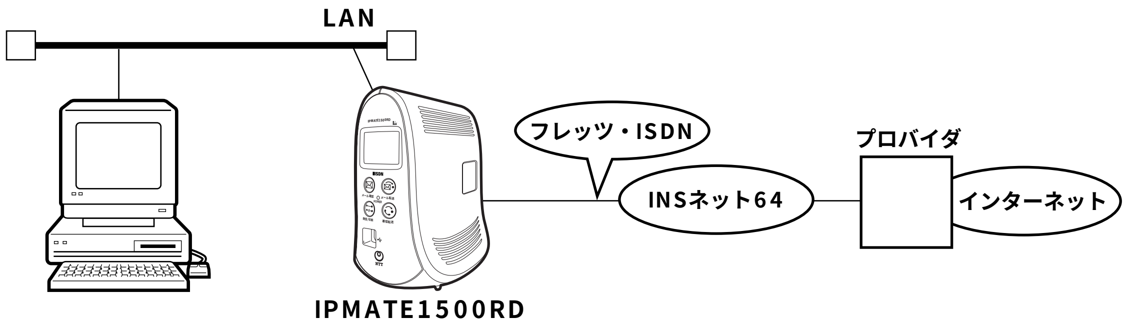
＊「タイマ接続」の設定は不要です。初期状態のままでお使いください。

④ 「ISDN／プロバイダ接続（LAN型）」画面で[設定]ボタンを押します。

⑤ ［保存・再起動］ボタンを押します。 再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

6. フレッツ・ISDN（IP接続サービス）を利用する

フレッツ・ISDN（IP接続サービス）を利用して、常時接続します。



利用形態1のように、INSネット64を使用して、インターネットプロバイダに端末型ダイヤルアップで接続する例で説明します。

■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- インターネットプロバイダから通知された電話番号、ユーザID、認証パスワード、DNSサーバアドレスを設定します。
- フレッツ・ISDN（IP接続サービス）を利用する接続先を決定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

- フレッツ・ISDN（IP接続サービス）を使用

■ 設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

② 「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（端末型)」画面を選択します。

利用形態ごとの設定方法

③　接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid	
パスワード	pass1	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	自動取得をサポートしているインターネットプロバイダでは、「DNSサーバアドレスを自動取得する」をチェックします。
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

引き続き、「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で設定を行います。

④　常時接続の設定を行います。
「常時接続（フレッツ・ISDN）」にて次の項目を設定します。

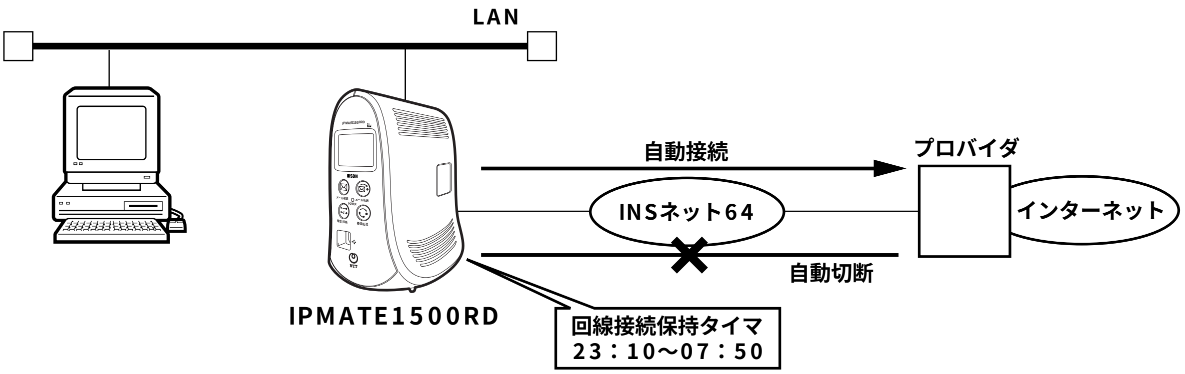
項　目	設定例	備　考
常時接続　接続先	1：ISP	

＊「LAN側の設定」「タイマ接続」「接続先の選択条件」の設定は不要です。 初期状態のままでお使いください。

⑤　「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で[設定]ボタンを押します。
⑥　［保存・再起動］ボタンを押します。 再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

7. INSテレホーダイを利用する

INSテレホーダイを利用して、タイマ接続（決まった時間にだけ自動的に接続）します。



利用形態1のように、INSネット64を使用して、インターネットプロバイダに端末型ダイヤルアップで接続する例で説明します。

■設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- インターネットプロバイダから通知された電話番号、ユーザID、認証パスワード、DNSサーバアドレスを設定します。
- INSテレホーダイにて接続する接続先を決定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。

■動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

- INSテレホーダイを23時00分～翌朝8:00まで使用する。

■設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
　WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。
② 「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面を選択します。

利用形態ごとの設定方法

③　接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid	
パスワード	pass1	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	自動取得をサポートしているインターネットプロバイダでは、「DNSサーバアドレスを自動取得する」をチェックします。
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

引き続き、「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で、設定を行います。

④　INSテレホーダイの設定（タイマ接続の設定）を行います。
「タイマ接続」にて次の項目を設定します。

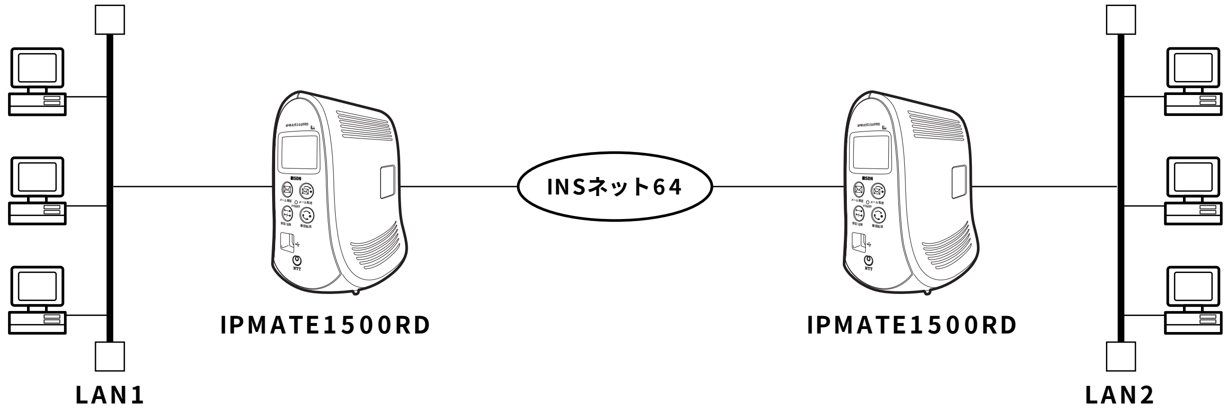
項　目	設定例	備　考
タイマ接続　接続先	1：ISP	
接続時刻	23：10～07：50	

＊「LAN側の設定」「常時接続」「接続先の選択条件」の設定は不要です。初期状態のままでお使いください。

⑤　「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で[設定]ボタンを押します。
⑥　［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

8．INSネット64を使用して、2か所のLANを接続する

2か所のLANを、INSネット64を使用して接続します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手側のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 相手側の電話番号を設定します。また、相手側と合わせて、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- デフォルトルートを「使用しない」に設定し、スタティックルート情報として、相手側のLANを指定します。
- 既存LANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。

■ 動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク：192.168.1.0／24

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク：192.168.2.0／24

□LAN1側の端末とLAN2側の端末をWindows® の共有機能を用いて資源を共有する
- 各端末への設定

■ 設定例

□LAN1側の設定

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

LAN2への接続先の設定を行います。

② 「Quick設定」メニューより「ISDN／LAN間接続」画面を選択します。

利用形態ごとの設定方法

③　接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-3450-0000	LAN2と合わせて設定します。
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
接続方式　　　発信	自動接続	
接続方式　　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN2と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	
ユーザID	Id2	
パスワード	Pw2	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

引き続き、「ISDN／LAN間接続」画面で、設定を行います。

④　電話番号の設定を行います。
「電話番号（本機）」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-333-4444	INSネット64の契約にしたがってください。

⑤　LAN情報の設定を行います。
「LAN側の設定」にて、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	

⑥　LAN2へのルート情報の設定を行います。
「スタティックルート情報」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	スタティックルート情報
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	1：LAN2	

＊「常時接続」「タイマ接続」「DNS問い合わせ先の選択」の設定は不要です。初期状態のままでお使いください。

⑦ 「ISDN／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。

⑧ ［保存・再起動］ボタンを押します。 再起動されます。
これでLAN1側の設定は完了です。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。

□LAN2側の設定
LAN1への接続情報の設定を行います。
設定の手順は「LAN1側の設定」と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　接続先の設定

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-333-4444	LAN1と合わせて設定します。
ユーザID	Id2	
パスワード	Pw2	
接続方式　　発信	自動接続	
接続方式　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN1と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　電話番号（本機）

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-3450-0000	INSネット64の契約にしたがってください。

利用形態ごとの設定方法

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　LAN側の設定

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.2.2～ 192.168.2.250	

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　スタティックルート情報

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	192.168.1.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	1：LAN1	

これでLAN2側の設定は完了です。

□Windows® でのLAN側の端末との資源の共有

LAN1側の端末とLAN2側の端末間での資源の共有をさせるための設定について説明します。

① LAN1側LAN2側それぞれの端末に、TCP／IPプロトコルのインストール（「本商品を接続する前の準備<パソコンでの設定>」参照）を行います。
各端末に、TCP／IPプロトコルをインストールします。複数のプロトコルがインストールされている場合は、「TCP／IP」を標準プロトコルに設定します。

② IPアドレスとホスト名の対応付けを行います。
端末で、接続先のIPアドレスとホスト名を対応付けます。ここでは、Windows® の場合について説明します。

例）LAN1側端末にLAN2側端末（192.168.2.2）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.2.2 lan2pc

例）LAN2側端末にLAN1側端末（192.168.1.2）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.1.2 lan1pc

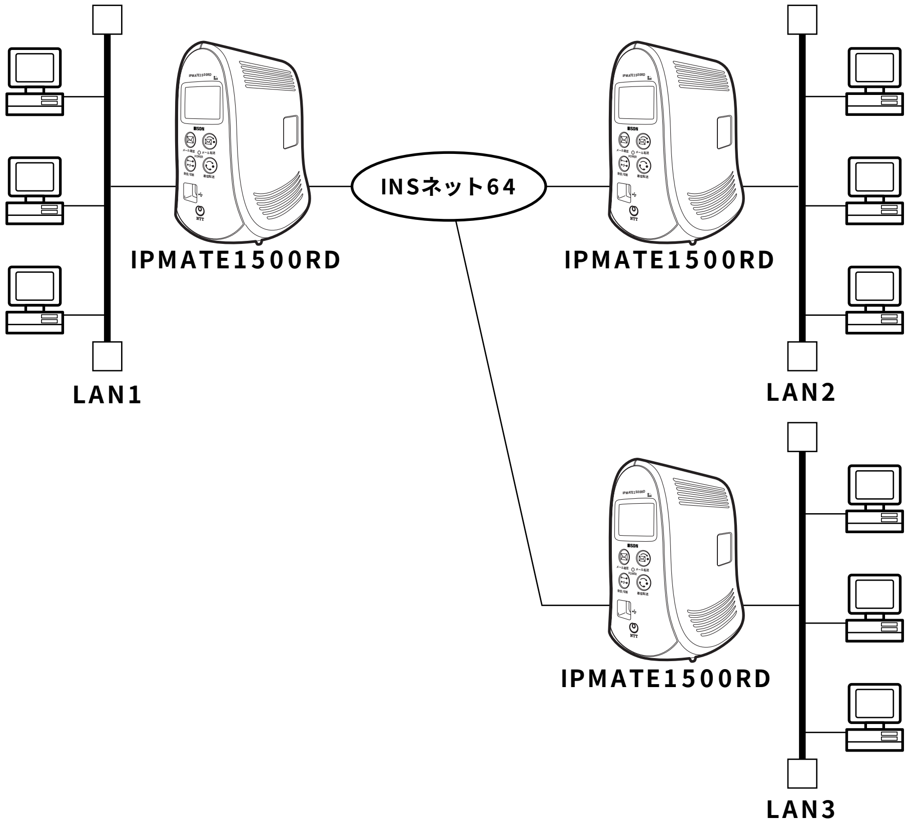
お知らせ

●指定するホスト名は、各端末に設定しているコンピュータ名にしてください。

●設定後、リモート端末からLAN側の端末へ検索する方法は、次のとおりです。
1）「スタート」→「検索」→「ほかのコンピュータ」
2） 検索するコンピュータ名を入力 （例） lan1pc
3） 対象の端末が見つかればクリックして共有リソースにアクセス

9．INSネット64を使用して、3か所以上のLANを接続する

3か所のLANを、INSネット64を使用して接続します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手側のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 相手側の電話番号を設定します。また、相手側と合わせて、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- デフォルトルートを「使用しない」に設定し、スタティックルート情報として、相手側のLANを指定します。
- 既存LANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。

■ 動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク：192.168.1.0／24

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク：192.168.2.0／24

□LAN3を構築
- LAN3側のネットワーク：192.168.3.0／24

4 パソコンをつなげて利用する

利用形態ごとの設定方法

□DNSサーバは各LAN側に配置し、DHCPサーバ機能で各端末に配信します。
各LANのDNSサーバのアドレスは次のようにします。
LAN1 ： 192.168.1.2
LAN2 ： 192.168.2.2
LAN3 ： 192.168.3.2

■設定例

□LAN1側の設定
LAN2/LAN3への接続先の設定を行います。
① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

LAN2への接続先の設定を行います。
②「Quick設定」メニューより「ISDN／LAN間接続」画面を選択します。
③ 接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-3450-0000	LAN2と合わせて設定します。
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
接続方式　発信	自動接続	
接続方式　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN2と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	
ユーザID	Id2	
パスワード	Pw2	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

引き続き、「ISDN／LAN間接続」画面で設定を行います。
LAN3への接続先の設定を行います。

④　接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No2	
接続先名	LAN3	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-6780-0000	LAN3と合わせて設定します。
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
接続方式　　　発信	自動接続	
接続方式　　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN3と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	
ユーザID	Id3	
パスワード	Pw3	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

電話番号およびLAN情報の設定を行います。

⑤　電話番号の設定を行います。
「電話番号（本機）」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-333-4444	INSネット64の契約にしたがってください。

⑥　LAN情報の設定を行います。
「LAN側の設定」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	

利用形態ごとの設定方法

LAN2、LAN3へのルート情報の設定を行います。

⑦ 「スタティックルート情報」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	スタティックルート情報1を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	1：LAN2	
宛先ネットワークアドレス	192.168.3.0	スタティックルート情報2を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	2：LAN3	

⑧ 「ISDN／LAN間接続」画面で［設定］ボタンを押します。

⑨ 続いて「ルータ機能」メニューから「DHCPサーバ」を選択します。

⑩ 「DHCP」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
デフォルトルータアドレス	192.168.1.1	
(広報する)プライマリDNSアドレス	192.168.1.1	指定したDNSアドレスを設定します。

［設定］ボタンを押します。

⑪ ［SAVE］ボタンを押し、［保存・再起動］ボタンを押します。
再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、LAN1側の設定は完了です。

□LAN2側の設定
LAN1／LAN3への接続先の設定を行います。
設定の手順は「LAN1側の設定」と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

○「Quick設定」メニュー　－　ISDN／LAN間接続　－　接続先の設定

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-333-4444	
ユーザID	Id2	LAN1と合わせて設定します。
パスワード	Pw2	
接続方式　　発信	自動接続	
接続方式　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN1と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	

○「Quick設定」メニュー　－　ISDN／LAN間接続　－　接続先の設定

項　目	設定例	備　考
No	No2	
接続先名	LAN3	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-6780-0000	
ユーザID	Id2	LAN3と合わせて設定します。
パスワード	Pw2	
接続方式　　発信	自動接続	
接続方式　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックする	LAN3と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックしない	
ユーザID	Id3	
パスワード	Pw3	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

○「Quick設定」メニュー　－　ISDN／LAN間接続　－　電話番号（本機）

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-3450-0000	INSネット64の契約にしたがってください。

利用形態ごとの設定方法

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続接続　ー　LAN側の設定

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.2.2～ 192.168.2.250	

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　スタティックルート情報

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	192.168.1.0	スタティックルート情報1を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	1：LAN1	
宛先ネットワークアドレス	192.168.3.0	スタティックルート情報2を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	2：LAN3	

○「ルータ機能」メニュー　ー　DHCPサーバ　ー　DHCP

項　目	設定例	備　考
デフォルトルータアドレス	192.168.2.1	
(広報する)DNSプライマリアドレス	192.168.2.1	指定したDNSアドレスを設定します。

これでLAN2側の設定は完了です。

□LAN3側の設定
LAN1／LAN2への接続先の設定を行います。
設定の手順は「LAN1側の設定」と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　接続先の設定

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-333-4444	LAN1と合わせて設定します。
ユーザID	Id3	
パスワード	Pw3	
接続方式　　発信	自動接続	
接続方式　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN1と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　接続先の設定

項　目	設定例	備　考
No	No2	
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-3450-0000	LAN2と合わせて設定します。
ユーザID	Id3	
パスワード	Pw3	
接続方式　　発信	自動接続	
接続方式　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックする	LAN2と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックしない	
ユーザID	Id2	
パスワード	Pw2	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　電話番号（本機）

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-6780-0000	INSネット64の契約にしたがってください。

利用形態ごとの設定方法

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　LAN側の設定

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.3.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.3.2〜 192.168.3.250	

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　スタティックルート情報

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	192.168.1.0	スタティックルート情報1を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	1：LAN1	
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	スタティックルート情報2を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	2：LAN2	

○「ルータ機能」メニュー　ー　DHCPサーバ　ー　DHCP

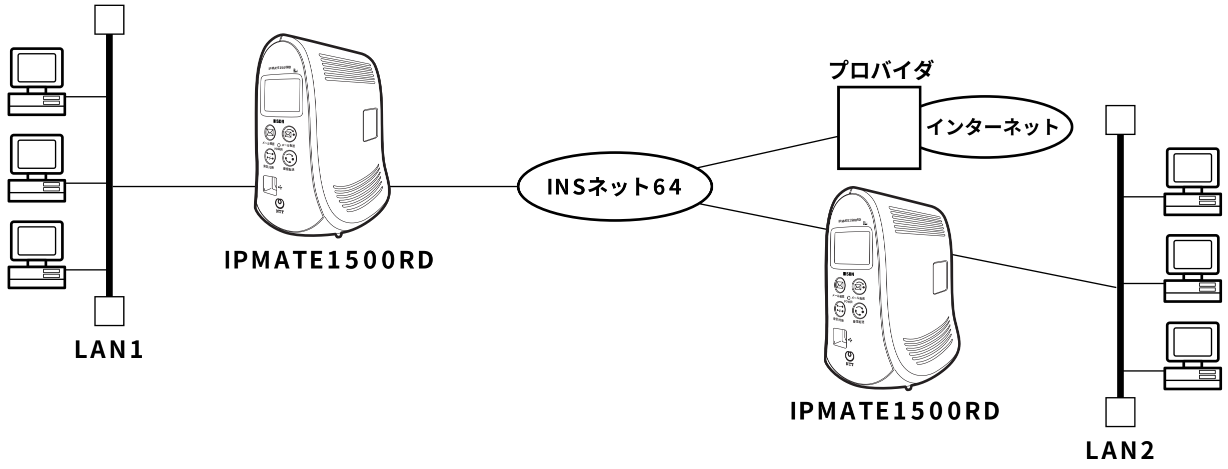
項　目	設定例	備　考
デフォルトルータアドレス	192.168.3.1	
(広報する)プライマリDNSアドレス	192.168.3.1	指定したDNSアドレスを設定します。

これでLAN3側の設定は完了です。

□Windows® でのLAN側の端末との資源共有をしたい場合
利用形態8の説明（☛P74）を参考にしてください。

10. INSネット64を使用して2か所のLANを接続し、新規インターネットプロバイダを共有する

2か所のLANを、INSネット64を使用して接続し、インターネットへアクセスします。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手側のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 接続先No１として、インターネットプロバイダから通知された、電話番号、ユーザID、認証パスワード、DNSサーバアドレスを設定します。
- 接続先No2として、相手側の電話番号を設定します。また、相手側と合わせて、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- デフォルトルートを「使用しない」に設定し、スタティックルート情報として、相手側のLANを指定します。
- 既存LANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。

■動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク：192.168.1.0／24

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク：192.168.2.0／24

□インターネットプロバイダAに接続
- ProxyDNSを有効にし、デフォルトDNSサーバは、インターネットプロバイダで提供するDNSサーバを使用（自動取得に対応）

■設定例

□LAN1側の設定

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

利用形態ごとの設定方法

インターネットプロバイダとLAN2への接続先の設定を行います。

② 「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面を選択します。

③ インターネットプロバイダへの接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Idisp	
パスワード	Pwisp	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
DNSサーバアドレスを自動取得する	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

④ 「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で[設定]ボタンを押します。

次に、「ISDN／LAN間接続」画面で設定を行います。

⑤ LAN2への接続先の設定を行います。接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No2	
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-6780-0000	LAN2と合わせて設定します。
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
接続方式　　発信	自動接続	
接続方式　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN2と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	LAN2と合わせて設定します。
ユーザID	Id3	
パスワード	Pw3	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

電話番号とLAN情報の設定を行います。
引き続き、「ISDN／LAN間接続」画面で設定を行います。

⑥　電話番号の設定を行います。
「電話番号（本機)」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-333-4444	INSネット64の契約にしたがってください。

⑦　LAN情報の設定を行います。
「LAN側の設定」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	

LAN2へのルート情報を設定します。引き続き、「ISDN／LAN間接続」画面で設定を行います。
⑧「スタティックルート情報」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	2：LAN2	

DNS問い合わせ先の設定を行います。引き続き、「ISDN／LAN間接続」画面で設定を行います。
⑨「DNS問い合わせ先の選択」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
ProxyDNS問い合わせ時の接続先	1：ISP	

⑩「ISDN／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。
⑪［保存・再起動］ボタンを押します。 再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN　READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、LAN1側の設定は完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

□LAN2側の設定
インターネットプロバイダとLAN1への接続情報の設定を行います。設定の手順はLAN1側の設定と同様なので、ここでは設定例を示します。

利用形態ごとの設定方法

<接続先　インターネットプロバイダの設定>
○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／プロバイダ接続（端末型）ー　接続先の設定

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Idisp	
パスワード	Pwisp	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
DNSサーバアドレスを自動取得する	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

<接続先　LAN1の設定>
○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　接続先の設定

項　目	設定例	備　考
No	No2	
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-333-4444	LAN1と合わせて設定します。
ユーザID	Id2	
パスワード	Pw2	
接続方式　発信	自動接続	
接続方式　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN1と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	LAN1と合わせて設定します。
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

<電話番号の設定>
○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　電話番号（本機）

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-6780-0000	INSネット64の契約にしたがってください。

＜LAN情報の設定 ＞

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　LAN側の設定

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	プライベートアドレスを設定します。
提供IPアドレス	192.168.2.2 ～192.168.2.250	

＜ルート情報の設定＞

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　スタティックルート情報

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	192.168.1.0	
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報を設定します。
メトリック	1	
接続先	1：LAN1	

＜DNS問い合わせ先の設定＞

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　DNS問い合わせ先選択

項　目	設定例	備　考
ProxyDNS問い合わせ時の接続先	1：ISP	

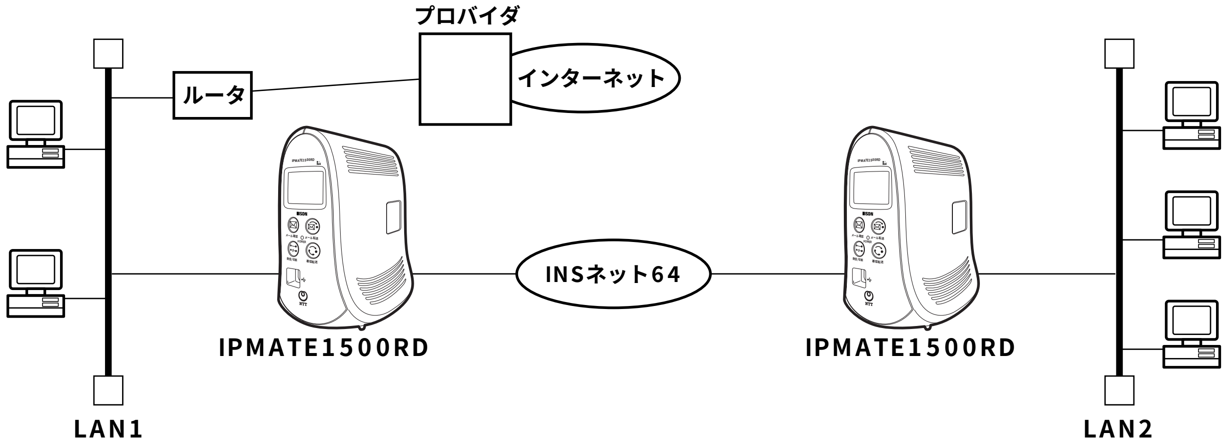
これでLAN2側の設定は完了です。

□Windows® でのLAN側の端末との資源共有をしたい場合
利用形態8の説明（☞P74）を参考にしてください。

4 パソコンをつなげて利用する

11. INSネット64を使用して2か所のLAN を接続し、既存インターネットプロバイダを共有する

2か所のLANを、INSネット64を使用して接続します。LAN1側の既存ルータから、インターネットに接続する場合について説明します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 相手側の電話番号を設定します。また、相手側と合わせて、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。
- 既存のルータを接続しているLAN1側は、本商品のデフォルトルートを「使用しない」のままとし、スタティックルートを設定します。
- 既存のルータを接続しないLAN2 側は、本商品のデフォルトルートを「スタティックルート情報」に設定します。

■ 動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク：192.168.1.0／24
- インターネットプロバイダへ接続する既存のルータ（192.168.1.10）を使用

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク：192.168.2.0／24

■ 設定例

□LAN1側の設定

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

LAN2への接続先の設定を行います。

② 「Quick設定」メニューより「ISDN／LAN間接続」画面を選択します。

③　LAN2への接続先の設定を行います。接続先を登録します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-6780-0000	LAN2と合わせて設定します。
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
接続方式　　発信	自動接続	
接続方式　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN2と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	LAN2と合わせて設定します。
ユーザID	Id2	
パスワード	Pw2	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

電話番号とLAN情報の設定を行います。
引き続き、「ISDN／LAN間接続」画面で設定を行います。
④　電話番号の設定を行います。
「電話番号（本機）」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-333-4444	INSネット64の契約にしたがってください。

⑤　LAN情報の設定を行います。
「LAN側の設定」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	

インターネットプロバイダとLAN2へのルート情報を設定します。引き続き「ISDN／LAN間接続」画面で設定を行います。

利用形態ごとの設定方法

⑥ 「スタティックルート情報」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報1を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	192.168.1.10	
メトリック	1	
接続先	LAN	
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	スタティックルート情報2を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	1：LAN2	

⑦ 「ISDN／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。
⑧ ［保存・再起動］ボタンを押します。 再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したらLAN1側の設定は完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

□LAN2側の設定
インターネットプロバイダとLAN1への接続情報の設定を行います。設定の手順はLAN1側の設定と同様なので、ここでは設定例を示します。

＜LAN1への接続先設定＞
○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　接続先の設定

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-333-4444	LAN1と合わせて設定します。
ユーザID	Id2	
パスワード	Pw2	
接続方式　　発信	自動接続	
接続方式　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN1と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	LAN1と合わせて設定します。
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

＜電話番号の設定＞
○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　電話番号（本機）

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-6780-0000	INSネット64の契約にしたがってください。

＜LAN情報の設定＞
○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　LAN側の情報

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.2.2～ 192.168.2.250	

＜スタティックルート情報の設定＞
○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　スタティックルート情報

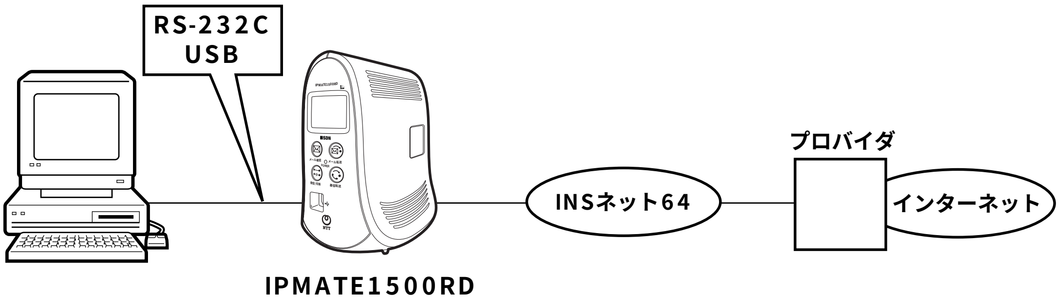
項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	1：LAN1	

これでLAN2側の設定は完了です。

□Windows® でのLAN側の端末との資源共有をしたい場合
利用形態8の説明（☛P74）を参考にしてください。

12. シリアルポートから、INSネット64を使用してインターネットへダイヤルアップ接続する

RS-232CポートまたはUSBポートに接続した端末から、INSネット64を使用して、インターネットへダイヤルアップ接続します。



■ 設定のポイント

- 付属のCD-ROMを使い、端末に使用する通信モードに合ったモデム定義ファイルをインストールします。モデム定義ファイルのインストールについては、「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>」を参照してください。
- 端末のPPPモジュールに、インターネットプロバイダから通知された、電話番号、ユーザID、認証パスワードを設定します。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

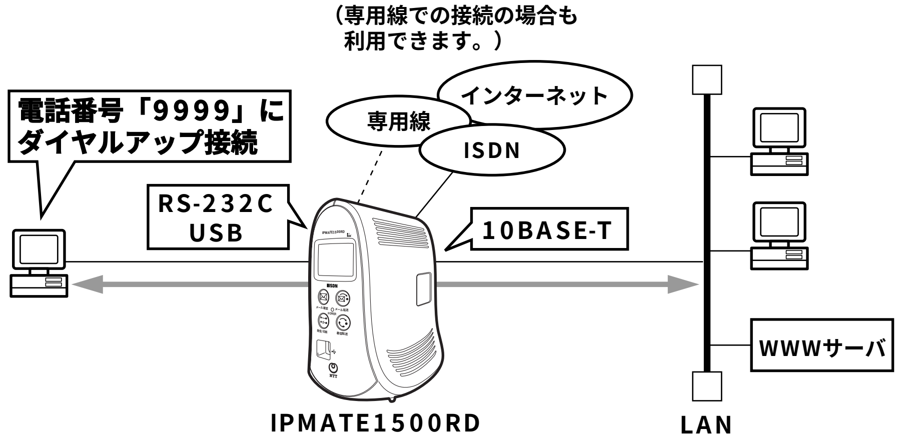
■ 設定例

端末にダイヤルアップ設定を行います。

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス	自動取得	
サーバの種類	TCP／IPのみ	
PPP設定　ユーザID	Uid	
PPP設定　パスワード	pass1	

13. シリアルポートから、10BASE-TポートにつながるLANへ接続する（簡易LAN接続）

RS-232CポートまたはUSBポートに接続した端末を、10BASE-Tポートに接続した端末のLANに参加させることができます。
これによって、10BASE-Tポートに接続した場合と同じように、インターネットに接続したり、ネットワーク上の資源を利用できるようになります。
ここでは、INSネット64を利用している場合の例で説明します。



■ 設定のポイント

- 10BASE-Tポートに接続したパソコンでLANを構築後、別のパソコンをRS-232CポートまたはUSBポートに接続します。
- 付属のCD-ROMを使い、本商品のRS-232CポートまたはUSBポートに接続したパソコンにモデム定義ファイルをインストールします。モデム定義ファイルのインストールについては、「本商品へ接続する前の準備＜パソコンでの操作＞」を参照してください。
- パソコンのダイヤルアップ設定に、電話番号「9999」、IPアドレス「自動取得」、サーバの種類「TCP／IPのみ」を設定します。また、PPPモジュールのユーザID、パスワードは空白のままとします。

■ 動作条件

□シリアルポートに端末を接続する

■ 設定例

□本商品
LAN情報の設定を行います。
① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

② 端末の設定を行います。
「ルータ機能」メニューから「LAN」を選択します。

利用形態ごとの設定方法

③「IPアドレス」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。

④　引き続き「ルータ機能」メニューから「DHCPサーバ」を選択します。
⑤　「DHCP」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
DHCPサーバ機能を使用する	自動取得	プライベートアドレスを設定します。
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	

[設定]ボタンを押します。

つづいて、簡易LAN情報の設定を行います。
⑥「ルータ機能」メニューより「簡易LAN接続」を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
RS-232C用IPアドレス	192.168.1.251	
USB用IPアドレス	192.168.1.252	
LAN接続用回線番号	9999	

[設定]ボタンを押します。

⑦［SAVE］ボタンを押し、［保存・再起動］ボタンを押します。
再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN　READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。

□シリアルポート側端末の設定
①シリアルポート側の端末にダイヤルアップ設定を行います。

項　目	設定例	備　考
電話番号	9999	簡易LANにしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	自動取得	
回線番号	9999	
サーバの種類	TCP／IPのみ	
PPP設定　ユーザID		設定不要です。
PPP設定　パスワード		

② IPアドレスとホスト名の対応付けを行います。
例）10BASE-Tポート側端末（192.168.1.2）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.1.2 lanpc

□10BASE-Tポート側端末の設定
Windows® でのLAN側の端末と資源を共有するための設定を行います。
① TCP／IPプロトコルのインストール（「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの設定>」参照）を行います。
各端末に、TCP／IPプロトコルをインストールします。
複数のプロトコルがインストールされている場合は、「TCP／IP」を標準プロトコルに設定します。

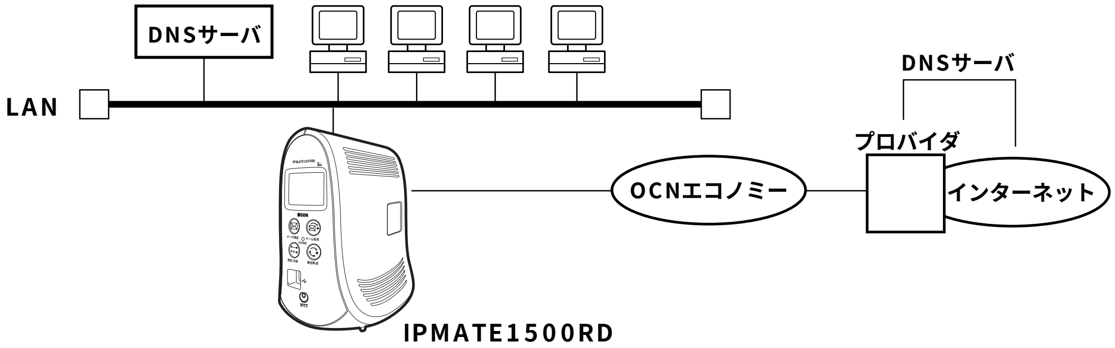
② IPアドレスとホスト名の対応付けを行います。
例）シリアルポート側端末（192.168.1.251）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.1.251 remote

お知らせ

●指定するホスト名は、各端末に設定しているコンピュータ名にしてください。
●設定後、リモート端末の検索方法は、次のとおりです。
1）「スタート」→「検索」→「ほかのコンピュータ」
2）検索するコンピュータ名を入力 （例） lan1pc
3）対象の端末が見つかればクリックして共有リソースにアクセス

14．OCNエコノミーを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ無）

LANを構築し、OCNエコノミーを使用して、インターネットに接続します。
ただし、インターネットプロバイダから割り当てられたグローバルアドレスの数より、端末の台数が少ない場合について説明します。
この場合、NATを使用せず、グローバルアドレスを各装置に割り当てます。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- インターネットプロバイダから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てます。それをもとに、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を「使用しない」に設定します。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続
- インターネットプロバイダ指定のグローバルアドレス（10.1.1.0／29）8個
  ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
- 本商品のIPアドレス　：10.1.1.1
- DHCP機能で割り当てるアドレス　：10.1.1.2～10.1.1.6
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用

■ 設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／プロバイダ接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

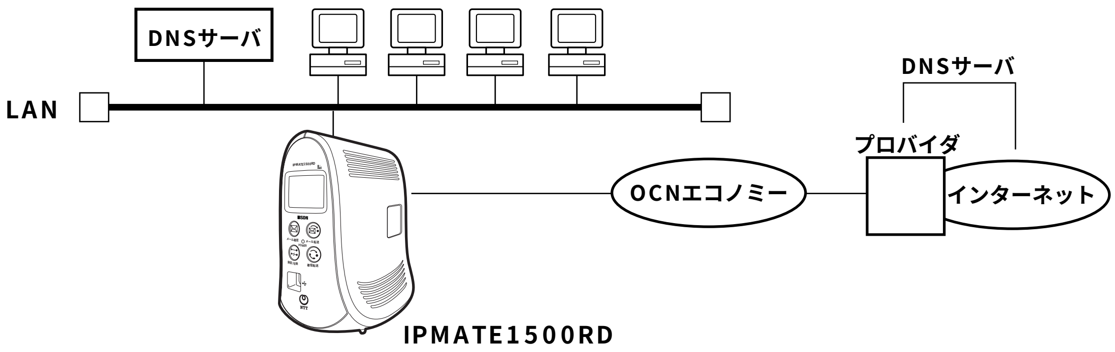
項　目	設定例	備　考
接続先名	OCN	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	10.1.1.1／29 (255.255.255.248)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	10.1.1.2〜10.1.1.6	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用する。	チェックする	
（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
NAT機能を使用しない	チェックする	

③「専用線／プロバイダ接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。 再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

15．OCNエコノミーを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ有）

LANを構築し、OCNエコノミーを使用して、インターネットに接続します。
ただし、インターネットプロバイダから割り当てられたグローバルアドレスの数より端末の台数が少なく、かつ、OCN側のDNSサーバとともに自分で用意したDNSサーバを使用するという場合について説明します。 この場合、NATを使用せず、グローバルアドレスを各装置に割り当てます。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- インターネットプロバイダから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てます。それをもとに、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を「使用しない」に設定にします。

■動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

- インターネットプロバイダ指定のグローバルアドレス（10.1.1.0／29）8個
  ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
- 本商品のIPアドレス　：10.1.1.1
- 割り当てIPアドレスの1つを自前のDNSサーバ（10.1.1.2）で使用
- DHCP機能で割り当てるアドレス　：10.1.1.2〜10.1.1.6
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103）を使用

■設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／プロバイダ接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	OCN	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	10.1.1.1／29 (255.255.255.248)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	10.1.1.3〜10.1.16.	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用する。	チェックする	
(アドレス入力欄の) DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	10.1.1.2	
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	
NAT機能を使用しない	チェックする	

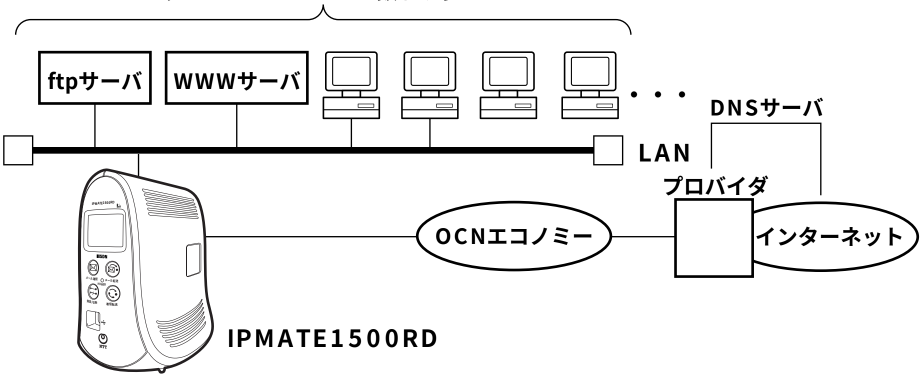
③「専用線／プロバイダ接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

利用形態ごとの設定方法

16．OCNエコノミーを使用して、インターネット接続する（NAT使用＋自前のDNSサーバ無）

LANを構築し、OCNエコノミーを使用して、インターネットに接続します。
ただし、インターネットプロバイダから割り当てられたグローバルアドレスの数より、端末の台数が多い場合について説明します。
この場合、NATを使用し、プライベートアドレスを各装置に割り当てます。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- インターネットプロバイダから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てず、プライベートアドレスを割り当てます。同様に、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクにプライベートアドレスを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を「使用する」に設定し、グローバルアドレスを設定します。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

- インターネットプロバイダ指定のグローバルアドレスの割り当て（10.1.1.0／29）8個
  - ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  - ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
  - 端末使用可能アドレス　：10.1.1.1～10.1.1.6
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用
- 割り当てるプライベートアドレス
  - 本商品のIPアドレス　：192.168.1.1
  - DHCP機能で各PCに割り当てるアドレス　：192.168.1.2～192.168.1.250

■ 設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／プロバイダ接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	OCN	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2〜 192.168.1.250	プライベートアドレスを設定します。
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
(アドレス入力欄の) DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
NAT機能を使用する	チェックする	グローバルアドレスを設定します。
IPアドレス	10.1.1.1	
アドレス個数	6個	
アドレス割当て時間	300秒	

③ 「専用線／プロバイダ接続」画面で[設定]ボタンを押します。

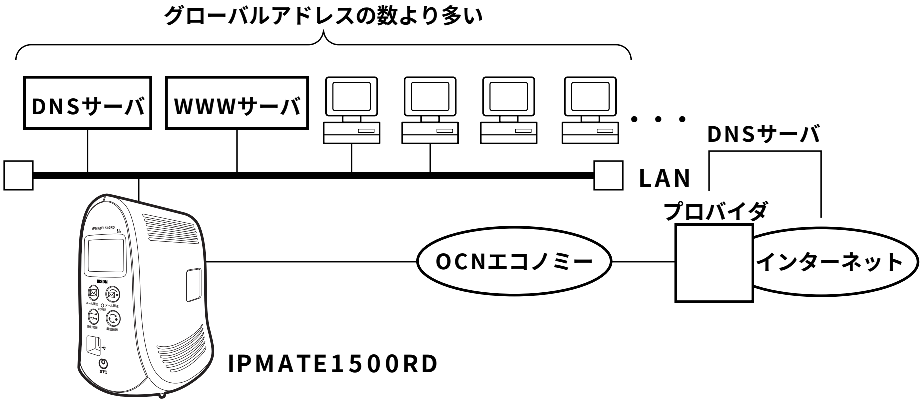
④ ［保存・再起動］ボタンを押します。 再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

□外部から、本商品に対してPINGを実行したい場合は、静的NATテーブルに次の設定が必要です。
○「ルータ機能」メニュー　ー　回線接続先情報　ー　静的NAT

項　目	設定例
グローバルIPアドレス	本商品に設定したグローバルIPアドレス
グローバルポート番号	—
プライベートIPアドレス	本商品に設定したLAN側IPアドレス
プライベートポート番号	—

17．OCNエコノミーを使用して、インターネット接続する（NAT使用＋自前のDNSサーバ有）

**LANを構築し、OCNエコノミーを使用して、インターネットに接続します。
ただし、インターネットプロバイダから割り当てられたグローバルアドレスの数より端末の台数が多く、かつ、OCN側のDNSサーバとともに自分で用意したDNSサーバを使用する場合について説明します。 この場合NATを使用し、プライベートアドレスを各装置に割り当てます。**



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- インターネットプロバイダから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てず、プライベートアドレスを割り当てます。同様に、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクにプライベートアドレスを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を「使用する」に設定し、グローバルアドレスを設定します。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続

- インターネットプロバイダ指定のグローバルアドレスの割り当て（10.1.1.0／29）8個
  - ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  - ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
  - 端末使用可能アドレス　：10.1.1.1～10.1.1.6
- 自前のDNSサーバ（192.1681.248）を使用
- 割り当てるプライベートアドレス
  - 本商品のIPアドレス　：192.168.1.1
  - DHCP機能で各PCに割り当てるアドレス　：192.168.1.2～192.168.1.250
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103）を使用

■ 設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／プロバイダ接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	OCN	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
(アドレス入力欄の)DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	192.168.1.248	
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	
NAT機能を使用する	チェックする	グローバルアドレスを設定します。
IPアドレス	10.1.1.1	
アドレス個数	6個	
アドレス割当て時間	300秒	

③「専用線／プロバイダ接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

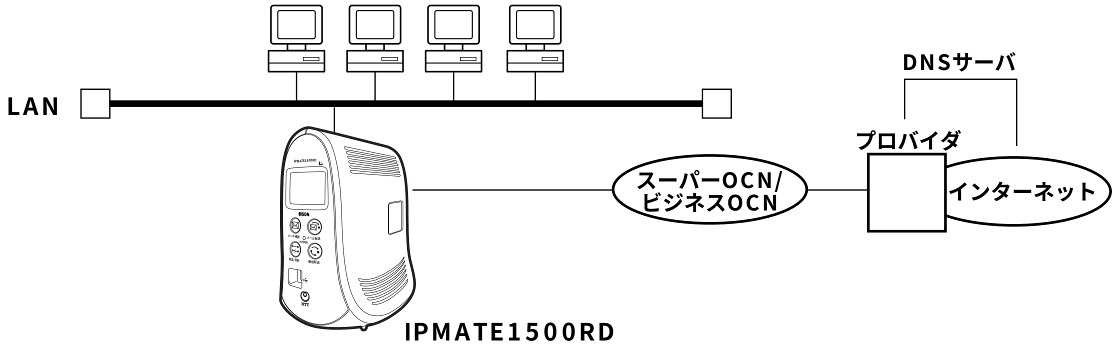
□外部から、本商品に対してPINGを実行したい場合は、静的NATテーブルに次の設定が必要です。

○「ルータ機能」メニュー　ー　回線接続先情報　ー　静的NAT

項　目	設定例
グローバルIPアドレス	本商品に設定したグローバルIPアドレス
グローバルポート番号	―
プライベートIPアドレス	本商品に設定したLAN側IPアドレス
プライベートポート番号	―

18．スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ無）

LANを構築し、スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネットに接続します。ただし、スーパーOCN／ビジネスOCNから割り当てられたグローバルアドレスの数より、端末の台数が少ない場合について説明します。 この場合NATを使用せず、グローバルアドレスを各装置に割り当てます。



■ 設定のポイント

設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。

- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てます。それをもとに、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を「使用しない」に設定します。
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された「お客様ルータWAN側」と「OCNルータWAN側」の設定を行います。

■ 動作条件

□スーパーOCN／ビジネスOCNに接続

- スーパーOCN／ビジネスOCN指定のグローバルアドレスの割り当て（10.1.1.0／29）8個
  ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
- 本商品のIPアドレス　：10.1.1.1
- DHCP機能で割り当てるアドレス　：10.1.1.2～10.1.1.6
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された回線情報
  お客様ルータWAN側IPアドレス/マスク　＝222.111.22.10／30(255.255.255.252)
  OCNルータWAN側IPアドレス/マスク　＝222.111.22.11／30（255.255.255.252）
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用

■ 設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／プロバイダ接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

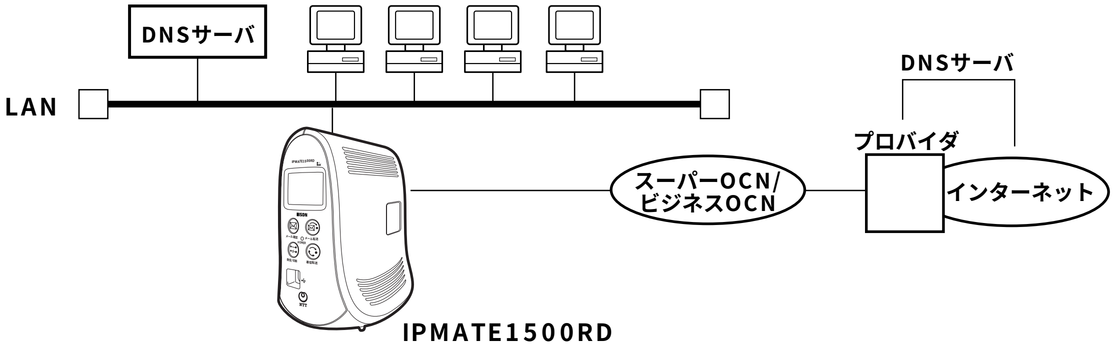
<table>
<tr><th>項　目</th><th>設定例</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td>接続先名</td><td>OCN</td><td>任意の名前を設定します。</td></tr>
<tr><td>回線速度</td><td>128 kbit/s</td><td>インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。</td></tr>
<tr><td>IPアドレス／マスク</td><td>10.1.1.1／29
(255.255.255.248)</td><td rowspan="8">グローバルアドレスを設定します。</td></tr>
<tr><td>DHCPサーバ機能を使用する</td><td>チェックする</td></tr>
<tr><td>提供IPアドレス</td><td>10.1.1.2〜10.1.1.6</td></tr>
<tr><td>回線側IPアドレスを設定する</td><td>チェックする</td></tr>
<tr><td>本機IPアドレス</td><td>222.111.22.10</td></tr>
<tr><td>相手IPアドレス</td><td>222.111.22.11</td></tr>
<tr><td>ネットマスク</td><td>30
(255.255.255.252)</td></tr>
<tr><td>ProxyDNS機能を使用する</td><td>チェックする</td></tr>
<tr><td>(アドレス入力欄の) DNSサーバアドレスを使用する</td><td>チェックする</td><td></td></tr>
<tr><td>プライマリDNSサーバアドレス</td><td>100.101.102.103</td><td></td></tr>
<tr><td>セカンダリDNSサーバアドレス</td><td>100.101.102.104</td><td></td></tr>
<tr><td>NAT機能を使用しない</td><td>チェックする</td><td></td></tr>
</table>

③「専用線／プロバイダ接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

19．スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ有）

LANを構築し、スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネットに接続します。ただし、スーパーOCN／ビジネスOCNから割り当てられたグローバルアドレスの数より、端末の台数が少なく、かつ、OCN側のDNSサーバとともに用意したDNSサーバを使用する場合について説明します。 この場合、NATを使用せず、グローバルアドレスを各装置に割り当てます。



■ 設定のポイント

設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。

- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てます。それをもとに、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を「使用しない」に設定します。
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された「お客様ルータWAN側」と「OCNルータWAN側」の設定を行います。

■ 動作条件

□スーパーOCN／ビジネスOCNに接続

- スーパーOCN／ビジネスOCN指定のグローバルアドレスの割り当て（10.1.1.0／29）8個
  - ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  - ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
- 本商品のIPアドレス　：10.1.1.1
- DHCP機能で割り当てるアドレス　：10.1.1.3～10.1.1.6
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された回線情報
  - お客様ルータWAN側IPアドレス/マスク　＝222.111.22.10／30(255.255.255.252)
  - OCNルータWAN側IPアドレス/マスク　＝222.111.22.11／30（255.255.255.252）
- 自前のDNSサーバにIPアドレスを割り当てる　＝10.1.1.2
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103）を使用

■ 設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／プロバイダ接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

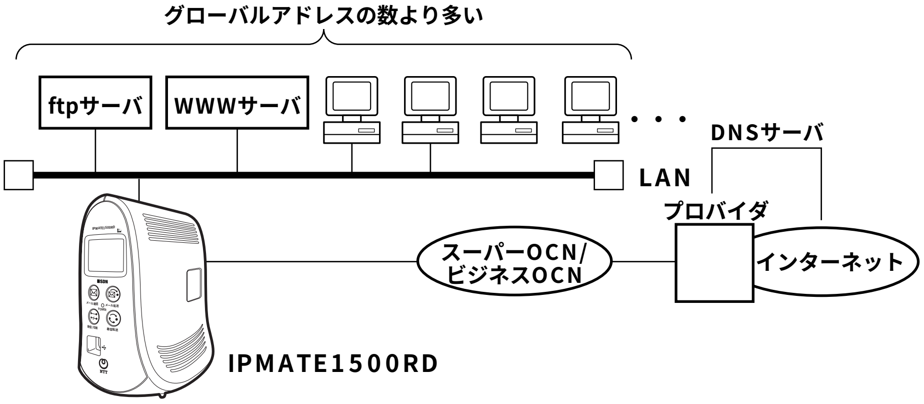
項　目	設定例	備　考
接続先名	OCN	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	10.1.1.1／29 (255.255.255.248)	グローバルアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	10.1.1.3〜10.1.1.6	
回線側IPアドレスを設定する	チェックする	
本機IPアドレス	222.111.22.10	
相手IPアドレス	222.111.22.11	
ネットマスク	30 (255.255.255.252)	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
(アドレス入力欄の) DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	10.1.1.2	
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	
NAT機能を使用しない	チェックする	

③「専用線／プロバイダ接続」画面で［設定］ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

20．スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネット接続する（NAT未使用＋自前のDNSサーバ無）

LANを構築し、スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネットに接続します。ただし、スーパーOCN／ビジネスOCNから割り当てられたグローバルアドレスの数より、端末の台数が多い場合について説明します。 この場合、NATを使用し、プライベートアドレスを各装置に割り当てます。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てず、プライベートアドレスを割り当てます。同様に、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクにプライベートアドレスを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を「使用する」に設定し、グローバルアドレスを設定します。
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された「お客様ルータWAN側」と「OCNルータWAN側」の設定を行います。

■動作条件

□スーパーOCN／ビジネスOCNに接続

- スーパーOCN／ビジネスOCN指定のグローバルアドレスの割り当て（10.1.1.0／29）8個
  - ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  - ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
  - 端末使用可能アドレス　：10.1.1.1〜10.1.1.6
- 割り当てるプライベートアドレス
  - 本商品のIPアドレス　：192.168.1.1
  - DHCP機能で各PCに割り当てるアドレス　：192.168.1.2〜192.168.1.250
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された回線情報
  - お客様ルータWAN側IPアドレス/マスク　＝222.111.22.10/30(255.255.255.252)
  - OCNルータWAN側IPアドレス/マスク　＝222.111.22.11/30（255.255.255.252）
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用

■設定例

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／プロバイダ接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	OCN	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～192.168.1.250	
回線側IPアドレスを設定する	チェックする	
本機IPアドレス	222.111.22.10	
相手IPアドレス	222.111.22.11	
ネットマスク	30 (255.255.255.252)	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
(アドレス入力欄の) DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
NAT機能を使用する	チェックする	グローバルアドレスを設定します。
IPアドレス	10.1.1.1	
アドレス個数	6個	
アドレス割当て時間	300秒	

③「専用線／プロバイダ接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。

＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

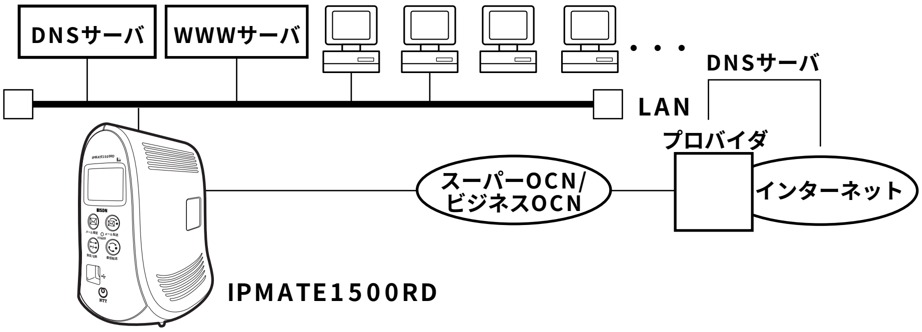
利用形態ごとの設定方法

□外部から、本商品に対してPINGを実行したい場合は、静的NATテーブルに次の設定が必要です。
○「ルータ機能」メニュー　ー　回線接続先情報　ー　静的NAT

項　目	設定例
グローバルIPアドレス	10.1.1.1（本商品に設定した）グローバルIPアドレス
グローバルポート番号	―
プライベートIPアドレス	192.168.1.1（本商品に設定したLAN側IPアドレス）
プライベートポート番号	―

21．スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネット接続する（NAT使用＋自前のDNSサーバ有）

LANを構築し、スーパーOCN／ビジネスOCNを使用して、インターネットに接続します。ただし、スーパーOCN／ビジネスOCNから割り当てられたグローバルアドレスの数より、端末の台数が多く、かつ、OCN側のDNSサーバとともに自分で用意したDNSサーバを使用する場合について説明します。 この場合、NATを使用し、プライベートアドレスを各装置に割り当てます。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された、グローバルアドレスをLANに割り当てず、プライベートアドレスを割り当てます。同様に、本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクにプライベートアドレスを設定します。また、NAT（アドレス変換）機能を使用する設定にし、グローバルアドレスを設定します。
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された「お客様ルータWAN側」と「OCNルータWAN側」の設定を行います。

■動作条件

□スーパーOCN／ビジネスOCNに接続

- スーパーOCN／ビジネスOCN指定のグローバルアドレスの割り当て（10.1.1.0／29）8個
  - ネットワークアドレス　＝10.1.1.0
  - ブロードキャストアドレス　＝10.1.1.7
  - 端末使用可能アドレス　：10.1.1.1～10.1.1.6
- 割り当てるプライベートアドレス
  - 本商品のIPアドレス　：192.168.1.1
  - DHCP機能で各PCに割り当てるアドレス　：192.168.1.2～192.168.1.250
- スーパーOCN／ビジネスOCNから通知された回線情報
  - お客様ルータWAN側IPアドレス/マスク　＝222.111.22.10／30（255.255.255.252）
  - OCNルータWAN側IPアドレス/マスク　＝222.111.22.11／30（255.255.255.252）
- 自前のDNSサーバ　IPアドレス　＝192.168.1.248
  - 割り当てIPアドレスの1つを自前のDNSサーバで使用
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103）を使用

利用形態ごとの設定方法

■**設定例**

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／プロバイダ接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項 目	設定例	備 考
接続先名	OCN	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	プライベートアドレスを設定します。
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	
回線側IPアドレスを設定する	チェックする	
本機IPアドレス	222.111.22.10	
相手IPアドレス	222.111.22.11	
ネットマスク	30 (255.255.255.252)	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
(アドレス入力欄の) DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	192.168.1.248	
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	
NAT機能を使用する	チェックする	グローバルアドレスを設定します。
IPアドレス	10.1.1.1	
アドレス個数	6個	
アドレス割当て時間	300秒	

③「専用線／プロバイダ接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。

＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

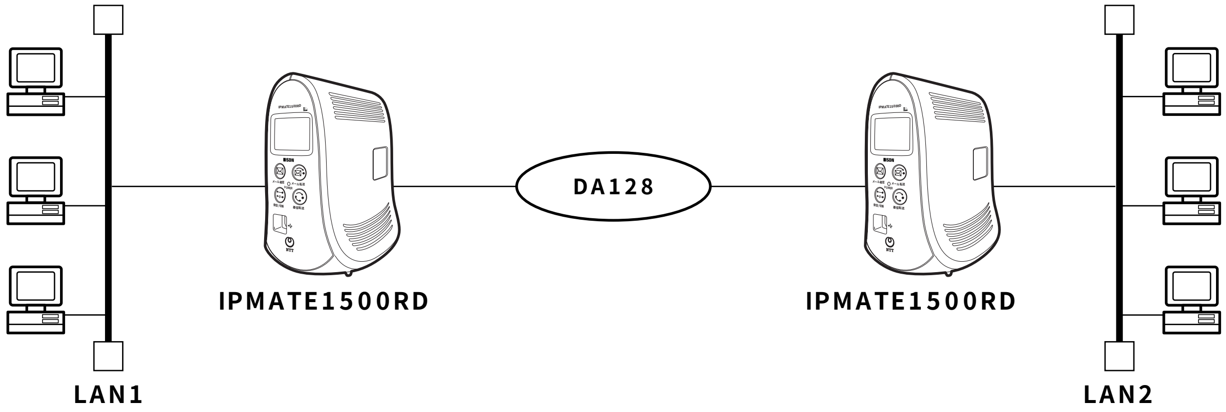
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

□外部から、本商品に対してPINGを実行したい場合は、静的NATテーブルに次の設定が必要です。
○「ルータ機能」メニュー　－　回線接続先情報　－　静的NAT

項　目	設定例
グローバルIPアドレス	10.1.1.1（本商品に設定した）グローバルIPアドレス
グローバルポート番号	—
プライベートIPアドレス	192.168.1.1（本商品に設定したLAN側IPアドレス）
プライベートポート番号	—

22．専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続する（スタティックルート使用）

2か所のLANを、専用線（HSD、DA64／128）を使用して接続します。
回線側にIPアドレスを設定せず、スタティックルートを指定する場合について説明します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス､サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 相手側と合わせて、PPP認証動作、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。
- スタティックルートを設定します。

■ 動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク：192.168.1.0／24

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク：192.168.2.0／24

□LAN1側の端末とLAN2側の端末をWindows® の共有機能を用いて資源を共有する
- 各端末への設定

■ 設定例

□LAN1側の設定
LAN2への接続先の設定を行います。

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／LAN間接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	回線	

③「専用線／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

利用形態ごとの設定方法

□LAN2側の設定
LAN1への接続先の設定を行います。
設定の手順は 「LAN1側の設定」と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

<接続先の設定>
○「Quick設定」メニュー ー 専用線／LAN間接続

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	192.168.1.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	回線	

□端末の設定
LAN1側の端末とLAN2側の端末間での資源の共有をさせるための設定について説明します。

① TCP／IPプロトコルのインストール（「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの設定>」参照）を行います。
　各端末に、TCP／IPプロトコルをインストールします。複数のプロトコルがインストールされている場合は、「TCP／IP」を標準プロトコルに設定します。
② IPアドレスとホスト名の対応付けを行います。
　各端末で、接続先のIPアドレスとホスト名を対応付けます。ここでは、Windows® の場合について説明します。

例）LAN1側端末にLAN2側端末（192.168.2.2）を設定する場合
　c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
　　192.168.2.2 lan2pc

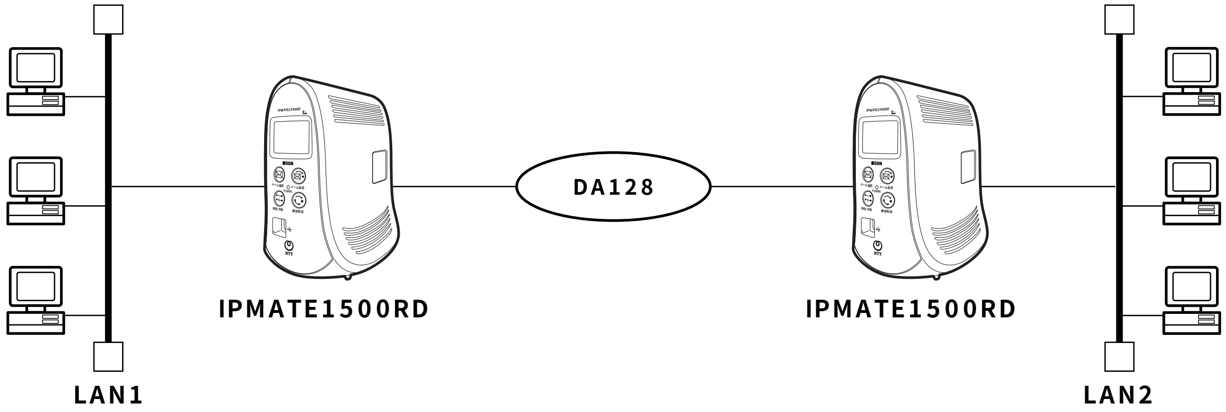
例）LAN2側端末にLAN1側端末（192.168.1.2）を設定する場合
　c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
　　192.168.1.2 lan1pc

お知らせ

●指定するホスト名は、各端末に設定しているコンピュータ名にしてください。
●設定後、リモート端末の検索方法は、次のとおりです。
1）「スタート」→「検索」→「ほかのコンピュータ」
2） 検索するコンピュータ名を入力（例）lan1pc
3） 対象の端末が見つかればクリックして共有リソースにアクセス

23．専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続する（デフォルトルート使用）

2か所のLANを、専用線（HSD、DA64／128）を使用して接続します。
回線側にIPアドレスを設定せず、デフォルトルートを使用する場合について説明します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手側のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 相手側と合わせて、PPP認証動作、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- 既存LANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。
- デフォルトルートをスタティックルート情報に設定します。

■ 動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク：192.168.1.0／24

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク：192.168.2.0／24

■ 設定例

□LAN1側の設定
LAN2への接続先の設定を行います。

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／LAN間接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	回線	

③「専用線／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

□LAN2側の設定
LAN1への接続先の設定を行います。
設定の手順は「LAN1側の設定」と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

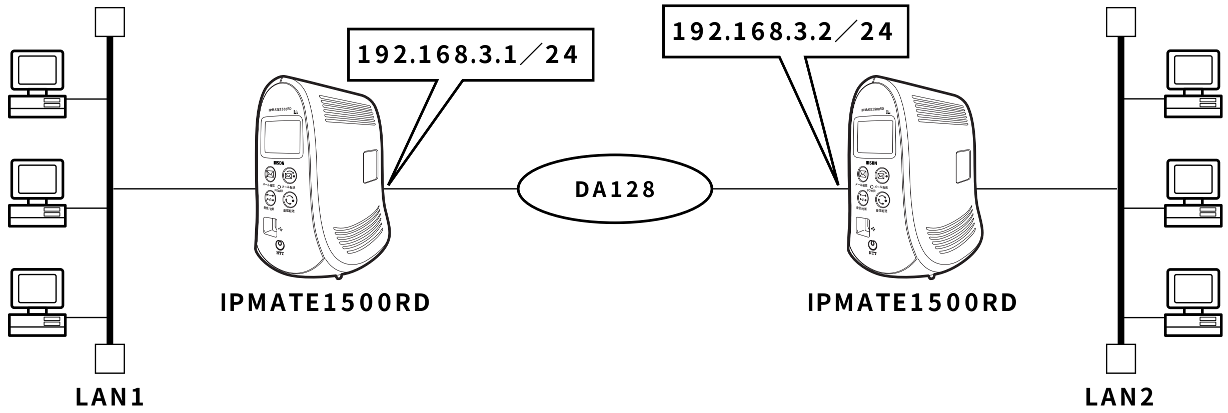
＜接続先の設定＞

○「Quick設定」メニュー　ー　専用線／LAN間接続

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.2.2～ 192.168.2.250	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	回線	

24. 専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続する（回線側IPアドレス使用）

2か所のLANを、専用線（HSD、DA64／128）を使用して接続します。
回線側にIPアドレスを設定する場合について説明します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 相手側と合わせて、PPP認証動作、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。
- 回線側のIPアドレスを、相手と同一ネットワークになるように設定します。また、デフォルトルートは「使用しない」とし、スタティックルートを設定します。

■ 動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク　：192.168.1.0／24
- 回線側IPアドレス　：192.168.3.1／24

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク　：192.168.2.0／24
- 回線側IPアドレス　：192.168.3.2／24

□LAN1側の端末とLAN2側の端末をWindows®の共有機能を用いて資源を共有する
- 各端末への設定

■ 設定例

□LAN1側の設定
接続先の設定を行います。

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

利用形態ごとの設定方法

②「Quick設定」メニューより「専用線／LAN間接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定する	チェックする	
本機IPアドレス	192.168.3.1	
ネットマスク	24(255.255.255.0)	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	192.168.3.2	
メトリック	2	
接続先	回線	

③「専用線／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。
④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

□LAN2側の設定
LAN1への接続先の設定を行います。
設定の手順は LAN1側の設定と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

＜接続先の設定＞

○「Quick設定」メニュー　ー　専用線／LAN間接続

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定する	チェックする	
本機IPアドレス	192.168.3.2	
ネットマスク	24(255.255.255.0)	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	192.168.1.0	
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	192.168.3.1	スタティックルート情報を設定します。
メトリック	2	
接続先	回線	

これでLAN2側の設定は完了です。

□端末の設定

LAN1側の端末とLAN2側の端末間での資源の共有をさせるための設定について説明します。

① TCP／IPプロトコルのインストール（「本商品へ接続する前の準備＜パソコンでの設定＞」参照）を行ないます。
各端末に、TCP／IPプロトコルをインストールします。 複数のプロトコルがインストールされている場合は、「TCP／IP」を標準プロトコルに設定します。

② IPアドレスとホスト名の対応付けを行います。
各端末で、接続先のIPアドレスとホスト名を対応付けます。ここでは、Windows® の場合について説明します。
例）LAN1側端末にLAN2側端末（192.168.2.2）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.2.2 lan2pc
例）LAN2側端末にLAN1側端末（192.168.1.2）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.1.2 lan1pc

お知らせ

●指定するホスト名は、各端末に設定しているコンピュータ名にしてください。

●設定後、リモート端末の検索方法は、次のとおりです。

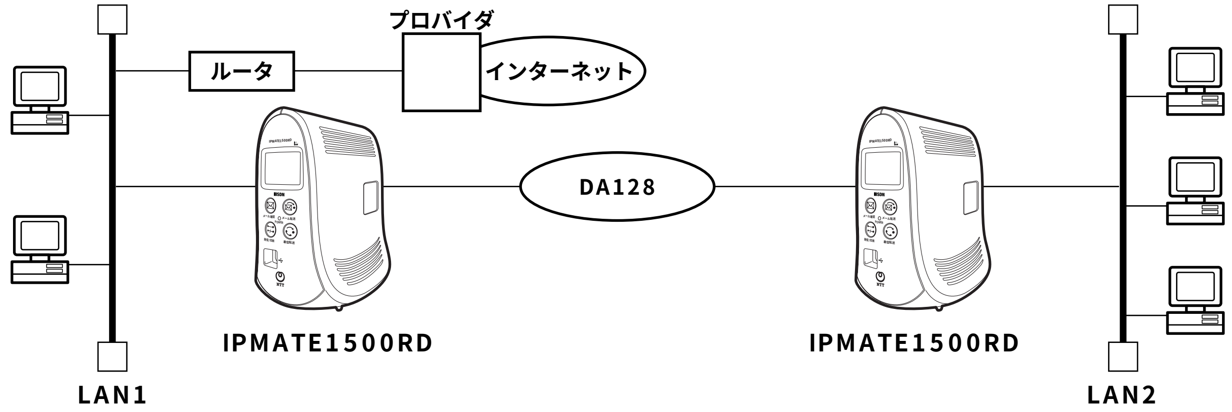
1）「スタート」→「検索」→「ほかのコンピュータ」

2） 検索するコンピュータ名を入力（例）lan1pc

3） 対象の端末が見つかればクリックして共有リソースにアクセス

25．専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続し、既存インターネットプロバイダを共有する
（回線側にIPアドレスを割り振らない＋自IPMATEのLANに既存ルータ有）

2か所のLANを、専用線（HSD、DA64／128）を使用して接続します。LAN1側の既存ルータから、インターネットに接続する場合について説明します。



■設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス､サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 相手側と合わせて、PPP認証動作、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。
- 既存のルータを接続しているLAN1側は、本商品のデフォルトルートを「使用しない」のままとし、スタティックルートを設定します。
- 既存のルータを接続しないLAN2側は、本商品のデフォルトルートを「スタティックルート情報」に設定します。

■動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク：192.168.1.0／24
- インターネットプロバイダへ接続する既存のルータ（192.168.1.10）を使用する

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク：192.168.2.0／24

■設定例

□LAN1側の設定
接続先の設定を行います。
①設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／LAN間接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	スタティックルート情報1を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	回線	
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報2を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	192.168.1.10	
メトリック	1	
接続先	LAN	

③「専用線／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。
④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。
＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。
＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

利用形態ごとの設定方法

□LAN2側の設定
LAN1への接続先の設定を行います。
設定の手順は LAN1側の設定と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

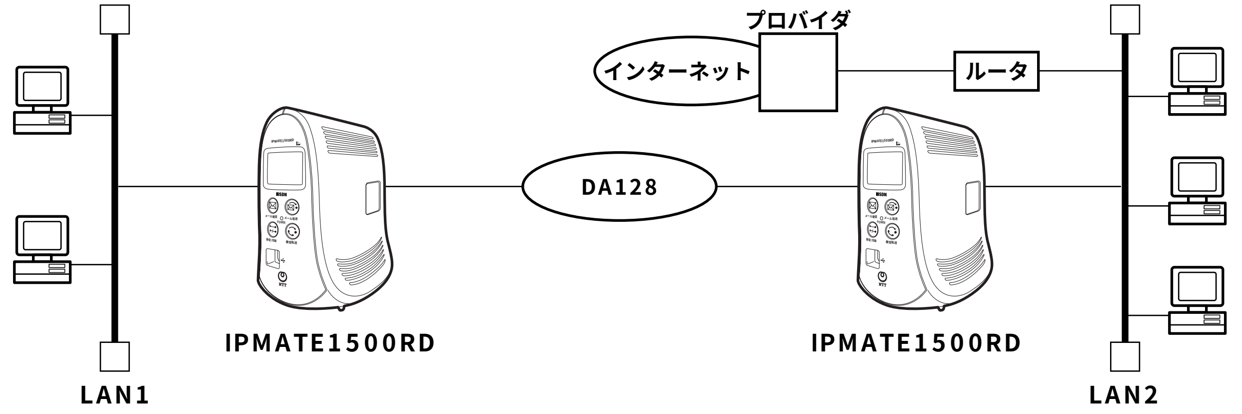
<接続先の設定>
○「Quick設定」メニュー　ー　専用線／LAN間接続

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	回線	

これでLAN2側の設定は完了です。

26. 専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続し、既存インターネットプロバイダを共有する
（回線側にIPアドレスを割り振らない＋自IPMATEのLANに他のルータ無）

2か所のLANを、専用線（HSD、DA64／128）を用いて接続します。LAN2側の既存ルータから、インターネットプロバイダに接続する場合について説明します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 相手側と合わせて、PPP認証動作、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。
- 既存のルータを接続しているLAN2側は、本商品のデフォルトルートを「使用しない」のままとし、スタティックルートを設定します。
- 既存のルータを接続しないLAN1側は、本商品のデフォルトルートをスタティックルート情報に設定します。

■ 動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク：192.168.1.0／24

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク：192.168.2.0／24
- インターネットプロバイダへ接続する既存のルータ（192.168.2.10）を使用

■ 設定例

□LAN1側の設定

接続先の設定を行います。

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
　WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

利用形態ごとの設定方法

②「Quick設定」メニューより「専用線／LAN間接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
回転速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	回線	

③「専用線／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。

本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。

＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

□LAN2側の設定
LAN1への接続先の設定を行います。
設定の手順は LAN1側の設定と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

＜接続先の設定＞

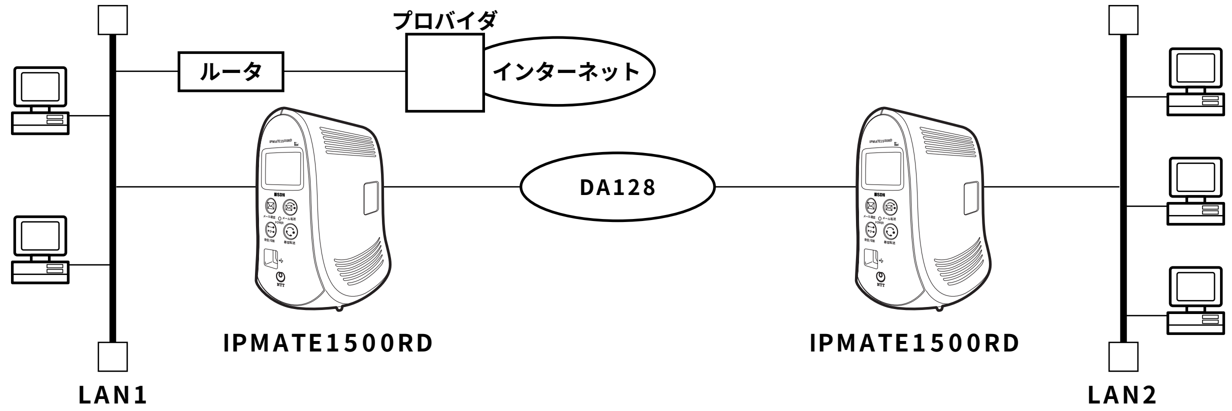
○「Quick設定」メニュー　ー　専用線／LAN間接続

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定しない	チェックする	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	192.168.1.0	スタティックルート情報1を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	回線	
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報2を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	192.168.2.10	
メトリック	1	
接続先	LAN	

これでLAN2側の設定は完了です。

27. 専用線（HSD、DA64／128）を使用して、2か所のLANを接続し、既存インターネットプロバイダを共有する
（回線側にIPアドレスを割り振る）

2か所のLANを、専用線（HSD、DA64／128）を使用して接続します。
LAN1側の既存ルータから、インターネットプロバイダに接続、回線側にIPアドレスを設定する場合について説明します。



■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 本商品のLAN側IPアドレス、サブネットマスクを既存LANに合わせて変更します。相手のLANのネットワークアドレスとは異なる値にします。
- 相手側と合わせて、PPP認証動作、ユーザID、認証パスワード、相手ユーザID、相手パスワードを設定します。
- 既存のLANにDHCPサーバがある場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「使用しない」に設定します。
- 回線側のIPアドレスを、相手と同一ネットワークになるように設定します。また、デフォルトルートは「使用しない」とし、スタティックルートを設定します。

■ 動作条件

□LAN1を構築
- LAN1側のネットワーク：192.168.1.0／24
- 回線側IPアドレス　　：192.168.3.1／24
- インターネットプロバイダへ接続する既存のルータ（192.168.1.10）を使用

□LAN2を構築
- LAN2側のネットワーク：192.168.2.0／24
- 回線側IPアドレス　　：192.168.3.2／24

□LAN1側の端末とLAN2側の端末をWindows®の共有機能を用いて資源を共有する
- 各端末への設定

■ 設定例

□LAN1側の設定

接続先の設定を行います。

①設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
　WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

②「Quick設定」メニューより「専用線／LAN間接続」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定する	チェックする	
本機IPアドレス	192.168.3.1	
マスク	24(255.255.255.0)	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	スタティックルート情報1を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	192.168.3.2	
メトリック	2	
接続先	回線	
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報2を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	192.168.1.10	
メトリック	1	
接続先	LAN	

③「専用線／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。

④［保存・再起動］ボタンを押します。再起動されます。
　本商品の液晶ディスプレイに「LINE　READY」または「Layer1 Up」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。

＊［保存・再起動］ボタンが画面に表示されないときは、メニューの［SAVE］ボタンを押してください。

＊「Layer1 Up」が表示されている場合は、接続相手の設定が完了していない、または接続相手との認証に失敗していることが考えられます。認証の設定および接続相手の設定を確認してください。

□LAN2側の設定
LAN1への接続先の設定を行います。
設定の手順は LAN1側の設定と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

＜接続先の設定＞
○「Quick設定」メニュー　ー　専用線／LAN間接続

項　目	設定例	備　考
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
回線速度	128 kbit/s	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用しない	チェックする	
回線側IPアドレスを設定する	チェックする	
本機IPアドレス	192.168.3.2	
マスク	24(255.255.255.0)	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
宛先ネットワークアドレス	0.0.0.0	スタティックルート情報を設定します。
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	192.168.3.1	
メトリック	2	
接続先	回線	

これでLAN2側の設定は完了です。

□端末の設定

LAN1側の端末とLAN2側の端末間での資源の共有をさせるための設定について説明します。

① TCP／IPプロトコルのインストール（「本商品へ接続する前の準備＜パソコンでの設定＞」参照）を行います。
各端末に、TCP／IPプロトコルをインストールします。 複数のプロトコルがインストールされている場合は、「TCP／IP」を標準プロトコルに設定します。

② IPアドレスとホスト名の対応付けを行ないます。
各端末で、接続先のIPアドレスとホスト名を対応付けます。ここでは、Windows® の場合について説明します。

例）LAN1側端末にLAN2側端末（192.168.2.2）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.2.2 lan2pc

例）LAN2側端末にLAN1側端末（192.168.1.2）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.1.2 lan1pc

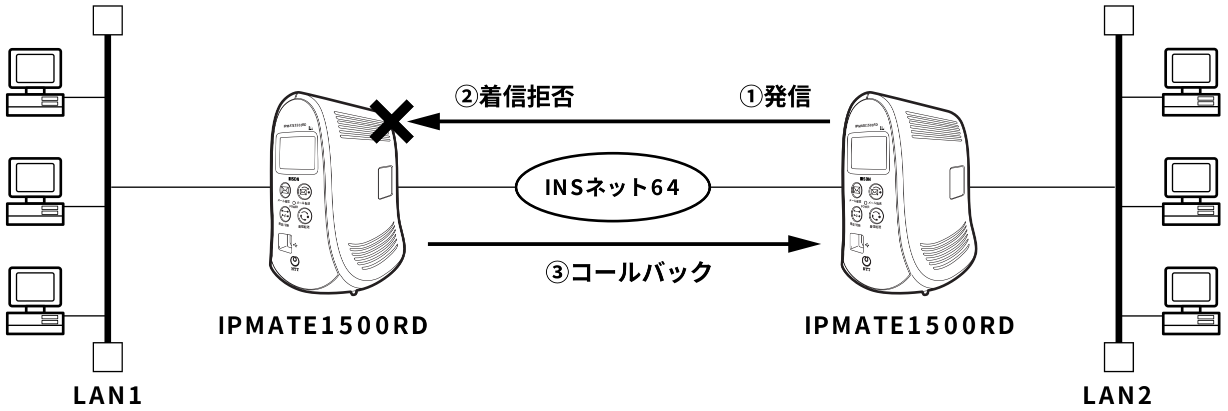
お知らせ

●指定するホスト名は、各端末に設定しているコンピュータ名にしてください。
●設定後、リモート端末の検索方法は、次のとおりです。
1）「スタート」→「検索」→「ほかのコンピュータ」
2）検索するコンピュータ名を入力 （例） lan1pc
3）対象の端末が見つかればクリックして共有リソースにアクセス

利用形態ごとの設定方法

28．コールバックを行う

INSネット64を利用してLAN間接続を行っている際、データ発着信時のコールバックを行います。着信側が発信側にコールバックをすることで、セキュリティの確保や料金の一括管理ができます。コールバックの方法には、「無課金コールバック」「CBCPコールバック」「PPPコールバック」の3つがあります。ここでは「無課金コールバック」を利用した例を説明します。「CBCPコールバック」および「PPPコールバック」については、『オンラインマニュアル』をご覧ください。



利用形態8のように、INSネット64を使用して、LAN間接続する例で説明します。

■ 設定のポイント

- 設定用のパソコンを1台決め、WWWブラウザによる設定を行います。
- 利用形態8などを使って、LANを組みます。
- 無課金コールバックをする側の装置のコールバックの設定を「応答する」、方式を「無課金」にします。
- 無課金コールバックをする側と、コールバックをしてもらう側の装置に、「発信者認証を行う」設定をします。
- 無課金コールバックをする側と、コールバックをしてもらう側の装置に、「発信者番号通知を行う」設定をします。

■ 設定例

□LAN1側の設定

①設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したあと、本商品にログインします。

LAN2への接続先の設定を行います。

②「Quick設定」メニューより「ISDN／LAN間接続」画面を選択します。

③接続先の設定をします。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	LAN2	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-3450-0000	LAN2と合わせて設定します。
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
接続方式　　発信	自動接続	
接続方式　　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN2と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	
ユーザID	Id2	
パスワード	Pw2	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

引き続き、「ISDN／LAN間接続」画面で、設定を行います。

④電話番号の設定を行います。

「電話番号（本機）」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-333-4444	INSネット64の契約にしたがってください。

⑤LAN情報の設定を行います。

「LAN側の設定」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.1.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.1.2～ 192.168.1.250	

⑥LAN2へのルート情報の設定を行います。

「スタティックルート情報」にて次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	192.168.2.0	
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	1：LAN2	

＊「常時接続」「タイマ接続」「DNS問い合わせ先の選択」の設定は不要です。初期状態のままでお使いください。

⑦「ISDN／LAN間接続」画面で[設定]ボタンを押します。

利用形態ごとの設定方法

⑧「ルータ機能」メニューから「回線接続先情報」を選択し、接続先No1（接続先名：LAN2）を選択します。
⑨「オプション」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
コールバック	応答する	
方式	無課金	

［設定］ボタンを押します。

⑩［SAVE］ボタンを押し、［保存・再起動］ボタンを押します。
再起動されます。
これでLAN1側の設定は完了です。

□LAN2側の設定
LAN1への接続情報の設定を行います。
設定の手順は「LAN1側の設定」と同様なので、ここでは設定例の一覧を示します。

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　接続先の設定

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	LAN1	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-333-4444	LAN1と合わせて設定します。
ユーザID	Id2	
パスワード	Pw2	
接続方式　発信	自動接続	
接続方式　着信	着信を許可	
相手の電話番号で認証	チェックしない	LAN1と合わせて設定します。
相手のユーザIDで認証	チェックする	
ユーザID	Id1	
パスワード	Pw1	
ProxyDNS機能を使用しない	チェックする	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　電話番号（本機）

項　目	設定例	備　考
電話番号	012-3450-0000	INSネット64の契約にしたがってください。

○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　LAN側の設定

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	192.168.2.1／24 (255.255.255.0)	
DHCPサーバ機能を使用する	チェックする	
提供IPアドレス	192.168.2.2～ 192.168.2.250	

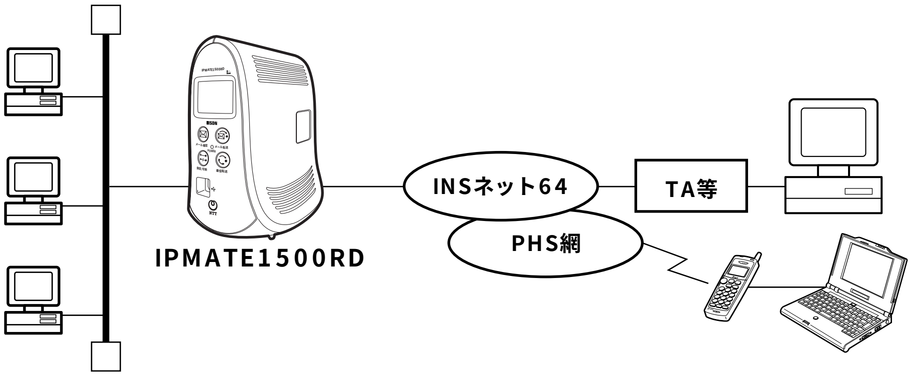
○「Quick設定」メニュー　ー　ISDN／LAN間接続　ー　スタティックルート情報

項　目	設定例	備　考
宛先ネットワークアドレス	192.168.1.0	
マスク	24(255.255.255.0)	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
メトリック	1	
接続先	1：LAN1	

利用形態ごとの設定方法

29. 遠隔地の端末からLANを利用する

アクセスサーバ機能を利用することで、INSネット64を介した遠隔地の端末から、10BASE-Tポートに接続した端末のLANに参加させることができます。
アクセスサーバ機能を利用すると、LAN側ネットワークのIPアドレスを遠隔地の端末に割り当てることができます。
外出先などから、LAN上のサーバなどにアクセスすることが可能となります。



■ 設定のポイント

- 利用形態1（☛P55）を参照して、LANを組みます。
- 本商品のアクセスサーバ機能を「使用する」に設定します。また、割り当てIPアドレスや、利用者のユーザ名、パスワードを設定します。
- 外部から不正に接続されるのを防ぐために、PPP認証を設定します。
- 遠隔地からアクセスするパソコンに、本商品へのダイヤルアップ接続を行う設定が必要です。

■動作条件

□LAN1を構築

- LAN1側のネットワーク　　　　：192.168.1.0／24
- 遠隔地の端末に割り当てるIPアドレス：192.168.1.253、192.168.1.254

■設定例

□本商品

①設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。

アクセスサーバの設定を行います。

②「ルータ機能」メニューから「アクセスサーバ」を選択します。

③「アクセスサーバ」画面で次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
アクセスサーバ機能を使用する	チェックする	
割当てIPアドレス1	192.168.1.253	
割当てIPアドレス2	192.168.1.254	
PPP認証動作	CHAP	

［設定］ボタンを押します。

④「ルータ機能」メニューの「アクセスサーバ」で「利用者」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
ユーザ名	user1	利用者1（TA端末）
パスワード	passwd1	
ユーザ名	user2	利用者2（PHS端末）
パスワード	passwd2	

⑤［SAVE］ボタンを押し、［保存・再起動］ボタンを押します。
再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN　READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。

□TA端末の設定
端末にダイヤルアップ設定を行います。

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	自動取得	
サーバの種類	TCP／のみ	
PPP設定 ユーザID	user1	本商品の設定に合わせて設定します。
PPP設定 パスワード	passwd1	

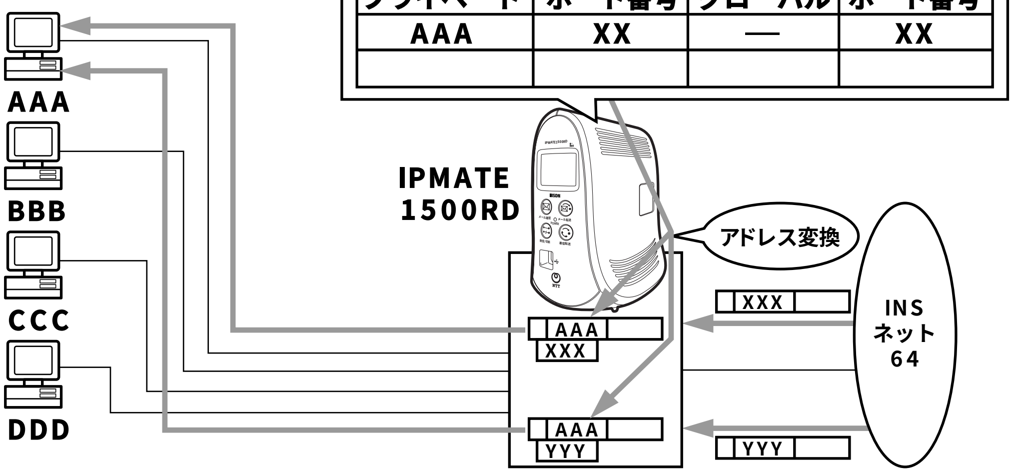
□PHS端末の設定
PHS端末に設定を行います。

項　目	設定例	備　考
IPアドレス／マスク	自動取得	
サーバの種類	TCP／IPのみ	
PPP設定 ユーザID	user2	本商品の設定に合わせて設定します。
PPP設定 パスワード	passwd2	

利用形態ごとの設定方法

30. 特定ポート番号宛のデータを受信する

いくつかのアプリケーションでは、サーバから特定のポート番号に向かってデータ送信されるものがあります。
通常のルータ接続（アドレス変換機能を使用しない）の場合であれば、問題なく通信できるのですが、アドレス変換機能（NAT）を使用すると、ルータまで届いたデータを端末に転送する段階で、どの端末にデータを転送してよいのか判断できないため、正常に通信できなくなってしまいます。
そこで、NATバインディング機能を使って、特定ポート番号宛てのデータを特定端末に転送するように設定する必要があります。
NATバインディング機能を使用するには、INSネット64を使って、インターネットに端末型ダイヤルアップ接続します。
どのポート番号を使用しているかはアプリケーションによって異なりますので、アプリケーションの開発元に確認してください。



プライベート	ポート番号	グローバル	ポート番号
AAA	XX	—	XX

■ 設定のポイント

- 利用形態1（☞P55）を参照して、LANを組みます。
- 本商品のバインディングリストを登録します。対象とするポート番号、受信する端末のIPアドレスを設定します。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用
- ポート番号「116」「118」「6112」宛のデータを、IPアドレス：192.168.1.2の端末 に転送します

■ 設定例

インターネットプロバイダAへの接続先の設定を行います。
① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。
② 「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面を選択します。

③　接続先を設定します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid	
パスワード	pass1	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	自動取得をサポートしているインターネットプロバイダでは、「DNSサーバアドレスを自動取得する」をチェックします。
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	
マルチリンクPPP機能	使用しない	

［設定］ボタンを押します。

＊「LAN側の設定」「常時接続」「タイマ接続」「接続先の選択条件」の設定は不要です。
初期状態のままでお使いください。

静的NATテーブルの設定を行います。

④「ISDN／プロバイダ接続（端末型）」画面で[設定]ボタンを押します。

⑤「ルータ機能」メニューから「回線接続先情報」を選択します。

⑥　接続先No1の「静的NAT」画面を選択し、次の項目を設定します。

項　目		設定例	備　考
グローバル	IPアドレス	空白	
	ポート番号	116	
プライベート	IPアドレス	192.168.1.2	
	ポート番号	116	
グローバル	IPアドレス	空白	
	ポート番号	118	
プライベート	IPアドレス	192.168.1.2	
	ポート番号	118	
グローバル	IPアドレス	空白	
	ポート番号	6112	
プライベート	IPアドレス	168.1.2	
	ポート番号	6112	

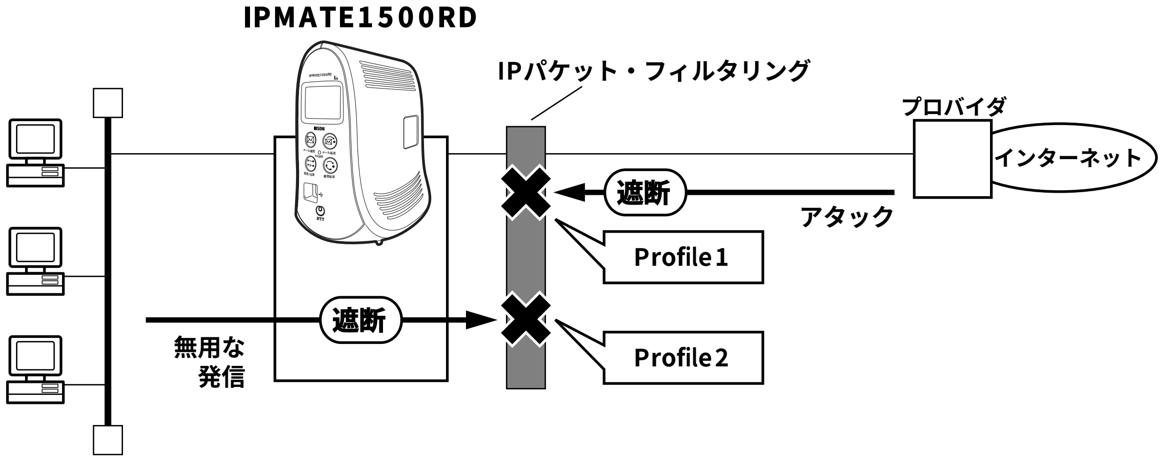
⑦　［SAVE］ボタンを押し、［保存・再起動］ボタンを押します。
再起動されます。
本商品の液晶ディスプレイに「ISDN　READY」が表示され、POWERランプが緑で点灯したら、設定完了です。

利用形態ごとの設定方法

31. IPパケット・フィルタリングを使用する

本商品ではIPパケットフィルタリングを利用することができます。これを使用することによって、インターネットプロバイダと接続したり、オフィスと接続している際、アタックなどの不正なアクセスや、不要な発信を防ぐことができます。また、特定のサービスだけを公開（利用）することもできます。
IPパケット・フィルタリングは、フィルタリングの対象とするIPパケットをWEB設定画面より定義して行います。IPパケットとは、TCPパケット、UDPパケット、ICMPパケットなどがあります。この機能を利用するには、これらのパケットや、それらを利用したサービスに関する知識が必要になります。
また、IPパケット・フィルタリングをご利用いただく場合にも、IPパケット・フィルタリングですべてのアタック（不正なアクセス）やすべての無用な発信を防ぐことはできません。

本商品では、IPパケット・フィルタリングのプリセット（Profile）をご用意しています。これを利用することで、代表的なアタック、不要な発信を防ぐことができます。



■設定のポイント

□設定可能なフィルタの数
- 接続先ごとに、フィルタを32個設定できます。

□IPパケット・フィルタリングで定義可能な内容
- 外部からのアタックをふせぐために「Profile1」を用意しています。
- 無用な発信をふせぐために「Profile2」を用意しています。
- Profile1およびProfile2以外に、フィルタ条件を設定することができます。

□外部からのアタックをふせぐためのフィルタ：Profile1の内容　（回線側INに適用）

順　序	動　作	送信アドレス	宛先アドレス	プロトコル	送信ポート	宛先ポート
1	遮断	LAN側ネットワークアドレス	＊	＊	＊	＊
2	遮断	＊	LAN側ブロードキャストアドレス	＊	＊	＊
3	透過	＊	＊	TCP	＊	Domain(53)
4	透過	＊	＊	TCP	＊	Ident（113)
5	透過	＊	＊	TCP	FTPdata(20)	＊
6	遮断	＊	＊	TCPEST	＊	＊

- 順序1：LAN側ネットワークアドレスを送信アドレスとするパケットによるアタックを防ぐ。
- 順序2：LAN側ブロードキャストアドレスを宛先とするパケットによるアタックを防ぐ。
- 順序3：DNSを透過させる。（UDPはデフォルト透過)
- 順序4：SMTP（メール）でよく使われているIDENT（認証プロトコル）を透過させることで、 メール転送の遅延を防ぐ。
- 順序5：LAN側からのFTPを使用可能にするためftpdataを透過させる。
- 順序6：回線側からのTCPコネクションの確立を許可しない。

□無用な発信をふせぐためのフィルタ：Profile2の内容（回線側OUTに適用）

順　序	動　作	送信アドレス	宛先アドレス	プロトコル	送信ポート	宛先ポート
1	接続中のみ透過	＊	＊	TCPFIN+TCPRST	＊	＊
2	遮断	＊	＊	TCP+UDP	137-139	＊
3	遮断	＊	＊	TCP+UDP	＊	137-139

- 順序1：TCPの終了を表すTCPFINおよびTCPRSTパケットで発呼する必要がないため、接続中のみ透過とする。
- 順序2、3：NetBIOSのパケット送受信を制限する。

□定義できるフィルタ条件

次の内容を組み合わせて定義することができます。

- ・送信元IPアドレス　送信元IPアドレスの始点／終点の指定（範囲指定）
  送信元IPアドレスのネットワークアドレスとマスク値
- ・宛先IPアドレス　宛先IPアドレスの始点／終点の指定（範囲指定）
  宛先IPアドレスのネットワークアドレスとマスク値
- ・送信元ポート番号　送信元ポート番号の始点／終点の指定（範囲指定）
  送信元ポート番号の番号指定
  特定プロトコルの選択
  （E-mail／FTP／TELNET／WWW／DNS／NEWS／NetBIOS／すべて）
- ・宛先ポート番号　宛先ポート番号の始点／終点の指定（範囲指定）
  特定プロトコルの選択
  （E-mail／FTP／TELNET／WWW／DNS／NEWS／NetBIOS／すべて）

・プロトコル　　　　　番号指定　または　すべて
TCP、UDP、ICMPなどのプロトコルの選択
（ICMP／UDP／TCP／TCP+UDP／TCPEST／TCPFIN＋TCPRST）
・フィルタ動作　　　　透過　／　接続中のみ透過　／　遮断
＊それぞれについて、ログを残すことができます。
＊専用線をご利用の場合のフィルタ動作は「透過」と「遮断」だけです。
詳細について、付属のCD-ROM内『オンラインマニュアル』を参照してください。

■IPパケット・フィルタリングの設定例

一般的なフィルタ定義の操作方法について、説明します。定義したいフィルタ内容によって、設定内容が変わります。代表的なIPパケット・フィルタの設定例を利用形態32以降に掲載しています。

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。
② 接続先の設定を行います。
「Quick設定」メニュー内の各画面の「接続先の設定」、または［ルータ機能／回線接続先情報］画面で設定をしてください。
③ フィルタリングをしたいIPパケットのフィルタ定義を行います。
すでに用意されているプロファイル（Profile1またはProfile2）を利用する場合には、ここでの定義（設定）は必要ありません。
1)「ルータ機能」メニューより「フィルタ情報」を選択します。
2)「IPフィルタ」画面を選択します。
3)「IPフィルタ」画面で［追加］ボタンを押して、IPパケットのフィルタ定義をします。
4)「IPフィルタ」画面で［設定］ボタンを押します。
④ 接続先に対して、IPパケット・フィルタの設定を行います。
初期状態では、すでに回線側の接続先にはすべて「Profile1」と「Profile2」を使ってフィルタリングを行う設定になっています。

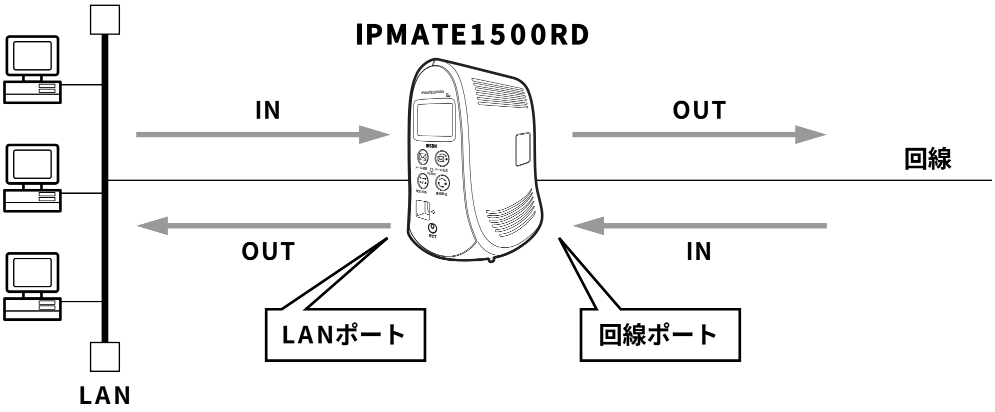
1つの接続先に合計32個のフィルタ定義を設定できます。Profile1とProfile2で合計32個のフィルタ定義に相当するので、この2つを使用する場合に、これ以上のフィルタ定義を行うことはできません。
Profile1またはProfile2の欄で[変更]ボタンを押し、エントリの定義をし直してください。

1）「ルータ機能」メニューより「フィルタ情報」を選択します。
2）「IPフィルタ接続先指定」画面を選択します。
3）接続先の番号を選択します。「LAN」または回線接続先番号No1〜No16（専用線の場合は「回線」のみ）より選択します。
4）画面に選択した接続先の現在のフィルタ定義設定内容が表示されます。
フィルタ定義を設定する場所（評価順序）は指定できるので、［追加］ボタン左横の「「先頭」に」プルダウンより、評価順序を指定したあと、［追加］ボタンを押します。
フィルタ定義選択のポップアップ画面が表示されます。

すでに登録済みの定義を変更する場合には、［変更］ボタンを押します。
フィルタ定義選択のポップアップ画面が表示されます。

登録済みの定義を削除する場合には、エントリのチェックボックスにチェックをいれて削除ボタンを押します。
5）ポップアップ画面で設定するフィルタ定義を選択します。
＊Profile1を使用する場合　⇒　「Profile1（外部からのアタックをふせぐ)」を選択

＊Profile2を使用する場合　⇒　「Profile2（無用な発信をふせぐ)」を選択
＊「IPフィルタ」画面で定義したフィルタを選択指定します。
5)-1「フィルタ番号・フィルタ名」の項目より、使用するフィルタ定義を選択します。
5)-2「方向（IN　／　OUT　／　IN／OUT)」を指定します。
接続先が「回線接続先（回線ポート)」か「LAN（LANポート)」かによって「IN」「OUT」の意味が異なります。
IN　：　LANポートからみて「LAN側からの受信」、回線ポートからみて「回線側からの着信」を意味します。
OUT ：LANポートからみて「LAN側への送信」、回線ポートからみて「回線側へ発信」を意味します。
IN/OUT：LANポート、回線ポートとも、「受信（着信)」「送信（発信)」の両方を意味します。



6）ポップアップ画面で［設定］ボタンを押します。
　これで、本商品の動作に反映され、IPパケット・フィルタリングが動作します。
7）引き続いて、フィルタ定義の設定を行う場合には、4)〜6)を繰り返します。
　設定できるフィルタ定義数は32個までです。
8）接続先を変えて設定を行う場合には、3)〜7)を繰り返します。

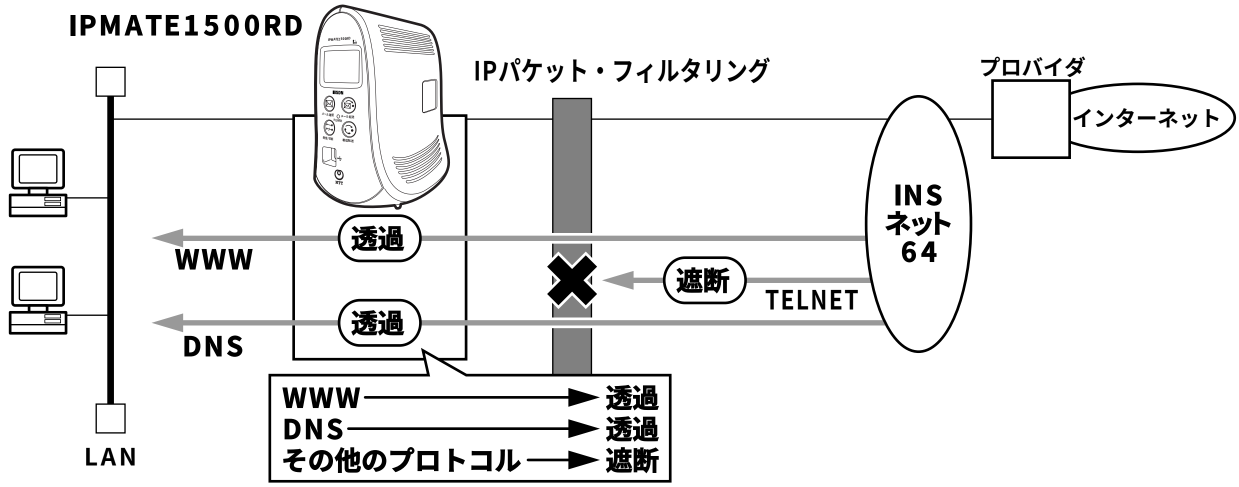
■IPパケット・フィルタリングの設定事例
次の事例をご紹介します。それぞれ、WEB画面での設定例を説明しています。
- 特定データのみ透過する（IPパケット・フィルタリングを利用する）
- LAN間接続時に、IPパケット・フィルタリングを行う

また、次の事例については、付属のCD-ROM内「オンラインマニュアル」の「利用形態」にてご紹介しています。
- 外部からのアタックをふせぐ　〜IPスプーフィングアタック
- 外部からのアタックをふせぐ　〜Landアタック
- 外部からのアタックをふせぐ　〜smurfアタック
- 回線側からのTCPコネクションの確立をふせぐ
- 無用な発信をおさえる
- 特定サービスを利用（公開）する　〜SMTP（メールサーバ）を公開するフィルタ
- 特定サービスを利用（公開）する　〜HTTP（WWWサーバ）を公開するフィルタ
- 特定サービスを利用（公開）する　〜TELNETサーバを公開するフィルタ
- 特定サービスを利用（公開）する　〜FTPサーバを公開するフィルタ

これ以外のIPパケット・フィルタリングを行いたい場合には、『オンラインマニュアル』の機能説明または画面説明をご覧ください。

32. 特定データのみ透過する

INSネット64を使用して、インターネットに端末型ダイヤルアップ接続し、特定のプロトコルのみ透過させます。
ISDN回線を用いてインターネットプロバイダと接続し、その際、回線からのアクセス時にWWWとDNSデータのみ透過にし、他のプロトコルは遮断とする設定について説明します。



■ 設定のポイント

- 利用形態1（☞P55）を参照して、LANを組みます。
- IPパケット・フィルタリングに使用するフィルタ定義を登録します。
- フィルタを適用する接続先にフィルタ定義を設定します。接続先のNoと、フィルタ定義（および方向）を設定します。

■ 動作条件

□インターネットプロバイダAに接続
- インターネットプロバイダ指定のDNSサーバ（100.101.102.103と100.101.102.104）を使用。
- 「WWW」「DNS」データのみ透過させます。

■ 設定例

インターネットプロバイダへの接続先の設定を行います。

① 設定用のパソコンを1台決め、パソコンを本商品に接続します。
WWWブラウザを起動したのち、本商品にログインします。
② 「Quick設定」メニューより「ISDN／プロバイダ接続（端末型)」を選択します。
③ 接続先を設定します。「接続先の設定」で［追加］ボタンを押して、次の項目を設定します。

項　目	設定例	備　考
No	No1	
接続先名	ISP	任意の名前を設定します。
接続先電話番号	012-345-0000	インターネットプロバイダとの契約内容にしたがって設定します。
ユーザID	Uid	
パスワード	pass1	
接続方式	自動接続	
ProxyDNS機能を使用する	チェックする	
(アドレス入力欄の) DNSサーバアドレスを使用する	チェックする	
プライマリDNSサーバアドレス	100.101.102.103	
セカンダリDNSサーバアドレス	100.101.102.104	

[設定]ボタンを押します。

続いて、IPフィルタの定義を行います。
④「ルータ機能」メニューで「フィルタ情報」を選択します。
⑤「IPフィルタ」画面を選択します。
○フィルタ定義のエントリNo1

項　目	設定例	備　考
フィルタ番号・フィルタ名	1:WWW1	
送信元IPアドレス	なし（空欄のまま）	
宛先IPアドレス	なし（空欄のまま）	
送信元ポート番号	ラジオボタン：プロトコルによる指定 選択：WWW	
宛先ポート番号	ラジオボタン：範囲指定 入力：なし（空欄のまま）	
プロトコル	TCP	
動作	透過	

○フィルタ定義のエントリNo2

項　目	設定例	備　考
フィルタ番号・フィルタ名	2:WWW2	
送信元IPアドレス	なし（空欄のまま）	
宛先IPアドレス	なし（空欄のまま）	
送信元ポート番号	ラジオボタン：範囲指定 選択：なし（空欄のまま）	
宛先ポート番号	ラジオボタン：プロトコルによる指定 選択：WWW	
プロトコル	TCP	
動作	透過	

利用形態ごとの設定方法

○フィルタ定義のエントリNo3

項　目	設定例	備　考
フィルタ番号・フィルタ名	3:DNS1	
送信元IPアドレス	なし（空欄のまま）	
宛先IPアドレス	なし（空欄のまま）	
送信元ポート番号	ラジオボタン：プロトコルによる指定 選択：DNS	
宛先ポート番号	ラジオボタン：範囲指定 選択：なし（空欄のまま）	
プロトコル	TCP＋UDP	
動作	透過	

○フィルタ定義のエントリNo4

項　目	設定例	備　考
フィルタ番号・フィルタ名	4:DNS2	
送信元IPアドレス	なし（空欄のまま）	
宛先IPアドレス	なし（空欄のまま）	
送信元ポート番号	ラジオボタン：範囲指定 選択：なし（空欄のまま）	
宛先ポート番号	ラジオボタン：プロトコルによる指定 選択：DNS	
プロトコル	TCP＋UDP	
動作	透過	

○フィルタ定義のエントリNo5

項　目	設定例	備　考
フィルタ番号・フィルタ名	5:all	
送信元IPアドレス	なし（空欄のまま）	
宛先IPアドレス	なし（空欄のまま）	
送信元ポート番号	ラジオボタン：プロトコルによる指定 選択：すべて（指定なし）	
宛先ポート番号	ラジオボタン：プロトコルによる指定 選択：すべて（指定なし）	
プロトコル	すべて（指定なし）	
動作	遮断	

接続先No1にIPパケット・フィルタリングのフィルタ定義を設定します。
⑥「IPフィルタ接続先指定」画面を選択します。

⑦　接続先を選択します。画面に、指定した接続先のフィルタ定義の設定内容が表示されます。1つの接続先に設定できるフィルタ定義数は32個までです。
すでに、Profile1とProfile2の両方が登録済みの場合には、どちらかを削除します。

項　目	設定例	備　考
接続先	1:ISP	

⑧　評価順序を選択し、［追加］ボタンを押します。

項　目	設定例	備　考
評価順序	先頭	

フィルタ定義を設定するポップアップ画面が表示されます。

項　目	設定例	備　考
フィルタの選択	5:all	
方向	IN/OUT	

[設定]ボタンを押します。

⑨　さらに、接続先No1にフィルタ定義を設定します。評価順序を選択し、［追加］ボタンを押します。

項　目	設定例	備　考
接続先	1:ISP	
評価順序	先頭	

フィルタ定義を設定するホップアップ画面が表示されます。

項　目	設定例	備　考
フィルタの選択	4:DNS2	
方向	IN/OUT	

[設定]ボタンを押します。

⑩　さらに、接続先No1にフィルタ定義を設定します。評価順序を選択し、［追加］ボタンを押します。

項　目	設定例	備　考
接続先	1:ISP	
評価順序	先頭	

フィルタ定義を設定するホップアップ画面が表示されます。

項　目	設定例	備　考
フィルタの選択	3:DNS1	
方向	IN/OUT	

[設定]ボタンを押します。

利用形態ごとの設定方法

⑪　さらに、接続先No1にフィルタ定義を設定します。評価順序を選択し、［追加］ボタンを押します。

項　目	設定例	備　考
接続先	1：ISP	
評価順序	先頭	

フィルタ定義を設定するポップアップ画面が表示されます。

項　目	設定例	備　考
フィルタの選択	2：WWW2	
方向	IN／OUT	

[設定]ボタンを押します。

⑫　さらに、接続先No1にフィルタ定義を設定します。評価順序を選択し、［追加］ボタンを押します。

項　目	設定例	備　考
接続先	1：ISP	
評価順序	先頭	

フィルタ定義を設定するポップアップ画面が表示されます。

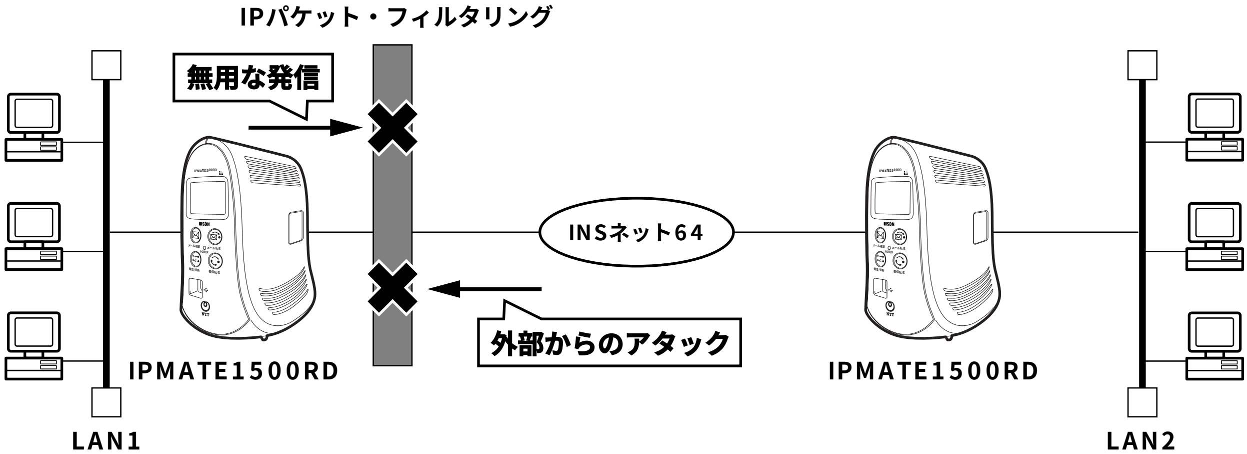
項　目	設定例	備　考
フィルタの選択	1：WWW1	
方向	IN／OUT	

[設定]ボタンを押します。

⑬　これで設定は完了です。設定内容はすぐに動作に反映されます。

33. LAN間接続時に、IPパケット・フィルタリングを行う

LAN間接続時、IPパケット・フィルタリングを行う例について説明します。



本商品の初期状態では、各回線接続先に、すでに「Profile1」と「Profile2」が登録済みです。このままでは、LAN間接続時に外部との通信ができなくなるおそれがあります。
LAN間接続時に使用する回線接続先について、Profile1とProfile2の登録を削除して、新たに、適切なフィルタ設定を行ってください。

■設定のポイント

- 利用形態8、または利用形態9など、LAN間接続の利用形態の説明を利用して、LANを組みます。
- IPパケット・フィルタリングに使用するフィルタ定義を登録します。
- フィルタを適用する接続先にフィルタ定義を設定します。接続先のNoと、フィルタ定義（および方向）を設定します。

■設定例

- 利用形態32（☞P146）と同様に操作してください。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 基本機能

一般のアナログ回線で使用している電話機やファクス、モデムなどを使用できます。ダイヤル式（DP）の電話機は使用できません。

電話をかけるには（発信）

ワンポイント

● **＃ボタンをダイヤルとして使用するには**
ダイヤル終了識別ボタンを「識別しない」（＃ボタンを押しても発信しない）に設定するか、「##で識別する」（＃ボタンを2回押すと発信する）に設定してください。

● **サブアドレスを追加して発信するには**
相手の方の電話番号（アドレス）を押したあとに＊ボタンを押し、サブアドレスの番号を押します。
<例>0312345678＊12345
（0312345678：電話番号、12345：サブアドレス）

● **電話番号・サブアドレスについて**
電話番号の最大桁数は32桁（⓪～⑨、＃）、サブアドレスの最大桁数は19桁（⓪～⑨）です。

● **ファクス・モデムの発信**
接続しているファクス・モデムの操作方法に従って操作してください。

● **発信者番号を通知するには**
INSネット64には発信者番号通知サービスがあります。このサービスを利用すると、発信したときポートごとに設定した発信者番号を相手の方へ通知することができます。
（☞P165、167）

● **受話音量を調整するには**
受話音量を調整（小・中・大）できます。（☞P177）

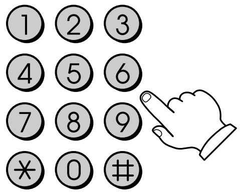
● **停電のとき**
TEL1ポートに接続した電話機だけを使うことができます。（☞P28）

● **発信専用の電話機としてご利用になるには**
外からの電話を受けず発信専用にする場合は、WWWブラウザでの設定により［装置／電話番号］画面の各電話番号のアナログ着信を「着信しない」に設定してください。

1 ハンドセットを取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 電話番号をダイヤルボタンで押します。



3 ダイヤルが終わったら＃ボタンを押します。

「プルプル、プルプル、…」という呼出音が聞こえます。

4 相手の方が出たら、お話しください。

5 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

お知らせ

● ダイヤル中にダイヤル桁間タイマに設定（お買い求め時：4秒）した間隔をあけるとダイヤルの途中でも発信します。同様に、ダイヤル終了後、ダイヤル桁間タイマで設定した時間が経過すると、＃ボタンを押さなくても発信します。ダイヤル終了識別ボタン、ダイヤル桁間タイマの設定は変更できます。
● 続けて電話をご利用になる場合は、ハンドセットを2秒以上置いてからダイヤルしてください。
● 次の場合は話中音が聞こえます。
- 2つのBチャネルをすでに使用している場合
ただし、電話やファクスを優先する設定になっている場合は、話中音とならず電話をかけることができます。（☞P170）
- サブアドレスとして数字（⓪～⑨）以外をダイヤルしたとき
- アドレスを33桁以上または、サブアドレスを20桁以上ダイヤルしたとき

● 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（受話音量の調整：機能番号17、ダイヤル終了識別ボタンの変更：機能番号75、ダイヤル桁間タイマの設定：機能番号74 ☞P227、229）

外から電話がかかってくると、アナログポート（TEL1、TEL2）に接続された両方の電話機の着信音が鳴ります。優先着信ポートを指定することもできます。

電話を受けるには（着信）

お知らせ

- ダイヤルインやｉ・ナンバーで複数の電話番号を利用する場合、TEL1、TEL2ポートごとに電話番号を割り当て、別々の番号で着信させることができます。（☛P161、164）
- TEL2ポートに電話機を接続しない場合は、WWWブラウザの設定により、［装置／電話番号］（電話番号）画面の「グローバル着信」のアナログ着信を「両ポートで着信」から「TEL1ポートのみ着信」に設定してください。
- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号：40〜48☛P224）

1 着信音が鳴ります。

2 ハンドセットを取りあげて、相手の方とお話しください。

3 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

ワンポイント

● **優先着信ポート指定とは（☛P168）**

- WWWブラウザでの設定により［装置／電話番号］画面の電話番号ごとのアナログ着信を「TEL1ポートのみ着信」に設定すると、外から電話がかかってきた場合に必ずTEL1ポートに着信します。
  「TEL1ポート優先着信」に設定すると、TEL1ポートが使用中の場合は､TEL2ポートに着信します。
  ただし、TEL1ポートで、キャッチホン（☛P154、187）を利用している場合は、TEL2ポートに着信しません。
- 同様に「TEL2ポートのみ着信」に設定すると、外から電話がかかってきた場合に必ずTEL2ポートに着信します。
  「TEL2ポート優先着信」に設定すると、TEL2ポートが使用中の場合は､TEL1ポートに着信します。
  ただし、TEL2ポートで、キャッチホンを利用している場合は、TEL1ポートに着信しません。

● **着信専用の電話機としてご利用になるには**

電話をかけられないようにする場合は、発信規制を設定してください。（☛P178）ただし、この場合でも内線通話や内線転送は可能です。

● **お話し中に別の相手からの電話を受けるには**

相手の方とお話し中に、別の方からの電話を受けることができます。
INSキャッチホン（☛P187）
疑似キャッチホン（☛P154）
INSマジックボックス（☛P175）

● **停電のとき**

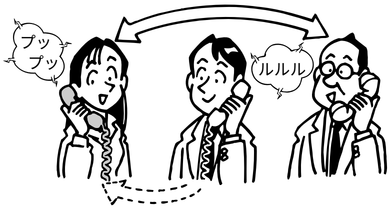
TEL1ポートに接続した電話機だけを使うことができます。（☛P28）

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 基本機能

疑似キャッチホンを設定すると、フレックスホンサービス（キャッチホン）を契約していなくても、外の相手の方とお話し中に別の相手の方から電話がかかってきたとき、お話し中の方を保留にして、かけてきた方とお話しすることができます。

通話中にかかってきた電話を受けるには（疑似キャッチホン）

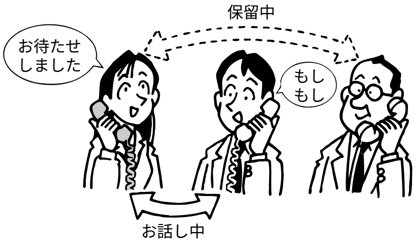
1 外の相手の方とお話し中に「プッ プッ、プッ プッ…」という着信音が聞こえます。



2 外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

かけてきた相手の方に切り替わります。

3 かけてきた相手の方とお話しください。



保留にした相手の方には、「プッ プッ、プッ プッ…」という保留音が流れます。

4 もう一度フッキングを行うと、前の相手の方とお話しできます。

ワンポイント

●**疑似キャッチホンを設定するには**
WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1ポート／TEL2ポート）画面でキャッチホンの設定を「疑似キャッチホン」にします。

●**お話し中に電話をかけてきた方の電話番号を確認するには**
INSナンバー･ディスプレイ（☞P171）をご契約になり、本商品で疑似キャッチホンを設定すると、お話し中に電話をかけてきた相手の方の電話番号を、キャッチホン・ディスプレイ対応のアナログ通信機器に表示することができます。（☞P173）

●**2本のBチャネル使用中にキャッチホンを行うには（INSキャッチホン）**
INSネット64のフレックスホンサービス（有料）のキャッチホンを契約すると、2本のBチャネルの使用中でも、キャッチホンを利用できます。（☞P187）

お知らせ

- 疑似キャッチホンのご利用には、INSネット64の付加サービス契約は必要ありません。
- 疑似キャッチホンはBチャネル2本を使用するため、以下の制限があります。
  - 2つのアナログポートで同時に疑似キャッチホンを利用することはできません。
  - Bチャネル2本を同時に使用しているときは疑似キャッチホンを利用することはできません。
  - お話し中は、本商品に接続した他の機器では通信できません。
  - 新たな着信は受けられません。
- 疑似キャッチホン中に相手の方とお話しが終わり、ハンドセットを置くと、着信音が鳴ります。ハンドセットを取りあげると、保留にしていた方と、またお話しができます。
- フッキングとは、電話機のフックスイッチ（またはキャッチボタン）を押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れてしまうことがあります。

- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号02☛P229）

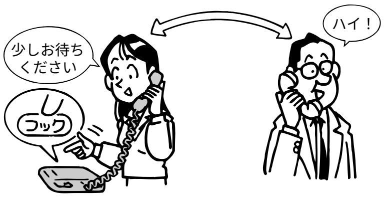
アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 基本機能

外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけ、お話し中の相手の方と呼び出した相手の方を切り替えながらお話しすることができます。

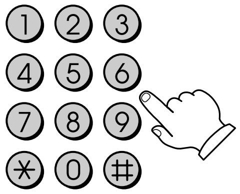
3人でお話しするには（疑似三者通話：切替モード）

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

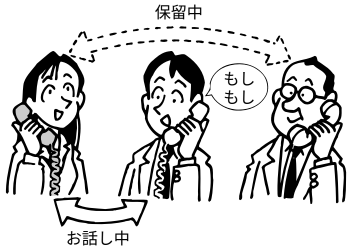
「プッププッ…」という発信音が聞こえます。



2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押し、#ボタンを押します。



3 相手の方が出たらお話しください。



ワンポイント

● **#ボタンをダイヤルとして使用するには**
WWWブラウザでの設定により［電話］（共通）画面のダイヤル識別終了ボタンを「識別しない」（#ボタンを押しても発信しない）に設定するか、「##で識別する」（#ボタンを2回押すと発信する）に設定してください。

● **フッキングとは**（☞P181）

● **切替モードとは**
お話し中の相手の方と保留中の相手の方を切り替えながらお話しすることです。

● **3人で同時に通話するには**
INSネット64のフレックスホンサービス（有料）の三者通話を契約すると、1本のBチャネルを使い3人で同時に通話できます。

4 前の方とお話しするには、もう一度フッキングを行います。

前の相手の方に切り替わります。

5 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

お知らせ

- 疑似三者通話のご利用には、INSネット64の付加サービス契約は必要ありません。
- 疑似三者通話はBチャネル2本を使用するため、以下の制限があります。
  - 2つのアナログポートで同時に疑似三者通話を利用することはできません。
  - Bチャネル2本を同時に使用しているときは疑似三者通話を利用することはできません。
  - お話し中は、本商品に接続した他の機器では通信できません。
  - 新たな着信は受けられません。
- 疑似三者通話の料金は、それぞれ発信を行った方の通話料金となります。
- 疑似三者通話（切替モード）中にハンドセットを置くと着信音が鳴ります。ハンドセットを取りあげると、保留にしていた方とまたお話しができます。
- 手順2で、別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押している途中にダイヤル桁間タイマ設定値（お買い求め時：4秒）の間隔をあけると、操作の途中でも発信してしまいます。また、ダイヤル終了後、ダイヤル桁間タイマで設定した時間が経過すると、#ボタンを押さなくてもダイヤルは発信されます。
- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号02☛P229）

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 基本機能

もう一方のアナログポートに接続された電話機を呼び出して、お話しすることができます。

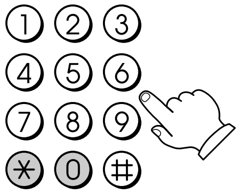
内線でお話しするには（内線通話）

1 ハンドセットを取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ＊＊0をダイヤルボタンで押します。

「プルプル、プルプル…」という呼出音が聞こえます。



3 呼び出された方が応答したら、お話しください。

4 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

お知らせ

- INSネット64に本商品を接続していない場合でも、内線通話は利用できます。
- 相手の方がお話し中のときは、話中音が聞こえます。

ワンポイント

- **内線通話中に外から電話がかかってきたときは**
  疑似キャッチホン（☞P154）およびINSキャッチホン（☞P187）の設定により以下のようになります。
  - キャッチホンを「使用しない」に設定してある場合は、内線通話中の電話機では電話を受けられません。
  - TEL1ポートに疑似キャッチホンまたはINSキャッチホンを設定しておくと、外から電話がかかってきたとき、TEL1ポートに接続した電話機で「プップッ、プップッ…」という着信音が聞こえます。
  - TEL2ポートに疑似キャッチホンまたはINSキャッチホンを設定しておくと、外から電話がかかってきたとき、TEL2ポートに接続した電話機で「プップッ、プップッ…」という着信音が聞こえます。
- **内線通話中に外からの電話を受けるには**
  「プップッ、プップッ…」という着信音が聞こえた電話機でフッキングすると、電話をかけてきた相手の方とお話しができます。このとき、内線通話をしていた相手の方には保留音が聞こえます。
  または、「プップッ、プップッ…」という着信音が聞こえた電話機のハンドセットを置くと、着信音が鳴りますのでハンドセットを取りあげると電話をかけてきた相手の方とお話しができます。
  このとき、内線通話は切断されます。
- **お話し中に電話をかけてきた方の電話番号を確認するには**
  - 疑似キャッチホンをご利用の場合（☞P154、173）
  - INSキャッチホンをご利用の場合（☞P173、187）

外の相手の方との電話を他の内線電話機に取りつぎます。TEL1、TEL2ポートのどちらのポートに接続した電話機からも同じ操作で取りつぐことができます。

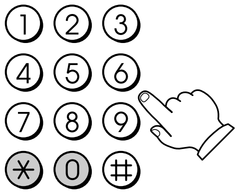
外からの電話を取りつぐには（内線転送）

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくよう伝え、フッキングします。

保留にした外の相手の方には、「プップッ、プップッ…」という保留音が流れます。

2 ㊍㊍⓪をダイヤルボタンで押します。

「プルプル、プルプル…」という呼出音が聞こえます。



3 呼び出された方が応答したら、転送することを伝えます。

4 ハンドセットを置きます。

ワンポイント

- **フッキングとは（☞P181）**
- **相手が応答する前に転送するには**
  手順2の呼び出し中にハンドセットを置くと相手が応答する前に転送することができます。

お知らせ

- 手順1のフッキングをしたあとにハンドセットを置くと、着信音が鳴ります。ハンドセットを取りあげると、保留にしていた方と、またお話しができます。
- 相手の方が応答しなかった場合は、フッキングすると外の相手の方とのお話しに戻ることができます。
- 内線通話後に転送先がハンドセットを置くと、話中音が聞こえますので、ハンドセットを置いてください。すぐに、着信音が鳴り、ハンドセットを取りあげると、外の相手の方との通話に戻ります。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 基本機能

疑似なりわけ

疑似なりわけは、あらかじめ登録した電話番号からの着信があった場合、通常とは異なる着信音を鳴らす機能です。この機能は相手が通知する発信者番号をもとに、登録済みの電話番号と照合して鳴り分けを行います。発信者番号が通知されるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、ディジタル携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。一般の電話網からの着信を識別するには、当社とのINSナンバー・ディスプレイ（有料）の契約が必要です。
疑似なりわけを利用するには、WWWブラウザでの設定により［電話］（発信者番号識別）画面に相手の電話番号を登録し、着信許可設定を「許可」に、呼出音の種類を「呼出音1」または「呼出音2」に設定します。

ワンポイント

●INSネット64のINSなりわけサービス（有料）を契約すると、相手の着信音を変えるだけでなく、登録した相手のみ着信させたり、通信中に着信を知らせるなどの利用ができます。また、この場合、INSナンバー・ディスプレイ（有料）の契約をしていなくても、電話網からの着信を鳴り分けの対象とできます。

お知らせ

●相手が発信者番号を通知しないで電話をかけてきた場合、疑似なりわけは動作せず、通常の着信音が鳴ります。
●疑似なりわけの電話番号にサブアドレスを含めて登録した場合、サブアドレスが通知されないと、通常の着信音が鳴ります。
●疑似なりわけの電話番号は、必ず市外局番から登録してください。
●アナログ通信機器によっては、通常の着信音と呼出音1、または呼出音2の着信音が同じに聞こえることがあります。
●本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号07☛P229）
●呼出音は、「鳴らさない」を指定することもできます。
この場合、呼出音は鳴りませんが、電話を受けることはできます。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート)、RS-232Cポート、USBポート、10BASE-Tポート共通

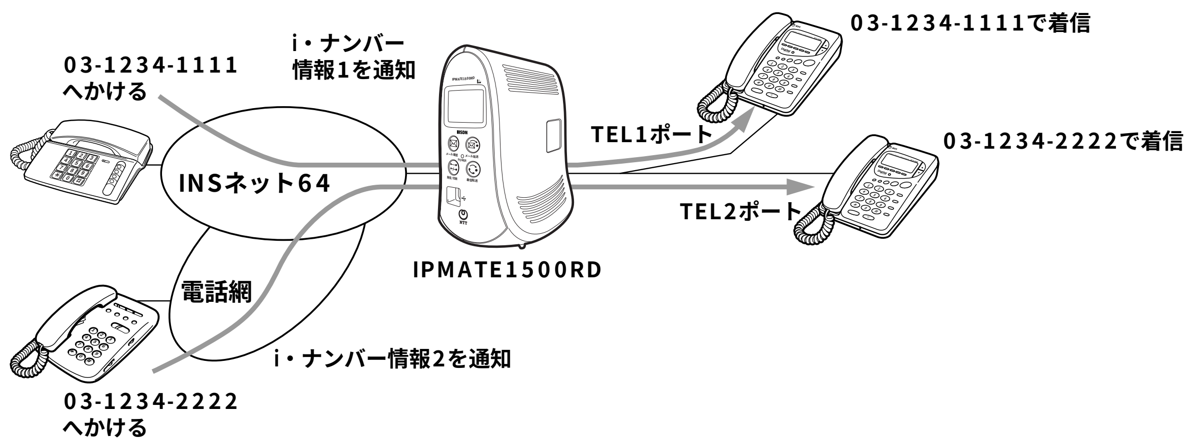
i・ナンバー

i・ナンバー（有料）をご契約になると、最大3つの電話番号を持つことができます。

1つ目の電話番号（契約者回線番号）が i・ナンバー情報1、2つ目の電話番号（追加番号1）が i・ナンバー情報2、3つ目の電話番号（追加番号2）がi・ナンバー情報3となります。

相手の方が電話をかけてきたときに通知される i・ナンバー情報ごとに、着信するポートを特定することができます。
なお、i・ナンバーはTELポートのみではなく、USBポート、RS-232Cポート、10BASE-Tポートに対しても設定できます。

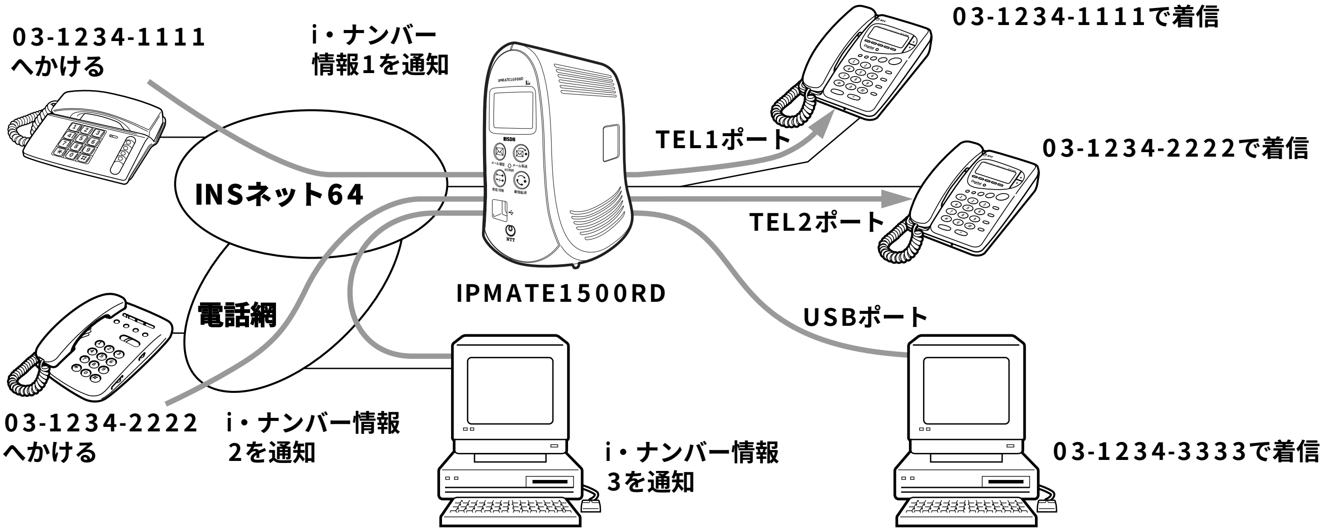
■例1：03-1234-1111（契約者回線番号）での着信はTEL1ポートに、03-1234-2222（追加番号）での着信はTEL2ポートにする場合



●回線契約と設定

		i・ナンバー情報1	i・ナンバー情報2
回線契約		i・ナンバーを契約する	
		契約者回線番号（03-1234-1111）と追加番号（03-1234-2222）が割り当てられる	
設定	[装置／電話番号] 画面 i・ナンバーを使用する	使用する	
	[装置／電話番号] 契約者回線番号または i・ナンバー情報1／ダイヤルイン追加番号1またはi・ナンバー情報2	03-1234-1111	03-1234-2222
	[装置／電話番号] 画面 アナログ着信	TEL1ポートのみ着信	TEL2ポートのみ着信
	[電話]（TEL1ポート）画面 発信者番号通知	契約者回線番号またはｉ・ナンバー情報1	
	[電話]（TEL2ポート）画面 発信者番号通知	追加番号1またはｉ・ナンバー情報2	

■例2：03-1234-1111（契約者回線番号）での着信はTEL1ポートに、03-1234-2222（追加番号）での着信はTEL2ポートに、03-1234-3333（追加番号）での着信はUSBポートにする場合



●回線契約と設定

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>i・ナンバー情報1</th><th>i・ナンバー情報2</th><th>i・ナンバー情報3</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">回線契約</td><td colspan="3">i・ナンバーを契約する</td></tr>
<tr><td colspan="3">契約者回線番号（03-1234-1111）と、追加番号（03-1234-2222)、追加番号（03-1234-3333）が割り当てられる</td></tr>
<tr><td rowspan="11">設定</td><td>[装置／電話番号]（電話番号）画面
i・ナンバーを使用する</td><td colspan="3">使用する</td></tr>
<tr><td>[装置／電話番号] 画面
契約者回線番号または i・ナンバー情報1／追加番号1または i・ナンバー情報2／追加番号2またはi・ナンバー情報3</td><td>03-1234-1111</td><td>03-1234-2222</td><td>03-1234-3333</td></tr>
<tr><td>[装置／電話番号] 画面
アナログ着信</td><td>TEL1ポートのみ着信</td><td>TEL2ポートのみ着信</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td>[装置／電話番号] 画面
LAN着信</td><td>着信しない</td><td>着信しない</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td>[装置／電話番号] 画面
TA着信 USB</td><td>着信しない</td><td>着信しない</td><td>着信する</td></tr>
<tr><td>[装置／電話番号] 画面
TA着信 RS-232C</td><td>着信しない</td><td>着信しない</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td>[電話]（TEL1ポート）画面
発信者番号通知</td><td colspan="3">契約者回線番号または i・ナンバー情報1</td></tr>
<tr><td>[電話]（TEL2ポート）画面
発信者番号通知</td><td colspan="3">追加番号1または i・ナンバー情報2</td></tr>
<tr><td>[TA機能]（RS-232C）画面
発信者番号通知</td><td colspan="3">通知しない</td></tr>
<tr><td>[TA機能]（USB）画面
発信者番号通知</td><td colspan="3">追加番号2または i・ナンバー情報3</td></tr>
</table>

お知らせ

●「i・ナンバーを使用する」とし、契約者回線番号および追加番号を設定した場合は、初期値として、契約者回線番号に電話がかかってくるとTEL1ポートに着信し、追加番号に電話がかかってくるとTEL2ポートに着信するようになっています。
初期値以外の着信方法を希望される場合は設定が必要になります。詳細はCD-ROMの『オンラインマニュアル』をご覧ください。

●発信者番号の設定を正しく行わないと、相手の方に正しい電話番号が伝わらなかったり、発信者番号通知（☞P167）で設定した内容が有効とならない場合があります。また、INSネット64サービスが利用できない場合がありますので、電話番号を正しく設定してください。

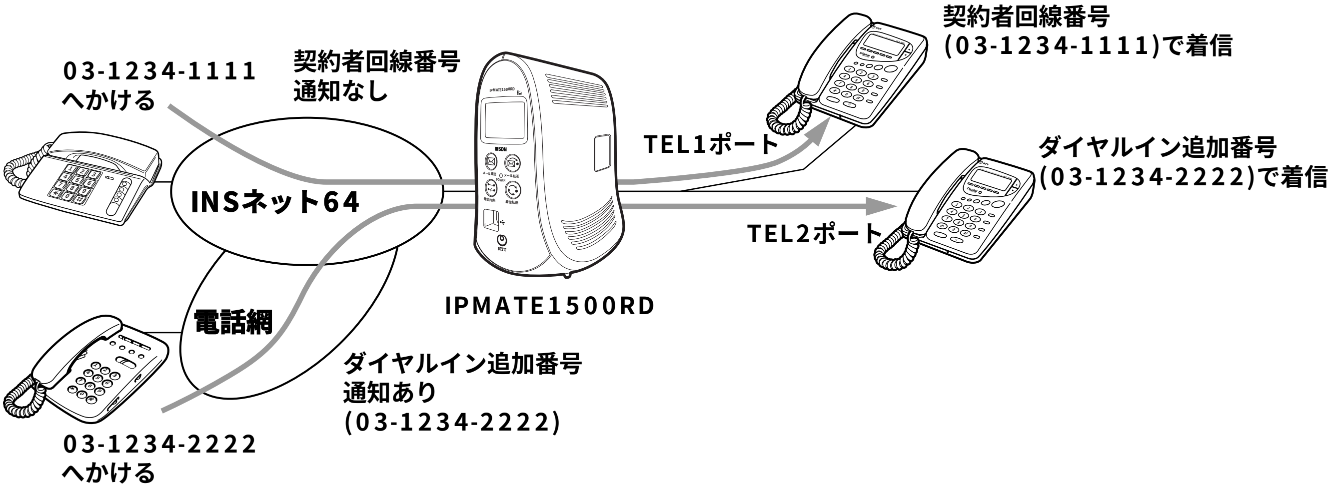
● i・ナンバーについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

●本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号83☞P227）

ダイヤルイン／グローバル着信

ダイヤルイン（有料）をご契約になると、契約者回線番号とは別に複数の追加番号（ダイヤルイン追加番号）を持つことができます。
相手の方がダイヤルイン追加番号に電話をかけてきたとき、INSネット64から本商品にダイヤルイン追加番号が通知され、着信するポートを特定することができます。
また、ダイヤルインのオプションであるグローバル着信を利用すると、相手の方が契約者回線番号に電話をかけてきたとき、INSネット64から本商品に契約者回線番号が通知されず、その分だけ料金が安くなります。
本商品は、契約者回線番号が通知されないとき、どのポートに着信するかを「グローバル着信」で設定できます。（☞P168）
なお、ダイヤルイン／グローバル着信は、アナログポートのみではなく、USBポート、RS-232Cポートに対しても設定できます。

■例：グローバル着信利用を申し込み、契約者回線番号（03-1234-1111）での着信はTEL1ポートに、ダイヤルイン追加番号（03-1234-2222）での着信はTEL2ポートにする場合



●回線契約と設定

		契約者回線番号／グローバル着信	ダイヤルイン追加番号1
回線契約		ダイヤルインとグローバル着信を契約する	
		契約者回線番号（03-1234-1111）と追加番号（03-1234-2222）が割り当てられる	
設定	［装置／電話番号］（電話番号）画面 i・ナンバーを使用する	使用しない	
	［装置／電話番号］画面 契約者回線番号または i・ナンバー情報1／ダイヤルイン追加番号1または i・ナンバー情報2	03-1234-1111	03-1234-2222
	［装置／電話番号］画面 アナログ着信	グローバル着信	ダイヤルイン追加番号1またはi・ナンバー情報2
		TEL1ポートのみ着信	TEL2ポートのみ着信
	［電話］（TEL1ポート）画面 発信者番号通知	契約者回線番号または i・ナンバー情報1	
	［電話］（TEL2ポート）画面 発信者番号通知	追加番号1または i・ナンバー情報2	

お知らせ

- ●WWWブラウザでの設定により［装置／電話番号］画面での電話番号の設定を正しく行わないと、相手の方に正しい電話番号が伝わらなかったり、発信者番号通知（☛P167）で設定した内容が有効とならない場合があります。また、INSネットサービスが利用できない場合がありますので、電話番号を正しく設定してください。
- ●本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号41～48☛P224）
- ●ダイヤルイン、グローバル着信について、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。
- ● i・ナンバー（☛P161）を「使用する」に設定した場合は、ダイヤルイン／グローバル着信はご利用になれません。

サブアドレス

サブアドレスを設定しておくと、相手の方が電話番号に続いてサブアドレスをダイヤルすれば、特定のポートに着信させることができます。
本商品のサブアドレスを設定するには、契約者回線番号またはダイヤルイン追加番号、ｉ・ナンバー情報として登録している電話番号に加えてサブアドレスを入力します。
サブアドレスは、呼び出す側もINSネット64に加入している場合のみ利用できます。（☞P152、172、174）
相手の方から通知されたサブアドレスと本商品のサブアドレスが完全に一致しないと、着信は受け付けられません。

ワンポイント

●WWWブラウザでの設定により［電話］（共通）画面でサブアドレスのない着信を許可するを「ON」に設定すると本商品のサブアドレスを設定していても、電話網からの着信を受けることができます。

●データ通信時は、USBポート、RS-232Cポート、10BASE-Tポートでも、サブアドレスを利用できます。

お知らせ

本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号84～91☞P227）

発信者番号通知

発信者番号（契約者回線番号またはダイヤルイン追加番号、ｉ・ナンバー情報）を相手の方に通知する機能です。
発信者番号を相手の方に通知する／通知しないの条件は、INSネット64ご契約時の内容と本商品の発信者番号通知設定および「184」、「186」のダイヤル操作により決まります。
お買い求め時、本商品の発信者番号通知の設定（[電話]（TEL1/2ポート）画面）は、「回線契約に従う」になっています。なお、発信者番号通知は、アナログポートのみではなく、USBポート、RS-232Cポート、10BASE-Tポートに対しても設定できます。

本商品の設定 ＼ INSネット64契約	発信者番号通知する	発信者番号通知しない	回線契約に従う
通常通知（通話ごと非通知）	通知される※1	通知されない※2	通知される※1
通常非通知（回線ごと非通知）	通知される※1	通知されない※2	通知されない※2

※1　この設定において発信者番号を通知したくないときは、相手の方の電話番号の前に「184」をダイヤルすると、その通話に限り、発信者番号を通知しません。
※2　この設定において発信者番号を通知したいときは、相手の方の電話番号の前に「186」をダイヤルすると、その通話に限り、発信者番号を通知します。

ワンポイント

●「通常通知」または「通常非通知」を契約している場合の発信者番号通知の優先順位は
INSネット64契約よりも本商品の設定（「通知する」「通知しない」）が優先し、本商品の設定よりも「184」「186」のダイヤルによる操作が優先します。

<table>
<tr><th colspan="2">ダイヤル操作</th><th colspan="3">通常発信</th><th colspan="3">「184」のダイヤルによる操作</th><th colspan="3">「186」のダイヤルによる操作</th></tr>
<tr><th colspan="2">本商品の設定</th><th>通知する</th><th>通知しない</th><th>回線契約に従う</th><th>通知する</th><th>通知しない</th><th>回線契約に従う</th><th>通知する</th><th>通知しない</th><th>回線契約に従う</th></tr>
<tr><th rowspan="2">INSネット64契約</th><th>通常通知</th><td rowspan="2">通知される</td><td>通知されない</td><td>通知される</td><td rowspan="2" colspan="3">通知されない</td><td rowspan="2" colspan="3">通知される</td></tr>
<tr><th>通常非通知</th><td colspan="2">通知されない</td></tr>
</table>

お知らせ

本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号21☛P230）

各ポートを呼び分けるには

ダイヤルイン／グローバル着信、i・ナンバーを使用すると、各ポートに異なる電話番号を割り当てて、呼び分けることができます。
相手の方がINSネット64に加入している場合は、さらに、電話番号にサブアドレスを付け加えたり、通信クラスを設定しての呼び分けが可能です。

■ダイヤルインを利用して呼び分ける場合

例：03-1234-1111～5555の5つの電話番号を入手し、電話機、ファクス、パソコン3台にそれぞれ異なる電話番号を割り当てる

電話番号	TEL1 電話機	TEL2 ファクス	LAN パソコン	RS-232C パソコン	USB パソコン	設定 ［装置／電話番号］画面		
						i・ナンバーを使用する		使用しない
03-1234-1111	○	×	×	×	×	アナログ着信		TEL1ポートのみ着信
						LAN着信		着信しない
						TA着信	RS-232Cポート	着信しない
						TA着信	USBポート	着信しない
03-1234-2222	×	○	×	×	×	アナログ着信		TEL2ポートのみ着信
						LAN着信		着信しない
						TA着信	RS-232Cポート	着信しない
						TA着信	USBポート	着信しない
03-1234-3333	×	×	○	×	×	アナログ着信		着信しない
						LAN着信		着信する
						TA着信	RS-232Cポート	着信しない
						TA着信	USBポート	着信しない
03-1234-4444	×	×	×	○	×	アナログ着信		着信しない
						LAN着信		着信しない
						TA着信	RS-232Cポート	着信する
						TA着信	USBポート	着信しない
03-1234-5555	×	×	×	×	○	アナログ着信		着信しない
						LAN着信		着信しない
						TA着信	RS-232Cポート	着信しない
						TA着信	USBポート	着信する

■ｉ・ナンバーを利用して呼び分ける場合

例：ｉ・ナンバー情報1〜3を契約し、電話機、ファクスに異なる電話番号、パソコン3台に同じ電話番号を割り当てる

<table>
<tr><th rowspan="2">電話番号</th><th>TEL1</th><th>TEL2</th><th>LAN</th><th>RS-232C</th><th>USB</th><th rowspan="2" colspan="3">設定
［装置／電話番号］画面</th><th colspan="2">データ着信優先度</th></tr>
<tr><th>電話機</th><th>ファクス</th><th>パソコン</th><th>パソコン</th><th>パソコン</th><th>着信優先度</th><th>着信切替呼び出し回数</th></tr>
<tr><td colspan="6"></td><td colspan="2">ｉ･ナンバーを使用する</td><td>使用する</td><td rowspan="10">—</td><td rowspan="10">—</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ｉ・
ナンバー
情報1</td><td rowspan="4">○</td><td rowspan="4">×</td><td rowspan="4">×</td><td rowspan="4">×</td><td rowspan="4">×</td><td colspan="2">アナログ着信</td><td>TEL1ポートのみ着信</td></tr>
<tr><td colspan="2">LAN着信</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td>TA着信</td><td>RS-232Cポート</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td>TA着信</td><td>USBポート</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ｉ・
ナンバー
情報2</td><td rowspan="4">×</td><td rowspan="4">○</td><td rowspan="4">×</td><td rowspan="4">×</td><td rowspan="4">×</td><td colspan="2">アナログ着信</td><td>TEL2ポートのみ着信</td></tr>
<tr><td colspan="2">LAN着信</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td>TA着信</td><td>RS-232Cポート</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td>TA着信</td><td>USBポート</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ｉ・
ナンバー
情報3</td><td rowspan="4">×</td><td rowspan="4">×</td><td rowspan="4">○</td><td rowspan="4">○</td><td rowspan="4">○</td><td colspan="2">アナログ着信</td><td>着信しない</td></tr>
<tr><td colspan="2">LAN着信</td><td>着信する</td><td>3</td><td>—</td></tr>
<tr><td>TA着信</td><td>RS-232Cポート</td><td>着信する</td><td>1</td><td>3</td></tr>
<tr><td>TA着信</td><td>USBポート</td><td>着信する</td><td>2</td><td>3</td></tr>
</table>

お知らせ

- 本商品は追加番号が最大2個（i・ナンバー情報2、3）まで設定できます。
- 発信者番号の設定を正しく行わないと、相手の方に正しい電話番号が伝わらなかったり、発信者番号通知（☛P167）で設定した内容が有効とならない場合があります。また、INSネット64サービスが利用できない場合がありますので、電話番号を正しく設定してください。
- ｉ・ナンバーについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。
- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（i・ナンバーを使用する：機能番号83、アナログ着信：機能番号40〜48、☛P224、227）
- 表の「データ着信優先度」は、デフォルトの設定値（TA：RS-232C 優先）の場合の優先度を示します。設定により優先度は変えられます。

電話やファクスを優先させるには

インターネット接続などでBチャネル2本を使用中に、電話やファクスなどアナログポートからの発信・着信があった場合、自動的にデータ通信を切断し、アナログポートを使用できるようにします。WWWブラウザでの設定により［ルータ機能／回線接続先情報］（オプション）画面のアナログ発着信時の切断動作を「必ず切断する」または「マルチリンクPPP機能利用時に1本切断する」に設定します。この機能を使用するためには当社との通信中着信通知サービスの契約が必要です。

ワンポイント

●「マルチリンクPPP機能利用時に1本切断する」とは

マルチリンクPPP機能とは、Bチャネル2本を同時に使って、128 kbit/sで通信を行う方法です。Bチャネルを1本切断することによって、通信速度は64 kbit/sとなりますが、データ通信そのものは継続されます。

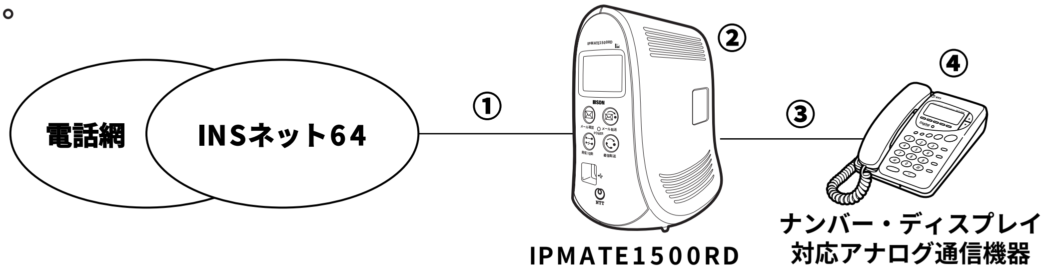
アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）― 便利な機能

INSナンバー・ディスプレイ

本商品のアナログポートはナンバー・ディスプレイに対応しています。
電話をかけてきた相手の方の電話番号（発信者番号）や電話番号を通知できない理由を、本商品の液晶ディスプレイに表示したりアナログポートに接続したアナログ通信機器に通知することができます。
一般の電話網からの着信に対して、この機能をご利用になるためには、当社とのINSナンバー・ディスプレイの契約（有料）が必要です。
ただし、相手の方がINSネット64から発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも発信者番号をアナログ通信機器に通知することができます。
INSナンバー・ディスプレイをご利用になるには、以下の条件を満たす必要があります。

- **ナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器を本商品のアナログポートに接続する**
- **WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面でINSナンバー・ディスプレイを使用するを「ON」に設定する**

■ アナログポートに接続したアナログ通信機器に、発信者番号を表示するしくみは次のとおりです。



①発信者番号が付加された着信があります。
②本商品は、受信した発信者番号をモデム信号に変換します。
③WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面でINSナンバー・ディスプレイを使用する「ON」を設定したアナログポートにモデム信号を送出します（この時点では、ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器は鳴動しません）。
④ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器が、モデム信号で受信した発信者番号を表示し、鳴動します。

お知らせ

相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合などは、本商品に接続したアナログ通信機器に発信者番号は通知されません。
このとき、電話番号を通知できない理由を、本商品に接続したアナログ通信機器に通知します。
ただし、INSナンバー・ディスプレイの契約において、非通知理由「有／無」の契約を「有」にする必要があります。
電話番号を通知できない主な理由は以下のとおりです。

- 公衆電話から電話がかかってきたとき
- かけてきた相手の方が電話番号を通知しない操作をしたとき、または通知しない契約になっているとき
- INSナンバー・ディスプレイを提供しないエリアから電話がかかってきたとき、またはサービスが競合しているため電話番号を通知できないとき

なお、アナログ通信機器のディスプレイなどにどのように表示されるかは、アナログ通信機器によって異なります。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）― 便利な機能

ワンポイント

●**INSナンバー・リクエストへの対応**

本商品はINSナンバー・リクエストに対応しています。INSナンバー・リクエストは、相手の方が電話番号を通知してこない場合、電話番号を通知してかけ直すようINSネットから相手の方にメッセージで応答するサービスです。

このサービスをご利用になるには、当社との契約（有料）が必要です。

●相手の方が自分の電話番号を通知しないで電話をかけてきた場合、電話を受けないように設定することができます。WWWブラウザの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面で「発信者番号通知のない着信を許可する」を「OFF」にしてください。

お知らせ

●アナログ通信機器によっては、発信者番号などが正しく表示されないことがあります。

●相手の方からサブアドレスが通知された場合に、［電話］（TEL1/2ポート）画面の中の「モデムダイヤルイン、INSナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイを使用する際、サブアドレスを対象とする」が「ON」になっていると、本商品は相手の方の電話番号と相手の方のサブアドレスをアナログ通信機器に通知するように設定することができます。このとき電話番号とサブアドレスの区切り文字として「/」を挿入します。

〈例〉0312345678　/　001

↑（発信者番号）　↑（区切り文字）　↑（サブアドレス）

●停電時は、本商品のTEL2ポートに接続したアナログ通信機器はご利用になれません。

●本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号10、19☛P229、230）

キャッチホン・ディスプレイ

本商品のアナログポートはキャッチホン・ディスプレイに対応しています。
キャッチホン・ディスプレイは、外の相手の方とお話し中に別の相手の方から電話がかかってきたとき、電話をかけてきた方の電話番号（発信者番号）や電話番号を通知できない理由をアナログポートに接続したアナログ通信機器に通知し、アナログ通信機器のディスプレイに表示するサービスです。
キャッチホン・ディスプレイをご利用になるためには、以下の条件を満たす必要があります。

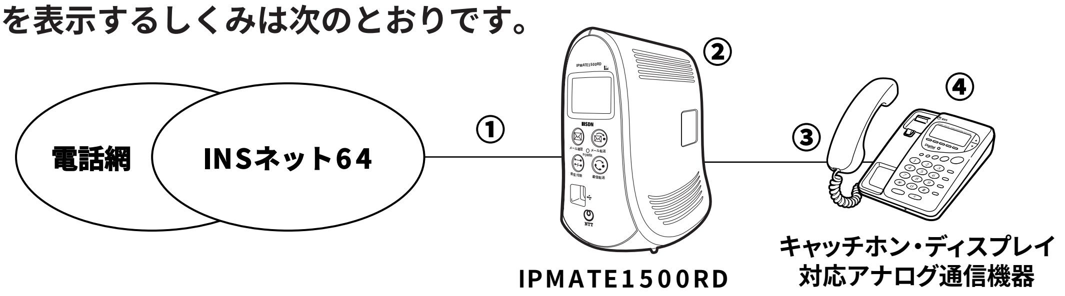
●回線契約と設定

		疑似キャッチホン（☞P154）を利用する場合	INSキャッチホン（☞P187）を利用する場合
電話機		キャッチホン・ディスプレイ対応の電話機を本商品のアナログポートに接続する	
回線の契約		INSナンバー・ディスプレイ※1（☞P171）を契約する（有料）	・INSナンバー・ディスプレイ※1（☞P171）を契約する（有料） ・INSキャッチホン（☞P187）を契約する（有料）
設定	[電話]（TEL1/2ポート）画面 INSナンバー・ディスプレイを使用する	「ON」を選択する	
	[電話]（TEL1/2ポート）画面 キャッチホン	「疑似キャッチホン」を選択する	「INSキャッチホン」を選択する
	[電話]（TEL1/2ポート）画面 キャッチホン・ディスプレイを使用する	「ON」を選択する	

※1 相手の方がINSネット64から発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、INSナンバー・ディスプレイを未契約でも、電話番号が表示されます。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 便利な機能

■ アナログポートに接続した通話中のアナログ通信機器に、電話をかけてきた別の方の発信者番号を表示するしくみは次のとおりです。



① 通話中に発信者番号が付加された着信があります（キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器では、「プップッ、プップッ…」という着信音が聞こえます）。
② 本商品は、受信した発信者番号をモデム信号に変換します。
③ キャッチホン・ディスプレイを使用できるように設定したアナログポートにモデム信号を送出します（キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器では、「ピッ」という割込音が聞こえます）。
④ キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器が、モデム信号で受信した発信者番号を表示します。

お知らせ

●相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合などは、本商品に接続したアナログ通信機器に発信者番号は通知されません。
このとき、電話番号を通知できない理由を、本商品に接続したアナログ通信機器に通知します。
ただし、INSナンバー・ディスプレイの契約において、非通知理由「有／無」の契約を「有」にする必要があります。
電話番号を通知できない主な理由は以下のとおりです。
- 公衆電話から電話がかかってきたとき
- かけてきた相手の方が電話番号を通知しない操作をしたとき、または通知しない契約になっているとき
- INSナンバー・ディスプレイを提供しないエリアから電話がかかってきたとき、またはサービスが競合しているため電話番号を通知できないとき

なお、アナログ通信機器のディスプレイなどにどのように表示されるかは、アナログ通信機器によって異なります。

●アナログ通信機器によっては、発信者番号などが正しく表示されないことがあります。

●相手の方からサブアドレスが通知された場合に、［電話］（TEL1/2ポート）画面の中の「モデムダイヤルイン、INSナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイを使用する際、サブアドレスを対象とする」が「ON」になっていると、本商品は相手の方の電話番号と相手の方のサブアドレスをアナログ通信機器に通知するように設定することができます。このとき電話番号とサブアドレスの区切り文字として「/」を挿入します。

〈例〉0312345678　/　001
↑ 発信者番号　↑ 区切り文字　↑ サブアドレス

●キャッチホン・ディスプレイによる着信時には、「プップッ、プップッ…」という着信音に加えて「ピッ」という割込音が聞こえます。この割込音とお話し中の声が重なりますと電話番号などの表示ができないことがあります。また、1秒程度通話が途切れます。

●停電時は、本商品のTEL2ポートに接続したアナログ通信機器はご利用になれません。

●本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。
（機能番号19、25☛P230）

INSボイスワープ／INSボイスワープセレクト

INSボイスワープおよびINSボイスワープセレクトは、高機能な着信転送サービスです。
このサービスをご利用になるときは、WWWブラウザでの設定によりINSボイスワープおよびINSボイスワープセレクトを行う電話番号を［装置／電話番号］画面の電話番号に設定してください。
このサービスをご利用になるには、当社との契約（有料）が必要です。

INSマジックボックス

INSマジックボックスは、話中時録音、INSキャッチホン、不在時転送、不在時録音が利用できるサービスです。
このサービスをご利用になるときは、INSマジックボックスをご利用になる電話番号をWWWブラウザでの設定により［装置／電話番号］画面の電話番号に設定し、アナログ着信をTELポートに着信するように設定します。
さらに、着信するように設定したTELポートに対してWWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面のキャッチホンを「INSキャッチホン」に設定してください。
このサービスをご利用になるには、当社との契約（有料）が必要です。

お知らせ

INSマジックボックスについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）ー 便利な機能

INSなりわけサービス

INSなりわけサービスは、契約時に登録した電話番号からの着信を識別するサービスです。あらかじめ登録した相手からの着信があったときに、次のいずれかの動作をするように設定できます。なお、あらかじめINSなりわけサービスを契約した電話番号をWWWブラウザでの設定により［装置／電話番号］画面に登録し、アナログ着信で着信させるポートを選択してください。

- **登録した相手からの着信があった場合、通常とは異なる着信音を鳴らす**
  登録した相手からの着信とそれ以外の相手からの着信が、着信音で区別できます。WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1／2ポート）画面の「INSなりわけを使用する」を「ON」に設定し、呼出音を「呼出音1」または「呼出音2」に設定します。さらに、「INSなりわけ指定外の電話番号からの着信を許可する」を「ON」に設定します。
- **登録した相手からの着信があった場合のみ着信させる**
  登録した相手からの着信を受け付け、それ以外の相手からの着信を拒否します。WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1／2ポート）画面の「INSなりわけを使用する」を「ON」に設定し、「INSなりわけ指定外の電話番号からの着信を許可する」を「OFF」に設定します。

お知らせ

●INSなりわけサービスと疑似なりわけ（☞P160）の両方を設定した場合、両方の機能を使用できます。相手の電話番号によってどちらが動作するかが決まります。
●INSなりわけサービスについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。
●アナログ通信機器によっては、通常の着信音と呼出音1、または呼出音2の着信音が同じに聞こえることがあります。
●本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号05☞P229）
●呼出音は、「鳴らさない」を指定することもできます。この場合、呼出音は鳴りませんが、電話を受けることはできます。

受話音量調整

受話音量を、「大」、「中」、「小」の3段階で設定できます。WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面で受話音量を選択します。

ワンポイント

- **通話中に調整する場合は、㊍ ㊚ を押してください。㊍ ㊚ を押すたびに音量が切り替わります。**

お知らせ

本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号17☛P229）

優先着信

1つの電話番号でTEL1とTEL2の両ポートに着信させたい場合、優先して着信させるポートを指定することができます。
たとえば、TEL1ポートを優先させると、TEL1ポートにつないだアナログ通信機器が空いているときは、TEL1ポートの着信音だけが鳴ります。TEL1ポートが話し中のときにはじめて、TEL2ポートの着信音が鳴ります。
ただし、TEL1ポートでキャッチホンを利用している場合は、TEL2ポートの着信音は鳴りません。
優先着信を使用するには、WWWブラウザでの設定により［装置／電話番号］（電話番号）画面の契約者回線番号、ダイヤルイン追加番号、i·ナンバー情報それぞれの、アナログ着信を、「TEL1ポート優先着信」または「TEL2ポート優先着信」に設定します。

お知らせ

本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号40～48☛P224）

着信拒否（発信専用）

外からの電話を受けたくない場合は、［装置／電話番号］画面ですべての電話番号についてのアナログ着信を「着信しない」に設定すると発信専用でご利用になれます。

お知らせ

- 内線からの呼び出しは着信します。
- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号40～48☛P224）

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 便利な機能

発信者番号認証

発信者番号認証は、特定の相手からの電話を拒否する機能です。相手の電話番号をあらかじめ登録しておき、通知された発信者番号と一致した場合、その電話を拒否します。WWWブラウザでの設定により［電話］（発信者番号識別）画面に相手の電話番号を登録し、着信許可設定を「拒否」にしてください。
この機能は、相手が通知する発信者番号をもとに動作します。相手が自分の電話番号を通知してこない場合、WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面で発信者番号通知のない着信を許可するを「OFF」にすると、拒否することができます。

お知らせ

- 「発信者番号通知のない着信を許可する」を「OFF」に設定した場合、次のような着信をすべて受け付けなくなりますのでご注意ください。
  - 公衆電話から電話がかかってきたとき
  - かけてきた相手の方が電話番号を通知しない操作をしたとき、または通知しない契約になっているとき
  - サービス圏外から電話がかかってきたとき
- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号20☞P230）

発信規制

アナログポートに接続したアナログ通信機器から外線発信をできないようにするには、WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面で外線発信を許可するを「OFF」に設定します。特定の電話番号へのみ発信できないようにするには、［電話］（発信規制）画面に電話番号を登録します。発信規制に「0」を設定すると1桁目が「0」ではじまるすべての電話番号が規制されます。

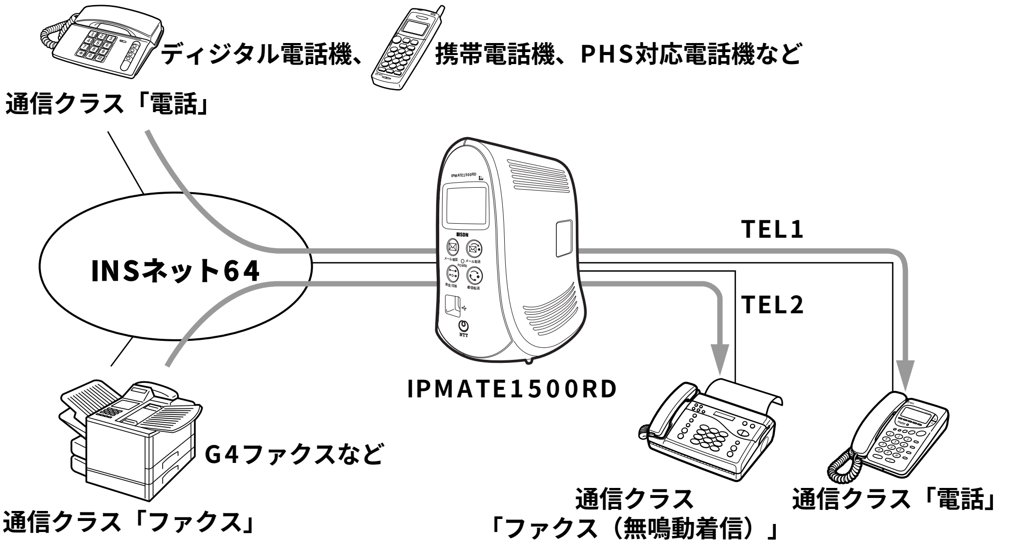
お知らせ

- 110番、119番への発信は発信規制の設定にかかわらず行うことができます。
- 発信者番号の先頭に「184」「186」をつけてダイヤルした場合は、「184」「186」を除いた番号が発信規制の対象となります。
- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（外線発信：機能番号22、発信規制：機能番号59、60☞P226、230）

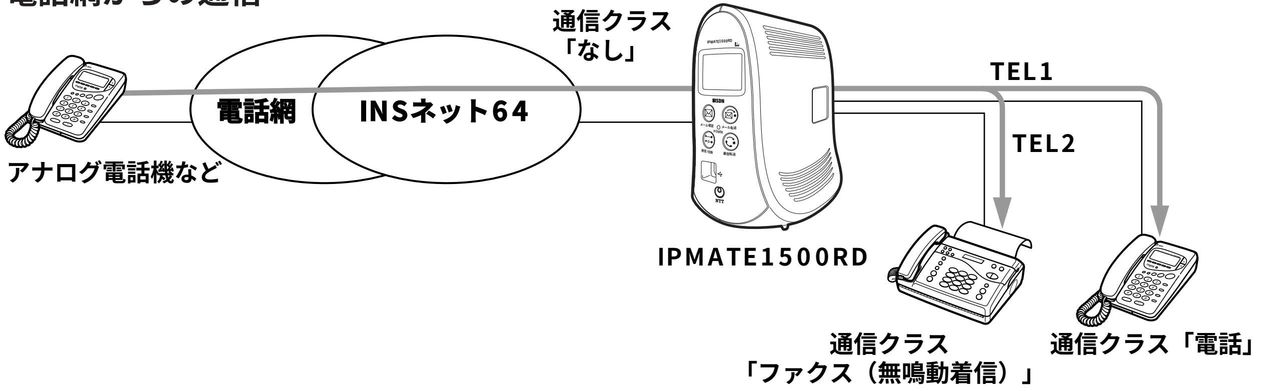
通信クラス設定

アナログポートに接続した通信機器の通信クラスを設定することができます。通信クラスには、「電話」、「ファクス（鳴動着信）」、「ファクス（無鳴動着信）」、「その他」があり、お買い求め時は「その他」に設定されています。
発信時は、設定した通信クラスを相手に通知します。着信時、相手から送られてきた通信クラスに一致しない場合は、着信を拒否します。通信クラスはWWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面で設定できます。
なお、電話網からの着信の場合、通信クラスが通知されず、通信クラスを利用した呼び分けはできません。着信させるには通信クラスを「その他」にしてください。

■ INSネット64間の通信



■ 電話網からの通信



ワンポイント

- Lモード対応通信機器の通信クラスは、「その他」に設定してください。
- 本商品は設定した通信クラスを「設定する」「設定しない」「設定するが着信判定はしない」のいずれかに設定することができます。（「HLC」の設定）
  - WWWブラウザでの設定により[電話]（TEL1／2ポート）画面の「HLC」にて設定できます。
    通信クラスを設定しても着信時に通信クラスが一致しない着信を受け付けるには、「設定するが着信判定はしない」を設定します。
  - 本商品にて通信クラスを設定しない場合には、「設定しない」を設定します。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 便利な機能

■本商品に設定した通信クラスと発信側の通信クラスとの着信拒否の関係は次のとおりです。

HLCの設定を「設定しない」または「設定するが着信判定はしない」にすると、すべての組み合わせで着信します。

○：着信する　×：着信しない

本商品＼発信側	電話	ファクス	その他
電話	○	×	○
ファクス（鳴動着信）	×	○(呼出音が鳴る)	○
ファクス（無鳴動着信）	×	○(呼出音が鳴らない)	○
その他	○	○	○

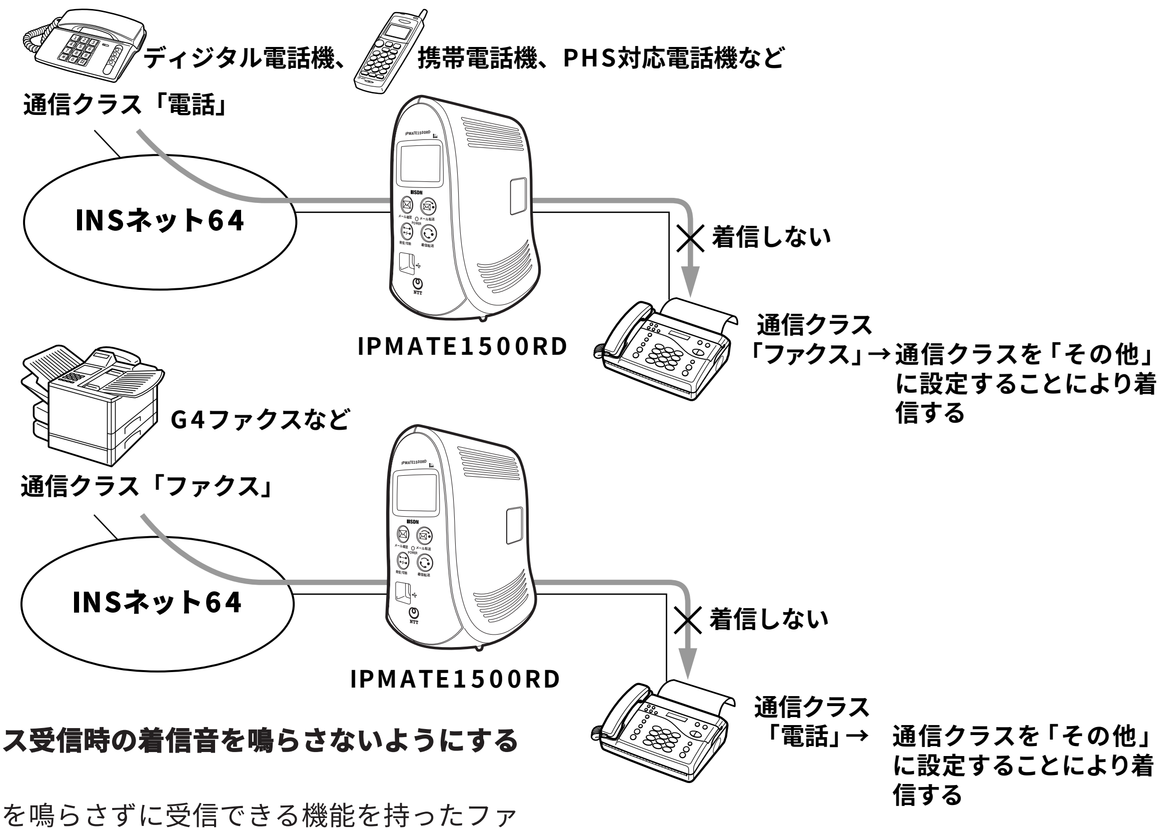
ワンポイント

●通信クラスが異なる場合に着信させるには

設定した通信クラスと発信側の通信クラスが異なるときは着信しません。着信させる場合は、通信クラスを「その他」に設定してください。

〈例1〉

〈例2〉



●ファクス受信時の着信音を鳴らさないようにするには

着信音を鳴らさずに受信できる機能を持ったファクスをアナログポートに接続している場合、通信クラスに「ファクス（無鳴動着信）」を設定すると、相手からきた通信クラスがファクスの場合は無鳴動で、それ以外の場合は鳴動で受信します。接続するファクスの設定をFネット信号検出「あり」にしてください。または、無鳴動着信設定「あり」にしてください。

お知らせ

本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号01、03☞P229）

フッキング検出時間の設定

フッキングとは電話機のフックスイッチ（またはキャッチボタン）を押すことです。1秒以上押し続けると、電話が切れてしまうことがあります。

フッキングすると電話が切れてしまうなど、うまく動作しないときは、WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1／2ポート）画面でフッキング検出（短い・普通・長い）を変更してください。

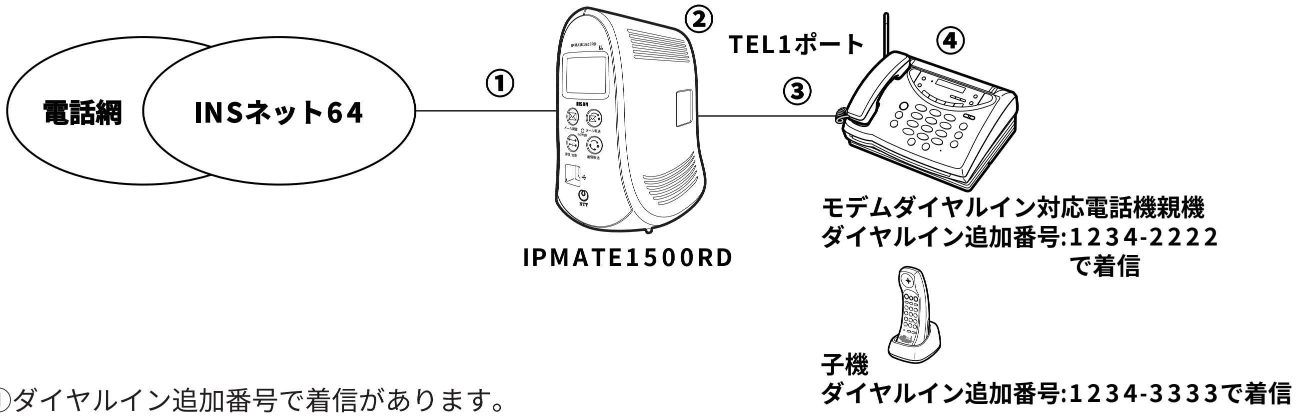
> **お知らせ**
>
> 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号08☞P229）

モデムダイヤルイン機能

本商品のアナログポートはモデムダイヤルインに対応しています。
契約したダイヤルイン追加番号（☞P164）またはｉ･ナンバー情報（☞P161）に電話がかかってきたとき、本商品に接続したモデムダイヤルイン対応のアナログ通信機器にダイヤルイン追加番号またはi･ナンバー情報（電話番号）を通知することができます。
この機能をご利用になるためには、当社とのダイヤルインサービスまたはｉ･ナンバーの契約（有料）が必要です。

■ ダイヤルインを利用した場合

例1：ダイヤルイン追加番号（1234-2222）での着信は電話機の親機に、ダイヤルイン追加番号（1234-3333）での着信は電話機の子機にする場合



①ダイヤルイン追加番号で着信があります。
②本商品は受信したダイヤルイン追加番号をモデム信号に変換します。
③TEL1ポートにモデム信号を送出します（この時点では、モデムダイヤルイン対応電話機は鳴動しません）。
④モデムダイヤルイン対応電話機に登録されているモデムダイヤルイン番号に応じて、該当するモデムダイヤルイン対応電話機（親機または子機）が鳴動します。

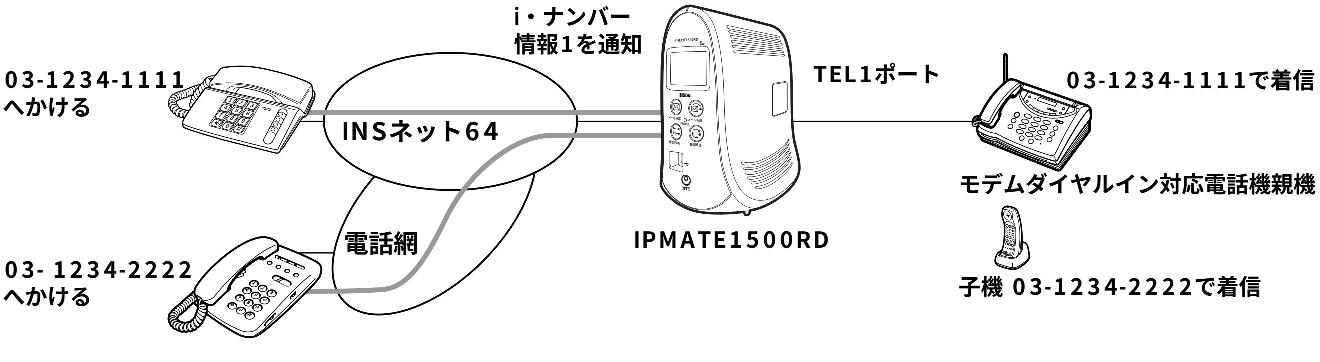
アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）ー 便利な機能

●回線契約と設定

回線の契約		ダイヤルインサービスの追加番号（03-1234-2222と03-1234-3333）を2つ契約する
設定	[装置／電話番号]（追加番号1）画面 **ダイヤルイン追加番号1または i・ナンバー情報2**	03-1234-2222
	[装置／電話番号]（2）画面 ダイヤルイン追加番号2	03-1234-3333
	[装置／電話番号］画面 アナログ着信	TEL1ポートのみ着信
	[電話]（TEL1ポート）画面 **モデムダイヤルインを使用する**	ON
	[電話]（TEL1ポート）画面 **モデムダイヤルイン、INSナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイを使用する際、サブアドレスを対象とする**	ON
モデムダイヤルイン対応電話機の設定		TEL1ポートにモデムダイヤルイン対応の電話機を接続し、その電話機に、親機のモデムダイヤルイン番号（1234-2222）と、子機のモデムダイヤルイン番号（1234-3333）を登録する

■ i・ナンバーを利用した場合

例2： 契約者回線番号（03-1234-1111）での着信は電話機の親機に、追加番号（03-1234-2222）での着信は電話機の子機にする場合



●回線契約と設定

		i・ナンバー情報1	i・ナンバー情報2
回線の契約		**i・ナンバーを契約する**	
		03-1234-1111（契約者回線番号）が割り当てられる	03-1234-2222（追加番号）が割り当てられる
設定	**[装置／電話番号]（電話番号）画面 i・ナンバーを使用する**	ON	
	[装置／電話番号] 画面 契約者回線番号またはi・ナンバー情報1	03-1234-1111	―
	[装置／電話番号]（追加番号1）画面　ダイヤルイン追加番号1またはi・ナンバー情報2	―	03-1234-2222
	[装置／電話番号]（追加番号1）画面 アナログ着信	TEL1ポートのみ着信	
	[電話]（TEL1ポート）画面　モデムダイヤルインを使用する	ON	
	[電話]（TEL1ポート）画面 モデムダイヤルイン、INSナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイを使用する際、サブアドレスを対象とする	ON	
モデムダイヤルイン対応電話機の設定		TEL1ポートにモデムダイヤルイン対応の電話機を接続し、その電話機に、親機のモデムダイヤルイン番号（03-1234-1111）と、子機のモデムダイヤルイン番号（03-1234-2222）を登録する	

お知らせ

- アナログ通信機器へのモデムダイヤルイン番号登録の操作方法は、ご利用になるアナログ通信機器の取扱説明書などを参照してください。
- モデムダイヤルイン対応電話機の親機および子機から発信したとき、相手の方に通知する発信者番号（☛P165）は、WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1／2ポート）画面で設定した電話番号となります（親機、子機とも同じ発信者番号が通知されます）。
- WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1／2ポート）画面で「モデムダイヤルインを使用する」を「ON」に設定すると、相手の方がダイヤルイン追加番号に電話をかけてきたとき、［装置／電話番号］画面で設定されたダイヤルイン追加番号と一致したときのみ、相手の方がかけてきたダイヤルイン追加番号をモデム信号に変換して、アナログポートに通知します。
  i・ナンバーを使用した場合、相手の方がi・ナンバー電話番号に電話をかけてきたときは、本商品は［装置／電話番号］画面で設定されたi・ナンバー情報1またはi・ナンバー情報2に設定された電話番号（☛P161）をモデム信号に変換してアナログポートに通知します。
- ダイヤルインまたはi・ナンバーにおいて、相手の方がサブアドレスを通知して電話をかけてきた場合、本商品は、アナログ通信機器にサブアドレスを通知するように設定することができます（☛P166、172、174）。［電話］（TEL1／2ポート）画面で「モデムダイヤルイン、INSナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイを使用する際、サブアドレスを対象とする」を「ON」に設定してください。ただし、本商品に接続したアナログ通信機器にサブアドレス受信機能がない場合は、これを「OFF」に設定してください。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）― 便利な機能

お知らせ

● WWWブラウザでの設定により［装置／電話番号］画面で「ｉ・ナンバーを使用する」を「ON」に設定した場合は、契約者回線番号またはｉ・ナンバー情報1、および、ダイヤルイン追加番号1またはｉ・ナンバー情報2に電話番号を設定してください。設定しない場合、モデムダイヤルイン対応電話機が正常動作しない場合があります。
●本設定は、本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号12、19☞P229、230）

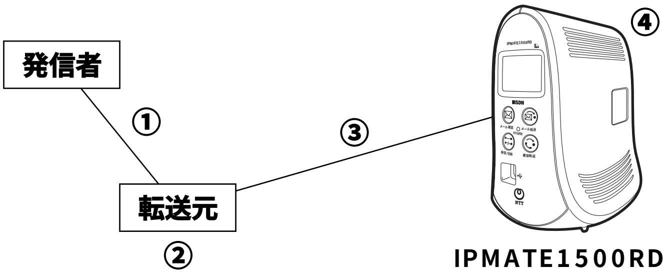
お願い

着信時、INSネット64から付加されるダイヤルイン追加番号は、市内局番から通知されます。本商品は、INSネット64から付加されるダイヤルイン追加番号をモデム信号に変換してアナログポートに通知しますので、ご利用になるアナログ通信機器へのモデムダイヤルイン番号の登録は、その通信機器の取扱説明書の内容にかかわらず、市内局番から登録してください。
なお、ｉ・ナンバーを利用の場合、アナログ通信機器へのモデムダイヤルイン番号の登録は、その通信機器の取扱説明書の内容にかかわらず、［装置／電話番号］画面のｉ・ナンバー情報1、またはｉ・ナンバー情報2として登録した電話番号としてください。

転送元電話番号通知

本商品は転送元電話番号通知に対応しています。
着信転送サービスにより本商品に電話が転送されてきた場合、転送元の電話番号と転送理由を、本商品の液晶ディスプレイに表示することができます。
この機能をご利用になるためには、当社との転送元電話番号受信サービスの契約（有料）が必要です。

■ 本商品の液晶ディスプレイに、転送されてきた電話の転送元電話番号を表示するしくみは次のとおりです。



①発信者が転送元に電話をかけます。
②着信転送サービスが起動されます。
③転送元電話番号が付加された着信があります。
④本商品は、受信した転送元電話番号を液晶ディスプレイに表示します。

ワンポイント

●転送元電話番号とは
発信した電話が転送先へ転送される場合、発信者の電話番号を「発信者番号」、転送元の電話番号を「転送元電話番号」といいます。

お知らせ

転送元が以下の着信転送サービスの契約をしている場合に、転送元電話番号通知を利用できます。
- 話中時転送サービス
- マジックボックス
- ボイスワープ／ボイスワープセレクト
- INSマジックボックス
- INSボイスワープ／INSボイスワープセレクト

なお、フレックスホンによる転送元電話番号通知はご利用いただけません。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）― 便利な機能

リバースパルス送出の設定

リバースパルス送出とは、電話をかけてきた相手の方が先に電話を切った場合に、本商品のアナログポートに接続されたアナログ通信機器に対して、通話の終了を知らせる信号を送出する機能です。
留守番電話等で相手が切断したと同時にメッセージの録音を終了させる場合などに有効です。
リバースパルスを送出するには、WWWブラウザでの設定により［電話］（TEL1／2ポート）画面でリバースパルスを送出するを「ON」に設定します。

お知らせ

本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号27☛P230）

お願い

接続したアナログ通信機器がリバースパルスを認識する機能を備えていない場合は、「リバースパルスを送出する」は「OFF」にしておいてください。誤動作することがあります。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）― 便利な機能

フレックスホンサービスとは

本商品は、INSネット64の付加サービスであるフレックスホンサービスを利用することができます。フレックスホンサービスには次に示すサービスがあります。

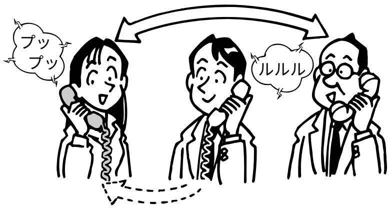
- **お話し中に別の相手の方とお話しする（INSキャッチホン）**
- **3人でお話しする（三者通話）**
- **お話し中に外の相手の方に転送する（通信中転送）**
- **外からの電話を設定した別の相手の方に直接転送する（着信転送）**

フレックスホンサービスをご利用になるには、当社との契約（有料）が必要です。詳しくは、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

お話し中に別の相手の方とお話しする（INSキャッチホン）

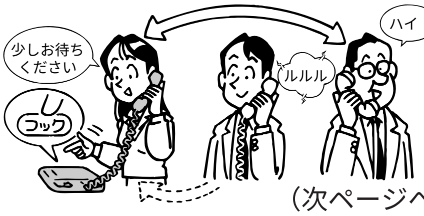
外の相手の方とお話し中に、別の相手の方から電話がかかってきたとき、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方とお話しすることができます。また、あとから電話をかけてきた相手の方を保留にして、もとの相手の方と再びお話しすることもできます。
INSキャッチホンは疑似キャッチホンと違い、Bチャネル1本で利用できるため、キャッチホンでお話し中でも本商品に接続した他の機器で通信することができます。
INSキャッチホンをご利用になるには当社との契約が必要です。

1　外の相手の方とお話し中に「プップッ、プップッ…」という着信音が聞こえます。



2　外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

かけてきた相手の方に切り替わります。



（次ページへ続きます）

ワンポイント

●INSキャッチホンを利用するには
WWWブラウザの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面でキャッチホンを「INSキャッチホン」に設定します。

●フッキングとは（☞P181）

●お話し中に電話をかけてきた方の電話番号を確認するには
INSナンバー・ディスプレイ（☞P171）とINSキャッチホンをご契約になると、お話し中に電話をかけてきた相手の方の電話番号を、キャッチホン・ディスプレイ対応のアナログ通信機器に表示することができます。（☞P173）

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 便利な機能

（前ページの続きです）

3 かけてきた相手の方とお話しください。

4 前の方とお話しするにはもう一度フッキングを行います。

前の相手の方に切り替わります。

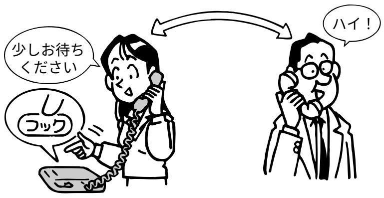
お知らせ

- INSキャッチホン中に相手の方とお話しが終わり、ハンドセットを置くと、着信音が鳴ります。ハンドセットを取りあげると、保留にしていた方と、またお話しができます。
- 受信した通信クラスが「ファクス」の着信のときは、INSキャッチホンは利用できません。
- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号02☛P229）

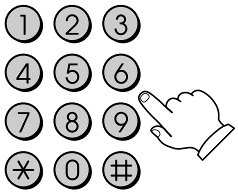
3人でお話しする（三者通話：切替モード）

外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけ、お話し中の相手の方と呼び出した相手の方を切り替えながらお話しすることができます。三者通話をご利用になるには当社との契約が必要です。

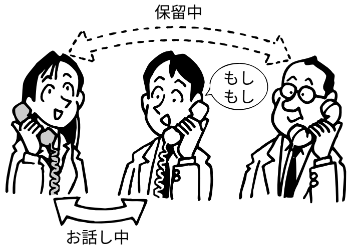
1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。



2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押し、㊖ボタンを押します。



3 相手の方が出たらお話しください。



（次ページへ続きます）

ワンポイント

- **三者通話を利用するには**
  WWWブラウザの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面で三者通話を使用するを「ON」にします。
- **㊖ボタンをダイヤルとして使用するには**
  ［電話］（共通）画面のダイヤル識別終了ボタンを「識別しない」（㊖ボタンを押しても発信しない）に設定するか、「＃＃で識別する」（㊖ボタンを2回押すと発信する）に設定してください。
- **フッキングとは（☛P181）**
- **切替モードとは**
  お話し中の相手の方と保留中の相手の方を切り替えながらお話しすることです。
- **ミキシングモードとは**
  3人で同時にお話しすることです。3人でお話ししたいときは、手順4で2回フッキングをしてください。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）― 便利な機能

（前ページの続きです）

4 前の方とお話しするにはもう一度フッキングを行います。

前の相手の方に切り替わります。

5 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

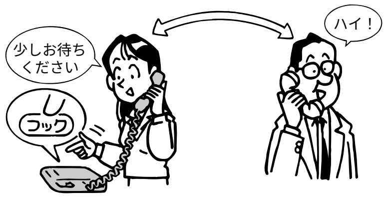
お知らせ

- ●三者通話の料金は、それぞれ発信を行った方の通話料金となります。
- ●三者通話（切替モード）中にハンドセットを置くと着信音が鳴ります。ハンドセットを取りあげると、保留にしていた方とまたお話しができます。
- ●手順2で、別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押している途中にダイヤル桁間タイマ設定値（お買い求め時：4秒）の間隔をあけると、操作の途中でも発信してしまいます。また、ダイヤル終了後、ダイヤル桁間タイマで設定した時間が経過すると、＃ボタンを押さなくてもダイヤルは発信されます。
- ●本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号13☞P229）

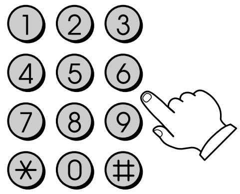
3人でお話しする
（三者通話：ミキシングモード）

外の相手の方とお話し中に、別の相手の方に電話をかけ、3人同時にお話しすることができます。三者通話をご利用になるには当社との契約が必要です。

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。



2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押し、㊅ボタンを押します。



ワンポイント

● **三者通話を利用するには**
WWWブラウザの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面で「三者通話を使用する」を「ON」にします。

● **フッキングとは（☞P181）**

● **切替モードとは**
お話し中の相手の方と保留中の相手の方を切り替えながらお話しすることです。

● **ミキシングモードとは**
3人で同時にお話しすることです。

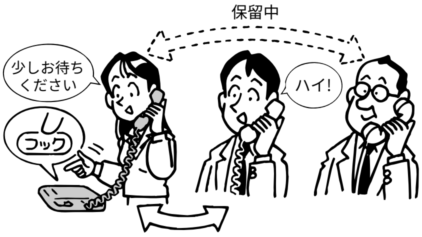
5 アナログ通信機器の利用

（次ページへ続きます）

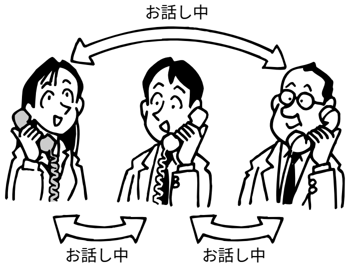
アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）― 便利な機能

（前ページの続きです）

3 **別の相手の方が出たら、三者通話にすることを伝え、2回フッキングします。**



前の相手の方とつながり、3人でお話しできるようになります。



切替モードに切り替える場合は、2回フッキングすると、前の相手の方に切り替わります。

4 **お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。**

お知らせ

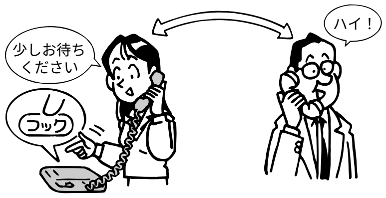
- 三者通話の料金は、それぞれ発信を行った方の通話料金となります。
- ミキシングモードでお話し中に一方の相手の方が電話を切っても、もう一方の方とのお話しは継続できます。
- 三者通話（ミキシングモード）中にハンドセットを置くと三者通話は終了し、残りの方どうしの通話も切れます。
- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号13☛P229）

通話中の電話を転送する（通信中転送）

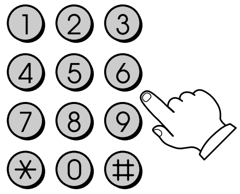
外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけて取りつぐことができます。通信中転送には、呼び出した相手の方が応答する前に取りつぐ応答前転送と、呼び出した相手の方が応答したあとに取りつぐ応答後転送の2種類があります。通信中転送をご利用になるには当社との契約が必要です。

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

「プップップッ…」という発信音が聞こえます。



2 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押し、⊕ボタンを押します。



（次ページへ続きます）

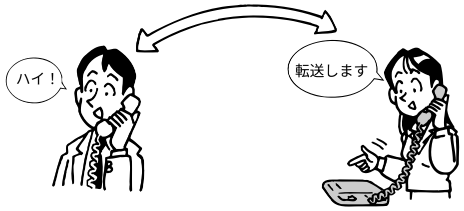
ワンポイント

- **通信中転送を利用するには**
  WWWブラウザの設定により［電話］（TEL1/2ポート）画面でキャッチホンを「INSキャッチホン」に設定し、さらに通信中転送を使用するを「ON」にします。
- **フッキングとは**（☞P181）
- **手順2で、別の相手の方がお話し中のときは**
  いったんハンドセットを置くと、着信音が鳴ります。ハンドセットを取りあげると、もとの相手の方とお話しできます。また、ハンドセットを置くかわりに、フッキングするともとの相手の方とお話しできます。
- **手順3で、別の相手の方とお話し中に通信中転送をやめるときは**
  いったんハンドセットを置くと、着信音が鳴ります。ハンドセットを取りあげると、もとの相手の方とお話しできます。
- **転送先の方が応答する前に転送するには**
  手順2で転送先に電話をかけ、「プルルル、プルルル…」という呼出音が聞こえている間にハンドセットを置きます。

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 便利な機能

（前ページの続きです）

3 別の相手の方が出たら、転送することを伝え、1回フッキングをします。



4 ハンドセットを置きます。

お知らせ

- 転送できるのは、着信した電話のみです。こちらから発信した電話は転送できません。
- 本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（機能番号28☛P230）

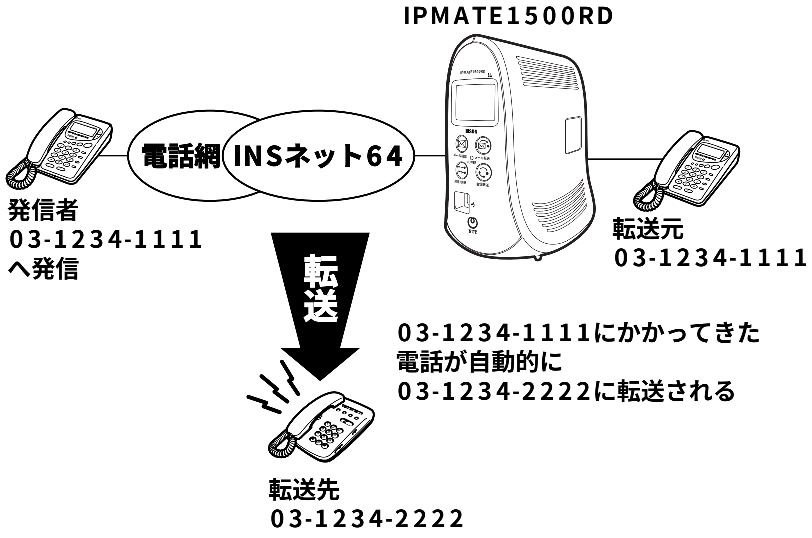
外からの電話を決められた相手の方に直接取りつぐ（着信転送）

外の相手の方からの電話を、決められた別の相手の方に直接取りつぐことができます。着信転送をご利用になるには、当社との契約が必要です。

着信転送の設定

着信転送を利用するには、着信転送を行う電話番号を［電話番号］画面で登録してから、以下の設定を行います。

〈例〉 03-1234-1111にかかってきた電話を
03-1234-2222に転送する場合



1 **WWWブラウザでの設定により［電話］（共通）画面でフレックスホンの着信転送を使用するを「ON」に設定します。**

2 **着信転送先の電話番号を入力します。**

ワンポイント

●着信転送を起動中は
液晶ディスプレイに「着信転送中」と表示されます。

●転送トーキ
INSネット64から送られる音声によるメッセージのことです。

●転送トーキ、転送元トーキのメッセージ内容

- 転送トーキ（電話をかけてきた相手の方に流れます）…「ただいま電話を転送しております。そのまましばらくお待ちください。」
- 転送元トーキ（転送先の相手の方に流れます）…「電話が転送されますので、そのままお待ちください。」（トーキの内容は地域によって若干異なる場合があります。）
- 発信者番号通知により、転送元には契約者回線番号が通知されます。

（次ページへ続きます）

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 便利な機能

（前ページの続きです）

3 転送トーキに、トーキのありなしを次のいずれかから選択します。

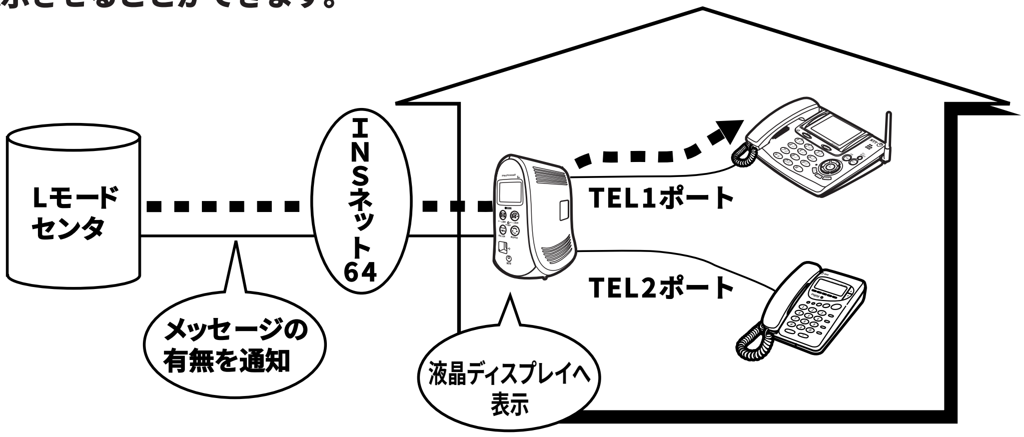
- 転送トーキなし、転送元トーキなし、ユーザ情報なし
- 転送トーキあり、転送元トーキなし、ユーザ情報なし
- 転送トーキなし、転送元トーキあり、ユーザ情報あり
- 転送トーキあり、転送元トーキあり、ユーザ情報あり
- 転送トーキなし、転送元トーキなし、ユーザ情報あり

お知らせ

●契約者回線番号またはｉ・ナンバー情報1宛、ダイヤルイン追加番号1またはｉ・ナンバー情報2宛、ダイヤルイン追加番号2またはｉ・ナンバー情報3宛に、それぞれ設定します。
●転送元および転送先の電話番号は最大32桁、転送元サブアドレスは最大19桁です。
●転送元および転送先の電話番号を設定しておかないと、転送の設定は無効になります。
●転送先としてディスプレイポケットベルの電話番号を登録することはできません。
●ユーザ情報（転送元ユーザ情報通知）はご利用いただけません。
●転送元に着信があっても本商品のアナログポートに接続したアナログ通信機器の呼出音は鳴りません。
●本設定は本商品のアナログポートに接続したプッシュ式（PB）電話機を使って行うこともできます。（フレックスホンの着信転送：機能番号52、転送トーキ：機能番号53☛P225）

Lモードを利用するには

本商品は、Lモードに対応した電話機を接続してご利用になれます。Lメールがセンタに届いたときに、本商品の液晶ディスプレイやLモード対応アナログ通信機器のディスプレイに、メッセージがあることを表示させることができます。



●必要な契約

Lモードの契約（有料）が必要です。

●必要な設定

本商品の液晶ディスプレイにメッセージがあることを表示するには、「メッセージあり情報表示」の設定が必要です。

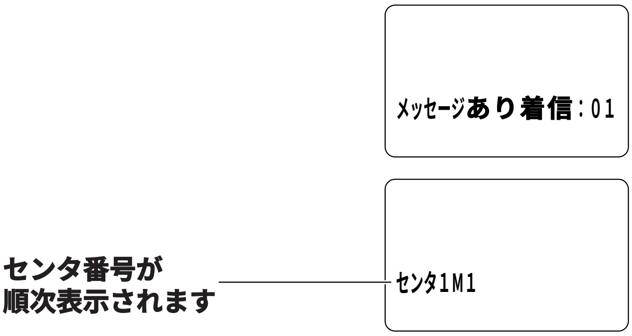
本商品に接続した電話機のディスプレイにメッセージがあることを表示するには、Lモード対応のアナログ通信機器が必要です。また、本商品で「番号（情報）通知」の設定で「メッセージあり情報を通知する」を設定する必要があります。

●本商品の液晶ディスプレイにメッセージがあることを表示させる場合

機能	パソコンで設定	設定内容
メッセージあり情報表示	［電話］（TEL1/2ポート）画面の番号（情報）通知設定	「メッセージあり情報（Lモード）をIPMATEの液晶ディスプレイに表示する」に設定する

〈メッセージが届いたときの表示〉

Lモードセンタから本商品に情報が通知されると、本商品の液晶ディスプレイに着信電話番号に続いてメッセージのあるセンタ番号が順次表示されます。



（次ページへ続きます）

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）－ 便利な機能

（前ページの続きです）

●アナログポートに接続した電話機にメッセージがあることを表示させる場合

Lモード対応アナログ対応通信を接続しているアナログポートの設定が必要です。

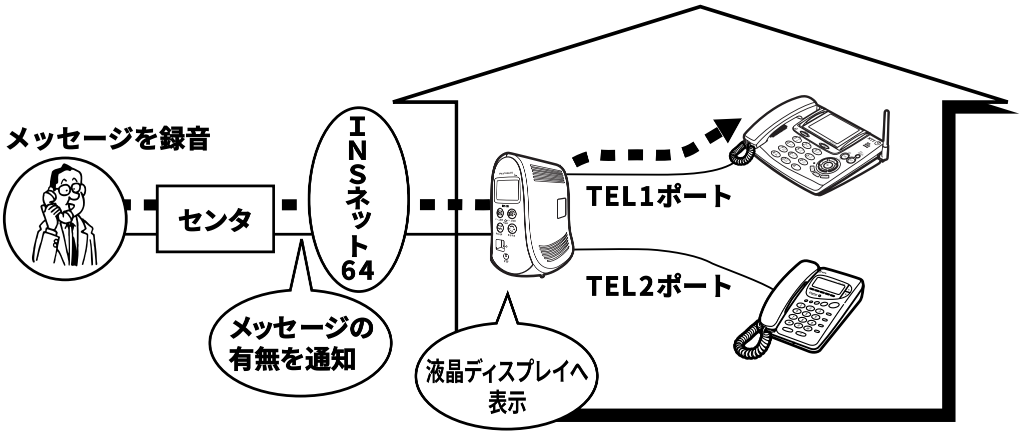
機能	パソコンで設定	設定内容
メッセージあり情報表示	［電話］（TEL1/2ポート）画面の番号（情報）通知設定	「メッセージあり情報（Lモード）を通知する」に設定する
発信者番号通知	［電話］（TEL1/2ポート）画面の発信者番号通知	アナログポートに接続したLモード対応アナログ通信機器の番号を設定する
接続機器の設定	［電話］（TEL1/2ポート）画面の通信クラス	「その他」に設定する

お知らせ

- ●メッセージあり情報通知を設定したアナログポートに設定する電話番号は、発信時に通知する番号と着信する番号とを同じにしてください。
- ●S/T端子に配線したバス配線上に他のINSネット64用通信機器が接続されている場合には、メッセージあり情報が正しく表示されないことがあります。
- ●Lモードを利用できる電話番号は、各アナログポートに1つのみです。
- ●メッセージあり情報通知を設定したアナログポートに対し、ATコマンドで設定した発信者番号と着信する番号が異なる場合、発信者番号のみが有効となります。
- ●メッセージあり情報通知とモデムダイヤルイン（☞P181）を同時に利用することはできません。
- ●Lモード対応アナログ通信機器の設定については、アナログ通信機器の取扱説明書をご覧ください。
- ●Lモードについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

INSメッセージ到着お知らせサービスを利用するには

本商品は、Lモードに対応した電話機を接続してご利用になれます。Lメールなどのメッセージがセンタに届いたときに、本商品の液晶ディスプレイやLモード対応アナログ通信機器のディスプレイに、メッセージがあることを表示させることができます。



●必要な契約

INSメッセージ到着お知らせサービスの契約（有料）が必要です。ほかに、メッセージを通知するサービスの契約が必要です。

●必要な設定

「メッセージあり情報表示」の設定が必要です。

INSメッセージ到着お知らせサービスをご利用になるには開始の操作が必要です。ご契約時は停止状態になっています。Lモード対応アナログ通信機器など、INSメッセージ到着お知らせサービスに対応したアナログ通信機器が必要です。

●本商品の液晶ディスプレイにメッセージがあることを表示させる場合

機能	パソコンで設定	設定内容
メッセージあり情報表示	［電話］（TEL1/2ポート）画面の番号（情報）通知設定	「メッセージあり情報（Lモード）をIPMATEの液晶ディスプレイに表示する」に設定する

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）― 便利な機能

●アナログポートに接続した電話機にメッセージがあることを表示させる場合

メッセージあり情報を通知するアナログポートごとに設定が必要です。

機能	パソコンで設定	設定内容
メッセージあり情報表示	［電話］（TEL1/2ポート）画面の番号（情報）通知設定	「メッセージあり情報（Lモード）を通知する」に設定する
発信者番号通知	［電話］（TEL1/2ポート）画面の発信者番号通知	アナログポートに接続したLモード対応電話機の番号を設定する

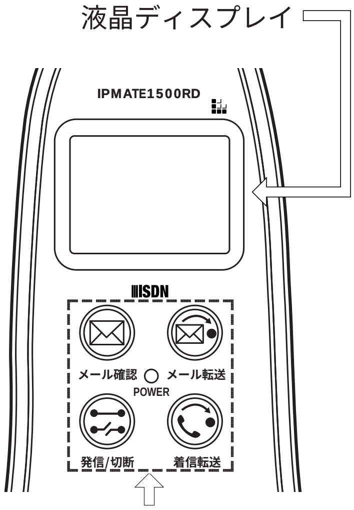
お知らせ

- メッセージあり情報通知を設定したアナログポートに設定する電話番号は、発進時に通知する番号を着信する番号と同じにしてください。
- S/T端子に配線したバス配線上に他のINSネット64用通信機器が接続されている場合には、メッセージあり情報が正しく表示されないことがあります。
- INSメッセージ到着お知らせサービスを利用できる電話番号は、各アナログポートに1つのみです。
- 「メッセージあり情報を通知する」に設定したアナログポートに対し、ATコマンドで設定した発信者番号と着信する番号が異なる場合、発信者番号のみが有効となります。
- INSメッセージ到着お知らせサービスとモデムダイヤルイン（☞P181）を同時に利用することはできません。
- INSメッセージ到着お知らせサービスについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

基本操作

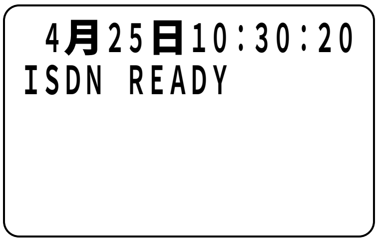
本商品前面部のボタンを操作して各設定を行う場合の、基本的な操作方法を説明します。

液晶ディスプレイ



操作ボタン

1 電源を入れると液晶ディスプレイに以下が表示されます。これを「通常表示」画面といいます。



（表示はINSネット64回線をご利用の場合です）
ボタン操作では、液晶ディスプレイの下2桁にて操作／確認のメッセージを表示します。

2 通常表示の状態から各ボタンを押して操作します。ボタンの押しかたには2とおりの操作があります。

・ボタンを押す
・ボタンを2秒以上押す

ボタンの押し方によって、ご利用になれる内容が違います。

■ボタンを押す

現在の設定／接続状況を確認できます。各ボタンで確認できる設定情報は以下のとおりです。

→ メール確認方法の設定内容を確認する

→ メール転送の設定内容を確認する

→ 着信転送の設定内容を確認する

→ 接続状態を確認する

※ キャンセルしたい場合は、数秒間何も操作を行わずにいると、もとの画面に戻ることができます。

ワンポイント

●専用線をご利用の場合には
「メール確認」と「メール転送」のボタンだけをお使いいただけます。

●ISDNをご利用の場合には
すべてのボタンをお使いいただけます。

（次ページへ続きます）

基本操作

（前ページの続きです）

■ボタンを2秒以上押す

各設定を行います。通常表示の状態から、行いたい設定のボタンを2秒以上押すと設定画面が表示されます。
※ 押している時間が短いと、設定画面が表示されません。

表示された画面で設定を行います。

メール確認の設定／実行を行う☛P206

メール転送の設定／実行を行う☛P210

着信転送の設定／実行を行う☛P212

発信／切断を行う☛P213

ボタンを操作して行える機能と、その設定手順について次ページ以降で詳しく説明します。
※ キャンセルしたい場合は、数秒間何も操作を行わずにいると、もとの画面に戻ることができます。

ボタンの操作

現在の設定内容を確認するには

メール確認についての設定内容を確認する

1 通常表示画面で [メール確認] ボタンを押します。

液晶ディスプレイに現在の設定状況が表示されます。
4行目にメール確認の設定状態を表示後、メールサーバアドレスがスクロール表示されます。

```
メール確認情報
メール確認自動で行
```

↓

```
メール確認情報
メールサーバアドレス:10.1.
```

自動でメール確認が行われるように設定されている場合、4行目にその実行時間が順次スクロール表示されます。

↓

```
メール確認情報
確認1回目:09時
```

↓

```
メール確認情報
確認2回目:12時
```

↓

お知らせ

全角8文字以上の表示はスクロール表示されます。

ワンポイント

● **メール確認とは**
指定したメールサーバへ指定した時刻（1日3回まで）に新しいメールが届いているか確認する機能です。メール確認を行っている際の接続時間は課金の対象になります。

● **メール確認の設定はWWWブラウザでも設定できます**
［メール確認・転送］画面の「指定時間にメール確認を行う」で設定します。

（次ページへ続きます）

（前ページの続きです）

ﾒｰﾙ確認情報
確認3回目：15時

本商品に設定されている内容が表示されます。
表示されたあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

メール転送の設定内容を確認する

1 通常表示画面で（メール転送）ボタンを押します。

液晶ディスプレイに現在の設定状況が表示されます。
4行目にメール転送の設定状態を表示後、転送先メールアドレスがスクロール表示されます。

ﾒｰﾙ転送情報
ﾒｰﾙ転送を行う

↓

ﾒｰﾙ転送情報
転送先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：1.

次に、メールサーバのアドレスがスクロール表示されます。

↓

ﾒｰﾙ転送情報
転送先ﾒｰﾙｻｰﾊﾞ：1.1

表示されたあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

お知らせ

全角8文字以上の表示はスクロール表示されます。

ワンポイント

● **メール転送とは**
メールサーバに新しく届いたメールがあったとき、指定した転送先に自動的にメールを転送する機能です。
メール確認を実行した際に、メール転送を行います。
メール転送を行っている際の接続時間は課金の対象になります。メール確認やメール転送のたびに課金されます。

● **メール転送の設定はWWWブラウザでも設定できます**
［メール確認・転送］画面の「メール転送を行う」で設定します。

着信転送の設定内容を確認する

1 通常表示画面で（着信転送）ボタンを押します。

液晶ディスプレイに現在の設定状況が表示されます。
4行目に着信転送の設定状態を表示後、続いて1つ目の転送先電話番号が表示されます。転送先電話番号は3つまで順次スクロール表示されます。

```
着信転送情報
着信転送を行う
```

↓

```
着信転送情報
電話番号1転送先:
```

↓

```
着信転送情報
電話番号2転送先:
```

↓

```
着信転送情報
電話番号3転送先:
```

すべて表示されたあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

ワンポイント

- **着信転送とは（☞P195）**
- **着信転送はWWWブラウザでも設定できます**

  ［電話］（共通）画面の「着信転送先」で設定します。

ボタンの操作

接続状態を確認する

1 通常表示画面で 発信/切断 ボタンを押します。

液晶ディスプレイに現在の設定状況が表示されます。

B1チャネルおよびB2チャネルごとに、接続先番号および接続先名を表示します。
接続されていないチャネルには「接続なし」と表示されます。

```
B1:01:OCN
B2:接続なし
```

左の図は、例として、B1チャネルに接続先番号1のOCNが接続中、B2チャネルは接続なしの場合を表しています。

表示されたあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

メールを確認するには（手動で行う場合）

1 通常表示画面で メール確認 ボタンを2秒以上押します。

メール確認実行／変更画面が表示されます。

```
ﾒｰﾙ確認
実行/変更
```

2 [実行／変更]で[実行]を選択します。

[変更]が選択されている場合は、メール確認ボタンを押してカーソルを移動させ、[実行]を選択します。

```
ﾒｰﾙ確認
実行/変更
```

お知らせ

キャンセルについて
以下の場合は、キャンセルとみなして通常の画面に戻ります。

- メール確認以外のボタンを押したとき
- メール確認の開始を確かめるときにNGを選択し、確定したとき
- 操作が数秒間行われなかったとき

ワンポイント

メール確認をするために使用する回線接続先の設定が「手動接続」になっている場合には、発信／切断ボタンで手動接続を行ってからメール確認を実行してください。

3 (メール確認) ボタンを2秒以上押します。

メール確認の開始を確認する画面が表示されます。

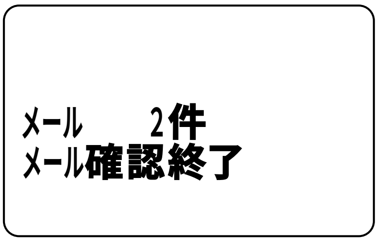
4 [OK/NG]で、[OK]が選択されているかどうか確認します。

[NG]が選択されている場合は、メール確認ボタンを押してカーソルを移動させ、[OK]を選択します。

5 (メール確認) ボタンを2秒以上押します。

メール確認実行中の画面が表示されます。

メール確認が完了し、届いているメールの件数が表示されます。



そのあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

お知らせ

全角8文字以上の表示はスクロール表示されます。

ボタンの操作

メールを確認するには（自動で行う場合）

1 通常表示画面で（メール確認）ボタンを2秒以上押します。

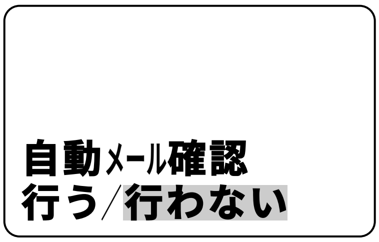
メール確認実行／変更画面が表示されます。

2 [実行／変更]で[変更]を選択します。

[実行]が選択されている場合は、メール確認ボタンを押してカーソルを移動させ、[変更]を選択します。

3 （メール確認）ボタンを2秒以上押します。

メール確認を自動で行うための設定画面が表示されます。



お知らせ

キャンセルについて
以下の場合は、キャンセルとみなして通常の画面に戻ります。
- メール確認以外のボタンを押したとき
- メール確認の開始を確かめるときにNGを選択し、確定したとき
- 操作が数秒間行われなかったとき

ワンポイント

メール確認をするために使用する回線接続先の設定が「手動接続」になっている場合には、発信／切断ボタンで手動接続を行ってからメール確認を実行してください。

4 [行う]を選択します。

[行わない]が選択されている場合は、メール確認ボタンを押してカーソルを移動させ、[行う]を選択します。

自動ﾒｰﾙ確認
行う/行わない

5 メール確認 ボタンを2秒以上押します。

メール確認実行中の画面が表示されます。

自動ﾒｰﾙ確認
書き込み中

設定が完了すると、以下の画面が表示されます。

自動ﾒｰﾙ確認
変更しました

そのあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

メール転送を行うには

1 通常表示画面で （メール転送） ボタンを2秒以上押します。

メール転送を設定する画面が表示されます。

メール転送
行う／行わない

2 [行う]を選択します。

[行わない]が選択されている場合、メール転送ボタンを押してカーソルを移動させ、[行う]を選択します。

メール転送
行う／行わない

3 （メール転送） ボタンを2秒以上押します。

メール転送実行中の画面が表示されます。

メール転送
書き込み中

お知らせ

キャンセルについて
以下の場合は、キャンセルとみなして通常の画面に戻ります。

- メール確認以外のボタンを押したとき
- 操作が数秒間行われなかったとき

メール転送が終了すると、以下の画面が表示されます。

メール転送
変更しました

そのあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

ボタンの操作

着信転送を行うには

1 通常表示画面で、着信転送ボタンを2秒以上押します。

着信転送を設定する画面が表示されます。

> **着信転送**
> **行う/行わない**

2 [行う]を選択します。

[行わない]が選択されている場合、着信転送ボタンを押してカーソルを移動させ、[行う]を選択します。

> **着信転送**
> **行う/行わない**

3 着信転送ボタンを2秒以上押します。

着信転送実行中の画面が表示されます。

> **着信転送**
> **書き込み中**

着信転送が終了すると、以下の画面が表示されます。

> **着信転送**
> **変更しました**

そのあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

お知らせ

キャンセルについて
以下の場合は、キャンセルとみなして通常の画面に戻ります。

- メール確認以外のボタンを押したとき
- 操作が数秒間行われなかったとき

発信／切断を行うには

1 通常表示画面で［発信/切断］ボタンを2秒以上押します。

接続先を選択する画面が表示されます。

No.1：OCN
切断

2 接続先を選択します。

［発信/切断］ボタンを押すと、登録済みの接続先が表示されます。

No.1：OCN
切断

↓

No.2：TOKYO1
発信

↓

No.3：OSAKA1
発信

※該当する接続先が接続中の場合は「切断」、未接続の場合は「発信」を宛先ごとに表示します。

（次ページへ続きます）

お知らせ

キャンセルについて
以下の場合は、キャンセルとみなして通常の画面に戻ります。

- メール確認以外のボタンを押したとき
- メール確認の開始を確かめるときにNGを選択し、確定したとき
- 操作が数秒間行われなかったとき

ボタンの操作

（前ページの続きです）

3 接続先を選択したら、 ボタンを2秒以上押します。

※押している時間が短いと、操作が実行されません。

切断の場合

以下の画面が表示されます。

```
No.1：OCN
切断中
```

切断完了後、現在の接続状況が表示されます。

```
B1：接続なし
B2：接続なし
```

そのあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

発信の場合

以下の画面が表示されます。

```
No.3：OSAKA1
発信中
```

接続完了後、現在の接続状況が表示されます。

```
B1：01：OCN
B2：03：OSAKA1
```

そのあと、自動的に通常表示画面に戻ります。

お知らせ

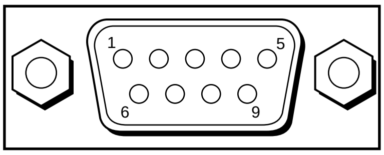
全角8文字以上の表示はスクロール表示されます。

各ポートのインタフェース

RS-232Cポート

本商品のRS-232Cポートにパソコンなどを接続する場合は、付属品のRS-232Cケーブルを使用してください。RS-232Cポートのインタフェースは次のようになっています。

■ コネクタ形状
9ピンコネクタ（オス型）



■ RS-232Cポートインタフェースの信号線

ピン番号	JIS	信号方向 パソコン　1500RD	名　称	機　能
1	CD	←	**キャリア検出**	IPMATE1500RDが、パソコンにデータ受信を要求していることを示します。 ON　：パソコンにデータ受信を要求します OFF ：パソコンにデータ受信を要求しません
2	RXD	←	**受信データ**	IPMATE1500RDからパソコンへ送られるデータです。
3	TXD	→	**送信データ**	パソコンからIPMATE1500RDへ送られるデータです。
4	DTR	→	**データ端末レディ**	パソコンの動作準備ができているかどうかを示します。 ON　：パソコンが、データの授受の準備ができていることを示します OFF ：パソコンが、データの授受の準備ができていないことを示します
5	GND		**信号用接地**	相互接続回路に基準電位をあたえます。
6	DSR	←	**データセットレディ**	IPMATE1500RDの動作準備ができているかどうかを示します。 ON　：パソコンとデータの授受を行う準備ができていることを示します OFF ：パソコンとデータの授受を行う準備ができていないことを示します
7	RTS	→	**送信要求**	データ送信許可を要求します。 ON　：データ送信許可を要求します OFF ：データ送信許可を要求しません
8	CTS	←	**送信可**	データ送信可能かどうかを示します。 ON　：データ送信が可能です OFF ：データ送信できません
9	CI	←	**被呼表示**	着信していることをパソコンに示します。 ON　：着信があることを示します OFF ：着信がないことを示します

■ 通信仕様

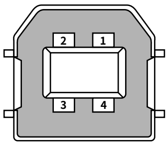
同期方式	非同期
データ長	8 bit
パリティビット	なし
ストップビット	1 bit
通信速度	9.6/19.2/38.4/57.6/115.2/230.4*1 (kbit/s)
フロー制御	RS-CS ハードウェアフロー制御

*1：230.4 kbit/sは、パソコンの通信ポートが対応していない場合は使用できません。

USBポート

本商品のUSBポートにパソコンなどを接続する場合は、付属品のUSBケーブルを使用してください。USBポートのインタフェースは次のようになっています。

■ コネクタ形状
Bタイプ



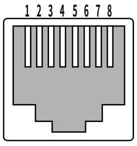
■ USBポートインタフェースの信号線

ピン番号	名称	信号方向 パソコン　1500RD	機　能
1	Vbus	——	本商品では使用しません
2	D—	←——→	データ（—）
3	D＋	←——→	データ（＋）
4	GND	←——→	グランド
Shell	シールド		シールド

10BASE-Tポート

本商品の10BASE-Tポートにパソコンなどを接続する場合は、付属品の10BASE-Tケーブルを使用してください。10BASE-Tポートのインタフェースは次のようになっています。

■ コネクタ形状
RJ45/IS8877モジュラジャック（8ピン）
（RJ45/IS8877準拠）



■ 10BASE-Tポートインタフェースの信号線

ピン番号	名称	信号方向 パソコン　1500RD
1	RX（A）	——→
2	RX（B）	——→
3	TX（A）	←——
6	TX（B）	←——

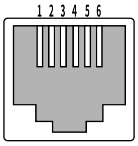
各ポートのインタフェース

アナログポート（TEL1ポート、TEL2ポート）

本商品のアナログポートにアナログ通信機器を接続する場合は、以下のコネクタ形状を持つ電話機コードをお客さまでご用意ください。アナログポートのインタフェースは次のようになっています。

■ コネクタ形状

RJ11　モジュラジャック（6ピン）



■ アナログポートインタフェースの信号線

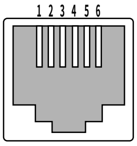
ピン番号	名称	信号方向 アナログ通信機器　1500RD
3	L2（－）	←→
4	L1（＋）	←→

回線接続端子

本商品をINSネット64回線用モジュラジャックに接続するときは、付属品の電話機コードを使用してください。回線接続端子のインタフェースは次のようになっています。

■ コネクタ形状

RJ11　モジュラジャック（6ピン）



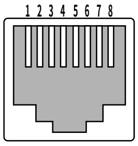
■ 回線接続端子インタフェースの信号線

ピン番号	名称	信号方向 回線　1500RD
3	L2（－）	←→
4	L1（＋）	←→

S/T端子

本商品のS/T端子にINSネット64用通信機器を接続する場合は、以下のコネクタ形状を持つ接続コードをお客さまでご用意ください。S/T端子のインタフェースは次のようになっています。

■ コネクタ形状
RJ45/IS8877モジュラジャック（8ピン）
（RJ45/IS8877準拠）



■ S/T端子インタフェースの信号線

ピン番号	名称	信号方向 INSネット64用通信機器　1500RD
3	T（A）	←
4	R（A）	→
5	R（B）	→
6	T（B）	←

表示一覧

■自己診断後に表示するメッセージ

＜表示例＞

装置故障
10BASE-T

メッセージは、メッセージ表示部上段1行目、2行目に表示されます。

表示メッセージ	IPMATE1500RDの状態
装置故障 10BASE-T	10BASE-Tポート部分に異常があります。 当社のサービス取扱所までご連絡ください。
装置故障 ISDN	ISDN接続部分に異常があります。 当社のサービス取扱所までご連絡ください。
装置故障 RS-232C	ＲS-232Cポート部分に異常があります。 当社のサービス取扱所までご連絡ください。
装置故障 USB	USBポート部分に異常があります。 当社のサービス取扱所までご連絡ください。
装置故障 MACアドレス異常	通信は可能ですが、本商品のMACアドレス部分に異常があります。 当社のサービス取扱所までご連絡ください。
<LOADING MODE> Please Loading Software	電源投入後、ファームウェアの起動でエラーとなり、ローディングモードで起動しました。 フラッシュＲＯＭに格納されているファームウェアに異常があります。 付属のCD-ROM内『イージーバージョンアップ』を使用して、ファームウェアのバージョンアップを行ってください。

■データ発信時に表示するエラーメッセージ

＜表示例＞

切断 ﾋﾞｼﾞｰ

メッセージは、メッセージ表示部上段1行目に表示されます。

表示メッセージ	IPMATE1500RDの状態
切断　ビジー	相手ユーザが通信中のため、接続できません。
切断　応答無し	相手ユーザの応答がありません。
切断　相手拒否	相手ユーザの通信拒否です。
切断　空きチャネル無し	空チャネルがなく、接続できません。
切断　相手端末故障	相手端末が故障中です。
切断　端末属性不一致	端末属性が不一致です。
切断　チャネル利用不可	接続が網より拒否されました。
切断　番号誤り	発信した電話番号に誤りがあります。
切断　その他　＃ｘｘｘ	切断されました。理由コード（＃XXX）を表示します。 理由コードについては、CD-ROM内『オンラインマニュアル』のISDN原因コードを参照してください。

■データ着信時に表示するエラーメッセージ

<表示例>

非通知

メッセージは、メッセージ表示部上段1行目に表示されます。

表示メッセージ	IPMATE1500RDの状態
非通知	発信者が発信者番号を非通知としています。
サービス競合	サービスの提供が不可能です。
公衆電話	公衆電話からの着信です。
サービス提供不可	上記以外の理由で、通知が不可能です。
着信不可 拒否設定　発信番号 ｘｘｘｘｘ	着信拒否の指定となっている番号からの着信です。 「ｘｘｘｘｘ」には、発信者の電話番号を表示します。
着信番号 発信者番号不一致	発信者番号認証に失敗したため着信できませんでした。

■その他

表示メッセージ	IPMATE1500RDの状態
着信転送中	フレックスホンの着信転送モードが有効です。 フレックスホンの着信転送モードを無効にするには、電話機による設定（☞P52）、または、WWWブラウザによる設定（☞P195）で行ってください。
メール　ｘｘｘ件	メールサーバにメールがある場合、メール数を表示します。 「ｘｘｘ件」には、メール数を表示します。最大999まで表示されます。
TEL着信　ｘｘｘ件	電話に出ることのできなかった、件数を表示します。 通常は表示されません。表示したい場合は、電話機による設定（☞P52）で変更してください。 件数を0件に戻すには、電話機による設定（☞P52）で行います。

■アナログ発信時に表示するエラーメッセージ

<表示例>

切断　ﾋﾞｼﾞｰ

メッセージは、メッセージ表示部上段1行目に表示されます。

表示メッセージ	IPMATE1500RDの状態
切断　ビジー	相手ユーザが通信中のため、接続できません。
切断　応答無し	相手ユーザの応答がありません。
切断　相手拒否	相手ユーザの接続拒否です。
切断　空きチャネル無し	空チャネルがなく、接続できません。
切断　相手端末故障	相手端末が故障中です。
切断　端末属性不一致	端末属性が不一致です。
切断　その他　＃ｘｘｘ	その他の理由で接続できません。理由コード（＃XXX）を表示します。 理由コードについては、CD-ROM内『オンラインマニュアル』のISDN原因コードを参照してください。

表示一覧

■アナログ着信時に表示するエラーメッセージ

<表示例>

TEL1:非通知
TEL2:公衆電話

表示段が（＊）のメッセージは、メッセージ表示部上段1行目にＴＥＬ1ポート、メッセージ表示部上段2行目にＴＥＬ2ポートが表示されます。

表示段	表示メッセージ	IPMATE1500RDの状態
（＊）	非通知	発信者が発信者番号を非通知としています。
（＊）	サービス競合	サービスの提供が不可能です。
（＊）	公衆電話	公衆電話からの着信です。
（＊）	サービス提供不可	上記以外の理由で、通知が不可能です。
（上） （下）	着信不可 発信者番号不一致 発信番号　ｘｘｘｘｘ	「発信者番号識別」の登録で、「指定した電話番号からの着信を許可する」にチェックしていない番号からの着信です。 「ｘｘｘｘｘ」には、発信者の電話番号を表示します。 または、「TEL1/2ポート」の登録で、「発信者番号通知のない着信を許可する」にチェックしていないときの番号非通知の着信です。 「ｘｘｘｘｘ」には、「非通知」を表示します。
（下）	ｘｘｘｘｘ　転送元 ｘｘｘｘｘ　理由：0000	転送元電話番号通知（☛Ｐ185）を利用時に表示します。最初の「ｘｘｘｘｘ」には、発信者の電話番号を表示します。次の「ｘｘｘｘｘ」には、転送元の電話番号を表示します。「0000」には、転送理由を表示します。 転送理由は、次のとおりです。 話中　：話し中により転送 無応答：指定回数呼び出し後、転送 無条件：設定に従い無条件に転送

電話設定機能番号一覧

本商品のアナログポートに接続したプッシュ式電話機から設定できる機能の機能番号と設定内容の一覧です。
下線はお買い求め時の設定です。

[専用線利用時に電話設定機能を利用する場合]
専用線ご利用時に、アナログポートにプッシュ式電話機を接続して、設定機能を利用することができます。

ワンポイント

●外線発信や通話、および内線発信や通話はできません。ビジートーンがきこえます。

次の電話設定機能をご利用いただけます。機能番号で説明します。機能や設定操作の詳細は、設定一覧内の該当する機能番号の説明をご覧ください。

機能番号	**00**	**：**	**装置動作・状態確認のうち、「DHCP再割り当て」操作、および「LAN側IPフィルタ解除（初期化）」操作のみご利用いただけます。**
機能番号	**95**	**：**	**日時設定**
機能番号	**96**	**：**	**IPアドレス設定**
機能番号	**97**	**：**	**サブアドレス設定**
機能番号	**98**	**：**	**リセット処理**
機能番号	**99**	**：**	**再起動処理**

（次ページへ続きます）

電話設定機能番号一覧

（前ページの続きです）

■アナログポート共通の設定　ポート番号0

設定手順（☞P52）

㊀㊀㊀→⓪→㊀→機能番号→㊀→設定値→#

ポート番号	機能番号	機能名称	設定値
0（共通）	00	装置動作・状態確認	0：フレックスホンの着信転送　しない 1：フレックスホンの着信転送　する 2：液晶ディスプレイに表示された「メール　ｘｘｘ件」の情報を削除 3：メール着信転送の動作を1回だけ行う 4：着信履歴があると液晶ディスプレイに着信した順に発信者番号を表示します。【＊】で次の情報を順次表示します。着信履歴情報は、256件まで保存できます。 5：DHCP再割り当て 6：LAN側IPフィルタ解除（初期化）
	40	契約者回線番号またはｉ・ナンバー情報1 アナログ着信	0：着信しない 1：TEL1ポートのみ着信 2：TEL2ポートのみ着信 3：TEL1ポート優先着信 4：TEL2ポート優先着信 5：両ポートで着信 機能番号84で設定した電話番号への着信について設定する
	41	ダイヤルイン追加番号1またはｉ・ナンバー情報2 アナログ着信	0：着信しない 1：TEL1ポートのみ着信 2：TEL2ポートのみ着信 3：TEL1ポート優先着信 4：TEL2ポート優先着信 5：両ポートで着信 機能番号85で設定した電話番号への着信について設定する

ポート番号	機能番号	機能名称	設定値
0（共通）	42	ダイヤルイン追加番号２または ｉ・ナンバー情報3 アナログ着信	0：着信しない 1：TEL1ポートのみ着信 2：TEL2ポートのみ着信 3：TEL1ポート優先着信 4：TEL2ポート優先着信 5：両ポートで着信 機能番号８６で設定した電話番号への着信について設定する
	43ー47	ダイヤルイン追加番号3〜7 アナログ着信	0：着信しない 1：TEL1ポートのみ着信 2：TEL2ポートのみ着信 3：TEL1ポート優先着信 4：TEL2ポート優先着信 5：両ポートで着信 機能番号８７〜９１で設定した電話番号への着信について設定する
	48	グローバル着信 アナログ着信	0：着信しない 1：TEL1ポートのみ着信 2：TEL2ポートのみ着信 3：TEL1ポート優先着信 4：TEL2ポート優先着信 5：両ポートで着信 ダイヤルインのグローバル着信を契約している場合に設定する
	52	フレックスホンの着信転送	0：しない 1：する
	53	転送トーキ	設定値　転送トーキ　転送元トーキ　ユーザ情報 0：なし　なし　なし 1：あり　なし　なし 2：なし　あり　あり 3：あり　あり　あり 4：なし　なし　あり
	54	着信転送先 契約者回線番号またはｉ•ナンバー情報1宛	0〜9：電話番号（最大32桁）*1（☛P228）
	55	着信転送先 ダイヤルイン追加番号１または ｉ・ナンバー情報2宛	0〜9：電話番号（最大32桁）*1（☛P228）
	56	着信転送先 ダイヤルイン追加番号2宛または ｉ・ナンバー情報3宛	0〜9：電話番号（最大32桁）*1（☛P228）

（次ページへ続きます）

電話設定機能番号一覧

（前ページの続きです）

ポート番号	機能番号	機能名称	設定値
0（共通）	57	発信者番号識別　設定	16個まで登録可能 （電話番号、着信許可設定、呼出音の3つの組み合わせを設定する） 本コマンドは操作手順が異なります。 *2（☛P228）を参照してください。 電話番号とサブアドレス 0～9：電話番号（最大32桁） 0～9：サブアドレス（最大19桁） 着信許可設定 　0：拒否 　1：許可 呼出音設定 　0：鳴らさない 　1：通常音 　2：呼出音1 　3：呼出音2 （自動的に空きを検索して追加する） 【＊】直前の通話の番号を登録する （TEL1、TEL2関係なく、最後に着信した番号）
0（共通）	58	発信者番号識別　削除	すでに設定されている発信者番号識別情報（電話番号のみ）が液晶ディスプレイに表示されるので、次のボタンを用いて削除処理を行います。 【2】もどる 【8】次へ 【6】表示されている番号を削除（削除後､次に登録されている番号を表示） 【#】終了
0（共通）	59	発信規制　設定	0～9：電話番号（最大32桁） 8個まで登録可能 （自動的に空きを検索して追加する）
0（共通）	60	発信規制　削除	すでに設定されている発信規制相手番号が液晶ディスプレイに表示されるので、次のボタンを用いて削除処理を行います。 【2】もどる 【8】次へ 【6】表示されている番号を削除（削除後､次に登録されている番号を表示） 【#】終了

ポート番号	機能番号	機能名称	設定値
0（共通）	64	内線電話を使用する	0：使用しない 1：使用する
	70	着番号にサブアドレスのない着信を許可する	0：着信しない 1：着信する
	74	ダイヤル桁間タイマ	02～15：ダイヤル間の時間（秒） 4秒
	75	ダイヤル終了識別ボタン	0：識別しない 1：#で識別する 2：##で識別する
	83	ｉ・ナンバー	0：使用しない 1：使用する ｉ・ナンバーを使用する場合、電話番号は機能番号84～86で設定してください。
	84	契約者番回線番号またはｉ・ナンバー情報1	0～9：電話番号（最大32桁）*1 0～9：サブアドレス（最大19桁）（☞P228）
	85	ダイヤルイン追加番号1またはｉ・ナンバー情報2	0～9：電話番号（最大32桁）*1 0～9：サブアドレス（最大19桁）（☞P228）
	86	ダイヤルイン追加番号2またはｉ・ナンバー情報3	0～9：電話番号（最大32桁）*1 0～9：サブアドレス（最大19桁）（☞P228）
	87ー91	ダイヤルイン追加番号3～7の電話番号	0～9：電話番号（最大32桁）*1 0～9：サブアドレス（最大19桁）（☞P228）
	94	液晶ディスプレイへの電話着信情報履歴表示の設定	「TEL着信　ｘｘｘ件」を 0：表示しない 1：表示する 本設定は、機能番号「99」の再起動処理を実行後、設定されます。
	95	日時	YY＊MM＊DD＊hh＊mm YY　：年（西暦　下2桁） MM　：月 DD　：日 hh　：時　0～23 mm　：分

（次ページへ続きます）

電話設定機能番号一覧

（前ページの続きです）

ポート番号	機能番号	機能名称	設定値
0（共通）	96	LAN側IPアドレス	機能番号を入力すると、液晶ディスプレイに設定値を表示します。 【#】表示のみで終了 値を入力したあとに入力するとエラーとなります。 xxx＊xxx＊xxx＊xxx x：0～9 本設定は、機能番号「99」の再起動処理を実行後、設定されます。
	97	サブネットマスク	機能番号を入力すると、液晶ディスプレイに設定値を表示します。 xx：マスク幅 本設定は、機能番号「99」の再起動処理を実行後、設定されます。
	98	リセット処理	99：お買い求め時の設定に戻し、再起動する
	99	再起動処理	99：本商品を再起動させる

*1：電話番号（最大32桁）とサブアドレス（最大19桁）は、あわせて最大51桁まで入力できます。

●サブアドレスなしの場合の入力方法

例　03-1234-5678の場合

⓪③①②③④⑤⑥⑦⑧→㊍→㊍→#

●サブアドレスありの場合の入力方法

例　03-1234-5678、サブアドレス0001の場合

⓪③①②③④⑤⑥⑦⑧→＊→⓪⓪⓪①→＊→#

*2：発信者番号識別設定は次の順番で入力します。

機能番号→＊→電話番号→＊→着信許可設定→＊→呼出音→#

●サブアドレスありの電話番号を設定する場合

例　電話番号03-1234-5678、サブアドレス0001の場合

⑤⑦→＊→⓪③①②③④⑤⑥⑦⑧→＊→⓪⓪⓪①→＊→⓪→＊→①→#

●直前の通話の番号を登録する場合（他の設定は省略）

⑤⑦→＊→＊＊→#

着信許可設定と呼出音は省略可能です。その場合は、初期値が設定されます。

■ポートごとの設定　ポート番号1または2

設定手順（☛P52）

⊛ ⊛ ⊛→ポート番号（①または②）→⊛→機能番号→⊛→設定値→ ⊞

ポート番号　①：TEL1ポート
　　　　　　②：TEL2ポート

ポート番号	機能番号	機能名称	設定値
1（TEL1ポート）または2（TEL2ポート）	01	通信クラス	0：その他 1：TEL 2：ファクス（鳴動） 3：ファクス（無鳴動）
	02	キャッチホン	0：使用しない 1：疑似キャッチホン 2：INSキャッチホン
	03	HLC	0：設定しない 1：設定する 2：設定するが着信判定はしない
	05	INSなりわけを使用する	0：しない 1：する
	06	INSなりわけ指定外の電話番号からの着信動作	0：拒否 1：許可
	07	INSなりわけ呼出音	0：鳴らさない 1：通常音 2：呼出音1 3：呼出音2
	08	フッキング検出	0：短い（100～1000 ms） 1：普通（100～1500 ms） 2：長い（100～2000 ms）
	10	INSナンバー・ディスプレイを使用する	0：しない 1：する
	12	モデムダイヤルイン／メッセージあり情報通知設定	0：使用しない 1：モデムダイヤルインを使用する 2：メッセージあり情報通知（Lモード）を使用する
	13	三者通話を使用する	0：使用しない 1：使用する
	15	メッセージあり状態表示設定	0：液晶ディスプレイに表示しない 1：液晶ディスプレイに表示する
	17	受話音量	0：小 1：中 2：大

（次ページへ続きます）

電話設定機能番号一覧

（前ページの続きです）

ポート番号	機能番号	機能名称	設定値
1（TEL1ポート）または2（TEL2ポート）	19	モデムダイヤルイン／INSナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ機能利用時の、サブアドレスを対象とする	0：対象としない 1：対象とする
	20	発信者番号通知のない着信を許可する	0：許可しない 1：許可する
	21	発信者番号通知	0：しない 1：回線契約に従う 2：契約者回線番号または ｉ・ナンバー情報1 3：ダイヤルイン追加番号1またはｉ・ナンバー情報2 4：ダイヤルイン追加番号2またはｉ・ナンバー情報3 5：ダイヤルイン追加番号3 6：ダイヤルイン追加番号4 7：ダイヤルイン追加番号5 8：ダイヤルイン追加番号6 9：ダイヤルイン追加番号7
	22	外線発信を許可する	0：規制しない 1：外線発信規制
	25	キャッチホン・ディスプレイを使用する	0：しない 1：する
	27	リバースパルスを送出する	0：しない 1：する
	28	通信中転送を利用する	0：しない 1：する

お知らせ

- 発信者番号の設定を正しく行わないと、相手の方に正しい電話番号が伝わらなかったり、発信者番号通知（☛P167）で設定した内容が有効とならない場合があります。また、INSネット64サービスが利用できない場合がありますので、電話番号を正しく設定してください。
- ｉ・ナンバーについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

ボタン操作一覧

■ メール確認

通常表示

ボタンを2秒以上押す

メール確認
実行/変更

ボタンを2秒以上押す

メール確認開始

メール確認を開始し
OK/NG

ボタンを2秒以上押す

メール確認を開始し
確認中

メール確認の結果が表示されます

メール　2件
メール確認終了

通常表示画面へ戻ります

ボタンを押す（押すたびに、OK／NGを交互に選択できます）

メール確認を開始し
OK/NG

ボタンを押す

状態表示

メール確認情報
メール確認自動で

表示行4行目を使用して、以下の設定情報を順次スクロール表示して通常表示画面へ戻ります

メール確認自動で行う／行わない
↓
確認1回目時刻
↓
確認2回目時刻
↓
確認3回目時刻

ボタンを押す（押すたびに、実行／変更を交互に選択できます）

メール確認
実行/変更

ボタンを2秒以上押す

自動メール確認
行う/行わない

ボタンを2秒以上押す

自動メール確認
書き込み中

自動メール確認
変更しました

通常表示画面へ戻ります

ボタンを押す（押すたびに、行う／行わないを交互に選択できます）

自動メール確認
行う/行わない

お知らせ

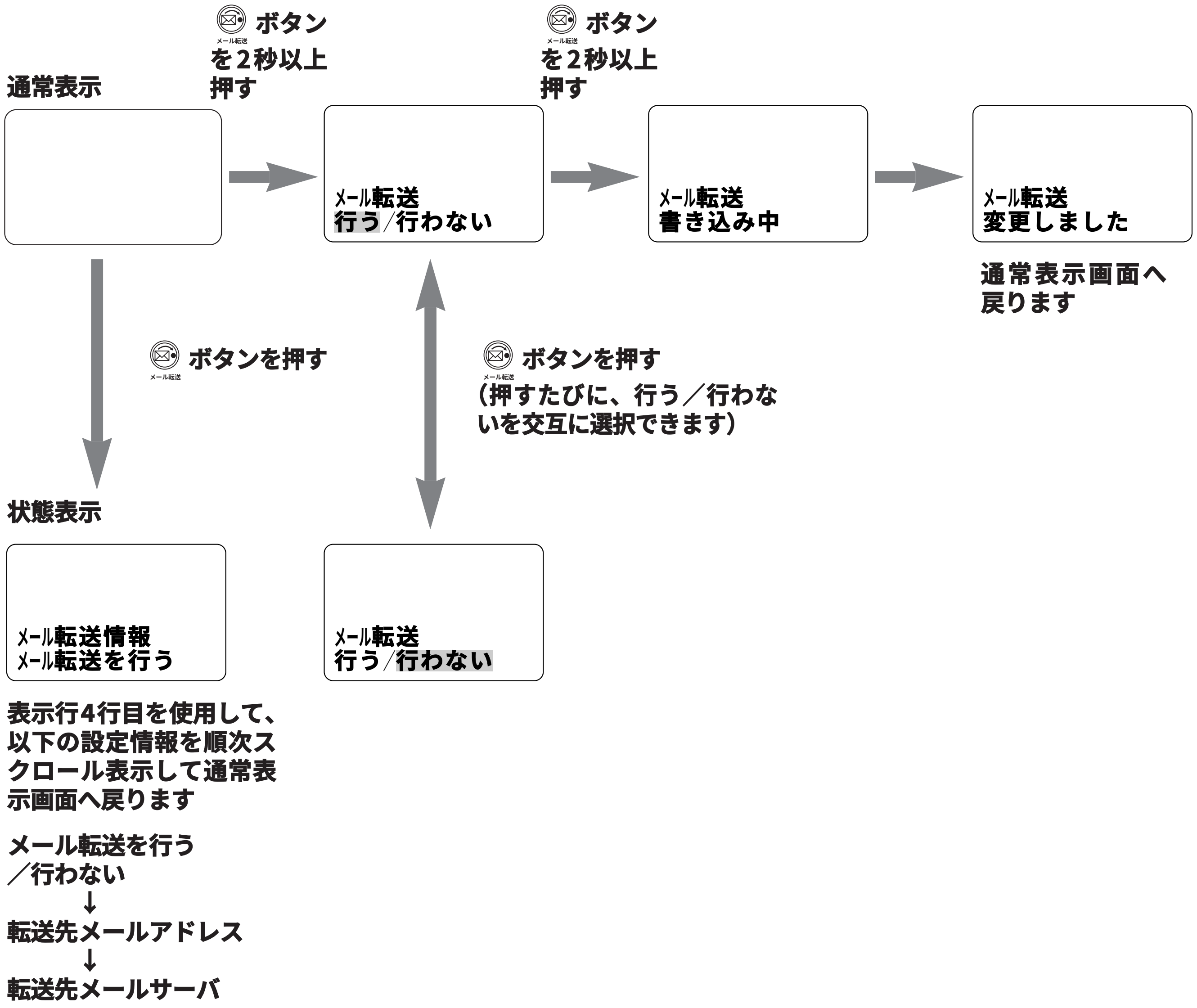
● **キャンセルについて**

操作中、以下の場合はキャンセルとみなして通常表示画面へ戻ります。

- 以外のボタンを押したとき
- メール確認開始画面にてNGを選択／確定した場合
- 操作が数秒間行われなかったとき

ボタン操作一覧

■ メール転送



お知らせ

● **キャンセルについて**

操作中、以下の場合はキャンセルとみなして、通常表示画面へ戻ります。

- 以外のボタンを押したとき
- 操作が数秒間行われなかったとき

■ 着信転送

通常表示

（着信転送）ボタンを2秒以上押す

着信転送
行う/行わない

（着信転送）ボタンを2秒以上押す

着信転送
書き込み中

着信転送
変更しました

通常表示画面へ戻ります

（着信転送）ボタンを押す

状態表示

着信転送情報
着信転送を行う

表示行4行目を使用して、以下の設定情報を順次スクロール表示して通常表示画面へ戻ります

着信転送を行う／行わない
↓
電話番号1転送先
↓
電話番号2転送先
↓
電話番号3転送先

（着信転送）ボタンを押す
（押すたびに、行う／行わないを交互に選択できます）

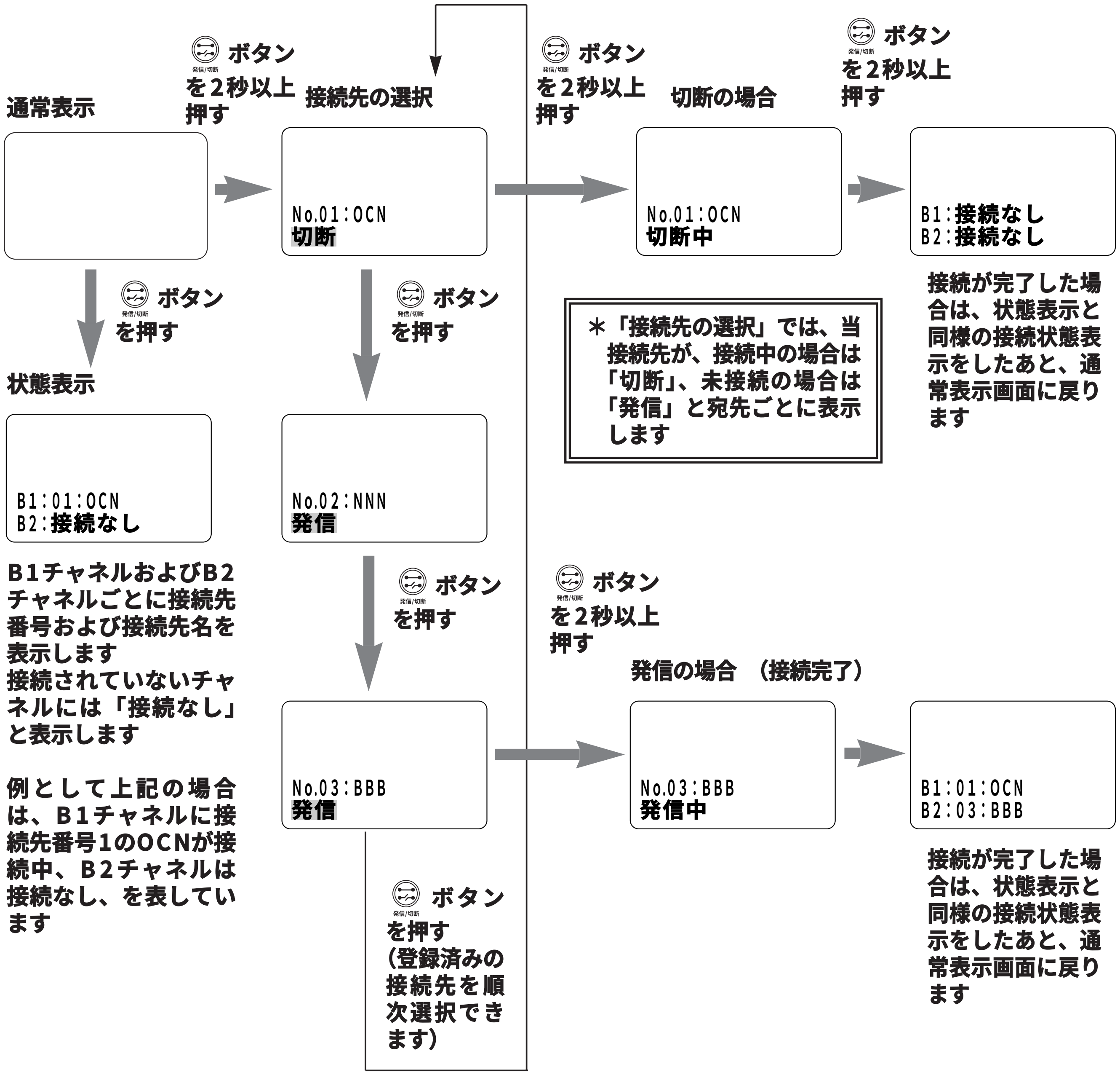
着信転送
行う/行わない

お知らせ

● **キャンセルについて**
操作中、以下の場合はキャンセルとみなして、通常表示画面へ戻ります。
- （着信転送）以外のボタンを押したとき
- 操作が数秒間行われなかったとき

ボタン操作一覧

■ 発信／切断



お知らせ

● **キャンセルについて**

操作中、以下の場合はキャンセルとみなして通常表示画面へ戻ります。

- （発信/切断）以外のボタンを押したとき
- 操作が数秒間行われなかったとき

TELNET設定一覧

本商品の10BASE-Tポートまたは簡易LAN接続している端末から利用できる機能の一覧です。
また、よく使用するコマンドについては、使用例を挙げて説明します。

■コマンド一覧

表示		機能	備考
表示	arp	ARPテーブルの表示	
	routetable	ルーティングテーブルの表示	
	statistic	統計情報の表示	
	staticroutetable	スタティックルートテーブルの表示	
	event	イベントログの表示	
	eventtotal	発生イベントの合計表示	
	charge	接続ログの表示	
	config	設定情報の表示	
	help	コマンドリストの表示	
	now	現在時刻の表示	
	temporary	設定中の構成情報表示	
	version	バージョン表示	
設定	password	パスワードの設定	
	lqr	LQRパケットの出力設定	使用例（☞P236）
	telhistory	電話の着信履歴情報表示設定	使用例（☞P237）
	default	初期設定に戻す	
	startup	簡易設定	
	snoop	パケットトレース	使用例（☞P238）
	boot	再起動	設定項目を書き込み再起動
	chargeclear	接続先ログ情報のクリア	
	datetime	日付、時刻設定	
	ping	pingの実行	
	reboot	本商品の再起動	
	save	現時点の設定項目の保存	

TELNET設定一覧

■ コマンドの使用方法

①端末上で、TELNETを起動します。
Windows® の場合、スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、本商品のIPアドレス（初期値：192.168.1.1）を指定し、接続します。

（入力例）　C:\windows\telnet.exe _192.168.1.1

②ログイン名「admin」、および、設定したパスワードでログインします。
※パスワードが設定されていない場合は、ログインできません。WWWブラウザによる設定（☛P46）でパスワードを設定してください。

```
IPMATE(IPMATE) System Console
Login:admin
Password:******
```

③初期画面が表示されます。

```
*---------------------------------------------------------*
|               IPMATE1500RD                              |
|            <  Dialup Router >                           |
|                 V01.00                                  |
*---------------------------------------------------------*
IPMATE>
```

「V××.××」は、ファームウェアのバージョンを表します。

④「IPMATE>」プロンプトが表示されたら、コマンドが入力できます。

■ コマンドの使用例

〈lqrコマンド〉

LQRパケットの送出を指定します。
IPMATE1500RDは、通常、LQRパケットを送出しない設定となっています。
LQRパケットを送出したい場合は、このコマンドを使用して設定します。

- 表示する

```
IPMATE> lqr

現在LQRなし
IPMATE>
```

- 設定する
  コマンド入力後、bootコマンドを入力し、IPMATE1500RDを再起動します。
  LQRパケットを送出する場合

```
IPMATE> lqr on

LQRありに設定しました
IPMATE>boot
```

  LQRパケットを送出しない場合

```
IPMATE> lqr off

LQRなしに設定しました
IPMATE>boot
```

お知らせ

LQR（Link Quality Report）とは、「PPPリンク品質報告」といい、ネットワーク問題の解決のために、RFC1989で規定されている「PPPリンク品質監視：LQM（Link Quality Monitoring）に使用されています。
装置間の「PPPリンク品質報告：LQR」の交換をするために、LQRパケットが定期的に送信されます。ただし、LQRパケットが送信されるのは、LQR使用の要求がネゴシエーションで成功した場合です。
本商品は、LQR使用を「要求する／しない」を設定できるようになっています。初期値は、LQR使用を「要求しない」です。

〈telhistoryコマンド〉

電話の着信履歴情報を、液晶ディスプレイに表示するかどうかを設定します。
IPMATE1500RDは、通常、電話の着信履歴情報を表示する設定となっています。

- 表示する（TEL着信表示設定「なし」時）

```
IPMATE> telhistory

現在TEL着信表示なし
IPMATE>
```

- 表示する（TEL着信表示設定「あり」時）

```
IPMATE> telhistory

現在TEL着信表示あり
IPMATE>
```


（次ページへ続きます）

（前ページの続きです）

- 設定する

コマンド入力後、bootコマンドを入力し、IPMATE1500RDを再起動します。

着信履歴情報を表示する場合（TEL着信　ｘｘｘ件）

```
IPMATE> telhistory on

TEL着信表示ありに設定しました
IPMATE>boot
```

着信履歴情報を表示しない場合（TEL着信　ｘｘｘ件）

```
IPMATE> telhistory off

TEL着信表示なしに設定しました
IPMATE>boot
```

〈snoopコマンド〉

パケットのトレースを行います。

コマンドを入力する前に、TELNETでログを採取する設定にすると、表示情報をファイル採取することができます。

パケットトレース終了後は、ログ採取を停止してください。

Windows® の場合、TELNETの画面で、［ターミナル］－［ログの開始］を選択すると、ログを採取します。

また、［ターミナル］－［ログの停止］を選択すると、ログの採取を停止します。

- 設定する

PPPパケットのトレースを開始する場合

```
IPMATE> snoop ppp
  トレースをスタートしますか？
(on/off/dump/dtl/all/[Protcol]) →
Protcol/Mode:PPP
Trace start...
```

トレースを終了する場合

```
[No.13] 00:0030.02 UART1 Tx
192.168.1.1->192.168.1.251 TCP
SPORT=80 DPORT=1163 RST
WND=0 CHKSUM=ED9F

IPMATE>snoop off
 トレースをスタートしますか
(on/off/dump/dtl/all/[Protocol])->
Protocol/Mode: off
Trace stopped.
```

設定記入シート

保守のための資料として、設定内容を記入し大切に保管してください。下線はお買い求め時の設定です。

■ISDN

Quick設定／ISDN／プロバイダ接続（端末型）

接続先　1		
接続先情報	接続先名	[　　　　　　　　　　]
	接続先電話番号	[　　　　　　　　　]
	ユーザID	[　　　　　　　　　]
	パスワード	[　　　　　　　　　]
接続方式	手動接続／自動接続	
ProxyDNS機能	使用する／使用しない	
	DNSサーバ情報	DNSサーバアドレスを自動取得する／（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する
	プライマリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　]
	セカンダリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　]
マルチリンクPPP機能	使用しない／使用する	
接続先　2		
接続先情報	接続先名	[　　　　　　　　　　]
	接続先電話番号	[　　　　　　　　　]
	ユーザID	[　　　　　　　　　]
	パスワード	[　　　　　　　　　]
接続方式	手動接続／自動接続（自動接続）	
ProxyDNS機能	使用する／使用しない	
	DNSサーバ情報	DNSサーバアドレスを自動取得する／（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する
	プライマリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　]
	セカンダリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　]
マルチリンクPPP機能	使用しない／使用する	
接続先　3		
接続先情報	接続先名	[　　　　　　　　　　]
	接続先電話番号	[　　　　　　　　　]
	ユーザID	[　　　　　　　　　]
	パスワード	[　　　　　　　　　]

（次ページへ続きます）

お知らせ

ここでのシートは、WWWブラウザによる設定画面で設定可能な内容の代表的なものを示しています。これ以外の項目のシートは、CD-ROM内の『オンラインマニュアル』を参照してください。

設定記入シート

（前ページの続きです）

接続方式　手動接続／自動接続

ProxyDNS機能　使用する／使用しない

DNSサーバ情報　DNSサーバアドレスを自動取得する／（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する

プライマリDNSサーバアドレス　[　　　]

セカンダリDNSサーバアドレス　[　　　]

マルチリンクPPP機能　使用しない／使用する

※接続先は16ケ所まで設定できます。設定内容は共通ですので、接続先4～16までの記入シートは接続先1～3のシートをコピーされるか、CD-ROM内「オンラインマニュアル　付録」内のシートをご利用ください。

LAN側の設定　IPアドレス　[　　　]（192.168.1.1）

ネットマスク　[　（　　）　]（24(255.255.255.0)）

DHCPサーバ機能　使用しない／使用する

提供IPアドレス　[　　　]～[　　　]（192.168.1.2～192.168.1.250）

常時接続　接続先　[　　　]

タイマ接続　接続先　[　　　]

接続時刻　[　]：[　]～[　]：[　]

接続先の選択条件

送信元IPアドレスで接続先を選択　（4件）

No1　送信元IPアドレス　[　　　]　接続先　[　　　]

No2　送信元IPアドレス　[　　　]　接続先　[　　　]

No3　送信元IPアドレス　[　　　]　接続先　[　　　]

No4　送信元IPアドレス　[　　　]　接続先　[　　　]

使用するアプリケーションで接続先を選択

WWW(HTTP)　接続先を指定する／接続先を指定しない

接続先　[　　　]

WWW(HTTPS)　接続先を指定する／接続先を指定しない

接続先　[　　　]

メールを送信(SMTP)　接続先を指定する／接続先を指定しない

接続先　[　　　]

メールを受信(POP3)　接続先を指定する／接続先を指定しない

接続先　[　　　]

ニュース（NNTP)　接続先を指定する／接続先を指定しない

接続先　[　　　]

DNS問い合わせ先の選択
　ProxyDNSの問い合わせ先　[　　　　]
　ドメイン名によるDNS問い合わせ先の選択(4件)

No1	ドメイン名 [　　]	DNS問い合わせ先 [　　]
No2	ドメイン名 [　　]	DNS問い合わせ先 [　　]
No3	ドメイン名 [　　]	DNS問い合わせ先 [　　]
No4	ドメイン名 [　　]	DNS問い合わせ先 [　　]

Quick設定／ISDN／プロバイダ接続（LAN型）

接続先　1

接続先情報	接続先名	[　　　　]
	接続先電話番号	[　　　　]
	ユーザID	[　　　　]
	パスワード	[　　　　]
接続方式	手動接続／<u>自動接続</u>	
ProxyDNS機能	<u>使用する</u>／使用しない	
	DNSサーバ情報	<u>DNSサーバアドレスを自動取得する</u>／ （アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する
	プライマリDNSサーバアドレス	[　　　　]
	セカンダリDNSサーバアドレス	[　　　　]
NAT機能	NAT機能を使用しない／<u>NAT機能を使用する</u>	
	グローバルアドレス	IPアドレス [　　　　]
		個数 [　　]
		アドレス割り当て時間 [　　] 秒　（<u>180秒</u>）
マルチリンクPPP機能	<u>使用しない</u>／使用する	

接続先　2

接続先情報	接続先名	[　　　　]
	接続先電話番号	[　　　　]
	ユーザID	[　　　　]
	パスワード	[　　　　]
接続方式	手動接続／<u>自動接続</u>	
ProxyDNS機能	<u>使用する</u>／使用しない	
	DNSサーバ情報	<u>DNSサーバアドレスを自動取得する</u>／ （アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する
	プライマリDNSサーバアドレス	[　　　　]
	セカンダリDNSサーバアドレス	[　　　　]

（次ページへ続きます）

設定記入シート

（前ページの続きです）

NAT機能	NAT機能を使用しない／NAT機能を使用する		
	グローバルアドレス	IPアドレス	[　　　　　　　　]
		個数	[　　　　]
		アドレス割り当て時間	[　　　] 秒　（180秒）
マルチリンクPPP機能	使用しない／使用する		
接続先　3			
接続先情報	接続先名	[　　　　　　　　　　]	
	接続先電話番号	[　　　　　　　　　　]	
	ユーザID	[　　　　　　　　　　]	
	パスワード	[　　　　　　　　　　]	
接続方式	手動接続／自動接続		
ProxyDNS機能	使用する／使用しない		
	DNSサーバ情報	DNSサーバアドレスを自動取得する／（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する	
	プライマリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　　　]	
	セカンダリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　　　]	
NAT機能	NAT機能を使用しない／NAT機能を使用する		
	グローバルアドレス	IPアドレス	[　　　　　　　　]
		個数	[　　　　]
		アドレス割り当て時間	[　　　] 秒　（180秒）
マルチリンクPPP機能	使用しない／使用する		

※接続先は16ケ所まで設定できます。設定内容は共通ですので、接続先4～16までの記入シートは接続先1～3のシートをコピーされるか、CD-ROM内『オンラインマニュアル　付録』内のシートをご利用ください。

LAN側の設定	IPアドレス	[　　　　　　　　] （192.168.1.1）	
	ネットマスク	[　　（　　　　　　　）] (24(255.255.255.0)	
	DHCPサーバ機能	使用しない／使用する	
		提供IPアドレス	[　　　　　　　　]～ [　　　　　　　　] (192.168.1.2～192.168.1.250)
タイマ接続	接続先	[　　　　　　　　　　]	
		接続時刻	[　]：[　] ～[　]：[　]

Quick設定／ISDN／LAN間接続

接続先　1		
接続先情報	接続先名	[　　　　　　　　　　　　　　　　]
	接続先電話番号	電話番号　[　　　　　　　　　　　　　　] *
		サブアドレス　[　　　　　　　　　　　　　　]
	ユーザID	[　　　　　　　　　　　　　　]
	パスワード	[　　　　　　　　　　　　　　]
接続方式	発信	手動接続／自動接続
	着信	着信を許可／着信を拒否
着信時の認証	相手の電話番号で認証	認証する／認証しない
	相手のユーザIDで認証	認証する／認証しない
		ユーザID［　　　　］パスワード［　　　　］
ProxyDNS機能	使用する／使用しない	
	DNSサーバ情報	DNSサーバアドレスを自動取得する／（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する
	プライマリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　　　　　]
	セカンダリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　　　　　]
		直接指定したDNSサーバを　イントラネット用とする／イントラネット用としない
マルチリンクPPP機能	使用しない／使用する	
接続先　2		
接続先情報	接続先名	[　　　　　　　　　　　　　　　　]
	接続先電話番号	電話番号［　　　　　　　　　　　　　　］ *
		サブアドレス　[　　　　　　　　　　　　　　]
	ユーザID	[　　　　　　　　　　　　　　]
	パスワード	[　　　　　　　　　　　　　　]
接続方式	発信	手動接続／自動接続
	着信	着信を許可／着信を拒否
着信時の認証	相手の電話番号で認証	認証する／認証しない
	相手のユーザIDで認証	認証する／認証しない
		ユーザID［　　　　］パスワード［　　　　］
ProxyDNS機能	使用する／使用しない	

（次ページへ続きます）

設定記入シート

（前ページの続きです）

	DNSサーバ情報	DNSサーバアドレスを自動取得する／（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する
	プライマリDNSサーバアドレス	[ ]
	セカンダリDNSサーバアドレス	[ ]
		直接指定したDNSサーバを インFトラネット用とする／イントラネット用としない
マルチリンクPPP機能	使用しない／使用する	
接続先　3		
接続先情報	接続先名	[ ]
	接続先電話番号	電話番号 [ ] *
		サブアドレス[ ]
	ユーザID	[ ]
	パスワード	[ ]
接続方式	発信	手動接続／自動接続
	着信	着信を許可／着信を拒否
着信時の認証	相手の電話番号で認証	認証する／認証しない
	相手のユーザIDで認証	認証する／認証しない
		ユーザID [ ] パスワード [ ]
ProxyDNS機能	使用する／使用しない	
	DNSサーバ情報	DNSサーバアドレスを自動取得する／（アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する
	プライマリDNSサーバアドレス	[ ]
	セカンダリDNSサーバアドレス	[ ]
		直接指定したDNSサーバを イントラネット用とする／イントラネット用としない
マルチリンクPPP機能	使用しない／使用する	

※接続先は16ケ所まで設定できます。設定内容は共通ですので、接続先4〜16までの記入シートは接続先1〜3のシートをコピーされるか、CD-ROM内『オンラインマニュアル　付録』内のシートをご利用ください。

電話番号（本機）	電話番号 [ ]＊	
	サブアドレス [ ]	
LAN側の設定	IPアドレス	[ ]（192.168.1.1）
	ネットマスク	[( )] (24(255.255.255.0)

	DHCPサーバ機能	使用しない／使用する
		提供IPアドレス [ ] ～ [ ]
		(192.168.1.2～192.168.1.250)
常時接続	接続先	[ ]
タイマ接続	接続先	[ ]
		接続時刻 [ ]：[ ] ～[ ]：[ ]

スタティックルート情報　(8件)

宛先ネットワークアドレス/マスク	ゲートウェイアドレス	メトリック	接続先
[ ]/[( )]	[ ]	[ ]	[ ]
[ ]/[( )]	[ ]	[ ]	[ ]
[ ]/[( )]	[ ]	[ ]	[ ]
[ ]/[( )]	[ ]	[ ]	[ ]
[ ]/[( )]	[ ]	[ ]	[ ]
[ ]/[( )]	[ ]	[ ]	[ ]
[ ]/[( )]	[ ]	[ ]	[ ]
[ ]/[( )]	[ ]	[ ]	[ ]

DNS問い合わせ先の選択

ProxyDNSの問い合わせ先 [ ]

ドメイン名によるDNS問い合わせ先の選択(4件)

No1	ドメイン名 [ ]	DNS問い合わせ先 [ ]
No2	ドメイン名 [ ]	DNS問い合わせ先 [ ]
No3	ドメイン名 [ ]	DNS問い合わせ先 [ ]
No4	ドメイン名 [ ]	DNS問い合わせ先 [ ]

設定記入シート

装置／電話番号

ｉ・ナンバーを使用する　OFF　ON

契約者回線番号またはｉ・ナンバー情報1　[　　　　]　＊　[　　　　]

データポート着信
- LAN着信　OFF　ON
- TA着信RS-232C　OFF　ON
- TA着信USB　OFF　ON

アナログ着信
- 着信しない
- TEL1ポート優先着信
- TEL1ポートのみ着信
- TEL2ポート優先着信
- TEL2ポートのみ着信
- 両ポートで着信

データ着信優先度
- 着信優先　TA:RS-232Cポート　TA:USBポート　LAN
- 着信切替呼出し回数 [　　　] 回 (3)

グローバル着信

データポート着信
- LAN着信　OFF　ON
- TA着信RS-232C　OFF　ON
- TA着信USB　OFF　ON

アナログ着信
- 着信しない
- TEL1ポート優先着信
- TEL1ポートのみ着信
- TEL2ポート優先着信
- TEL2ポートのみ着信
- 両ポートで着信

ダイヤルイン追加番号1またはｉ・ナンバー情報2　[　　　　]　＊　[　　　　]

データポート着信
- LAN着信　OFF　ON
- TA着信RS-232C　OFF　ON
- TA着信USB　OFF　ON

アナログ着信
- 着信しない
- TEL1ポート優先着信
- TEL1ポートのみ着信
- TEL2ポート優先着信
- TEL2ポートのみ着信
- 両ポートで着信

ダイヤルイン追加番号2またはｉ・ナンバー情報3　[　　　　]　＊　[　　　　]

データポート着信
- LAN着信　OFF　ON
- TA着信RS-232C　OFF　ON
- TA着信USB　OFF　ON

	アナログ着信	着信しない	
		TEL1ポート優先着信	
		TEL1ポートのみ着信	
		TEL2ポート優先着信	
		TEL2ポートのみ着信	
		両ポートで着信	
ダイヤルイン追加番号3		[ ]	＊ [ ]
	データポート着信	LAN着信	OFF ON
		TA着信RS-232C	OFF ON
		TA着信USB	OFF ON
	アナログ着信	着信しない	
		TEL1ポート優先着信	
		TEL1ポートのみ着信	
		TEL2ポート優先着信	
		TEL2ポートのみ着信	
		両ポートで着信	
ダイヤルイン追加番号4		[ ]	＊ [ ]
	データポート着信	LAN着信	OFF ON
		TA着信RS-232C	OFF ON
		TA着信USB	OFF ON
	アナログ着信	着信しない	
		TEL1ポート優先着信	
		TEL1ポートのみ着信	
		TEL2ポート優先着信	
		TEL2ポートのみ着信	
		両ポートで着信	
ダイヤルイン追加番号5		[ ]	＊ [ ]
	データポート着信	LAN着信	OFF ON
		TA着信RS-232C	OFF ON
		TA着信USB	OFF ON
	アナログ着信	着信しない	
		TEL1ポート優先着信	
		TEL1ポートのみ着信	
		TEL2ポート優先着信	
		TEL2ポートのみ着信	
		両ポートで着信	

（次ページへ続きます）

設定記入シート

（前ページの続きです）

ダイヤルイン追加番号6		[　　　　　　　] ＊ [　　　　　　　]		
	データポート着信	**LAN着信**	**OFF**	**<u>ON</u>**
		TA着信RS-232C	**OFF**	**<u>ON</u>**
		TA着信USB	**OFF**	**<u>ON</u>**
	アナログ着信	**着信しない**		
		TEL1ポート優先着信		
		TEL1ポートのみ着信		
		TEL2ポート優先着信		
		TEL2ポートのみ着信		
		<u>両ポートで着信</u>		
ダイヤルイン追加番号7		[　　　　　　　] ＊ [　　　　　　　]		
	データポート着信	**LAN着信**	**OFF**	**<u>ON</u>**
		TA着信RS-232C	**OFF**	**<u>ON</u>**
		TA着信USB	**OFF**	**<u>ON</u>**
	アナログ着信	**着信しない**		
		TEL1ポート優先着信		
		TEL1ポートのみ着信		
		TEL2ポート優先着信		
		TEL2ポートのみ着信		
		<u>両ポートで着信</u>		

ルータ機能／簡易ＬＡＮ接続

RS-232C用IPアドレス	**[　　.　　.　　.　　]**	**(<u>192.168.1.251</u>)**
USB用IPアドレス	**[　　.　　.　　.　　]**	**(<u>192.168.1.252</u>)**
LAN接続用回線番号	**[　　　　　　]**	**(<u>9999</u>)**

ＴＡ機能
〈共通〉

TA	**サブアドレス区切り文字**	**#**	**＊**	**<u>／</u>**
	エコーバック	**<u>エコーバックあり</u>**	**エコーバックなし**	

〈RS-232C〉

ポート制御	通信速度	自動	9.6 kbit/s	19.2 kbit/s	38.4 kbit/s
		57.6 kbit/s	115.2 kbit/s	230.4 kbit/s	
	フロー制御	なし		RS／CS	
	ER信号OFF時の動作	何もしない	エスケープモードへ移行する		
		通信を切断する			
	CD信号制御	常にON		回線接続中のみON	
	DR信号制御	常にON		CD信号と同じ動作をする	
	ER信号制御	常にONとみなす		パソコンのER信号を監視する	
	自動着信呼出し回数	[　　　] 回（0）			
マルチリンクPPP機能認証	使用しない	使用する：BAP/BACPなし	使用する：BAP/BACPあり		
	ユーザID	[　　　　　　]			
	認証パスワード	[　　　　　　]			
チャネル追加条件	しきい値	[　　] %（80）	測定時間	[　　] 秒（30）	
チャネル切断条件	しきい値	[　　] %（30）	測定時間	[　　] 秒（60）	
アナログ発着信時の切断動作	切断しない	マルチリンクPPP機能使用時に1本切断する	必ず切断する		

〈USB〉

ポート制御	自動着信呼出し回数	[　　　] 回（0）		
マルチリンクPPP機能認証	使用しない	使用する：BAP/BACPなし	使用する：BAP/BACPあり	
	ユーザID	[　　　　　　]		
	認証パスワード	[　　　　　　]		
チャネル追加条件	しきい値	[　　] %（80）	測定時間	[　　] 秒（30）
チャネル切断条件	しきい値	[　　] %（30）	測定時間	[　　] 秒（60）
アナログ発着信時の切断動作	切断しない	マルチリンクPPP機能使用時に1本切断する	必ず切断する	

電話
〈共通〉

内線電話を使用する	OFF	ON		
ダイヤル識別	ダイヤル終了識別ボタン	なし	#	##
	ダイヤル桁間タイマ	[　　] 秒（4）		
フレックスホンの着信転送を使用する	OFF	ON		
転送トーキ	転送トーキなし、転送元トーキなし、ユーザ情報なし			
	転送トーキあり、転送元トーキなし、ユーザ情報なし			
	転送トーキなし、転送元トーキあり、ユーザ情報あり			

（次ページへ続きます）

設定記入シート

（前ページの続きです）

	転送トーキあり、転送元トーキあり、ユーザ情報あり
	転送トーキなし、転送元トーキなし、ユーザ情報あり
着信転送先	契約者回線番号またはｉ・ナンバー情報１宛[ ]
	ダイヤルイン追加番号1またはｉ・ナンバー情報2宛[ ]
	ダイヤルイン追加番号2またはｉ・ナンバー情報3宛[ ]
着信認証	着番号にサブアドレスのない着信を許可する　OFF　ON

〈発信規制（最大8件）〉

NO	発信規制相手番号（32桁まで）
1	[ ]
2	[ ]
3	[ ]
4	[ ]
5	[ ]
6	[ ]
7	[ ]
8	[ ]

〈発信者番号識別（最大16件）〉

NO	電話番号＊サブアドレス（32桁 ＊19桁）	指定番号からの着信を許可する		呼出音
1	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
2	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
3	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
4	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
5	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
6	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
7	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
8	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
9	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
10	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
11	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
12	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
13	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
14	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
15	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]
16	[ ] ＊ [ ]	OFF	ON	[ ]

＊「呼出音」は、[鳴らさない／通常音／呼出音1／呼出音2］から選択。

〈TEL１ポート〉

着信認証	発信者番号通知のない着信を許可する　OFF　ON
発信	外線発信を許可する　OFF　ON
	発信者番号通知　通知しない
	回線契約に従う
	契約者回線番号またはｉ・ナンバー情報１を通知する
	ダイヤルイン追加番号1またはｉ・ナンバー情報2を通知する
	ダイヤルイン追加番号2またはｉ・ナンバー情報3を通知する
	ダイヤルイン追加番号3を通知する
	ダイヤルイン追加番号4を通知する
	ダイヤルイン追加番号5を通知する
	ダイヤルイン追加番号6を通知する
	ダイヤルイン追加番号7を通知する
受話音量	小　中　大
通信クラス	その他　電話　ファクス（鳴動）　ファクス（無鳴動）
HLC	設定しない　設定する　設定するが着信判定はしない
フッキング検出	短い　普通　長い
フレックスホン	キャッチホン　使用しない　INSキャッチホン　疑似キャッチホン
	三者通話を使用する　OFF　ON
	通信中転送を使用する　OFF　ON
INSなりわけ	INSなりわけを使用する　OFF　ON
	呼出音　鳴らさない　通常音　呼出音1　呼出音2
	INSなりわけ指定外の電話番号からの着信を許可する　OFF　ON
番号（情報）通知設定	メッセージあり情報（Lモード）を通知する　OFF　ON
	モデムダイヤルインを使用する　OFF　ON
	メッセージあり情報（Lモード）をIPMATEの液晶ディスプレイに表示する　OFF　ON
オプション	INSナンバー・ディスプレイを使用する　OFF　ON
	キャッチホン・ディスプレイを使用する　OFF　ON
	モデムダイヤルイン、INSナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイを使用する際、サブアドレスを対象とする　OFF　ON
	リバースパルスを送出する　OFF　ON

7 ご参考

設定記入シート

〈TEL2ポート〉

着信認証　発信者番号通知のない着信を許可する　OFF　ON

発信　外線発信を許可する　OFF　ON

発信者番号通知　通知しない
回線契約に従う
契約者回線番号またはｉ・ナンバー情報1を通知する
ダイヤルイン追加番号1またはｉ・ナンバー情報2を通知する
ダイヤルイン追加番号2またはｉ・ナンバー情報3を通知する
ダイヤルイン追加番号3を通知する
ダイヤルイン追加番号4を通知する
ダイヤルイン追加番号5を通知する
ダイヤルイン追加番号6を通知する
ダイヤルイン追加番号7を通知する

受話音量　小　中　大

通信クラス　その他　電話　ファクス（鳴動）　ファクス（無鳴動）

HLC　設定しない　設定する　設定するが着信判定はしない

フッキング検出　短い　普通　長い

フレックスホン　キャッチホン　使用しない　INSキャッチホン　疑似キャッチホン
三者通話を使用する　OFF　ON
通信中転送を使用する　OFF　ON

INSなりわけ　INSなりわけを使用する　OFF　ON
呼出音　鳴らさない　通常音　呼出音1　呼出音2
INSなりわけ指定外の電話番号からの着信を許可する　OFF　ON

番号（情報）通知設定　メッセージあり情報（Lモード）を通知する　OFF　ON
モデムダイヤルインを使用する　OFF　ON
メッセージあり情報（Lモード）をIPMATEの液晶ディスプレイに表示する　OFF　ON

オプション　INSナンバー・ディスプレイを使用する　OFF　ON
キャッチホン・ディスプレイを使用する　OFF　ON
モデムダイヤルイン、INSナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイ使用する際、サブアドレスを対象とする　OFF　ON
リバースパルスを送出する　OFF　ON

■ 専用線

Quick設定／専用線／プロバイダ接続

接続先の登録情報	接続先名	[ ]
	回線速度	64 kbit/s／128 kbit/s
LAN側の設定	IPアドレス	[ ] (192.168.1.1)
	ネットマスク	[( )] (24(255.255.255.0)
	DHCPサーバ機能	使用しない／使用する
		提供IPアドレス [ ]〜[ ] (192.168.1.2〜192.168.1.250)
回線側IPアドレス	設定する／設定しない	
	本機IPアドレス	[ ] (0.0.0.0)
	ネットマスク	[( )] (24(255.255.255.0)
ProxyDNS機能	使用する／使用しない	
	DNSサーバ情報	DNSサーバアドレスを自動取得する／ (アドレス入力欄の) DNSサーバアドレスを使用する
	プライマリDNSサーバアドレス	[ ]
	セカンダリDNSサーバアドレス	[ ]
NAT機能	NAT機能を使用しない／NAT機能を使用する	
	グローバルアドレス	IPアドレス [ ]
		個数 [ ]
		アドレス割り当て時間 [ ] 秒 (180秒)

Quick設定／専用線／LAN間接続

接続先の登録情報	接続先名	[ ]
	回線速度	64 kbit/s ／ 128 kbit/s
LAN側の設定	IPアドレス	[ ] (192.168.1.1)
	ネットマスク	[( )] (24(255.255.255.0)
	DHCPサーバ機能	使用しない / 使用する
		提供IPアドレス [ ]〜[ ] (192.168.1.2〜192.168.1.250)
回線側IPアドレス	設定する／設定しない	
	本機IPアドレス	[ ] (0.0.0.0)
	ネットマスク	[( )] (24(255.255.255.0)

(次ページへ続きます)

設定記入シート

（前ページの続きです）

ProxyDNS機能	使用する／使用しない	
	DNSサーバ情報	DNSサーバアドレスを自動取得する／ （アドレス入力欄の）DNSサーバアドレスを使用する
	プライマリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　]
	セカンダリDNSサーバアドレス	[　　　　　　　　]

スタティックルート情報 （8件）

宛先ネットワークアドレス/マスク	ゲートウェイアドレス	メトリック	接続先
[　　　]/[(　　)]	[　　　]	[　　]	[　　　]
[　　　]/[(　　)]	[　　　]	[　　]	[　　　]
[　　　]/[(　　)]	[　　　]	[　　]	[　　　]
[　　　]/[(　　)]	[　　　]	[　　]	[　　　]
[　　　]/[(　　)]	[　　　]	[　　]	[　　　]
[　　　]/[(　　)]	[　　　]	[　　]	[　　　]
[　　　]/[(　　)]	[　　　]	[　　]	[　　　]
[　　　]/[(　　)]	[　　　]	[　　]	[　　　]

装置／RS-232C・USB

〈共通〉

サブアドレス区切り文字	#	＊	／

〈RS-232C〉

ポート制御	通信速度	自動　9.6 kbit/s　19.2 kbit/s　38.4 kbit/s 57.6 kbit/s　115.2 kbit/s　230.4 kbit/s
	フロー制御	なし　RS／CS

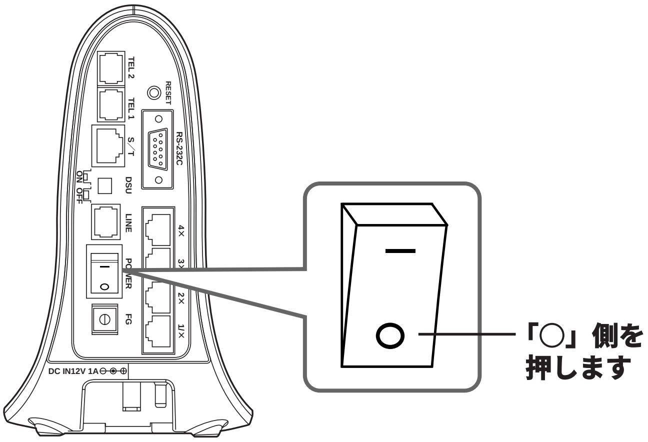
ルータ機能／簡易LAN接続

RS-232C用IPアドレス	[　　.　　.　　.　　]（192.168.1.251）
USB用IPアドレス	[　　.　　.　　.　　]（192.168.1.252）
LAN接続用回線番号	[　　　　]（9999）

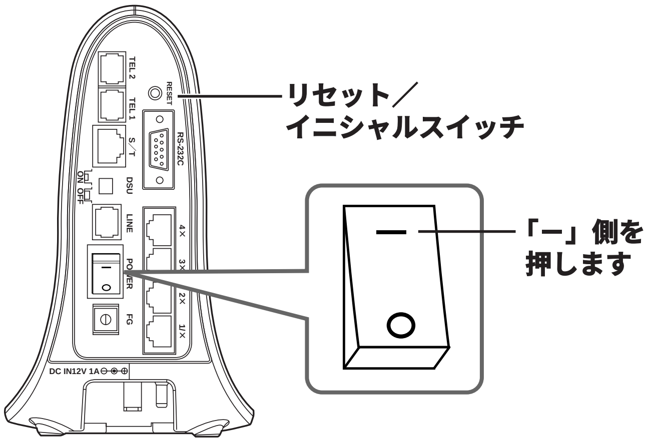
お買い求め時の設定に戻すには

本商品をお買い求め時の設定（初期値）に戻すことができます。本商品のIPアドレスもお買い求め時の設定に戻ります。

1 本商品右側面の電源スイッチを「OFF」にします。



2 本商品背面のリセット／イニシャルスイッチを、先の細い棒などで押しながら、右側面の電源スイッチを「ON」にします。



LANランプが緑色で点滅を繰り返し始めたら、リセット／イニシャルスイッチをはなしてください。起動後、自動的にお買い求め時の設定に戻ります。

お知らせ

設定した情報やイベントログ、接続ログ、課金情報、本商品の液晶ディスプレイに表示される電話の着信履歴などの情報は、本操作により消去されます。日時は初期化されません。

お願い

ファームウェアが消去される場合がありますので、ファームウェアバージョンアップ中に本操作を行わないでください。

イージーバージョンアップ

「イージーバージョンアップ」では、次の3つのことができます。

・ファームウェアのバージョンアップ　☞P257
・設定ファイルのバックアップ　☞P262
・設定ファイルのアップロード　☞P265

本商品の液晶ディスプレイが「<LOADING MODE> Please Loading Software」表示の時は、「ローディングモードになったら」（☞P261）をご参照ください。

ここでは、Windows® パソコンをご利用の場合について説明します。
Macintoshパソコンをご利用になる場合には、付属のCD-ROM内の『イージーバージョンアップ』をご覧ください。

イージーバージョンアップは、次のように使用します。

1 本商品とパソコン1台を接続します。

回線ケーブルは接続しないでください。
パソコンの接続方法については、「1　お使いになる前に」および「本商品へ接続する前の準備〈パソコンでの操作〉」を参照してください。

2 本商品を再起動（電源スイッチOFF -> ON）します。

3 以下のバージョンアップ方法をよくお読みになった上で、easy15rd.exeを実行してください。イージーバージョンアップの初期画面が表示されます。

easy15rd.exeは、最新版を下記URLよりあらかじめダウンロードしていただくことをお勧めいたします。もし、下記URLにアクセスできない場合は、エクスプローラを用いてCD-ROM内[Utility]ディレクトリのファイルをご使用になってください。

http://www.ntt-east.co.jp/ced/
http://www.ntt-west.co.jp/kiki/

（平成13年6月1日現在）

ご使用にあたっては、次のことにご注意ください。

- イージーバージョンアップご利用時に本商品に接続するパソコンは１台のみとし、複数接続しないでください。
- イージーバージョンアップご利用時は、他のアプリケーションを起動しないでください。バージョンアップが正常に終了しないことがあります。
- イージーバージョンアップでバージョンアップ中に、WWWブラウザによる設定やアナログポートに接続したプッシュ式電話機からの設定など、他の方法で本商品にアクセスしないでください。
- イージーバージョンアップでバージョンアップ中に、ケーブルをぬいたり、電源を切ったりしないでください。

• バージョンアップ中にケーブルがぬけたり電源が切れて、バージョンアップが正常に終了しなかった場合、ローディングモードになったり、設定ファイルがお買い求め時の設定に戻ることがあります。
• RS-232Cポート接続でご使用になるときは、本商品のRS-232Cポートの通信速度設定を、「自動」（デフォルト）にしてください。
• イージーバージョンアップで認識する通信ポートはCOM1からCOM9です。本商品との接続ポート割り当てをその範囲内に設定してください。
• 簡易LAN接続でのバージョンアップはサポートしていません（USBポート接続でWindows® 98(Second Edition)より前のOSを使用している場合を除く）。
• ローディングモード時は、「設定ファイルのバックアップ」がご利用になれないことがあります。また、USBポート接続によるご使用はできません。10BASE-Tポートをご利用になるか、RS-232Cポートをご利用ください。
• 動作確認済みの環境は、次のとおりです。
・Windows® 95
・Windows® 98
・Windows® 98(Second Edition)
・Windows® Me
・WindowsNT® 4.0
・Windows® 2000

バージョンアップするには

イージーバージョンアップにより、ファームウェアのバージョンアップが行えます。
また、ファームウェアが正常に起動しなくなった場合にも、ファームウェアを正常に戻すことができます。
最新ファームウェアは下記URLよりあらかじめダウンロードしておいてください。ipm15rd.binファイルが生成されます。

http://www.ntt-east.co.jp/ced/
http://www.ntt-west.co.jp/kiki/

（平成13年6月1日現在）

パソコンの接続方法により、操作手順が異なります。
（ローディングモード時は、USBポート接続でのご使用はできません。）

10BASE-Tポートで接続している場合

10BASE-Tポートで接続している場合は、あらかじめ本商品のログインパスワードが設定されている必要があります。
「3 設定方法 WWWブラウザでの設定手順」（☞P46）に従って、本商品のパスワードが設定されていることを確認した後、WWWブラウザを終了してください。
（ローディングモード時のパスワードは「ipmate」固定です。WWWブラウザによる確認はできません。）

1 **本商品を再起動（電源スイッチOFF → ON）します。**

2 **パソコン上で、easy15rd.exeを実行します。イージーバージョンアップの初期画面が表示されます。**

3 **「イージーバージョンアップ」の初期画面で「10BASE-Tを用いたバージョンアップ」を選択し、[次へ]をクリックします。**

4 **「バージョンアップ（10BASE-T）」画面が表示されます。[次へ]をクリックします。**

5 **「ログイン設定」画面が表示されます。**

IPMATE1500RDのIPアドレス、パスワードを入力し、[接続]をクリックします。

6 **「メインメニュー」画面が表示されます。**

「バージョンアップ」にチェックして、[次へ]をクリックします。

7 「バージョン確認」画面が表示されます。

[ファイル選択]をクリックします。
画面の上段に「現在のIPMATEのファームウェアは壊れている可能性があります。IPMATEにファームウェア・ファイルを転送して下さい。」と表示されている場合、ファームウェアが壊れています。復旧のため、ダウンロードしたファームウェアを選択してください。
ファームウェア（ipm15rd.bin）を選択したあと、[開く]をクリックします。
下段に表示されるファームウェアのバージョンを確認し、[次へ]をクリックします。

8 「設定ファイルのバックアップ」画面が表示されます。

[ファイル選択]をクリックします。
設定ファイル(cfg15rd.bin)をバックアップするフォルダ、およびファイル名「cfg15rd.bin」を指定し、[保存]をクリックします。[実行］をクリックします。

9 「設定ファイル」のバックアップが終了すると、メッセージが表示され、[OK]をクリックすると「バージョンアップ」画面が表示されます。

[実行]をクリックします。
「7.」で選択したファームウェア（ipm15rd.bin）がパソコンから本商品に転送されます。
「8.」で設定ファイルがバックアップされていれば、本商品に自動転送します。

10 転送が終了すると、「ファイル転送終了」画面が表示されます。

［終了］をクリックすると、イージーバージョンアップが終了します。
［初期画面］をクリックすると、最初の画面に戻ります。

11 本商品を再起動（電源スイッチOFF -> ON）してください。

以上で、バージョンアップは終了です。

7 ご参考

バージョンアップするには

RS-232Cポート または USBポートで接続している場合

（ローディングモード時は、USBポート接続はご使用になれません。）

◎USBポート接続でWindows® 98のOSを使用している場合
パソコンと本商品を【簡易LAN接続】によって接続します。詳細は、「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>」を参照してください。

以降は、「10BASE-Tポートで接続している場合」の手順に従って操作してください。
なお、本商品にファイル転送後、電源スイッチをOFFにするときには、簡易LAN接続を先に終了させてください。
簡易LAN接続を終了しないまま、本商品の電源スイッチをOFFにすると、パソコンの再起動が必要になる場合があります。

◎RS-232Cポート接続の場合、または、USBポート接続でWindows® 98（Second Edition）以降のOSを使用している場合

1 本商品を再起動（電源スイッチOFF -> ON）します。

2 パソコン上で、easy15rd.exeを実行します。

イージーバージョンアップの初期画面が表示されます。

3 「イージーバージョンアップ」の初期画面で「RS-232CまたはUSBを用いたバージョンアップ」を選択し、[次へ]をクリックします。

4 「バージョンアップ（RS-232C/USB）」画面が表示されます。

[次へ]をクリックします。

5 本商品を接続しているCOMポートを自動検出します。本商品との接続を確認できると「IPMATEの確認」画面が表示されます。

内容を確認し、[次へ]をクリックします。

6 「メインメニュー」画面が表示されます。

「バージョンアップ」にチェックして、[次へ]をクリックします。

7 「バージョン確認」画面が表示されます。

[ファイル選択]をクリックします。
画面の上段に「現在のIPMATEのファームウェアは壊れている可能性があります。IPMATEにファームウェア・ファイルを転送して下さい。」と表示されている場合、ファームウェアが壊れています。復旧のため、ダウンロードしたファームウェアを選択してください。
ファームウェア（ipm15rd.bin）を選択したあと、[開く]をクリックします。
下段に表示されるファームウェアのバージョンを確認し、[次へ]をクリックします。

8 「設定ファイルのバックアップ」画面が表示されます。

[ファイル選択]をクリックします。

9 設定ファイル(cfg15rd.bin)をバックアップするフォルダ、およびファイル名「cfg15rd.bin」を指定し、[保存]をクリックします。

［実行］をクリックします。
「7.」で選択したファームウェア（ipm15rd.bin）がパソコンから本商品に転送されます。
「8.」で設定ファイルがバックアップされていれば、本商品に自動転送します。

10 転送が終了すると、「ファイル転送終了」画面が表示されます。

［終了］をクリックすると、イージーバージョンアップが終了します。
［初期画面］をクリックすると、最初の画面に戻ります。

11 本商品を再起動（電源スイッチOFF -> ON）してください。

以上で、バージョンアップは終了です。

ローディングモードになったら

ローディングモードとは、何らかの要因でファームウェアが壊れ、本商品が正常に起動できなくなった場合に動作するモードで、本商品の液晶ディスプレイに「<LOADING MODE> Please Loading Software」と表示されます。
この場合、イージーバージョンアップを利用して、ファームウェアの復旧を行います。
また、ローディングモード時は、設定ファイルも壊れていることがあります。この場合、設定ファイルのバックアップはできませんので、ファームウェアの復旧だけ行います。復旧後の設定はお買い求め時の設定に戻りますので、再度設定が必要となります。

ローディングモード時に利用できる接続方法は、次のとおりです。

- 10BASE-Tポート接続
  ローディングモード時は、本商品のIPアドレスは192.168.1.1となり、パスワードは「ipmate」固定となっています。
- RS-232Cポート接続
- USBポート接続は利用できません。

パラメタ設定値のバックアップをとるには

イージーバージョンアップを使って現在の設定値を、パソコンなどにバックアップファイルとして保存します。
パソコンとの接続方法により、操作手順が異なります。

10BASE-Tポートで接続している場合

10BASE-Tポートで接続している場合は、あらかじめ本商品のログインパスワードが設定されている必要があります。
「3　設定方法　WWWブラウザでの設定手順」（☛P46）に従って、本商品のパスワードが設定されていることを確認したあと、WWWブラウザを終了してください。
（ローディングモード時のパスワードは「ipmate」固定です。WWWブラウザによる確認はできません。）

1 本商品を再起動（電源スイッチOFF → ON）します。

2 パソコン上で、easy15rd.exeを実行します。イージーバージョンアップの初期画面が表示されます。

3 「イージーバージョンアップ」の初期画面で「10BASE-Tを用いたバージョンアップ」を選択し、[次へ]をクリックします。

4 「バージョンアップ（10BASE-T)」が表示されます。

[次へ]をクリックします。

5 「ログイン設定」画面が表示されます。

本商品のIPアドレス、パスワードを入力し、[接続]をクリックします。

6 「メインメニュー」画面が表示されます。

「設定ファイルの転送」にチェックして、[次へ]をクリックします。

7 「設定ファイルの転送」画面が表示されます。

「設定ファイルをIPMATEからパソコンに転送」にチェックして、[次へ]をクリックします。

8 「設定ファイルのバックアップ」画面が表示されます。[ファイル選択]をクリックします。

設定ファイル(cfg15rd.bin)をバックアップするフォルダ、およびファイル名「cfg15rd.bin」を指定し、[保存]をクリックします。［実行］をクリックします。

（次ページへ続きます）

パラメタ設定値のバックアップをとるには

（前ページの続きです）

9 転送が終了すると、転送終了メッセージが表示され、「メインメニュー」画面が表示されます。

以上で、設定ファイルのバックアップが終了します。
保存した「設定ファイル（cfg15rd.bin)」を本商品に転送する方法については、「設定ファイルのアップロード」を参照してください。

RS-232Cポート または USBポートで接続している場合

◎USBポート接続でWindows® 98のOSを使用している場合
パソコンと本商品を【簡易LAN接続】によって接続します。
詳細は、「1　お使いになる前に」、および「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>」を参照してください。
以降は、「10BASE-Tポートで接続している場合」の手順に従って操作してください。
なお、パソコンにファイル転送後、電源スイッチをOFFにするときには、簡易LAN接続を先に終了させてください。
簡易LAN接続を終了しないまま、本商品の電源スイッチをOFFにすると、パソコンの再起動が必要になる場合があります。

◎RS-232Cポート接続の場合、または、USBポート接続でWindows® 98（Second Edition）以降のOSを使用している場合

1 本商品を再起動（電源スイッチOFF -> ON）します。

2 パソコン上で、easy15rd.exeを実行します。イージーバージョンアップの初期画面が表示されます。

3 「イージーバージョンアップ」の初期画面で「RS-232CまたはUSBを用いたバージョンアップ」を選択し、[次へ]をクリックします。

4 「バージョンアップ（RS-232C/USB)」が表示されます。

[次へ]をクリックします。

5 本商品を接続しているCOMポートを自動検出します。本商品との接続を確認すると「IPMATEの確認」画面が表示されます。

内容を確認し、[次へ]をクリックします。

6 「メインメニュー」画面が表示されます。

「設定ファイルの転送」にチェックして、[次へ]をクリックします。

7 「設定ファイルの転送」画面が表示されます。

「設定ファイルをIPMATEからパソコンに転送」にチェックして、[次へ]をクリックします。

8 「設定ファイルのバックアップ」画面が表示されます。[ファイル選択]をクリックします。

設定ファイル(cfg15rd.bin)をバックアップするフォルダ、およびファイル名「cfg15rd.bin」を指定し、[保存]をクリックします。[実行] をクリックします。

9 転送が終了すると、転送終了メッセージが表示され、「メインメニュー」画面が表示されます。

以上で、設定ファイルのバックアップが終了します。
保存した「設定ファイル（cfg15rd.bin)」を本商品に転送する方法については、「パラメータ設定値ファイルをアップロードするには」を参照してください。

パラメタ設定値ファイルをアップロードするには

イージーバージョンアップを使って保存してあるバックアップファイルを本商品に転送します。
パソコンの接続方法により、操作手順が異なります。

10BASE-Tポートで接続している場合

10BASE-Tポートで接続している場合は、あらかじめ本商品のログインパスワードが設定されている必要があります。
「3　設定手順　WWWブラウザでの設定手順」に従って、本商品のパスワードが設定されていることを確認した後、WWWブラウザを終了してください。
（ローディングモード時のパスワードは「ipmate」固定です。WWWブラウザによる確認はできません。）

1 本商品を再起動（電源スイッチOFF -> ON）します。

2 パソコン上で、easy15rd.exeを実行します。イージーバージョンアップの初期画面が表示されます。

3 「イージーバージョンアップ」の初期画面で「10BASE-Tを用いたバージョンアップ」を選択し、[次へ]をクリックします。

4 「バージョンアップ（10BASE-T)」が表示されます。

[次へ]をクリックします。

5 「ログイン設定」画面が表示されます。

本商品のIPアドレス、パスワードを入力し、[接続]をクリックします。

6 「メインメニュー」画面が表示されます。

「設定ファイルの転送」にチェックして、[次へ]をクリックします。

7 「設定ファイルの転送」画面が表示されます。

「設定ファイルをパソコンからIPMATEに転送」にチェックして、[次へ]をクリックします。

8 「設定ファイルのアップロード」画面が表示されます。 [ファイル選択]をクリックします。

本商品へ転送する設定ファイル(cfg15rd.bin)を指定したあと、[開く]をクリックします。
［次へ］をクリックします。

9 転送が終了すると、「ファイル転送終了」画面が表示されます。

［終了］をクリックすると、イージーバージョンアップが終了します。
［初期画面］をクリックすると、最初の画面に戻ります。

10 本商品を再起動（電源スイッチOFF -> ON）してください。

以上で、設定ファイルのアップロードが終了します。

RS-232Cポート または USBポートで接続している場合

◎USBポート接続でWindows® 98のOSを使用している場合

パソコンと本商品を【簡易LAN接続】によって接続します。
詳細は「本商品へ接続する前の準備＜パソコンでの操作＞」を参照してください。

以降は、「10BASE-Tポートで接続している場合」の手順に従って操作してください。
なお、本商品にファイル転送後、電源スイッチをOFFにするときには、簡易LAN接続を先に終了させてください。
簡易LAN接続を終了しないまま、本商品の電源スイッチをOFFにすると、パソコンの再起動が必要になる場合があります。

◎RS-232Cポート接続の場合、または、USBポート接続でWindows® 98（Second Edition）以降のOSを使用している場合

1 本商品を再起動（電源OFF -> ON）します。

2 パソコン上で、easy15rd.exeを実行します。イージーバージョンアップの初期画面が表示されます。

3 「イージーバージョンアップ」の初期画面で「RS-232CまたはUSBを用いたバージョンアップ」を選択し、[次へ]をクリックします。

4 「バージョンアップ（RS-232C/USB）」が表示されます。

[次へ]をクリックします。

5 本商品を接続しているCOMポートを自動検出します。本商品との接続を確認すると「IPMATEの確認」画面が表示されます。

内容を確認し、[次へ]をクリックします。

（次ページへ続きます）

パラメタ設定値ファイルをアップロードするには

（前ページの続きです）

6 「メインメニュー」画面が表示されます。

「設定ファイルの転送」にチェックして、[次へ]をクリックします。

7 「設定ファイルの転送」画面が表示されます。

「設定ファイルをパソコンからIPMATEに転送」にチェックして、[次へ]をクリックします。

8 「設定ファイルのアップロード」画面が表示されます。［ファイル選択]をクリックします。

本商品へ転送する設定ファイル(cfg15rd.bin)を指定したあと、[開く]をクリックします。
［実行］をクリックします。

9 転送が終了すると、「ファイル転送終了」画面が表示されます。

［終了］をクリックすると、イージーバージョンアップが終了します。
［初期画面］をクリックすると、最初の画面に戻ります。

10 本商品を再起動（電源スイッチOFF -> ON）してください。

以上で、設定ファイルのアップロードは終了です。

CD-ROMの使いかた

本商品に付属のCD-ROMには、本商品のマニュアルデータや、使用するファイルが入っています。
ここでは、Windows® パソコンをご利用の場合について説明します。
Macintoshパソコンをご利用になる場合には、付属のCD-ROM内の『CD-ROMの内容について』をご覧ください。

■ 収録したデータは、次のとおりです。

1 オンラインマニュアル

本商品の設定用WEB画面や、利用できる機能について、記載しているマニュアルです。
HTML形式で提供します。
『オンラインマニュアル』をご覧になるためには、Internet Explorer 4.0以上（5.01以上推奨）、または、Netscape Navigator 4.0以上（4.5以上推奨）が必要です。
『オンラインマニュアル』では、次の目次を用意しています。

機能目次	本商品で利用できる機能について説明しています。
画面目次	本商品の設定画面や設定項目について説明しています。
検索	キーワード検索が利用できます。
付録	本商品の関連情報を掲載しています。 ・ATコマンド ・用語索引 ・正式名称一覧表 ・TCP/UDPポート番号 ・イベントコード ・ISDN原因コード ・WEB画面設定項目一覧 ・設定記入シート ・利用形態

2 PDFファイル

『オンラインマニュアル』、「取扱説明書」などのPDFファイルです。
PDFファイルをご覧になるためには、Adobe Acrobat Reader 4.0以上が必要です。
お持ちでない方は、CD-ROM内の「Acrobat Reader」をインストールしてください。

3 イージーバージョンアップ

パソコンに表示するガイドに従い、本商品のファームウェアバージョンアップを簡単に行うことができます。
利用方法については、「イージーバージョンアップ」（☛P256）を参照してください。

4 モデム定義ファイル

RS-232Cポート、USBポートから本商品をご使用いただく際に必要となるファイルです。
インストール方法については、「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>」を参照してください。
アンインストール方法については、RS-232Cポート使用時は、［RS232C］ディレクトリ内の「ReadMe.txt」を参照してください。
また、USBポート使用時は、［USB］ディレクトリ内の「ReadMe.txt」を参照してください。

5 AcrobatReader

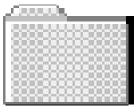
PDFファイルを読むための「Acrobat Reader 4.0」です。
インストール方法については、「Adobe Acrobat Reader」を参照してください。

CD-ROMの使い方

CD-ROMのディレクトリ構造は、次のとおりです。

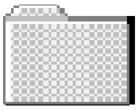
Index.htm

CD-ROM起動時に表示されるメニューです。



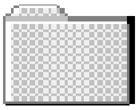
manual

本商品のマニュアルデータのあるディレクトリです。



online

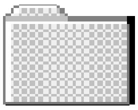
HTML形式の『オンラインマニュアル』のあるディレクトリです。本ディレクトリ内の「index.htm」をダブルクリックすると、ブラウザが起動し、『オンラインマニュアル』の最初のページが表示されます。



helppdf

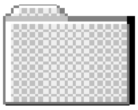
「オンラインマニュアル」のPDFデータのあるディレクトリです。本ディレクトリ内の各ファイルをダブルクリックすると、Acrobat Readerが起動し、PDFファイルが表示されます。

function.pdf：機能編
gamen.pdf：画面編
yougo.pdf：付録



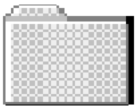
guide

「取扱説明書」のPDFデータのあるディレクトリです。本ディレクトリ内の「guide.pdf」をダブルクリックすると、Acrobat Readerが起動し、PDFファイルが表示されます。



pcset

「本商品へ接続する前の準備＜パソコンでの操作＞」のPDFデータのあるディレクトリです。本ディレクトリ内の「pcset.pdf」をダブルクリックすると、Acrobat Readerが起動し、PDFファイルが表示されます。

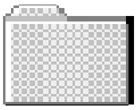


utillty

「イージーバージョンアップ V.01.00」のあるディレクトリです。

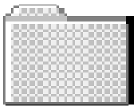
easy15rd.exe

「イージーバージョンアップV.01.00」のプログラムファイルです。パソコンにコピーし、ダブルクリックすると起動します。



RS232C

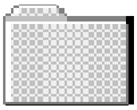
RS-232Cポートに接続する際に必要となる、モデム定義ファイルのあるディレクトリです。
モデム定義ファイルをご利用の前に、必ず本ディレクトリ内の「ReadMe.txt」をお読みください。



usb

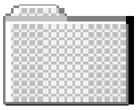
USBポートに接続する際に必要となる、モデム定義ファイルのあるディレクトリです。Windows® のバージョンによって、使用するファイルが異なります。バージョンは、次のように確認します。

1. ［スタート］ー［設定］ー［コントロールパネル］をクリックし、コントロールパネルを表示します。
2. 表示された画面で、［システム］をダブルクリックします。
3. 表示された画面で、［情報］タグをクリックします。
   モデム定義ファイルをご利用の前に、必ず本ディレクトリ内の「ReadMe.txt」をお読みください。



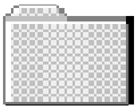
win2000

Windows® 2000用のモデム定義ファイルのあるディレクトリです。



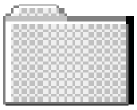
win98se

Windows® 98（Second Edition）用のモデム定義ファイルのあるディレクトリです。



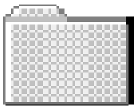
win98

Windows® 98用のモデム定義ファイルのあるディレクトリです。



winMe

Windows® Me用のモデム定義ファイルのあるディレクトリです。



acrobat

Adobe Acrobat Reader 4.0のインストール用ファイルのあるディレクトリです。

ar450jpn.ex

Adobe Acrobat Reader 4.0のインストール用ファイルです。本ファイルをダブルクリックすると、インストールを開始します。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは、修理に出す前に次の点をご確認ください。

こんなとき	原　因	確認してください	参照ページ
動作しない	接続方法が間違っている	正しく接続してください	☞P29
	電源アダプタが電源コンセントから抜けている	電源アダプタを正しく差し込んでください	☞P29
本商品の液晶ディスプレイに「Layer1 Down」メッセージが表示され、発信、着信ができない	回線接続端子とINSネット64回線用モジュラジャックがしっかり接続されていない	付属品の電話機コードでしっかり接続してください	☞P29
	極性が反転している	電源スイッチを「OFF」にし、極性切替スイッチを反対側に切り替え、もう一度電源スイッチを「ON」にしてください	☞P36
アナログ通信機器の発信、着信ができない	アナログ通信機器が正しく接続されていない	正しく接続してください	☞P29
	回線接続端子とINSネット64回線用モジュラジャックがしっかり接続されていない	付属品の電話機コードでしっかり接続してください	☞P29
	停電中のため	故障ではありません 停電中でも動作するように乾電池が入っていれば、TEL1ポートに接続した機器で発信、着信ができるようになります	☞P28
停電中にアナログ通信機器の着信はできるが、オフフックすると本商品の電源が落ちてしまう	電池の残量が少ない	新品の電池に交換してください	—
アナログ通信機器の着信ができない	［装置／電話番号］画面の各電話番号のアナログ着信が「着信しない」になっている	「両ポートで着信」もしくは「TEL1/2ポートのみ着信」または「TEL1/2ポート優先着信」に設定してください	—
	［電話］（共通）画面の着番号にサブアドレスのない着信を許可するが「OFF」になっている ［電話］（TEL1/2ポート）画面の発信者番号通知のない着信を許可するが「OFF」になっている	「サブアドレスなし着信を許可する」を「ON」に設定してください 「発信者番号通知のない着信を許可する」を「ON」に設定してください	—
	［電話］（TEL1/2ポート）画面の電話機を接続したアナログポートの通信クラスの設定が「ファクス（鳴動）」または「ファクス（無鳴動）」になっている	通信クラスの設定を「その他」または「電話」にしてください	—

こんなとき	原　因	確認してください	参照ページ
アナログポートに接続したファクスの着信応答ができない	［電話］（TEL1/2ポート）画面のファクスを接続したアナログポートの通信クラスの設定が「ファクス」で、発信側が携帯電話機、PHS対応電話機、ディジタル電話機などから発信した	携帯電話機、PHS対応電話機、ディジタル電話機などからの通信クラスは「電話」となり、着信しません ファクスを接続したアナログポートの通信クラスを「その他」に設定してください	☛P179
INSネット64用通信機器の発信、着信ができない	S/T端子にINSネット64用通信機器が正しく接続されていない	正しく接続してください	☛P29、30
	終端抵抗が正しく設定されていない	終端抵抗を正しく設定してください	☛P32、33
	INSネット64用通信機器に電源が接続されていない	S/T端子に接続するINSネット64用通信機器は、必ずAC100 V、またはバッテリで動作させてご使用ください	—
RS-232Cポートに接続したパソコンがインターネットにつながらない	本商品とパソコンの端末速度が合っていない	ご利用の回線がISDNの場合には、［TA機能］（RS-232C）画面で通信速度を正しく設定してください ご利用の回線が専用線の場合には［装置／RS-232C・USB］（RS-232C）画面で設定してください	—
RS-232Cポートに接続したパソコンが「PPPに接続中」の画面でエラーとなる	回線が使用可能な状態ではない	モデムを接続するポートが重複していないか確認してください 設定に誤りがないか確認してください	—
着信時内線着信音が鳴り、応答するとモデム音が聞こえる	ナンバー・ディスプレイ未対応の電話機が接続されている状態で、［電話］（TEL1/2ポート）画面の「ナンバー・ディスプレイを使用する」が「ON」に設定されている	「ナンバー・ディスプレイを使用する」を「OFF」に設定してください またはナンバー・ディスプレイに対応した電話機を接続してください	☛P171
	モデムダイヤルイン未対応の電話機が接続されている状態で、［電話］（TEL1/2ポート）画面の「モデムダイヤルインを使用する」が「ON」に設定されている	モデムダイヤルインを使用するを「OFF」に設定してください またはモデムダイヤルインに対応した電話機を接続してください	☛P181、182
パソコン内蔵のモデムが使えない	パソコンの回線接続端子に電話回線を接続していない	パソコンの回線接続端子と本商品のTEL1またはTEL2ポートを接続してください	—

Q&A

●本商品の機能について

Q.自己診断機能はありますか。
A.あります。本商品に電源が供給されると自己診断が自動的に行われます。(☛P35)
Q.自己診断時に異常が検出された場合、どのように対処したらいいですか。
A.「装置故障」などのエラーメッセージが表示されたときは、INSネット64回線が接続されているか確認してください。また、本商品の電源を「OFF」→「ON」にしてください。それでも解決しない場合は、当社のサービス取扱所へお問い合わせください。
Q.液晶ディスプレイのバックライトが点灯するのは、どのようなときですか?
A.次のような場合にバックライトが点灯します。
- 電話機のハンドセットをあげたとき
- 電話が着信したとき
- データの発信、または着信があったとき
- シリアルポート(RS-232C、USB)での通信時

電話での通話や、データ通信が続いている間は、バックライトは点灯したままとなります。
点灯後は、電話での通話やデータ通信が約1分間ない場合に、消灯します。
Q.本商品の日時が初期値に戻ってしまいました。
A.本商品は、電源をOFFにして1時間以上経過すると、日時の設定が初期値に戻ってしまいます。再度設定してください。(☛P37)

●課金について

Q.接続料金の上限を超えてしまいました。接続を続けたいのですがどうすればいいでしょうか。
A.一時的にカウントをリセットする方法と、課金上限を変更する方法があります。
◆カウントをリセットする方法
WWWブラウザでの設定画面より[接続制限情報]をクリックした画面で、接続先Noを選択し、[表示]をクリックします。
表示された画面で、「課金上限」のクリアボタンをクリックしてください。これにより、課金上限の設定値は変わりませんが、カウントが「0」になるため、再び設定値の金額まで接続を続けることができます。
◆課金上限を変更する方法
課金上限を増やすことができるほか、課金上限を「0」にして制限されなくなるよう指定できます。課金を気にされない方は、「0」にしてください。
WWWブラウザでの設定により[ルータ機能/回線接続先情報]接続先No(接続制限)画面にて、「課金上限」の設定値を入力してください。この設定は、再起動を行うことで有効になります。
詳細については、CD-ROM内『オンラインマニュアル』を参照してください。
Q.課金上限で切断するように設定していましたが、設定値を超えた請求がありました。
A.コールバック時などに、網からの料金通知がない場合があります。このため、本商品での課金計算と、実際の請求額とが異なる場合があります。
また、本商品の電源をOFF にすると、課金情報は消えてしまいます。電源ONから再度カウントを始めるため、課金上限に達しないことがありますので、ご了承ください。

Q.課金上限を超えた場合でも、アナログポートからの発着信はできますか。
A.できます。

●発信について

Q.パソコンの電源をＯＮにすると、インターネットプロバイダへ接続してしまうのですが。
A.WWWブラウザやメールなどが、自動起動するようになっていませんか。
WWWブラウザの初期表示ページが外部ネットワークの場合、インターネットプロバイダへ接続してしまいます。
また、メールサーバが外部ネットワークの場合、同様にインターネットプロバイダへ接続してしまいます。

Q.パソコンを立ち上げたり、電源をOFFにすると発信してしまいます。
A.パソコンで動作させているソフトウェアにより発信している可能性があります。
ソフトウェアの動作でルータ越えの設定にしている場合に、ソフトウェアの起動および終了時にデータが送信され、このデータがトリガとなって発信していることがあります。
この点についての詳細な装置情報は、WWWブラウザの「イベントログ」画面をご覧ください。
「イベントログ」画面には、トラブルシューティングに役立つ各種の情報が残ります。

Q.手動切断をすると、発信することがあるのですが。また、ブラウザを終了する（ブラウザを閉じる）と発信することがあるのですが。
A.TCPセッションが残ったままのときに手動切断すると、そのあとで、端末（パソコン）が、このセッションを終了させるためにパケットを送信するためだと考えられます。ネットサーフィンをしているとなりやすいようです。
本商品のIPフィルタ設定画面にて「無用な発信をふせぐ」を選択してあれば（デフォルト）、このような発信を防ぐことができます。
この点についての詳細な装置情報は、WWWブラウザの「イベントログ」画面をご覧ください。
「イベントログ」画面には、トラブルシューティングに役立つ各種の情報が残ります。

●切断について

Q.通信が自動的に切断され、接続ができなくなりました。なぜでしょうか。また、どのようにすれば接続できるようになりますか。
A.最大接続時間の上限を超えてしまい、自動的に切断されたことが考えられます。
本商品は異常な課金を防ぐため、お買い求め時に最大接続時間が1週間で30時間までの設定になっています。
土曜日の0:00になると累計時間はリセットされ、接続ができるようになります。
それより前に接続できるようにするためには、一時的にカウントをリセットする方法と、最大接続時間を変更する方法があります。
◆カウントをリセットする方法
WWWブラウザでの設定により［接続制限情報］をクリックして表示される画面で、接続先Noを選択し、［表示］をクリックします。
表示された画面で、「最大接続時間」の「1週間」のクリアボタンをクリックしてください。
これにより、最大接続時間の設定値は変わりませんが、カウントが「0」になるため、再び設定値の時間まで接続を続けることができます。

（次ページへ続きます）

（前ページの続きです）

◆最大接続時間を変更する方法

最大接続時間を増やすことができるほか、最大接続時間を「0」にして制限されなくなるよう指定できます。課金を気にされない方は、「0」にしてください。

WWWブラウザでの設定により［ルータ機能／回線接続先情報］接続先No（接続制限）画面にて、「最大接続時間」の「1週間の合計値」の設定値を入力してください。この設定は、再起動を行うことで有効になります。

詳細については、CD-ROM内『オンラインマニュアル』を参照してください。

Q.次のような状況で切断ができません。

＊しばらくたっても回線が切れない
＊端末（パソコン）を落としても、回線が切れない
＊無通信監視タイマで切断されない
＊手動切断はできるが、自動切断はされない
＊メール送受信後に回線を切断する設定にしているが、自動切断されない
＊発信と切断を繰り返している
＊定期的に接続しているようにみえる

A.本商品に接続している端末（パソコン）やプリンタに、自動発信の設定（インターネットへの一定間隔で接続にいく設定など）やメールの自動受信の設定をしていると、そのことによる発呼から接続されます。また、本商品に接続している端末（パソコン）でウィルス検出用ソフトを起動すると、そのことによる発呼から接続されることがあります。

接続機器の設定を確認してください。

この点についての詳細な装置情報は、WWWブラウザの「イベントログ」画面をご覧ください。「イベントログ」画面には、トラブルシューティングに役立つ各種の情報が残ります。

Q.10BASE-Tに接続するパソコンからの通信に対し、強制切断する時間を設定することはできますか。

A.できません。1週間または1か月の合計で、接続を制限することは可能です。接続の制限は、通信時間または課金によって行うことができます。

［ルータ機能／回線接続先情報］接続先No（接続制限）画面で設定します。

●接続について

Q.TEL1、TEL2ポートにはどのような機器が接続できますか。

A.アナログ電話機（PB）、INSナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応のアナログ通信機器、G3ファクス等が接続できます。

Q.RS-232Cポートへはどのようなパソコンが接続できますか。

A.付属品のRS-232Cケーブル、市販のD-SUB25ピン変換コネクタ、市販のMac変換ケーブルで、PC98シリーズ、AT互換機、Macintoshのいずれにも対応できます。

Q.USBポートへはどのようなパソコンが接続できますか。

A.付属品のUSBケーブルを使い、USBポートを持ったパソコンで、USBポートをサポートしているOSをインストールしたパソコンに対応できます。

Q.Windows®95でUSBポートを使用できますか。

A.使用できません。Windows®98からのサポートとなります。

Q.USBポートが動作しないのですが。

A.端末により動作しない場合もあります。この場合は、RS-232Cあるいは10BASE-Tポートをご使用ください。

●停電時について

Q.DSUは停電時に機能しますか。

A.停電になると内蔵したアルカリ乾電池により機能します。乾電池を入れていなければ機能しません。

Q.乾電池には何を使ってもいいのですか。

A.公称電圧1.5 Vのアルカリ単3乾電池に限ります。電圧の低い1.2 Vのニカド電池等や、長時間の使用に耐えないマンガン電池は使用しないでください。

Q.停電時に使用できる機能は何ですか。

A.TEL1ポートに接続されたアナログ通信機器およびS/T端子に接続されたINSネット64用通信機器の発着信を可能とします。また、停電時にTEL2ポートで通話中だった場合、その電話は継続できます。
なおアナログポート間の内線通話や内線転送はできません。

Q.停電になって乾電池駆動に切り替わった後、何時間の動作ができますか。

A.アナログ通信機器の場合、新品の乾電池で25 ℃前後で約2時間の通話ができます。

●電話機能について

Q.疑似キャッチホンとフレックスホンサービスのINSキャッチホンはどこが異なるのですか。

A.疑似キャッチホンの場合は、本商品が2つのBチャネルを使用してキャッチホンを実現するのに対して、フレックスホンサービスのINSキャッチホンは、1つのBチャネルで提供されます。したがって、疑似キャッチホンの場合、当社への申し込み、付加料金は不要です。

Q.内線通話ができないのですが。

A.次の点を確認してください。
- 本商品の電源は入っていますか。
- 内線で呼び出す相手のアナログ通信機器が使用中ではありませんか。
- [電話]（共通）画面の内線電話を使用するが「OFF」ではありませんか。

Q.電話の不在時着信件数の表示を消去することはできますか。

A.アナログポートに接続したプッシュ式電話機を使用してできます。電話機での設定手順（☛P52、223）において、ポート番号0、機能番号00、設定値4（電話の着信履歴情報表示）を指定してください。

Q.TEL2ポートを使用しないので、着信を止めたいのですが。

A.各電話番号ごと、およびグローバル着信で、「TEL2ポートで着信しない」を設定します。
電話機からの操作（☛P52、223）で、設定できます。

●本商品へのログイン（WWWブラウザの利用）について

Q.設定画面を表示できません。

A.1）WWWブラウザで、「LANを使って接続する」、および「Proxyサーバを使用しない」という設定になっているか、確認してください。

（次ページへ続きます）

（前ページの続きです）

また、接続する端末のIPアドレスは正しいか確認してください（「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>」を参照）。

DHCP機能を利用して自動設定する場合は、次の方法で確認できます。正しい値でない場合は、端末を再起動してください。

◆ Windows ®95／Windows ®98の場合

スタートメニューで［プログラム］ー［MS-DOSプロンプト］を選択します。

表示された画面で、「winipcfg」と入力し、［Enter］キーを押します。

「IP設定」画面が表示されます。ここで、使用しているEtherアダプタを選択し、IPアドレスを確認してください。

表示されたIPアドレスが別ネットワークアドレスの場合は、[開放]をクリックすると、回線側へ接続してしまうことがあります。ご注意ください。

◆ Windows ®2000の場合

スタートメニューで［プログラム］ー［アクセサリ］ー［コマンドプロンプト］を選択します。

表示された画面で、「ipconfig」と入力し、［Enter］キーを押します。

IPアドレスが表示されますので、確認してください。

表示されたIPアドレスが別ネットワークアドレスの場合は、[開放]をクリックすると、回線側へ接続してしまうことがあります。ご注意ください。

A.2）「3　設定方法　WWWブラウザでの設定手順」（☞P46）を参照して、正しい手順でログインしてください。

A.3）本商品のIPアドレス、もしくは端末のIPアドレスが正しく設定されていない可能性があります。各IPアドレスとネットワークのサブネットマスクを確認してください。

Q.TAとして本商品を利用していますが、WWWブラウザを利用できますか。

A.できます。WWWブラウザ利用時は、TA機接続ではなく、簡易LAN接続（ダイヤルアップ接続で電話番号9999を入力）してお使いください。

●インターネットサイトへの接続について

Q.WWWブラウザに「ページを表示することはできません」という表示がでて、インターネットサイトを見ることができません。

A.1）本商品のログイン画面は表示されますか？

表示されない場合は、本Q&Aの「本商品へのログイン（WWWブラウザの利用）」の項に従って、ログインできるようにしてください。

A.2）本商品にログインでき、かつ、インターネットに接続できない場合は、WWWブラウザの「イベントログ」画面をご覧ください。「イベントログ」画面には、トラブルシューティングに役立つ各種の情報が残ります。

A.3）本商品の液晶ディスプレイに「発信規制####」と表示されていませんか？

接続先（アクセスポイント）の電話番号が間違っている可能性があります。正しく設定されているか確認してください。また、本商品をコールバック要求側の設定としている可能性があります。あわせて、設定内容の確認をしてください。

なお、「発信規制####」は10秒間表示されます。####部分には回線接続先として設定した名前が表示されます。

この点についての詳細な装置情報は、WWWブラウザの「イベントログ」画面をご覧ください。
「イベントログ」画面には、トラブルシューティングに役立つ各種の情報が残ります。

Q.設定が終了し、再起動後にホームページが表示できません。また、ISDNでインターネットに接続できません。

A.ProxyDNS機能、DHCPサーバ機能の使用状態によって、異なります。

◆ProxyDNS機能とDHCPサーバ機能を使用している場合

本商品にて、DHCP機能で広報するアドレスとして、DNSサーバアドレスにLAN側IPアドレスを指定します。そのあと、接続する端末で、IPアドレスを自動登録に設定されていることを確認し、再起動します。

- 本商品の設定
  WWWブラウザ設定により［ルータ機能／DHCPサーバ］（DHCP）画面にて、「広報するアドレス　プライマリDNSアドレス」にLAN側IPアドレスを入力します。SAVEを行うことで、値が反映されます。
- 端末の設定（「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>」を参照）
  「TCP/IP」の設定で、「IPアドレスを自動取得にする」を選択してください。設定後、端末を再起動します。

◆ProxyDNS機能を使用し、DHCPサーバ機能を使用しない場合

接続する端末で、DNSサーバアドレスを設定し、再起動します。

- 端末の設定（「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>」を参照）
  「TCP/IP」の設定で、DNSを使用する設定とします。DNSサーバアドレスとして、本商品のLAN側IPアドレスを入力します。設定後、端末を再起動します。

◆ProxyDNS機能を使用せず、DHCPサーバ機能を使用する場合

本商品にて、DHCP機能で広報するアドレスとして、DNSサーバアドレスにインターネットプロバイダで指定されたDNSアドレスを指定します。その後、接続する端末で、IPアドレスを自動登録に設定されていることを確認し、再起動します。

- 本商品の設定
  WWWブラウザ設定により［ルータ機能／DHCPサーバ］（DHCP）画面にて、「広報するアドレス　プライマリDNSアドレス」にインターネットプロバイダで指定されたDNSアドレスを入力します。SAVEを行うことで、値が反映されます。
- 端末の設定（「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>」を参照）
  「TCP/IP」の設定で、「IPアドレスを自動取得にする」を選択してください。設定後、端末を再起動します。

◆ProxyDNS機能、DHCPサーバ機能を使用しない場合

本商品にて、DHCP機能を使用しない設定となっていることを確認します。
接続する端末で、インターネットプロバイダで指定されたDNSアドレスを設定し、再起動します。

- 本商品の設定
  WWWブラウザ設定により［ルータ機能／DHCPサーバ］（DHCP）画面にて、「広報するアドレス　プライマリDNSアドレス」にインターネットプロバイダで指定されたDNSアドレスを入力します。SAVEを行うことで、値が反映されます。

（次ページへ続きます）

Q&A

（前ページの続きです）

- 端末の設定（「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの操作>」を参照）
  「TCP/IP」の設定で、DNSを使用する設定とします。DNSサーバアドレスとして、本商品のインターネットプロバイダで指定されたDNSアドレスを入力します。設定後、端末を再起動します。

Q.DHCPサーバ機能を使用せず、手動でIPアドレスを設定すると接続できません。

A.接続している端末（パソコン）などのゲートウェイアドレスとして本商品のIPアドレスが設定されている必要があります。ご確認ください。

Q.DNSを使っているとインターネットに接続ができないのですが。

A.◆ 本商品を代理DNSサーバとして使用している場合（パソコンの設定が「DHCPを使用する」になっている場合や、パソコンに対して本商品のIPアドレスをDNSサーバアドレスとして設定している場合に相当します）

1）接続している端末（パソコン）などのDNS設定が本商品あてとなっているかどうかを確認してください。

2）「Q.インターネットで指定したサイトにアクセスはできませんが、インターネットプロバイダには接続します。」をご覧ください。

◆ パソコンに対して、インターネットプロバイダのDNSサーバアドレスを設定している場合
WWWブラウザの「イベントログ」画面をご覧ください。「イベントログ」画面には、トラブルシューティングに役立つ各種の情報が残ります。

Q.インターネットで指定したサイトにアクセスはできませんが、インターネットプロバイダには接続します。

A.DNSによるアドレス解決がされていない可能性が考えられます。

◆「DNSを自動取得する」設定になっている場合
WWWブラウザの「イベントログ」画面の中の「内部サマリ」にて、インターネットプロバイダからDNSアドレスを取得できていることを確認してください。もし取得できていない場合は、端末に対してインターネットプロバイダのDNSサーバアドレスを設定してください。

◆「DNSを自動取得する」設定になっていない場合
本商品に設定したインターネットプロバイダのDNSアドレス、もしくは、端末に設定したDNSアドレスをご確認ください。

Q.特定のアクセスポイントに接続できません。

A.接続できないアクセスポイントがMS-CHAPによる認証を本商品に対して要求し、ルータとして接続ができない可能性があります。本商品はMS-CHAPによる認証をサポートしていません。
この点についての詳細な装置情報は、WWWブラウザの「イベントログ」画面をご覧ください。「イベントログ」画面には、トラブルシューティングに役立つ各種の情報が残ります。

Q.インターネットプロバイダへ接続後、すぐに切断され、「ページを表示できません」という表示がでます。

A.1）液晶ディスプレイに「接続開始」表示後、「切断　00:00:??　10円」と表示され、数秒で切断されていませんか？
ユーザIDまたは認証パスワードを間違えて設定している可能性があります。正しく設定しているか確認してください。（??部分は秒数が表示されます）

A.2）液晶ディスプレイに「接続開始　***」表示後、「B1　00:00:??」と表示されていませんか？

DNSサーバアドレスを自動取得しないインターネットプロバイダと契約しているのに、DNSサーバアドレスを設定していなかったり、間違ったDNSサーバアドレスが設定されている可能性があります。DNSサーバアドレスが正しく設定されているか確認してください。（***は回線接続先名、??は秒数が表示されます）

Q.Webを見ているときに「インターネットサイト　http://www.*を開けません。サーバへの接続はリセットされました。」が表示され、Webが見えなくなってしまいます。**

A.インターネットサイトへの切断処理中にサイド発信しているためだと思われます。切断後、少し時間を空けてから、もう一度Webの「更新」ボタンを押してみてください。

●ファイル共有について

Q.シリアルポートに接続した端末から簡易ＬＡＮ機能を使用していますが、ファイル共有ができません。

A.同一ネットワークにある端末とファイル共有する場合と、リモート接続している端末とファイル共有する場合があります。

◆同一ネットワークにある端末とのファイル共有

TCP/IPプロトコルのインストール（「本商品へ接続する前の準備<パソコンでの設定>」を参照）を行います。

シリアルポートに接続した端末に、ダイヤルアップ設定、PPP設定を正しく設定してください。また、各端末に、TCP/IPプロトコルをインストールします。

複数のプロトコルがインストールされている場合は、「TCP/IP」を標準プロトコルに設定します。

IPアドレスとホスト名の対応付け

各端末で、接続先のIPアドレスとホスト名を対応付けます。

（例）LAN側端末にシリアルポート側端末(192.168.1.251)を設定する場合

c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに以下を追記

192.168.1.251　remote

（例）シリアル側端末にLAN側端末(192.168.1.2／192.168.1.3／192.168.1.4)を設定する場合

c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに以下を追記

192.168.1.2　lan1pc
192.168.1.3　lan2pc
192.168.1.4　lan3pc

※設定後、リモート端末の検索方法は、次のとおりです。

1.スタートメニューから［検索］ー［ほかのコンピュータ］を選択
2.検索するコンピュータ名を入力　(例)lan1pc
3.対象の端末が見つかればクリックして共有リソースにアクセス

◆リモート接続している端末とのファイル共有

IPパケットフィルタリングの設定で、「NetBIOS」を透過するように設定します。

WWWブラウザでの設定により［ルータ機能／フィルタ情報］画面にて設定します。

Q.本商品を使って端末間の通信はできますが、ファイル共有ができません。また、パソコンの検索ができません。

A.LAN1側の端末とLAN2側の端末間での資源の共有をさせるための設定について説明します。

（次ページへ続きます）

（前ページの続きです）

① TCP/IPプロトコルのインストール（「本商品を接続する前の準備<パソコンでの設定>」参照）を行います。
各端末に、TCP/IPプロトコルをインストールします。 複数のプロトコルがインストールされている場合は、「TCP/IP」を標準プロトコルに設定します。

② IPアドレスとホスト名の対応付けを行います。
各端末で、接続先のIPアドレスとホスト名を対応付けます。ここでは、Windows® の場合について説明します。
例）LAN1側端末にLAN2側端末（192.168.2.2）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.2.2 lan2pc
例）LAN2側端末にLAN1側端末（192.168.1.2）を設定する場合
c:\windows\hostsおよび c:\windows\lmhostsのファイルに次の記述を追加します。
192.168.1.2 lan1pc
メモ・指定するホスト名は、各端末に設定しているコンピュータ名にしてください
・設定後、リモート端末の検索方法は、次のとおりです
1）「スタート」→「検索」→「ほかのコンピュータ」
2） 検索するコンピュータ名を入力（例）lan1pc
3） 対象の端末が見つかればクリックして共有リソースにアクセス
なお、2つの設定ファイル「hosts」と「lmhosts」には拡張子を付けないでください。拡張子をつけると、パソコンでの検索ができず、ファイル共有もできません。また、ファイルを共有するためには、ファイル共有用のソフトウェアは不要です。

●OCNサービスをご利用のとき

Q.OCNパケットフィルタリングサービスを使っていると、インターネットに接続できないのですが。
A.OCNパケットフィルタリングサービスをご利用の方は、本商品のDNSサーバを使用することはできません。端末側のDNSサーバアドレスにOCNエコノミーから割り当てられたDNSサーバアドレスを入力してご使用ください。

●設定その他について

Q.障害を確認する方法はありますか。
A.WWWブラウザの「統計情報」、「接続ログ」、「イベントログ」の各画面にて確認いただけます。「イベントログ」画面には、トラブルシューティングに役立つ各種の情報が残ります。
Q.電話番号を設定せずにダイヤルイン追加番号の着信があった場合はどうなりますか。
A.お買い求め時の設定でご使用の場合は、TEL2ポートにだけ着信します。
Q.サブアドレス機能を使用する場合に、契約時の指定が必要ですか。
A.必要ありません。サブアドレス機能は本商品の設定だけで使用できます。
Q.ダイヤルインのサービスは利用できますか。
A.TEL1ポート、TEL2ポート、RS-232Cポート、USBポート、10BASE-Tポート、それぞれに設定して利用できます。

Q.インターネット接続中に、アナログ通信機器は使用できますか。

A. Bチャネルが空いていれば使用できます。128KマルチリンクPPPで接続時にはBチャネル2本を使用するので、アナログ通信機器は使用できません。
アナログ通信機器を使用したい場合は、アナログ着信時の切断動作を設定してください。(☛P170)

Q.接続先からのPPP/CBCPコールバック要求に対してコールバック応答できません。

A.コールバック要求を送出する接続先を、[デフォルト着信接続先]として指定してください。

◆デフォルト着信の指定をするには
WWWブラウザ設定により[ルータ機能/着信認証]画面にて、「デフォルト着信接続先」で選択した接続先を設定します。
[ルータ機能/回線接続先情報]画面で設定した接続先のNo(オプション)画面にて、「コールバック」を「応答する」、「方式」を「PPP」または「CBCP」であることを確認します。

Q.インターネットを切断しても回線が切れません。

A.無通信監視タイマを短くしてみてください。

◆無通信監視タイマを短くするには
[ルータ機能/回線接続先]接続先No(接続制限)画面にて、「無通信監視タイマ」の値を変更します。
または、RIPを受信している可能性があります。回線側のRIPを「受信しない」に設定してください。

◆RIPを受信しないようにするには
[ルータ機能/回線接続先]接続先 No(ルーティング)画面にて、「RIP動作　受信する」のチェックをはずします。
詳細については、CD-ROM内『オンラインマニュアル』を参照してください。

Q.DNSサーバアドレスを自動取得にした場合、アドレスを確認する方法はありますか。

A.イベントログで確認できます。
WWWブラウザの画面で「イベントログ」をクリックすると、イベントログ画面が表示されます。

Q.アクセスサーバの割当てIPアドレスは、どのような値を入れれば良いですか。

A.本商品のIPアドレスを設定すると、アクセスサーバの割り当てIPアドレス、簡易LANの割り当てIPアドレス、DHCPサーバ機能の提供IPアドレスは、自動計算されて設定されます。
これらのアドレスは、本商品のIPアドレスと同じネットワークとなるような値を入れてください。
算出方法については、CD-ROM内『オンラインマニュアル』を参照してください。

Q.接続先はどのルート情報によって決まるのでしょうか。

A.Proxy DNS機能の使用状態によって、異なります。それぞれ、次の順でルート情報を確認します。

◆ProxyDNS機能を使用している場合
ルート情報1
- 送信元IPアドレスルート情報[ルータ機能/ルート情報]((送信元アドレス)画面で設定した情報)
- TCP/UDPポート番号ルート情報[ルータ機能/ルート情報]((ポート番号)画面で設定した情報)
- ドメインルート情報[ルータ機能/ルート情報]((ドメイン)画面で設定した情報)

ルート情報2
- スタティックルート情報[ルータ機能/ルート情報]((スタティック)画面で設定した情報)
- ダイナミックルート情報(RIP)

(次ページへ続きます)

（前ページの続きです）

ルート情報3

・デフォルトルート

◆ProxyDNS機能を使用していない場合

ルート情報1

・送信元IPアドレスルート情報［ルータ機能／ルート情報］（(送信元アドレス）画面で設定した情報）

・TCP/UDPポート番号ルート情報［ルータ機能／ルート情報］（(ポート番号）画面で設定した情報）

ルート情報2

・スタティックルート情報［ルータ機能／ルート情報］（(スタティック）画面で設定した情報）

・ダイナミックルート情報（RIP）

ルート情報3

・デフォルトルート

Q.RS-232CポートとUSBポートにパソコンを接続し、データの着信を行っています。USBポートに優先的に着信したいのですが、どうすればいいですか。

A.データの着信優先度を設定します。
［装置／電話番号］画面にて、「データ優先度」の「着信優先」を変更します。
ここで、「TA：USBポート」を選択すると「USBポート→RS-232Cポート→LAN 」の順で着信します。また、「TA：RS-232C ポート」を選択すると「RS-232Cポート→USBポート→LAN 」の順で、「LAN」を選択すると「LAN のみ」で着信します。

Q.デフォルトルートが登録されません。

A.回線側にIPアドレスを指定していると、WWWブラウザでの設定による［ルータ機能／ルート情報］（デフォルト）画面にて「デフォルトルートとする」にチェックを入れても、登録されません。
この場合は、［ルータ機能／ルート情報］（スタティックルート）画面にて設定してください。

索　引

数字

10BASE-T ····· 42
10BASE-Tケーブル ····· 17,30
10BASE-Tポート ····· 18,30,217
10BASE-Tポートインタフェース ····· 217
184 ····· 167
186 ····· 167
2か所のLANを接続 ····· 71,83,88
3か所のLANを接続 ····· 75
3人で通話する ····· 156,189,191

アルファベット

ATコマンド ····· 45
B1 ····· 22
B2 ····· 22
CD-ROM ····· 269
DSU切替スイッチ ····· 18,32,33
ER ····· 22
FG端子 ····· 18,29
HLC ····· 179
HUBの接続 ····· 34
i・ナンバー ····· 161,169
i・ナンバー情報 ····· 161
INSキャッチホン ····· 173,187
INSテレホーダイ ····· 69
INSなりわけサービス ····· 176
INSナンバー・ディスプレイ ····· 171
INSネット64
····· 15,42,63,65,71,75,83,88,92
INSネット64の接続 ····· 31
INSネット64用通信機器の接続 ····· 32
INSボイスワープ ····· 175
INSボイスワープセレクト ····· 175
INSマジックボックス ····· 175
INSメッセージ到着お知らせサービス ····· 199
IPパケット・フィルタリング ····· 142,146,151
ISDNサービス ····· 15
LAN型ダイヤルアップ ····· 63,65
LAN側の端末との資源の共有 ····· 74
LAN間接続時 ····· 151
LANランプ ····· 18,20
LQRコマンド ····· 236
LQRパケット ····· 236
Lモード ····· 197,199
MP ····· 15
Numbered ····· 121,130
OCNエコノミー ····· 15,96,98,100,102
OCNサービス ····· 282
OCNダイヤルアクセス ····· 15
PICT表示部 ····· 22
POWERランプ ····· 18,20
Profile 1 ····· 142
Profile 2 ····· 143
RS-232C ····· 44
RS-232Cケーブル ····· 17,30
RS-232Cポート ····· 18,30,216
RS-232Cポートインタフェース ····· 216
S/T端子 ····· 18,219
S/T端子インタフェース ····· 219
SNOOPコマンド ····· 238
TEL1ポート ····· 18,218
TEL2ポート ····· 18,218
Telhistoryコマンド ····· 237
TELNET ····· 235
TELNETコマンド ····· 45
Unnumbered ····· 124,127
USB ····· 44
USBケーブル ····· 17,30
USBポート ····· 18,30,217
USBポートインタフェース ····· 217
WWWブラウザでの設定 ····· 46
WWWブラウザによる方法 ····· 45
WWWブラウザの利用 ····· 277

索　引

五十音

【ア行】

アースの接続 ……31
アクセスサーバ ……138
アクセスポイント ……15
アナログ着信 ……222
アナログ発信 ……221
アナログポート ……18,218
アナログポートインタフェース ……218
イージーバージョンアップ ……45,256
インターネット ……278
インターネット接続 ……55,63,65
液晶ディスプレイ ……18
液晶ディスプレイ表示 ……22,220
お買い求め時の設定 ……255

【カ行】

回線側IPアドレス使用 ……121
回線接続端子 ……18,218
回線接続端子インタフェース ……218
外部からのアタックをふせぐ ……142
課金上限 ……274
各種回線加入契約の確認 ……15
簡易LAN接続 ……93
疑似キャッチホン ……154,173
疑似なりわけ ……160
疑似三者通話 ……156
キャッチホン・ディスプレイ ……173
極性切替スイッチ ……19
切替モード ……156,189
グローバル着信 ……164
契約者回線番号 ……161
コールバック ……134
コマンド一覧 ……235
こんなとき ……272

【サ行】

サブアドレス ……152,166,172,174
三者通話 ……189,191
自己診断 ……220
終端抵抗の設定 ……32
終端抵抗切替スイッチ ……19,32,33
受話音量 ……177
受話音量調整 ……177
仕様 ……288
使用するアプリケーションで接続先を選択 ……57
シリアルポート ……92,93
スーパーOCN ……15,43,104,106,108,111
スタティックルート ……114
ストレート／クロス切替スイッチ ……19
静的NAT ……140
接続 ……276
接続状態 ……206
接続上の注意 ……31
接続の手順 ……29
切断 ……213,215,234,275
設定記入 ……239
設定方法 ……45
専用線 ……15,43,114,118,121,124,127,130
専用線サービス ……15
操作の流れ ……16
操作ボタン ……21
送信元IPアドレスで接続先を選択 ……60
外付けDSU接続 ……34

【タ行】

ダイヤルアップ接続 ……92
ダイヤルイン ……164,168
ダイヤルイン追加番号 ……164
端末型ダイヤルアップ ……55
着信 ……153
着信拒否 ……177
着信転送 ……195,205,212,233
着信転送ボタン ……21
着信履歴情報 ……237
通信クラス ……179
通信クラス設定 ……179

通信中転送 ……………………………193
通話中にかかってきた電話を受ける ………154
デフォルトルート使用 ……………………118
データ着信 ……………………………221
データ発信 ……………………………220
停電 ………………………………28,277
転送元電話番号通知 ……………………185
電源アダプタコード差込口 ………………19
電源との接続 ……………………………31
電池カバー ………………………………19
電話・ファクスの接続 ……………………31
電話をかける ……………………………152
電話を受ける ……………………………153
電話機 ……………………………………45
電話機能 ………………………………277
電話機からの設定 ………………………223
電話機での設定 …………………………52
電話やファクスを優先させる ……………170
電話設定 ………………………………223
特定のプロトコルのみ透過 ………………146

【ナ行】

ナンバー・ディスプレイ …………………171
内線通話 ………………………………158
内線転送 ………………………………159

【ハ行】

バージョンアップ ………………………258
バインディングリスト ……………………140
パケットトレース ………………………238
パソコン接続時の利用形態 ………………41
パソコンの接続 …………………………31
パラメタ設定値のバックアップ …………263
発信 ……………152,213,215,234,275
発信規制 ………………………………178
発信／切断ボタン …………………………21
発信者番号通知 …………………………167
発信者番号認証 …………………………178
発信専用 ………………………………177
ピクト表示部 ……………………………22
ビジネスOCN ……15,43,104,106,108,111
日付・時刻の設定 …………………………37
品名紙 ……………………………………18
ファームウェアのバージョンアップ ………258
ファイル共有 ……………………………281
フッキング ………………………………181
フッキング検出時間 ……………………181
プッシュ式電話機から設定 ………………223
フレックスホンサービス …………………187
フレッツ・ISDN ……………………15,42,67
プロバイダ ………………………………15
プロバイダ加入契約 ………………………15
保守サービス ……………………………289
ボタンの操作 ……………………………203
本商品へのログイン ……………………277

【マ行】

ミキシングモード ………………………191
無課金コールバック ……………………134
無用な発信をふせぐ ……………………143
メール確認 …………………………203,231
メール確認ボタン ………………………21
メール転送 ……………………204,210,232
メール転送ボタン ………………………21
メールを確認 ………………………206,208
モデムダイヤルイン ……………………181
モデムダイヤルイン機能 ………………181

【ヤ行】

優先着信 ………………………………177
呼び分け ………………………………168

【ラ行】

ランプ表示 ………………………………20
リセット／イニシャルスイッチ ……18,255
リバースパルス …………………………186
リバースパルス送出 ……………………186
ローディングモード ……………………262
利用形態 …………………………39,41,53

仕　様

ISDN インタフェース	**適用回線**	INSネット64（ISDN基本インタフェース）、 高速ディジタル専用線（Iインタフェース）
	回線速度	64 kbit/s, 128 kbit/s
	U点	1ポート（RJ-11，6ピンモジュラジャック） DSU切り離し、極性反転可能
	S/T点	1ポート（RJ-45，8ピンモジュラジャック）、バス接続可、終端抵抗切替可能、局給電動作可能
LAN インタフェース	**ポート数**	4ポート（RJ-45）、うち1ポートはスイッチによりストレート／クロス切替可能
	規格	IEEE802.3（10BASE-T）　8ピンモジュラジャック
	通信速度	10 Mbit/s
USB インタフェース	**ポート数**	1ポート（タイプB）
	規格	USB仕様 1.0準拠
	通信速度	12 Mbit/s
	接続手順	ATコマンド
RS-232C インタフェース	**ポート数**	1ポート（D-SUB9ピンコネクタ（オス型））
	通信速度	非同期　9.6/19.2（38.4/57.6/115.2/230.4）kbit/s （ ）内はV.28規格外
	接続手順	ATコマンド
	フロー制御	RS/CS
アナログ インタフェース	**電気的仕様**	2線式アナログインタフェース
	ポート数	2ポート（RJ-11　6ピンモジュラジャック）
	給電電圧	約-48 V（無負荷時）、極性反転機能あり
	発信手順	PB（押しボタンダイヤル）
	ブランチ接続	不可
表示・操作機能	**LCD**	8桁×4行、単色バックライト付き、PICT表示あり
	スイッチ	DSU切替スイッチ、極性反転スイッチ、終端抵抗切替スイッチ、リセット／イニシャルスイッチ、ストレート／クロススイッチ
停電時動作	**停電時動作機能**	TEL1ポート、S/T点給電
	使用電池	単3アルカリ電池8本
	連続通話可能時間	約2時間（TEL1ポートのみ動作時）
外形寸法	約107 mm（幅）×約164 mm（奥行）×約175 mm（高さ）	
本体重量	約1kg（電池含まず）	
電源	AC100 V±10 V（50/60±1 Hz）※1　外付け電源アダプタ方式	
消費電力	12 W以下	
発熱量	12 J/s	
動作温度	0～40 ℃	
動作湿度	20～85 %（但し結露しないこと）	

※1 本商品に使用可能な電源アダプタは、▽91-59555（定格入力：AC100 V 50/60 Hz 20 VA 出力：DC12 V 1.0 A）です。

保守サービスのご案内

●保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので、「保証書」は大切に保管してください。
（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

●保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。
当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	●修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ●当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

●故障の場合は

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

●お話し中調べは

お話し中調べは局番なしの114番へご連絡ください。

●その他

定額保守サービス料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：フリーダイヤル 0120-109217

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

●補修用部品の保有期間について

この商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しています。

MEMO

MEMO

この取扱説明書は、森林資源保護のため、再生紙を使用しています。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ：http://www.ntt-east.co.jp/ced/
http://www.ntt-west.co.jp/kiki/

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：0120ー109217（トークニイーナ）

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

©2001 NTTEAST・NTTWEST

NTT

本2211-1（2001.6）
IPMATE1500RDトリセツ
5D9N0153P201